業　績　目　録　集

解剖学第一講座

〈研究業績〉

原　著

1. Kataoka Y, Cui Y, Tamura Y, Yamada H (2004) Proliferation of leptomeningeal cells in delayed neuronal death in gerbils. Acta Histochem Cytochem 37: 81–86
2. Utsunomiya K, Watanabe J, Takamori Y, Kataoka Y, Kurokawa K, Yamada H (2004) Crossreaction with an anti-Bax antibody reveals novel multi-endocrine cellular antigen. J Histochem Cytochem 52: 805–812
3. Tamura Y, Kataoka Y, Cui Y, Yamada, H (2004) Cellular proliferation in the cerebral cortex following neural excitation in rats. Neurosci Res 50: 129–133
4. Tanano A, Hamada Y, Takamido S, Kataoka Y, Watanabe J, Kamiyama Y, Yamada H (2004) Structural development of PGP9.5-immunopositive myenteric plexus in embryonic rats. Anat Embryol 209: 341–348
5. 山田久夫，高御堂祥一郎，棚野晃秀（2004）エンドセリンの形態学的考察（総説）．日本臨床 62巻　増刊号　9: 602–607

学会発表

1. Kataoka Y, Mochizuki-Oda N, Ikeura T, Tamura Y, Cui Y, Yamada H (2004) Photo-dynamic control of neuronal activity and fate in the central nervous system. 9th Auditory Research Forum, Shiga, Japan
2. Yamada H, Utsunomiya K, Takamori Y, Kataoka Y, Watanabe J (2004) Crossreaction with an anti-Bax antibody reveals novel multi-endocrine cellular antigen. 16th International Congress of the IFAA, Kyoto, Japan
3. Takamido S, Kataoka Y, Cui Y, Tanano A, Kubota Y, Okazaki K, Yamada H (2004) Intrapancreatic axonal branching of afferent nerve fibers in a rat model for chronic pancreatitis. 11th Meeting of the International Association of Pancreatology, Sendai, Japan
4. 片岡洋祐，田村泰久，崔　翼龍，山田久夫，力丸　裕（2004）レーザー照射による神経活動抑制技術を用いた，スナネズミ一次聴覚野による下丘機能調節の研究．第 81 回日本生理学会大会，札幌
5. 崔　翼龍，片岡洋祐，李　慶華，野崎　聡，水間　広，渡辺恭良，山田久夫（2004）長時間のラット脳内自己刺激における自己刺激行動抑制期とセロトニン神経系の関与．第 81 回日本生理学会大会，札幌
6. 片岡洋祐，小田–望月紀子，田村泰久，山田久夫（2004）近赤外レーザー照射による中枢神経活動制御．第 17 回日本レーザー医学会・関西地方会，吹田
7. 崔　翼龍，片岡洋祐，田村泰久，李　慶華，野崎　聡，水野　広，渡辺泰良，山田久夫（2004）脳内セロトニン神経系は片頭痛病態（Spreading depression）に影響する．第 27 回日本神経科学大会，大阪
8. 高森康晴，宇都宮一秦，片岡洋祐，黒川　清，渡辺　淳，山田久夫（2004）視床下部大細胞性ニューロンに特異的に存在する新規 E3 ユビキチンリガーゼの同定．第 27 回日本神経科学大会，大阪
9. 山田麻起子，中尾慎一，高森康晴，小田紀子，片岡洋祐，山田久夫（2004）各種脈麻酔薬のシグマ1受容体に対する作用. 第27回日本神経科学大会，大阪
10. 井岡真基，片岡洋祐，山田久夫（2004）妊娠ラット母体に投与した植物性エストロゲン様物質 Genistein 青斑カテコールアミン神経系に及ぼす影響．第27回日本神経科学大会，大阪
11. 井岡真基，片岡洋祐，山田久夫（2004）植物由来エストロゲン様物質の胎仔期暴露が中枢神経系に及ぼす影響．第 31 回日本神経内分泌

学会，弘前
12. 小田–望月紀子，片岡洋祐，田村泰久，山田久夫，粟津邦男，山田廣成（2004）レーザーによる疼痛緩和の基礎メカニズム．第 25 回日本レーザー医学会総会，東京
13. 棚野晃秀，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，佐藤正人，上山泰男，片岡洋祐，渡辺　淳，山田久夫（2004）共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児腸管における腸管神経系構築過程の免疫組織学的検討．第 41 回日本小児外科学会，大阪
14. 棚野晃秀，浜田吉則，高御堂祥一郎，片岡洋祐，渡辺　淳，山田久夫（2004）共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児期腸管における筋層間神経叢の免疫組織学的検討．第 45 回日本組織細胞化学会総会，鹿児島
15. 高御堂祥一郎，片岡洋祐，崔　翼龍，棚野晃秀，山田久夫（2004）慢性膵炎における求心性神経腺移の膵内分枝増生．第 27 回日本神経科学大会，大阪
16. 田村泰久，片岡洋祐，崔　翼龍，小田–望月紀子，山田久夫（2004）神経興奮によるラット大脳皮質細胞の増殖と分化への影響について．第27回日本神経科学大会，大阪
17. 小田–望月紀子，片岡洋祐，田村泰久，山田久夫，山田廣成（2004）ラット海馬スライスの ATP 含量に対する近赤外レーザー照射効果の波長依存性．第27回日本神経科学大会，大阪
18. 棚野晃秀，山田久夫，高御堂祥一郎，片岡洋祐，渡辺　淳，濱田吉則，上山泰男（2004）共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児期腸管における PGP9.5 陽性神経系構築過程の免疫組織学的検討．第27回日本神経科学大会，大阪
19. 田村泰久，片岡洋祐，崔　翼龍，仁平美果，高森康晴，渡辺　淳，山田久夫（2004）神経興奮は中枢神経系の細胞を増殖・分化させる．第 80回日本解剖学会・近畿支部学術集会，守口

著　書

1. Riquimaroux H, Kataoka Y (2004) Temporal firing activities of auditory cortical neurons and modification of their activities by laser irradiation. Plasticity of the central auditory system and processing of complex acoustic signals (Syka, J. and Merzenich, M. M. eds.) pp 167–172, Plenum, New York

解剖学第二講座

〈研究概要〉

原著1　ノシセプチン受容体が体温調節に関与することの証拠を得た

The role of nociceptin (NOC) receptor on body core temperature (Tcore) control was examined using NOC receptor knockout mice. In homozygote NOC receptor-knockout, wild-type, and control C57BL/6J and 129/SV mice, Tcore was continuously recorded under 12:12 h light:dark (LD) and conditions of constant darkness (DD). The Tcore values during the resting period were higher in the NOC receptor-knockout mice than in both wild-type and control mice under both LD and DD conditions. Spontaneous activity during the resting period and plasma cortisol levels were not different between the NOC receptor-knockout and control mice. The findings herein indicate that the NOC receptor is involved in the control of Tcore during the resting period and is independent of light, physical activity and/or cortisol regulation.

原著2　難聴マウスに特異的に出現する遺伝子をクローニングした

内耳，中耳の傷害による聴覚の欠失は，脳幹聴覚路において細胞レベルでの形態的・機能的変化を生じると考えられている．この可塑的変化に密接に関与する物質の発現ないし変動が注目を集めるが，昨今の高齢化社会における難聴の病態を解明する上でも新規遺伝子を得ることは重要な課題と考える．

そこで，我々は脳幹聴覚路での新規特異的物質の発現変化を解析する手段として，マウスに難聴を作製し，聴力正常マウスと難聴マウス間での suppression subtractive hybridization を行い，脳幹聴覚路の上オ

リーブ核群において特異的発現変化を認める新規遺伝子を得た．発現タンパクの遺伝子レベル・細胞レベルでの特性について解析した．

1. 対象動物と聴性脳幹反応（ABR）の測定

10 週齢の ICR 系雄性マウスを使用した．すべてのマウスは実験に供する前に ABR 測定により聴力検査を行った．ABR は，麻酔下に鼓膜が正常であることを確認したのち，4，12，20 kHz の 3 種類のトーンバーストを刺激音に用いて音圧閾値を測定した．いずれの周波数においても音圧閾値が 40 dB 以下のマウスを聴力正常とし実験に用いた．

2. 難聴作製方法

〈耳小骨摘出〉

聴力正常マウスの両側ツチ骨を経外耳道的に摘出した．摘出後，ABR を測定．各周波数とも音圧閾値が 60–70 dB に上昇し感音性難聴のないことを確認した．

〈蝸牛の破壊〉

麻酔下に聴力正常マウスに耳後部切開を行い，顕微鏡下で両側蝸牛を機械的に破壊した．術後，ABR 測定を行い 110 dB の音刺激にて無反応，完全聾であることを確認した．

3. Suppression subtractive hybridization

ツチ骨摘出後 5 日目の難聴マウス（XX）と同週齢の正常聴力マウス（CC）間で suppression subtractive hybridization を行った．各々 3 匹の脳幹を摘出し，mRNA を抽出した．Subtraction は，難聴によって発現が増強する遺伝子を回収する forward subtraction（XX-CC）と，発現が減弱する遺伝子を回収する backward subtraction（CC-XX）の 2 方向について行った．

4. スクリーニング

Subtraction により得られた forward clone（XX-CC）100 クローン，backward clone（CC-XX）80 クローンの計 180 クローンを選択し，これらの cDNA を dot hybridization を用いてスクリーニングした．さらに dot hybridization で陽性のクローンから digoxigenin 標識 RNA probe を作製し，マウス脳幹で in situ hybridization を行った．このためには ddY 系 10 週齢，雄性の聴力正常マウスと，同週齢で耳小骨除去後 5 日目と蝸牛破壊後 5 日目の難聴マウス脳より 40 μm 厚の冠状断凍結切片を作製．脳幹聴覚路での遺伝子発現細胞の発現強度，分布および細胞数の変化を観察した．

【結果】

Dot hybridization の結果，27 クローンが難聴により遺伝子発現に変化の認められた遺伝子断片であった．BLAST search の結果，17 クローンが新規 cDNA であった．これら 17 クローンを in situ hybridization でスクリーニングした結果，脳幹聴覚路において特異的な mRNA 発現変化を認める cDNA 断片が 1 つ得られた．この cDNA 断片は 628 bp で，データベース検索より human KIAA0143 タンパクと高い相同性を示した．これをもとに C57BL6 マウスの脳由来 mRNA から RT-PCR を行い，cDNA のほぼ全長にあたる 5006 bp をクローニングし mouse KIAA0143 と命名した．得られた cDNA は 819 アミノ酸から構成されるタンパクをコードし，このタンパクはアミノ末端を細胞内に向けた 4 回膜貫通型の膜タンパクと推測された．

ノザンブロット結果から，本タンパクは 5.9 knt のサイズの mRNA に由来することが予測できた．EGFP システムを用いて本タンパクの下流に GFP を発現させ，COS-1 細胞に transfect したところ，融合タンパクが COS-1 細胞の主に細胞膜に強く発現していた．

In situ hybridization による脳幹聴覚路での局在所見からは，聴力正常マウスにおいて外側上オリーブ核（LSO）の周囲の比較的大きな細胞（large cell）に mRNA 発現が多数認められた．一方，耳小骨摘出 5 日

後の難聴マウスではlarge cellでの発現分布は減少し，LSO内部のsmall cellでのmRNA発現が聴力正常マウスに比べ増加していた．また，蝸牛破壊5日後の高度難聴マウスではmRNA発現分布のlarge cellでの減少傾向，small cellでの増加傾向がさらに強くなっていた．

【考察】

聴力正常マウスと難聴マウス間のsuppression subtractive hybridizationで得られた新規mouse KIAA0143タンパクは819アミノ酸から構成される4回膜間貫通型の膜タンパクと推測されたが，GFP融合タンパクのCOS-1細胞での発現解析からも細胞膜に局在することが確かめられた．アミノ酸配列の相同性検索で本タンパクのアミノ酸配列の特徴を持つ4種類のタンパクが検出された．その中の1つcmp44Eはショウジョウバエで詳細に検討され，細胞生存能力（cell viability）に関連していると報告されている．哺乳類においても同様の機能をもつものと考えられる．

LSO周囲に存在するlarge cellは“shell” neuronとも呼ばれ，蝸牛内有毛細胞に遠心性線維を送る神経細胞の1つである．この細胞での本タンパクmRNA発現は聴力正常マウスで多数認められ，難聴マウスで減少していた．この結果はmouse KIAA0143タンパクが正常動物で下行性遠心路の機能維持に関与している可能性を示唆するものと考えられる．一方，LSO内部のsmall cellは内耳に遠心性線維を送る以外に，上位聴覚中枢核にも投射している．本タンパクは聴力低下時のこの細胞の機能維持にかかわる可能性も示唆している．

【結語】

Suppression subtractive hybridization法を用いてマウス脳幹聴覚路における新規遺伝子を得ることができた．データベースによる解析の結果，4回膜貫通型膜タンパクでmouse KIAA0143タンパクと呼称した．本タンパクのmRNAはマウス脳幹核に局在し，特異的な発現の変化を示すことから，聴力の制御に関連した機能を有するタンパクと推測された．

〈研究業績〉

原　著

1. Uezu K, Sei H, Sano H, Toida K, Suzuki-Yamamoto T, Houtani T, Sugimoto T, Takeshima H, Ishimura K, Morita Y (2004) Lack of nociceptin receptor alters body temperature during resting period in mice. NeuroReport 15: 751–755
2. Munemoto Y, Houtani T, Kase M, Sakuma S, Baba K, Yamashita T, Sugimoto T (2004) Mouse homolog of KIAA0143 protein: hearing deficit induces specific changes of expression in auditory brainstem neurons. Molec Brain Res 128: 131–140

学会発表

1. Kase M, Tsutsumi T, Sakuma S, Houtani T, Sugimoto T (2004) Searching for genes differentially expressed in limited regions of brain: cDNA cloning using fixed tissue sections. 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists, Kyoto
2. Sakuma S, Houtani T, Kase M, Tsutsumi T, Sugimoto T (2004) Lateral lemniscal nuclei: labeling GABA, glycine and peptide markers. 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists, Kyoto
3. Houtani T, Kase M, Tsutsumi T, Sakuma S, Sugimoto T (2004) Serotonin 3A-like ion-channel receptor L2 is expressed in hippocampus. 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists, Kyoto
4. Uezu K, Sei H, Sano A, Toida K, Suzuki-Yamamoto T, Houtani T, Sugimoto T, Takeshima H, Ishimura K, Morita Y (2004) Nociceptin receptor involves in body temperature control during resting period in mice. Society for Neuroscience 34th Annual Meeting, San Diego
5. 調　　漸，浜崎慎二，中村龍文，江口勝美，西田教行，坂口末廣，片峰　茂，重松和人，杉本哲夫（1998）マウスPrP-typeA遺伝子再導入によるPrP遺伝子欠損マウスの小脳・脊髄・末

梢神経病変発症の阻止．第 39 回日本神経学会総会，京都
6. 宗本由美，山下敏夫，宝谷剛志，上山禎造，加瀬政彦，佐久間覚，杉本哲夫（2002）聴力欠失マウスの脳幹聴覚路における新規特異発現遺伝子の同定．日本耳鼻咽喉科学会第283回大阪地方連合会，大阪
7. 佐久間覚，宝谷剛志，加瀬政彦，堤　俊之，杉本哲夫（2004）Regional expression of GABA, glycine ニューロンの不均質分布．第27回日本神経科学大会・第 47 回日本神経化学大会　合同大会（Neuro 2004），大阪
8. 宗本由美，宝谷剛志，堤　俊之，加瀬政彦，佐久間覚，馬場一泰，山下敏夫，杉本哲夫（2004）マウス KIAA0143 ホモログ蛋白の聴覚路における機能．第 80 回日本解剖学会近畿支部学術集会，守口

生理学第一講座

〈研究概要〉

1）内向き整流Kチャネルの細胞外Kイオン依存性開閉機構

細胞外Kイオンを除くと，内向き整流Kチャネルを内向きに流れる電流だけでなく，外向き電流も流れなくなる．これは，内向き整流Kチャネルが細胞外Kイオン，あるいはRb，Csイオンにより活性化されるためと考えられている．また，単一チャネルコンダクタンスは細胞内K濃度より細胞外K濃度に強く依存する．細胞外Kイオンがチャネルを活性化するとともに，コンダクタンスを増加させる機序を解明するため，細胞外Kイオンが結合する可能性がある内向き整流Kチャネル（Kir2.1）蛋白のM1とH5，H5とM2の連結部の酸性アミノ酸残基を中性化した．変異体遺伝子（D112N，D114N，E125Q，D152N，E153Q）を培養細胞（COS1 細胞，HEK293 細胞）に導入し，パッチクランプ法によりチャネル活性の有無を検討した．変異体から発現したチャネルはいずれも機能しており，内向き整流K電流が記録できた．ついで近接する酸性アミノ酸残基を中性化したdouble mutants（D112N/D114N，D152N/E153Q）を作成した．D112N/D114Nにより内向き整流Kチャネルは発現したが，コンダクタンスは野生型（WT）より有意に小さかった．またD152N/E153Qを導入した細胞からは内向き整流K電流を記録できなかった．野生型遺伝子1個と変異体遺伝子3個を直列に連結した遺伝子（WT-(D152N/E153Q)3）を導入すると，内向き整流Kチャネル電流が記録できるようになった．単一チャネルコンダクタンスは野生型と大差なかった．D152，E153が細胞外Kイオンの結合とチャネルの活性化に関与していること，1つのサブユニットのこの部位にKが結合すればチャネルが活性化することが示唆された．

2）組換えレンチウイルス・ベクターの作成，低毒性性の確認

神経細胞の表現形は生後発達に伴い変化し，神経活動や神経伝達物質受容体の活性化がその調節に関与していると考えられている．この機序を解明するため，神経細胞に対して無毒性で，慢性発現が可能なレンチウイルス・ベクターを用いて，神経活動の人為的な操作，あるいは受容体機能の抑制を行い，神経細胞の表現形決定への作用の検討を開始した．まず，組換えEGFP発現レンチウイルス・ベクターを作成し，ウイルス液をラット海馬スライス培養の錐体細胞層に注入したところ，βアクチンプロモーターを用いたベクターでは，錐体細胞選択的であり2週間以上にわたる安定したEGFPの発現が認められた．次に同タンパク陽性細胞から全細胞記録（スライス・パッチ）を行うと，静止膜電位，遅延整流性K^+電流，一過性K^+電流の振幅に，未感染性細胞との差が認められず，本発現ベクターの低毒性性が確認された．

3）海馬における抑制性シナプス伝達の修飾

前年に引き続いて，ラット海馬における$GABA_A$受容体電流を，スライス標品を用いてパッチクランプ法で調べている．$GABA_A$受容体は，従来I，II，IIIのサブタイプに分けられてきた．近年の分子生物学的

研究から，この受容体のサブユニットにはさらに多くのサブタイプがあり，分布も異なることが，明らかになってきている．まず受容体の生後変化を，$GABA_A$電流を急性脳スライスからホールセル法で記録し，その薬剤感受性と不活化過程を調べ，機能の面から解析を行った．続いて，抑制性電流の細胞内Ca^{2+}動員による修飾について研究し，$GABA_A$電流は数種類のアゴニスト刺激後の細胞内Ca^{2+}濃度上昇によっては影響されず，カフェイン投与のみにより抑制されることを見出した．またこの$GABA_A$電流の抑制が細胞内Ca^{2+}濃度上昇に依存しないことを示した．現在，抑制系シナプス伝達についてさらに研究を進めている．中枢神経の抑制性情報伝達については，これまで興奮性のそれに比して知見の蓄積が少なかったが，近年ようやく研究の対象にされ，主要な抑制性シナプスである$GABA_A$シナプスも，興奮性のシナプス同様，刺激に応じてその伝達効率が変化すると考えられるに至っている．そこで，頻回刺激やシナプス後細胞の脱分極などの操作を行った後に，抑制性シナプスにも機能変化がみられるか否かを検討している．スライスパッチクランプ法を用いて測定した$GABA_A$自発電流は，シナプス後細胞の脱分極によっては一貫した増強・抑制を示さなかったが，テタヌス刺激後に増強することを観測し，この機序について，蛍光色素を使用した細胞内カルシウム濃度測定と組み合わせながら，現在解析中である．

4）膵臓導管細胞に機能発現する内向き整流性Kチャネルの同定

膵臓は重炭酸イオンに富む膵液を分泌し，十二指腸に流入する胃酸を中和する．膵臓導管細胞のKチャネルは重炭酸イオン輸送の駆動力の維持に必須であるが，その分子基盤と制御機構は解明されていない．そのKチャネルを電気生理学的に同定するため，ラット膵臓導管細胞新鮮分離標本を作製し，パッチクランプ法を用いてホールセル電流を測定した．無刺激時を模倣した条件下で内向き整流性K電流が観察され，その性質は重炭酸イオン分泌上皮である反芻動物耳下腺腺房細胞に存在する内向き整流性Kチャネル（Kir）と類似していた．上皮細胞に機能発現するKirは静止膜電位の維持に寄与し，重炭酸イオン輸送に役割を果たす可能性が示唆された．

5）ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素の小胞体残留シグナル

ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素（msALDH）はC末端側の17疎水性アミノ酸残基で小胞体膜にアンカーし，分子のほとんどを細胞質側に出す典型的なC末端アンカー型膜蛋白質である．このタンパク質の小胞体残留シグナルを解析した．まず，msALDHの膜結合部位と小胞体移行配列を含むC末端35アミノ酸残基をGFPのC末端に融合させたGFPALDH（17）を構築した．次に，疎水性領域の長さが21，25残基に伸長したGFPALDH（21），GFPALDH（25）を構築した．これらの発現プラズミドをCHO-K1細胞にトランスフェクションし，発現したタンパク質の局在を間接蛍光抗体法および免疫電顕法で調べた．GFPALDH（17）は小胞体に局在したが，GFPALDH（21）とGFPALDH（25）はゴルジ体と細胞膜に局在した．次に，msALDHの疎水性領域の長さが21，25に伸長したmsALDH（21），msALDH（25）のCHO-K1細胞内局在を調べたが，これらは野生型msALDHと同様小胞体に局在した．これらのことから，msALDHは膜結合部位と細胞質ドメインに小胞体残留シグナルを有することが示唆された．

〈研究業績〉

原　著

1. Taketo M, Matsuda H & Yoshioka T (2004) Calcium-independent inhibition of $GABA_A$ current by caffeine in hippocampal slices. Brain Res 1016: 229–239
2. Liu B, Hattori N, Jiang B, Nakayama Y, Zhang N, Wu B, Kitagawa K, Taketo M, Matsuda H & Inagaki C (2004) Single cell RT-PCR demonstrates differential expression of $GABA_C$ receptor ρ subunits in rat hippocampal pyramidal and granule cells. Mol Brain Res 123: 1–6
3. Okada M & Corfas G (2004) Neuregulin down regulates postsynaptic $GABA_A$ receptors at the hippocampal inhibitory synapse. Hippocampus 14: 337–344
4. Okada M, Hasegawa A & Higuchi H (2004) Effect of neuropeptide Y on the T-type Ca^{2+} channel

current expressed in NG108-15 cells. Acta Med Biol 52: 103–110
5. Hayashi M, Kunii C, Takahata T, Ishikawa T (2004) ATP-dependent regulation of SK4/IK1-like currents in rat submandibular acinar cells: possible role of cAMP-dependent protein kinase. Am J Physiol Cell Physiol 286: C635–646

学会発表

1. 林美樹夫，松田博子（2004）マウス内向き整流Kチャネル（Kir2.1）細胞外ループのアスパラギン酸中性化の影響．第 81 回日本生理学会大会，札幌
2. 武藤　恵，松田博子（2004）海馬における高頻度刺激後の$GABA_A$電流変化．第81回日本生理学会大会，札幌
3. 柾木龍一，山本章嗣（2004）The Cytoplasmic and C-terminal Transmembrane Domains of microsomal aldehyde dehydrogenase Contain Independent Signals for Retention in the Endoplasmic Reticulum．第 57 回日本生物学会大会，大阪

生理学第二講座

〈研究概要〉

我が講座の主たる研究目標は高次脳機能について少しでも明らかにしたいという願いである．その目標達成のため，ラットおよびサルを用いて形態学的，行動学的および電気生理学的手法を駆使しつつ，一歩，また一歩と昨年度に引き続き今年度も又たゆみない努力を日々続けてきた．さらに小脳疾患の症状軽減に有用な治療法をめざすため，小脳失調マウスを用いて構成細胞の病態解析を行ってきた．一方，最近では，新たな幹細胞マーカーの探索等を目的とした骨髄間葉系幹細胞の生理学的解析も行なっている．それら研究内容の詳細につき以下に述べる．

I. 内因性随意運動のプログラミングにおける頭頂連合野と一次運動野の差異

本研究者等はサルの頭頂間溝（IPS）の前後壁を含む種々の大脳皮質の表面と2.0–3.0 mm深部に埋め込んだ電極を用い，サルが身体の一部分（口，指，手，首，腰など）を自発性に動かす（自発性運動）際の大脳皮質フィールド電位を記録し，分析して，いずれの運動においても運動に約1秒先行する運動準備電位が運動前野，運動野，体性感覚野以外に頭頂連合野で記録されることを明らかにした．これは頭頂連合野の運動発現への関与を示唆するが，頭頂連合野が，運動を行おうという意志（内的刺激）が生じてから運動を実際に行う（運動開始）までの過程中，より上流の段階に関わるのか，それとも運動野と同等の段階に関わるのかを明らかにするため，埋め込み電極に電流を流して全身の 8 箇所（顔，胸，前腕，下腿；左右）から双極表面電極を用いて筋電活動を同時記録した．検討の結果，準備電位の出現する脳部位はすべて筋電活動を惹起するということが分かった．その際，筋電活動誘発最小電流値は記録と対側の皮質部位の方が同側より小さく，さらに皮質部位中，運動野が最小であることが分かった．一方，筋電活動の潜時は運動野が皮質中最短だった．さらに特定の皮質刺激から他の皮質に応答が生じるまでの潜時を調べるため，各皮質埋め込み電極に電流を流して複数の皮質電極から大脳皮質フィールド電位を同時記録した．本知見に上述の筋電活動の潜時を合わせて検討したところ，最長時間を要する伝導経路は IPS の後壁（A7）から運動前野を経由して運動野に達した後，末梢に下って前腕筋に達する場合であり，一方，最短時間の伝導経路は，A7から運動前野も運動野も経由しないで末梢に下る場合であることがわかった．その中間の伝導経路はA7から運動野を経由して末梢に下る場合であることも分かった．これは A7 が運動野と同等に，並行して内因性随意運動の発現に関与することを示唆する．つまり，内因性随意運動の発現に対する頭頂連合野の貢献度は運動野と大差ないことが判明したのである．

II. サルの視床大脳皮質投射に関する電気生理学的研究

サルの手の自発性運動に先行して，頭頂連合野の一部である頭頂間溝後壁に，皮質表面で陰性，深部で陽性のフィールド電位が出現し，運動の準備，開始に関係することが示唆された［1］．この電位は，今までの電気生理学的知見から，浅層性視床大脳皮質投射によるものと考えられた．頭頂間溝後壁に浅層性視床大脳皮質投射を送る視床部位を同定するため，サルの頭頂間溝周囲の皮質表面と深部（深さ2.0–3.0 mm）に，慢性記録電極を設置し，視床の電気刺激によるフィールド電位を記録した．その結果，視床枕内側部および外側部が同定され，上記の運動準備電位の起源としてこれらの視床部位が有力であると考えられた．また，サルが手の運動を抑止する際に，前頭前野の主溝背側壁で，皮質表面で陰性，深部で陽性のフィールド電位（Nogo 電位）が記録されることが知られている［2］．この Nogo 電位の由来を調べるため，視床および大脳皮質の様々な部位を電気刺激し，主溝背側壁に引き起こされるフィールド電位を検討したところ視床の一部が Nogo 電位の起源となり得ることが明らかとなった．Nogo 電位のより詳細な入力経路を明らかにするため，電気生理学的，形態学的検索を更に加えていく予定である．

［1］Gemba H et al, Neurosci Lett, 357, 68–72, 2004
［2］Sasaki K, Gemba H, Exp Brain Res, 64, 603–606, 1986

III. 小脳失調マウスの病態解明と治療法の開発

pcd（Purkinje cell degeneration）ミュータントマウスは，生後20–30日という限局した期間に小脳プルキンエ細胞がアポトーシスをおこし変性脱落するため，運動失調を呈する．現在，神経細胞死に至るまでの小脳の細胞機能の変化を免疫組織化学的な手法や細胞内 Ca 濃度の光学的計測などにより解析している．さらにアポトーシスを抑制する手法などにより，プルキンエ細胞の脱落および運動失調の発現を防ぐことができないか計画中である．

IV. ラット前頭運動皮質における辺縁系皮質を介した聴覚応答

大脳辺縁系に属する嗅周囲皮質から，前頭運動皮質の浅層へ投射のあることがわかった．この投射の役割を調べるため，前頭運動皮質に慢性記録電極を埋め込み，大脳皮質フィールド電位を記録した．覚醒下で純音を聴かせると，前頭運動皮質でも聴覚誘発電位が観察された．嗅周囲皮質を限局破壊すると，誘発電位の中の潜時約50–150 msの表面陰性–深部陽性電位成分がほぼ消失した．これらの結果より，聴覚情報の少なくとも一部は，辺縁系皮質を介して前頭運動皮質に伝わることがわかった．また聴覚刺激に報酬性刺激を組み合わせると辺縁系皮質を介する聴覚応答成分は著名に増大することから，報酬への期待を反映する成分を含んでいると考えられた．

V. 新たな幹細胞マーカーの探索を目指した骨髄間葉系幹細胞の生理学的解析

骨髄内の付着系細胞（間質細胞）に含まれる間葉系幹細胞は，骨・軟骨・心筋・脂肪・神経・骨格筋への多分化能を保持する体性幹細胞である．大人の骨髄にも含まれることから安全な自家移植の道を開いた再生医療の材料の一つとして注目され，生体組織の機能再建を目的とした研究並びに医療への応用が各方面で進められている．このような状況下で，採取した細胞の中から多分化能を持つ幹細胞を分離・採取することは，組織再建に必要な量の細胞を効率良く生体外で培養し増やすために是非とも確立すべき課題の一つである．現在マーカーとして有効とされている表面抗原の発現は，増殖および分化状態の一部を反映しているに過ぎないと指摘されており，他にも多分化能を持つ細胞の同定につながる情報を探る必要がある．そこで，骨髄間質細胞の生理学的な研究報告例が少ないという現状に着目し，ラット骨髄間質細胞におけるレセプターあるいはチャネルを介した細胞応答を，カルシウム感受性蛍光色素 Fura-2を用いた細胞内カルシウム濃度の測定により解析中である．

〈研究業績〉

原　著

1. Matsuzaki R, Kyuhou S, Matsuura-Nakao K & Gemba H (2004) Thalamo-cortical projections to the posterior parietal cortex in the monkey. Neurosci Lett 355: 113–116
2. Gemba H, Matsuura-Nakao K, Matsuzaki R (2004) Preparative activities in posterior parietal cortex for self-paced movement in monkeys. Neurosci Lett 357: 68–72
3. Seki T, Gemba H, Matsuzaki R, Nakao K (2004) Readiness potential and movement initiation in the rat. Jpn J Physiol: in press
4. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R, Kyuhou S (2004) The process from internal stimulus to movement initiation. Curr Trends Neurol: in press
5. 関　智美（2004）物体の大きさによる重さの見積もりが持上げ動作の制御に及ぼす影響. 奈良佐保短期大学研究紀要　11: 31–36

総　説

1. 玄番央恵（2004）生理学女性科学者の研究環境. 生理学女性研究者の会NEWSLETTER　18: 1–2
2. 玄番央恵（2004）私たちは何処から来て，何処へ向かうの？. 生理学女性研究者の会NEWSLETTER　18: 11–13
3. 玄番央恵（2004）ほんの少しだけ前進を. 花鼓　51: 1
4. 玄番央恵（2004）小脳の基礎生理学. 臨床脳波：in press

学会発表

1. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R (2004) Speed-control activities of the posterior parietal cortex for horizontal rotation movements of the neck. The 31st NIPS International Symposium, Okazaki
2. Nakao K, Gemba H, Matsuzaki R (2004) Is readiness potential related to movement initiation? The 31st NIPS International Symposium, Okazaki
3. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R (2004) Preparative speed-control activities of the posterior parietal cortex for horizontal rotation movements of the neck in the monkey. The HFSP 15th Anniversary Fourth Awardees Annual Meeting, Hakone
4. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一，久寶真一（2004）大脳皮質フイールド電位から見た前頭葉の多彩な機能. 第6回日本ヒト脳機能マッピング学会大会，東京
5. 玄番央恵（2004）大脳皮質電場電位から認知機能をみる. 第 34 回日本臨床神経生理学会学術大会，東京
6. 松崎竜一，久寶真一，松浦–中尾和子，玄番央恵（2004）サル視床一頭頂連合野投射の電気生理学的研究. 第120回関西医科大学学術集談会，守口市
7. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一（2004）自発性運動発現における運動前野の分担機能. 第81回日本生理学会大会，札幌
8. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一（2004）共同運動の発現と制御に対する小脳切除の影響. 第27回日本神経科学学会大会，大阪
9. 市川　純，玄番央恵（2004）ラット培養骨髄間質細胞における $P2Y_2$ 型プリン受容体を介したカルシウムシグナリングと細胞密度の関連. 第97回近畿生理学談話会，京都
10. 久寶真一，玄番央恵，加藤伸郎（2004）小脳失調マウスの組織変性期に出現するミクログリア. 第34回日本臨床神経生理学会学術大会，東京
11. 関　智美，玄番央恵，松崎竜一，中尾和子（2004）ラットの自発性運動における準備電位と運動の開始. 第97回近畿生理学談話会，京都

医化学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Teshima S, Nakanishi H, Nishizawa M, Kitagawa K, Kaibori M, Habara K, Kwon A-H, Kamiyama Y, Ito S, Okumura T (2004) Up-regulation of IL-1 receptor through PI3K/Akt is essential for the

induction of iNOS gene expression in hepatocytes. J Hepatol 40: 616–623
2. Kitano T, Matsumura S, Seki T, Hikida T, Sakimura K, Nagano T, Mishina M, Nakanishi S, Ito S (2004) Characterization of N-methyl-D-aspartate receptor subunits involved in acute ammonia toxicity. Neurochem Int 44: 83–90
3. Koda N, Tsutsui Y, Niwa H, Ito S, Woodward D-F, Watanabe K (2004) Synthesis of prostaglandin F ethanolamide by prostaglandin F synthase and identification of bimatoprost as a potent inhibitor of the enzyme: new enzyme assay method using LC/ESI/MS. Arch Biochem Biophys 424: 128–136
4. Otsuji T, Okuda-Ashitaka E, Kojima S, Akiyama H, Ito S, Ohmiya Y (2004) Monitoring for dynamic biological processing by intra-molecular bioluminescence resonance energy transfer system using secreted luciferase. Anal Biochem 329: 230–237
5. Unezaki S, Nishizawa M, Okuda-Ashitaka E, Masu Y, Mukai M, Kobayashi S, Sawamoto K, Okano H, Ito S (2004) Characterization of the isoforms of MOVO zinc finger protein, a mouse homologue of *Drosophila* Ovo, as transcription factors. Gene 336: 47–58
6. Nishimura W, Muratani T, Sakimura K, Mishina M, Minami T, Ito S (2004) Characterization of N-methyl-D-aspartate receptor subunits responsible for postopeative pain. Eur J Pharmacol 503: 71–75
7. Furuta K, Wang G-X, Minami T, Nishizawa M, Ito S, Suzuki M (2004) A simple acromelic acid analog potentially useful for receptor photoaffinity labeling and biochemical studies. Tetrahedron Lett 45: 3933–3936
8. Mabuchi T, Kojima H, Abe T, Takagi K, Sakurai M, Ohmiya Y, Uematsu S, Akira S, Watanabe K, Ito S (2004) Membrane-associated prostaglandin E synthase-I is required for neuropathic pain. Neuroreport 15: 1395–1398
9. Mabuchi T, Shintani N, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Hashimoto H, Muratani T, Minami T, Baba A, Ito S (2004) Pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide is required for the development of spinal sensitization and induction of neuropathic pain. J Neurosci 24: 679–688
10. Minami T, Matsumura S, Nishizawa M, Sasaguri Y, Hamanaka N, Ito S (2004) Acute and late effects on induction of allodynia by acromelic acid, a mushroom poison related structurally to kainic acid. Br J Pharmacol 142: 679–688
11. Tatsumi S, Mabuchi T, Abe T, Xu L, Minami T, Ito S (2004) Analgesic effect of extracts of Chinese medical herbs Moutan cortex and Coicis semen on neuropathic pain in mice. Neurosci Lett 370: 130–134
12. Nakai K, Hamada Y, Kato Y, Kitagawa K, Hioki K, Ito S, Okumura T (2004) Further evidence that epidermal growth factor enhances the intestinal adaptation following small bowel transplantation. Life Sci 75: 2091–2102
13. Teshima S, Nakanishi H, Kamata K, Kaibori M, Kwon A-H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2004) Cycloprodigiosin up-regulates inducible nitric oxide synthase gene expression in hepatocytes stimulated by interleukin-1β. Nitric Oxide 11: 9–16

総　説

1. 伊藤誠二，南　敏明（2004）プロスタノイドの痛覚における役割．実験医学　41(6): 685–693
2. 南　敏明，辰巳真一，伊藤誠二（2004）偏頭痛の発見機構　偏頭痛発作時にアロディニアが惹起される．臨床麻酔　28(4): 703–709
3. 芦高恵美子，伊藤誠二（2004）ノシセプチンの疼痛制御．医学のあゆみ　211(5): 375–379

学会発表

1. Ito S, Muratani T, Doi Y, Nishimura W, Nishizawa M, Minami T (2004) Preemtive analgesia by zaltoprofen in a mouse model of post-operative pain through blockade of the bradyknin B2 pathway. The 11th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo
2. Ito S, Mabuchi T, Kojima H, Uematsu S, Akira S, Minami T, Watanabe K (2004) Membrance-associated prostaglandin E synthase-1 is required for neuropathic pain. The 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience, San Diego

3. Matsumura S, Minami T, Nishizawa M, Sasaguri Y, Ito S (2004) Acute and late effects on induction of allodynia by acromelic acid, a potent kainite analogue from a poisonous mushroom. The 34th Annual Meeting of Society for Neuroscience, San Diego
4. 吉田秀行，山田正法，羽原弘造，海堀昌樹，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2004）炎症性サイトカイン（IL-1）による肝細胞の一酸化窒素の産生誘導メカニズム —IL-1 レセプターの増幅とその役割—．第 51 回日本生化学会近畿支部例会，和歌山
5. 芦高恵美子，尾辻智美，近江谷克裕，伊藤誠二（2004）新規一分子内BRETを用いたノシセプチン / オーファニン FQ 前駆体のプロセッシング機構の解析．第 81 回日本生理学会大会，札幌
6. 芦高恵美子（2004）Bioluminescence resonance energy transfer（BRET）とは？．第81回日本生理学会大会，札幌
7. 北川克彦，濱田吉則，中井宏治，加藤泰規，上山泰男，奥村忠芳（2004）炎症時の腸管におけるEGFの一酸化窒素産生増加のメカニズム．第40回腹部救急医学会，東京
8. 山田正法，濱田吉則，羽原弘造，吉田秀行，尾崎　岳，海堀昌樹，權雅憲，上山泰男，奥村忠芳（2004）肝細胞における炎症性サイトカインの一酸化窒素合成酵素の誘導メカニズム．第41回外科代謝栄養学会，松山
9. 羽原弘造，海堀昌樹，柳田英佐，山田正法，濱田吉則，權雅憲，奥村忠芳，上山泰男（2004）エンドトキシン由来肝障害に対する抗線維化剤 prifenidone の保護作用．第 41 回外科代謝栄養学会，松山
10. 海堀昌樹，柳田英佐，山田正法，羽原弘造，吉田秀行，尾崎　岳，中竹利知，奥村忠芳（2004）肝障害における一酸化窒素（NO）の役割の初代培養肝細胞を用いた解析．第 11 回肝細胞研究会，宇部
11. 柳田英佐，海堀昌樹，山田正法，羽原弘造，吉田秀行，尾崎　岳，中竹利知，奥村忠芳（2004）内因性 HGF 前駆体の活性化による肝再生の促進．第11回肝細胞研究会，宇部
12. 松村伸治，南　敏明，西澤幹雄，笹栗靖之，伊藤誠二（2004）カイニン酸類似キノコ毒，アクロメリン酸の急性および遅延性アロディニア誘導効果．第27回日本神経科学大会，大阪
13. 芦高恵美子（2004）BRETシステムの特徴と分泌型 BRET システムの可能性．第 81 回日本生化学会大会，横浜
14. 北川克彦，濱田吉則，加藤泰規，中井宏治，山田正法，羽原弘造，中竹利知，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2004）EGF と炎症性サイトカインによる小腸上皮細胞における一酸化窒素の産生誘導．第77回日本生化学会，横浜
15. 豊島　茂，海堀昌樹，吉田秀行，尾崎　岳，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2004）Cyclo-prodigiosin は炎症性サイトカインによる肝細胞の一酸化窒素の産生誘導を促進する．第 77 回日本生化学会，横浜
16. 片野泰代，稲垣直之，伊藤誠二（2004）脊髄における神経可塑性モデル，アロディニアの発症機構．第77回日本生化学大会，横浜
17. 徐　　麗，馬渕圭生，松村伸治，伊藤誠二（2004）神経因性疼痛へのラマトロバンの鎮痛効果．第27回日本神経科学大会，大阪

薬理学講座

〈研究概要〉

本教室では，細胞内クロライド濃度調節機構の解明を中心テーマとして，主に中枢神経系，循環器系，呼吸器系，免疫系，内分泌系疾患と関連させて研究を行っている．

1. クロライドイオン輸送機構とその制御

1）Cl^--ATPaseの構造解析：

クロライドイオンは，中枢神経の過分極性抑制性シナプス伝達において中心的な役割を果たしている．

抗てんかん薬や鎮静薬は主に，このイオンの細胞内流入を促進することにより神経細胞の興奮性を抑制する．従って，神経細胞内クロライド濃度が低く保たれていることが，抑制性シナプス伝達やこれら薬物の効果発現に必須とされている．我々は，このクロライドイオン濃度維持に関与する分子として，ATPに依存してクロライドイオンの排出を担う分子，すなわちCl^--ATPaseを主に脳，および腎臓に見いだし，精製，構造決定を行っている．Cl^--ATPaseの機能体タンパク質は数種のサブユニットから成る約600 kDaの複合タンパク質として精製され，51 kDa タンパク質がリン酸化を受ける触媒サブユニットと考えられた．他のサブユニットの55 kDa糖タンパク質を精製し，その部分アミノ酸配列を基にラット脳cDNAライブラリーからcDNAクローンを得た．本タンパク質は504個のアミノ酸から成り，28個のシグナルペプチド領域，複数のミリストイル化部位などを含む新規タンパク質であった．このcDNA配列を基にアンチセンスオリゴヌクレオチドを作成し，培養海馬神経細胞に導入したところ，55 kDa タンパク質生成を抑制すると共に，細胞内Cl^-イオン濃度を増加させた．免疫組織化学法および免疫電子顕微鏡による解析により，55 kDa タンパク質は主に神経細胞の細胞膜に局在することが確認された．これらの結果から，55 kDaタンパク質はCl^--ATPase活性を担うサブユニットのひとつと考えられた．

2）アルツハイマー病における神経細胞変性とCl^--ATPase：

アミロイドβ蛋白（Aβ）の沈着を特徴とするアルツハイマー病の神経変性の原因として神経細胞の過興奮毒性が提唱されている．我々は，アルツハイマー病脳においてCl^--ATPase活性が低下していること，ラット海馬神経培養細胞へのAβ負荷により，神経細胞膜分画のイノシトールリン脂質（PI，PIP，PIP2）のレベルおよびCl^--ATPase活性が低下し，イノシトールの添加でこの活性が回復する事を見いだした．この回復はPI4 kinase（PI4K）阻害薬で抑制され，PI4P添加により回復し，細胞内Cl^-濃度も正常化したことから，AβによるPI4Pレベルの低下がCl^--ATPase活性を低下させると推測された．更に病態生理学的濃度のAβはPI4K type IIの活性を直接阻害することを見いだした．これらの知見からPI4K type IIがアルツハイマー病におけるAβの標的分子の一つである可能性が示唆された．

3）非ステロイド抗炎症薬の細胞内クロライドイオン濃度への影響：

非ステロイド抗炎症薬（NSAID）はアルツハイマー病の増悪を抑制すると言われているがその機構は不明である．我々はAβによって惹起される神経細胞障害に対するNSAIDの効果を検討した．その結果シクロオキシゲナーゼ（COX）-1あるいはCOX-2阻害薬によって，Aβによって惹起される細胞内クロライドイオン濃度の上昇は抑制され，Aβによるグルタミン酸細胞毒性の増強も減弱した．これらの結果からNSAIDはCOX-1あるいはCOX-2阻害の選択性に拘らず神経細胞保護作用を発現する可能性が示唆された．

4）アンモニア負荷による神経細胞内クロライド濃度上昇と神経細胞死：

高アンモニア血症は，肝性脳症におけるけいれんなどの中枢神経症状の原因のひとつと考えられている．我々は，ラット海馬神経培養細胞を用いアンモニア負荷によって細胞内クロライドイオン濃度が上昇し，抗不安作用を示すdihidrohonokiol Bの同時添加によってこの上昇が有意に抑制される事を報告している．またアンモニア負荷によって神経細胞のアポトーシスが起こることを見いだしている．このアポトーシスは細胞内カルシウム濃度の増加とカルシニューリンによるSer^{155}リン酸化BADの減少が関与している事を明らかにした．

2. 生理活性物質に対する細胞内情報伝達機構

1）プロテアーゼ活性化受容体2（PAR2）刺激による気道上皮細胞内シグナリングの解析：

プロテアーゼ活性化受容体（PAR）は，その細胞外特定領域がセリンプロテアーゼによって限定分解を受けることにより活性化されるG蛋白質共役型受容体である．モルモット培養気道上皮細胞にリポポ

リサッカライド（LPS）を作用させると一過性の細胞内カルシウムイオン濃度の上昇が認められ，この反応はカルシウムチャネルブロッカーによって消失した．さらにトリプシンや PAR2 刺激薬の 60 分間前処置によって LPS による反応が抑制され，この抑制はプロテインキナーゼ C 阻害薬によって消失した．トリプシン刺激によってPKCαやPKCεの持続的な活性化が認められる事から, 気道上皮細胞においてPAR2刺激によるLPSによる反応の抑制にはPKCを介したリン酸化によるカルシウムチャネルの不活化が関与している可能性が示唆された.

3. 免疫細胞におけるクロライドチャネル発現とその生理作用

1）ClC-2による細胞周期の調節：

クロライドチャネルは免疫細胞において，容量調節，細胞増殖，免疫機能に重要な役割を演じている．我々はヒト白血病細胞株の Jurkat（T 細胞由来），Daudi（B 細胞由来），HL-60（未分化骨髄細胞由来）を用いてクロライドチャネル遮断薬による細胞増殖能への影響を検討した. その結果NPPB処置によって細胞増殖の著明な抑制が認められ，DIDS や SITS 処置では抑制は認められなかった．さらに NPPB 処置によって細胞周期を負に調節しているp21の発現の増加が認められた．これらの結果から，NPPB感受性クロライドチャネル（ClC-2）はp21経路を介して細胞周期を調節している可能性が示唆された.

2）ClC-5による分化誘導の調節：

我々は，ClC-5 mRNAがヒト白血病細胞株（HL-60）で多く発現しているが，成熟好中球では発現が非常に少ないことを見いだしている．この知見からClC-5が細胞周期，分化誘導に関与している可能性を考え検討した．HL-60細胞株において，ClC-5 mRNAの発現はS期ならびにG2/M期に多く，G0/G1期に少ない事が明らかになった．さらにClC-5 mRNAのアンチセンスオリゴヌクレオチドを用いてClC-5 mRNAの発現を抑制した所，HL-60の分化抑制が認められた．これらの結果から，ClC-5は骨髄細胞から好中球への分化に関与している可能性が示唆された.

4. 内分泌系と免疫系のクロストーク機構の解明

内分泌系と免疫系は互いに密接に関係していることが最近明らかになってきている．我々は原因不明の高プロラクチン（PRL）血症の約16%に，抗PRL自己抗体による高PRL血症を見いだした．臨床的特徴として，無月経や乳汁漏出は稀で，ブロモクリプチンによる治療無しでも妊娠分娩が可能であった．自己抗体産生機構について検討したところ，抗 PRL 自己抗体は主に IgG4 サブクラスであり，リン酸化 PRL による慢性抗原刺激の可能性が示唆された．質量分析法による詳細な解析の結果，ヒト下垂体 PRL はSer^{194}およびSer^{163}がリン酸化されているのに対し，血清PRLはSer^{163}が脱リン酸化されていることが明らかになった．さらに二次元電気泳動による解析の結果，高PRL血症の血清PRLの等電点が6.58であるのに対し，抗PRL自己抗体による高PRL血症の血清PRLの等電点は6.43および6.29であった．これらの結果から，血清PRLの脱リン酸化と酸性型のPRLが抗PRL自己抗体産生の抗原として働く可能性が示唆された.

〈研究業績〉

原　著

1. Wu B, Kitagawa K, Zhang NY, Liu B, Inagaki C (2004) Pathophysiological concentration of amyloid beta proteins directly inhibit rat brain and recombinant human type II phosphatidylinositol 4-kinase activity. J Neurochem 91: 1164–1170
2. Iwata R, Kitagawa K, Zhang NY, Wu B, Inagaki C (2004) Nom-steroidal anti-inflammatory drugs protect amyloid beta protein-induced increases in the intracellular Cl- concetration in cultured rat hippocampal neurons. Neurosci Lett 367: 156–159
3. Jiang B, Hattori N, Liu B, Nakayama Y, Kitagawa K, Sumita K, Inagaki C (2004) Expression and roles of Cl- channel ClC-5 in cell cycles of myeloid cells. Biochem Biophys Res Commun 317: 192–

197
4. Jiang B, Hattori N, Liu B, Nakayama Y, Kitagawa K, Inagaki C (2004) Suppression of cell proliferation with induction of p21 by Cl(-) channel blockers in human leukemic cells. Eur J Pharmacol 488: 27–34
5. Liu B, Hattori N, Jiang B, Nakayama Y, Zhang NY, Wu B, Kitagawa K, Taketo M, Matsuda H, Inagaki C (2004) Single cell RT-PCR demonstrates differential expression of GABAC receptor rho subunits in rat hippocampal pyramidal and granule cells. Mol Brain Res 123: 1–6
6. Yang L, Omori K, Suzukawa J, Inagaki C (2004) Calcineurin-mediated BAD Ser155 dephosphorylation in ammonia-induced apoptosis of cultured rat hippocampal neurons. Neurosci Lett 357: 73–75
7. Oshiro A, Otani H, Yagi Y, Fukuhara S, Inagaki C (2004) Protease-activated receptor-2-mediated inhibition for Ca2+ response to lipopolysaccharide in Guinea pig tracheal epithelial cells. Am J Respir Cell Mol Biol 30: 886–892

学会発表

1. Hattori N (2004) Phosphorylated human prolactin (PRL) is a possible cause of anti-PRL autoantibody production in patients with macroprolactinemia. 12nd International Conference of Endocrinology, Lisbon (Portugal)
2. Hattori N (2004) Macroprolactinemia due to anti-prolactin (PRL) autoantibodies: a new cause of hyperprolactinemia. 12nd International Conference of Endocrinology, Lisbon (Portugal)
3. 服部尚樹，稲垣千代子（2004）抗プロラクチン自己抗体陽性患者におけるプロラクチンの解析．第77回日本薬理学会，大阪
4. 大谷ひとみ，矢木泰弘，稲垣千代子（2004）プロテアーゼ活性化受容体刺激によるラット心筋細胞の形態変化．第77回日本薬理学会，大阪
5. 中山靖久，服部尚樹，大谷ひとみ，劉　　氷，稲垣千代子（2004）ラット下垂体前葉細胞におけるGABAc受容体を介するプロラクチン分泌作用．第77回日本薬理学会，大阪
6. 北川香織，岩田亮一，張　南雁，呉　　波，稲垣千代子（2004）非ステロイド性抗炎症薬の低用量アミロイドβ蛋白毒性に対する保護効果．第105回日本薬理学会近畿部会，徳島
7. 中山靖久，楊　　麗，服部尚樹，稲垣千代子（2004）低濃度アミロイドβ蛋白存在下グルタミン酸誘発神経細胞死に対するジヒドロホノキオールの細胞保護作用．第105回日本薬理学会近畿部会，徳島
8. 服部尚樹，中山靖久，劉　　氷，北川香織，住田元伸，稲垣千代子（2004）抗プロラクチン自己抗体陽性患者におけるプロラクチンの解析．第106回日本薬理学会近畿部会，京都
9. 劉　　氷，服部尚樹，姜　宝紅，中山靖久，稲垣千代子（2004）ヒトTリンパ細胞株におけるCl^--ATPaseとNa^+/K^+-ATPaseに対するamyloid βの作用．第77回日本薬理学会，大阪
10. 姜　宝紅，服部尚樹，劉　　氷，中山靖久，北川香織，稲垣千代子（2004）ClC-5 expression in neutrophils．第77回日本薬理学会，大阪
11. 矢木泰弘，大谷ひとみ，大城明寛，稲垣千代子（2004）肺上皮細胞への好中球接着に及ぼすプロテアーゼ活性化受容体―2刺激効果．第77回日本薬理学会，大阪
12. 大城明寛，大谷ひとみ，矢木泰弘，福原資郎，稲垣千代子（2004）モルモット気道上皮におけるPAR-2刺激によるPKC活性化．第77回日本薬理学会，大阪
13. 楊　　麗，中山靖久，大谷ひとみ，稲垣千代子（2004）BAD/PKA複合体：アポトーシス防御シグナル伝達の可能性．第77回日本薬理学会，大阪
14. 張　南雁，北川香織，呉　　波，稲垣千代子（2004）アミロイドβ蛋白誘発グルタミン酸神経毒性亢進に対する細胞内クロライドイオン濃度とチロシンリン酸化蛋白の役割．第77回日本薬理学会，大阪
15. 呉　　波，北川香織，張　南雁，稲垣千代子（2004）アミロイドβ蛋白によるヒトrecombinant type II phosphatidylinositol4-kinase α活性の抑制．第77回日本薬理学会，大阪
16. 住田元伸，服部尚樹，稲垣千代子（2004）成長ホルモンはマウス骨髄肝細胞の分化を促進する．第77回日本薬理学会，大阪
17. 矢木泰弘，大谷ひとみ，稲垣千代子（2004）

PAR-2 刺激による肺上皮細胞への好中球接着能亢進機序における Rho/POCK シグナルの役割．第106回日本薬理学会近畿部会，京都

病理学第一講座

〈研究概要〉

骨髄移植は，白血病，再生不良性貧血，先天性免疫不全症等の治療法として目覚ましい進歩を遂げている．さらに最近，欧米では自己免疫疾患の治療にも骨髄移植が開始されるようになり，骨髄移植の適応範囲が今後益々拡大するものと考える．しかしながら，移植片対宿主反応（GVHR）の問題や移植片の拒絶，放射線の副作用等解決されなければならない問題を抱えている．我々は，これらの問題を解決するための新しい骨髄移植方法（門脈から骨髄細胞を移植する方法と骨髄内へ直接骨髄細胞を移植する方法）を開発した．これらの方法によって誘導される免疫学的寛容の機序を解析し，ヒトの応用に向けて，基礎固めをする．

一方，臓器移植に関しても，拒絶反応を抑制するためには，長期間の免疫抑制剤投与が不可欠であるが，薬の副作用による種々の弊害も生じている．我々は，長期間の免疫抑制剤の投与なくして，永続的に免疫学的寛容を誘導する方法をマウスを用いて開発し，ヒトへの応用に向けてウサギ，ブタ，サル等の中～大動物を用いて基礎固めをする．

〈研究業績〉

原　著

1. Tomita M, Yamada H, Adachi Y, Cui Y, Yamada E, Higuchi A, Minamino K, Suzuki Y, Matsumura M, and Ikehara S (2004) Choroidal neovascularization is provided by bone marrow cells. Stem Cells 22: 21–26
2. Nakamura K, Inaba M, Sugiura K, Yoshimura T, Kwon A-Hon, Kamiyama Y, and Ikehara S (2004) Enhancement of allogeneic hematopoietic stem cell engraftment and prevention of graft-versus-host diseases (GvHD) by intra-bone marrow-bone marrow transplantation plus donor lymphocyte infusion. Stem Cells 22: 125–134
3. Quan S, Kaminski PM, Yang L, Morita T, Inaba M, Ikehara S, Goodman AL, Wolin MS, and Abraham NG (2004) Heme oxygenase-1 prevents superoxide anion-associated endothelial cell sloughing in diabetic rats. Biochem Biophys Res Commun 315: 509–516
4. Iwai H, Lee S, Baba S, Tomoda K, Inaba M, Ikehara S, and Yamashita T (2004) Bone marrow cells as an origin of immune-mediated hearing loss. Acta Otolaryngol 124: 8–12
5. Inaba M, Iwai H, and Ikehara S (2004) Prevention and treatment of age-associated disease in SAM by bone marrow transplantation with or without thymus grafts. In: The Senescence-Accelerated Mouse (SAM): An Animal Model of Senescence. (Nomura Y, Takeda T, and Okuma Y, eds.) Elsevier, International Congress Series 1260, 117–121
6. Takada T, Inaba M, Ichioka N, Baba S, Taira M, Nakamura K, Iida H, and Ikehara S (2004) Prevention of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. In: The Senescence-Accelerated Mouse (SAM): An Animal Model of Senescence. (Nomura Y, Takeda T, and Okuma Y, eds.) Elsevier, International Congress Series 1260, 117–121
7. Hosaka N, Sasaki T, Adachi K, Sato T, Tanaka T, Miura Y, Sawai T, Toki J, Hisha H, Okamura A, Takasu K, and Ikehara S (2004) Pulmonary sclerosing hemangioma associated with familial adenomatous polyposis. Human Pathol 35: 764–768
8. Kimura T, Wang J, Matsui K, Imai S, Yokoyama S, Nishikawa M, Ikehara S, and Sonoa Y (2004) Proliferative and migratory potentials of human cord

blood-derived CD34$^-$ severe combined immunodeficiency repopulating cells that retain secondary reconstituting capacity. Int J Hematol 79: 328–333
9. Andoh Y, Suzuki H, Araki M, Mizutani A, Ohashi T, Okumura T, Adachi Y, Ikehara S, and Taketani S (2004) Low$^-$ and high$^-$ level expressions of heme oxygenase-1 in cultured cells under uninduced conditions. Biochem. Biophys. Res Commun 320: 722–729
10. Kusafuka K, Ishiwata T, Sugisaki Y, Takemura T, Kusafuka M, Hisha H, and Ikehara S (2004) Lumican is associated with the formation of the mesenchyme-like elements in salivary pleomorphic adenomas. J Pathology 203: 953–960
11. Lian Z-X, Kikuchi K, Yang G-X, Ansari AA, Ikehara S, and Gershwin ME (2004) Expansion of bone marrow IFN-α-prooducing dendritic cells in New Zeaaland Black (NZB) mice: High level expression of TLR9 and secretion of IFN-α in NZB bone marrow. J Immunol 173: 5283–5289
12. Fan T-X, Hisha H, Jin T-N, Sugiura K, Inaba M, Yang G-X, Li Q, Wang X-L, Song C-Y, Cui Y-Z, Li Q, Zhang Y, Zhange X-G, Fan H-X and Ikehara S (2004) Induction of tolerance in quadruple chimeric mice. Stem Cells 22: 683–695
13. Ueda K, Hanazono Y, Shibata H, Ageyama N, Ueda Y, Ogata S, Tabata T, Nagashima T, Takatoku M, Kume A, Ikehara S, Taniwaki M, Terao K, Hasegawa M, and Ozawa K (2004) High-level in vivo gene marking after gene-modified autologous hematopoietic stem cell transplantation without marrow conditioning in nonhuman primates. Mol Ther 10: 469–477
14. Zhang Y, Adachi Y, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Hisha H, Song CY, Kusafuka K, Nakano K, Koike Y, Wang J, Koh E, Cui Y, Li C, and Ikehara S (2004) Simultaneous injection of bone marrow cells and stromal cells into bone marrow accelerates hematopoiesis *in vivo*. Stem Cells 22: 1256–1262
15. Li Q, Sakurai Y, Ryu T, Azuma K, Yoshimura K, Yamanouchi K, Ikehara S, and Kawamoto K (2004) Expression of Rb2/p130 protein correlates with the degree of malignancy in gliomas. Brain Tumor Pathol 21: 121–125
16. Kikuchi K, Lian Z-X, Yang G-X, Ansari AA, Ikehara S, Kaplan M, Miyakawa H, Coppel RL, and Gershwin ME (2005) Bacterial CpG induces hyper-IgM producion in CD27$^+$ memory B cells in primary biliary cirrhosis. Gastroenterology 128: 304–312
17. Sugiura K, Nishikawa M, Ishiguro K, Tajima T, Inaba M, Torii R, Hatoya S, Wijewardana V, Kumagai D, Tamada H, Sawada T, Ikehara S, and Inaba T (2004) Effect of ovarian hormones on periodical changes in immune resistance associated with estrous cycle in the beagle bitch. Immunogiol 209: 619–627
18. 池原　進（2004）自己免疫疾患における造血幹細胞移植．リウマチ科　32: 425–427
19. 池原　進（2004）骨髄移植の展望（骨髄内骨髄移植を含めて）．日本内科学会雑誌　93: 160–164

病理学第二講座

〈研究概要〉

I. 天然エストロゲン様化学物質の周生期暴露による影響

CD-1マウスに対して妊娠15–18日にかけて被験物質（Genistein，Resveratrol，Zearalenone，Bisphenol A，DES）を0.5 mg/kgあるいは10 mg/kgを連日計4回皮下投与した[原著-6]．なお，DESの投与量は0.5 μg/kgあるいは10 μg/kgとした．その結果，いずれの場合もマウスの体重増加を促進し，膣開口を早発し，発情周期に周期性はみられたが，1周期長は少量DES投与群の他は有意に延長し，Genistein，Resveratrol，Bisphenol AやDES投与動物では発情間期の占める割合が有意に延長し，Zearalenoneでは発情期の有意の延長をみた．卵巣組織をみると，4週齢ではいずれの投与群でも若干の動物に黄体欠如をみたが，

Zearalenone 投与マウスのみは 8，12，16 週齢においても，不妊を示唆する黄体欠如卵巣が持続してみられた．Mycoestrogen（Zearalenone）の内分泌撹乱作用は他の化学物質に比して強力である．そこで，Zearalenone の代謝産物で，Zearalenone より高いエストロゲン活性を有するとされる Zeranol を Sprague-Dawley ラットに 0.1 mg/kg あるいは 10 mg/kg を 15–19 日齢にかけて連日計 5 回，皮下投与する思春期前暴露実験を行った[原著-9]．Zeranol 投与は体重増加には影響をみなかったが，膣開口は早発し，発情期は延長し，37 週齢（実験終了時）でも一部のラットの卵巣は黄体欠如をみた．但し，Zeranol 暴露は乳腺発癌には影響をみなかった．以上，周生期における Mycoestrogen 暴露は，不妊が懸念される．

II. 癌抑制能を有する化学物質同定の試み

Perillyl alcohol（POH）はテルペン類に属し，レモングラスやジンジャーオイル等の天然産物から精製される化学物質である．POH は各種の動物腫瘍の発生や増殖を抑えることが知られているが，ヒト乳癌細胞株に対する効果は不明である．そこで，エストロゲン受容体陽性あるいは陰性のヒト乳癌細胞株 4 殊に対する POH の効果ならびにその腫瘍増殖抑制機序につき検討した[原著-1]．その結果，POH は in vitro では，いずれの乳癌細胞株に対しても増殖を抑制し，その機序は細胞周期停止に基づく静細胞的な作用で，cyclin D1，cyclin E および PCNA の有意な発現低下と，$p21^{Cip1/Waf1}$ の有意な発現上昇をみた．また，ヌードマウス移植ヒト乳癌細胞株に対しても増殖抑制効果を呈したが，宿主には目立った毒性はみなかった．よって，POH はヒト乳癌の制御に有用と考える．n-3 系多価不飽和脂肪酸（PUFA）であるドコサヘキサエン酸（DHA）の乳癌あるいは大腸癌抑制効果は周知の事実である．一方 n-6 系 PUFA であるリノール酸（LA）は，これらの腫瘍に対して増殖促進効果を呈するが，LA の位置・幾何異性体である共役 LA（Conjugated LA，CLA）では逆に腫瘍増殖抑制効果を示す．ならば，共役 DHA（CDHA）にはより強力な腫瘍抑制作用が備わっている可能性がある．そこで，DHA をアルカリ異性化することにより CDHA を作製し，ヒト乳癌[原著-4]あるいは大腸癌[原著-7]細胞株に対する効果を検討した．その結果，いずれの腫瘍細胞に対しても CDHA は DHA より低濃度で増殖抑制効果を発揮し，その機序は G1 期の細胞周期停止とアポトーシスによることが判明した．また，ヌードマウス移植乳癌あるいは大腸癌細胞株に対して，0.2% あるいは 1.0% CDHA 添加 AIN-76A 食を給餌したところ，いずれの食餌においても体重増加等に影響は認めず，1.0% CDHA 添加食摂取群では腫瘍増大の有意な抑制をみた．よって，CDHA は DHA よりも乳癌や大腸癌に対する抑制効果は強力なことから，これらの腫瘍の制御に利用しうると考える．CDHA 摂取（給餌）時期の同定は重要であるので，ラット N-methyl-N-nitrosourea（MNU）誘発乳癌モデルにより検討した[原著-8]．0.2% あるいは 1.0% CDHA 含有 AIN-76A 食を MNU 処置前（21–49 日齢）あるいは MNU 処置後（49 日齢–40 週齢）に給餌したところ，0.2% あるいは 1.0% CDHA 食を MNU 投与後に与えた群で乳癌の抑制をみたが，MNU 処置前の CDHA 給餌では抑制効果はみなかった．CDHA は発癌促進期に効果を示す．

III. MNU 誘発ラット網膜変性症に対する DHA の効果

DHA は網膜に豊富に存在し，その欠乏により視機能に障害をみる．50 日齢の Sprague-Dawley ラットに 50 mg/kg MNU を腹腔内投与後，10% の各種脂肪酸含有食（各の LA 食，パルミチン酸食，エイコサペンタエン酸食，1：1 エイコサペンタエン酸＋ DHA 食，DHA 食）に食餌を変更して，長期観察を試みたところ，DHA 食摂取群においてのみ，視細胞のアポトーシスによる網膜障害の抑制をみた（Exp Eye Res, 2003）．そこで，MNU 投与量を 60 mg/kg と増量して短期観察実験を行った[原著-3]ところ，MNU 誘発網膜障害に対する DHA の効果が再現され，DHA の暴露は，視細胞アポトーシス出現の初期（アポトーシスの誘導 / 作用期）に有効であることが判明した．ヒト網膜変性症は DHA の経口摂取により，制御しうる可能性がある．

〈研究業績〉

原　著

1. Yuri T, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Kiyozuka Y, Senzaki H, Shikata N, Kanzaki H, Tsubura A (2004) Perillyl alcohol inhibits human breast cancer cell growth in vitro and in vivo. Breast Cancer Res Treat 84: 251–260
2. Pei R-J, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Tsubura A (2004) Immunohistochemical profiles of Mallory body by a panel of anti-cytokeratin antibodies. Med Electron Microsc 37: 114–118
3. Moriguchi K, Yoshizawa K, Shikata N, Yuri T, Takada H, Hada T, Tsubura A (2004) Suppression of N-methyl-N-nitrosourea-induced photoreceptor apoptosis in rats by docosahexaenoic acid. Ophthalmic Res 36: 98–105
4. Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Danbara N, Senzaki H, Kiyozuka Y, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Ogawa Y, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid suppresses KPL-1 human breast cancer cell growth in vitro and in vivo: potential mechanisms of action. Breast Cancer Res 6: R291–R299
5. Yuri T, Danbara N, Shikata N, Fujimoto S, Nakano T, Sakaida N, Uemura Y, Tsubura A (2004) Malignant rhabdoid tumor of the liver: Case report and literature review. Pathol Int 54: 623–629
6. Nikaido Y, Yoshizawa K, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Uehara N, Tsubura A (2004) Effects of maternal xenoestrogen exposure on development of the reproductive tract and mammary gland in female CD-1 mouse offspring. Reprod Toxicol 18: 803–811
7. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Okazaki K, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid is a potent inducer of cell cycle arrest and apoptosis and inhibits growth of colo 201 human colon cancer cells. Nutr Cancer 50: 71–79
8. Danbara N, Uehara N, Shikata N, Takada H, Hada T, Tsubura A (2004) Dietary effects of conjugated docosahexaenoic acid on N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis in female Sprague-Dawley rats. Oncol Rep 12: 1079–1085
9. Yuri T, Nikaido Y Shimano N, Uehara N, Shikata N, Tsubura A (2004) Effects of prepubertal zeranol exposure on estrogen target organs and N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary tumorigenesis in female Sprague-Dawley rats. In Vivo 18: 755–762
10. 裴　仁正，四方伸明，圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，螺良愛郎（2004）周生期Genistein暴露による化学発癌剤誘発ラット乳癌の抑制ならびにその作用機序．乳癌基礎研　13: 41–46
11. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）ドコサヘキサエン酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果．乳癌基礎研　13: 47–50
12. 清塚康彦，圦　貴司，螺良愛郎（2004）産婦人科医にとっての乳腺細胞診-Dos and Don’ts-．産婦人科の実際　53: 1165–1171
13. 四方伸明，新宅雅幸，段原直行，島野直人，今井俊介，森井外吉，螺良愛郎（2004）14 年の臨床経過をとった孤発性 Parkinson 病の 1 剖検例．関西医大誌　185–192
14. 螺良愛郎（2003）厚生労働科学研究費補助金，食品・化学物質安全総合研究事業，内分泌撹乱物質と大豆等既存食品の発育・癌化及び内分泌撹乱作用の比較．平成 14 年度総括・分担研究報告書　1–93
15. 螺良愛郎（2004）厚生労働科学研究費補助金，化学物質リスク研究事業，内分泌撹乱物質と大豆等既存食品の発育・癌化及び内分泌撹乱作用の比較．平成 15 年度総括・分担研究報告書　1–137

学会発表

1. Yoshizawa K, Kiuchi K, Moriguchi K, Oishi Y, Shikata N, Tsubura A (2004) Mechanisms and disease control of N-methyl-N-nitrosourea-induced retinal degeneration in animals. Jpn Soc Toxicol Pathol/ Int Fed Soc Toxicol Pathol, Kobe
2. 圦　貴司，生田明子，中元　剛，安原正浩，吉村智雄，清塚康彦，螺良愛郎，神崎秀陽（2004）思春期前雌 Sprague-Dawley ラットに対する Zeranolの内分泌かく乱作用．第56回日本産科婦人科学会学術講演会，東京

3. 清塚康彦，上原範久，段原直行，圦　貴司，辻田（久徳）美樹，島野直人，螺良愛郎（2004）マウス胸腺細胞の dexamethasone 誘発 apoptosis における telomere 長短縮と telomeraseRNA の発現亢進．第93回日本病理学会，札幌
4. 上原範久，清塚康彦，辻田（久徳）美樹，森口佳映，四方伸明，螺良愛郎（2004）ニコチンアミドによる poly(ADP-ribose) polymerase (PARP)-1 を介したラット視細胞アポトーシスの抑制機序．第93回日本病理学会，札幌
5. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，二階堂泰資，島野直人，上原範久，清塚康彦，四方伸明，螺良愛郎（2004）Zeranol の思春期前暴露における雌 Sprague-Dawley ラットにおよぼす影響．第93回日本病理学会，札幌
6. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，上原範久，松岡洋一郎，四方伸明，螺良愛郎（2004）Perillylalcohol のヒト乳癌細胞株に対する増殖抑制効果. 第14回乳癌基礎研究会, 茨城
7. 上原範久，清塚康彦，四方伸明，螺良愛郎（2004）経産後乳腺における発癌抑制能の獲得とその機構解明に向けた網羅的遺伝子発現解析．第63回日本癌学会，福岡
8. 上原範久，清塚康彦，四方伸明，螺良愛郎（2004）Nicotinamide による poly(ADP-ribose) polymerase-1を介したラット視細胞アポトーシスの抑制. 第45回日本組織細胞化学会, 鹿児島
9. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）ヒト乳癌細胞株（KPL-1）における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制機序の解析．第 93 回日本病理学会，札幌
10. 段原直行，辻田（久徳）美樹，圦　貴司，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）共役ドコサヘキサエン酸によるMNU誘発ラット乳癌に対する抗腫瘍効果．第 93 回日本病理学会，札幌
11. 島野直人，段原直行，圦　貴司，辻田（久徳）美樹，二階堂泰資，螺良愛郎（2004）Indole-3-carbinol の思春期前暴露による MNU 誘発ラット乳癌におよぼす影響．第93回日本病理学会，札幌
12. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，上原範久，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）共役ドコサヘキサエン酸によるヒト乳癌細胞株（KPL-1）における増殖抑制効果．第14回乳癌基礎研究会，茨城
13. 段原直行，圦　貴司，上原範久，清塚康彦，四方伸明，岡崎和一，螺良愛郎（2004）COLO201 ヒト大腸癌細胞株に対するエンテロラクトンの増殖抑制効果．第63回日本癌学会，福岡
14. 段原直行，四方伸明，螺良愛郎（2004）好酸性の細胞質内封入体がみられた腎淡明細胞癌の一例. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 熊本
15. 高取　聡，北川陽子，田中之雄，西川淳一，西原　力，螺良愛郎，西山利正，堀伸二郎（2004）イソフラボン類とアルキルフェノール誘導体とのエストロゲン様作用の比較．第7回環境ホルモン学会，名古屋
16. 大前壽子，北田善三，茶山和敏，螺良愛郎，今井俊介（2004）LC/MS/MS によるマウス血清，乳汁のビスフェノール A 及び植物エストロゲンの一斉分析法の開発．第7回環境ホルモン学会，名古屋

著　書

1. Kiyozuka Y (2004) Correlation of telomerase activity and telomere length to chemosensitivity. Methods in Molecular Medicine, vol. 111: Chemosensitivity: vol. 2: In Vivo Models, Imaging, and Molecular Regulators (R. D. Blumenthal ed) pp 97–108, Humana Press Inc., Totowa, NJ
2. 畑埜武彦，螺良愛郎（2004）135．向精神薬服用者と乳癌．乳癌診療二頁の秘訣，（光山昌殊編）288–289 頁，金原出版，東京

微生物学講座

〈研究概要〉

微生物学講座では，レトロウイルスを中心とした研究を行っている．代表的なヒトレトロウイルスで

あるHTLV-1とHIV-1は，成人T細胞白血病（ATL）およびエイズという，ともに重篤な疾患を引き起こす．我々は，これら2種類のヒトレトロウイルスの感染・複製調節の解析と，その成果を基にした各疾患の治療法開発を目指している．

HTLV-1感染者は本邦に100万人以上存在し，長い潜伏期を経た後に，毎年数百人の率で難治性の白血病ATLを発症する．そこで，この潜伏期における個体レベルでのウイルス発現制御機構の解明を介して，ATLの発症を抑制する手段の開発を目指している．そのために，ヒト感染個体におけるウイルス発現動態を再現するマウスモデルを確立し，ウイルス発現制御機構を細胞内シグナル伝達及び遺伝子発現の観点から解析している．

一方，HIV-1の感染もいまだ世界レベルでの拡大を続けており，その抑制にはさらに幅広い抗ウイルス薬の開発が緊急の課題となっている．そこで，ウイルスの細胞侵入過程を標的とした新しい抗HIV剤の開発を目標として，HIV-1エンベロープ蛋白と宿主細胞側のウイルスレセプターとの相互作用を構造化学的な視点で詳細に解析している．

また，HIV-1の複製調節因子Revは，ウイルスRNAの核外輸送を制御することでHIV-1の増殖に必須の蛋白であるが，我々は同蛋白が宿主側の抗ウイルス蛋白インターフェロンのmRNA核外輸送を抑制することを見出した．この事実は，Rev機能を介した宿主免疫抑制機構が存在する可能性を提唱していることから，現在，この機序に関して詳細に解析を進めている．

我々はHTLV-1感染細胞において特異的にチロシンリン酸化される宿主蛋白としてRNA結合蛋白Sam68を同定した．細胞増殖制御におけるSam68蛋白の機能に注目し，これまでに，細胞内における標的RNAの同定を行ってきた．近年，RNAの転写後調節を介した細胞機能制御に注目が集まっていることから，Sam68によるこれら標的RNAの動態制御と細胞増殖調節との関連を解析している．

現在進行中のテーマは以下の通りである．

1）HTLV-1 Tax遺伝子導入Tリンパ腫細胞のマウス個体内における遺伝子発現制御

T細胞のがん化に関与するHTLV-1 Taxの発現は，ウイルス感染個体内においては強く抑制されており，これがATL発症に至るまでの長い潜伏期を説明すると考えられることから，我々はこれまでに，HTLV-1転写調節領域制御下にTaxと蛍光蛋白GFPとの融合蛋白（Gax）を発現するEL-4マウスT細胞株（EL-4 Gax）を同系マウス腹腔内に接種するモデル系を構築し，同マウスモデルがヒトにおける個体レベルでの免疫制御およびウイルス遺伝子発現制御を再現し得ることを示した．現在，転写抑制と再活性化の分子機構を，プロウイルスゲノムの遺伝子および転写因子レベルで詳細に解析している．

2）SCID-huを用いたHTLV-1モデルマウスの構築

HTLV-1感染未発症者における宿主免疫とウイルス動態の関係を明らかにし，これをATL発症予防ワクチンの開発・評価に応用する目的で，ヒト血球系を有するマウスを作製し，これにHTLV-1の感染をおこなうことで，感染キャリアマウスモデルの構築を試みている．そのためまず，骨髄内骨髄移植の手法を用い，SCIDマウスにヒト臍帯血を移植し，ヒト血球系を有するマウス（SCID-hu）の作製を進めている．今後，同マウスにHTLV-1感染細胞を移入し，ウイルス感染を図る予定である．さらに，免疫抑制あるいはウイルス発現活性化等の処理により，感染細胞の腫瘍性増殖誘導を試み，骨髄移植を基本とした新規ATL治療法の開発への利用を目指している．

3）血球分化特異的レンチウイルスベクターの開発

導入遺伝子の長期にわたる安定した発現が要求される遺伝子治療においては，自己複製能をもつ造血幹細胞への遺伝子導入が有用であると考えられるが，宿主遺伝子への影響の抑制，および導入遺伝子の分化特異的な発現制御が必要である．そこで，我々は造血幹細胞に導入された外来遺伝子の分化系統特異的な発現制御システムの一つとして巨核球系細胞を標的に選び，インテグリンα2bプロモーターを組

み込んだレンチウイルスベクターを構築した．その結果，同ウイルスベクターを用いることで，造血幹細胞に高率に遺伝子を導入し，さらに，これを巨核球系細胞特異的に発現させることに成功した．プロモーター領域を改変することにより，他の血球特異的な遺伝子発現の制御が可能になると考えられることから，今後，免疫療法への応用等，幅広い分野への利用が期待される．

4）HIV-1受容体CCR5を介するウイルス侵入阻害剤の標的構造解析

HIV-1 受容体である C-C ケモカイン受容体 CCR5 を標的とする 2 種類の HIV-1 侵入阻害剤（TAK779, TAK220）の作用機作を明らかにする目的で，種々の変異を導入したCCR5を発現する細胞に対するルシフェラーゼ発現組換えHIV-1レンチウイルスベクターの感染性を解析し，各阻害剤とCCR5の構造–機能相関を解析した．その結果，両侵入阻害剤は共にCCR5の細胞表面に近い膜貫通領域に結合することで，ウイルスの侵入に必要なCCR5の構造変化を阻害している事が明らかとなったが，異なるアミノ酸残基に対する要求性を示すことから，今後，さらに幅広い結合スペクトラムを持つ阻害剤開発の可能性が示唆された．

5）蛍光共振エネルギー転移法（FRET）を用いたHIV-1感染初期過程の経時的解析

HIV-1の標的細胞への侵入過程における，ウイルス膜タンパク質Envと標的細胞表面CD4およびケモカイン受容体への段階的な結合，および，その構造変化の結果生じる融合孔fusion poreの形成を経時的に解析することを目的に，膜融合過程におけるFRETを用いた蛋白間相互作用のリアルタイム測定システムを構築した．その結果，CD4 とケモカイン受容体の一次的な会合と乖離が融合孔形成に先立って起こることを経時的に示すことに成功した．同時に，これまで融合孔形成を阻害すると考えられていた侵入阻害剤T20が，CD4とケモカイン受容体の会合も阻害し得るという新しい知見も得られた．

6）mRNA核外輸送調節を介したインターフェロン発現制御機構の解明

これまで，HIV-1 の調節蛋白 Rev が宿主の抗ウイルス蛋白であるインターフェロン -α1（IFN-α1）の mRNA 核外輸送を抑制することを見出し，その mRNA 上に核外輸送責任塩基配列を同定した．そこで，他のインターフェロン分子種について解析したところ，IFN-β mRNA への影響は見られなかったが，共にウイルス感染によって誘導されるIFN-α2およびIFN-α13のmRNAの核外輸送はRevによって阻害されたことから，IFN-α分子種mRNAの核外輸送に関与する新規RNAアダプター（結合）分子の存在と，その免疫応答における特異的な調節機構に興味が持たれた．現在，このRNAアダプター分子のクローニングを試みると共に，本分子がウイルス感染に応答して発現する他の生体因子の mRNA に共通なアダプターとして機能する可能性を検討している．

7）RNA結合蛋白Sam68による転写後調節の解析

HTLV-1感染細胞で強くチロシンリン酸化されている蛋白として同定したRNA結合蛋白Sam68が細胞周期のG2/M期進展に関与することを明らかにし，さらにその標的となる細胞RNAとして，β-アクチンおよびRNA結合蛋白hnRNP A2/B1のmRNAを証明した．そこで，Sam68による転写後調節を介した細胞増殖制御を想定し，HeLa 細胞を用いて siRNA の手法で Sam68 遺伝子発現ノックダウン実験と細胞内発現 mRNA のマイクロアレイ解析を行った．その結果，Sam68 mRNA の発現はほぼ完全に抑制されていたにもかかわらず，他の細胞遺伝子で特徴的な発現変動を示したものは観察されなかったことから，Sam68 の作用点がmRNAの輸送・安定性以外の点にあることが強く示唆された．

〈研究業績〉

原　著

1. Nomura, M, Ohashi, T, Nishikawa, K, Nishitsuji, H, Kurihara, K, Hasegawa, A, Furuta, RA, Fujisawa, J-I, Tanaka, Y, Hanabuchi, S, Harashima, N, Masuda, T and Kannagi, M (2004) Repression

of tax expression is associated both with resistance of human T-cell Leukemia virus type 1 -infected T cells to killing by tax-specific cytotoxic T lymphocytes and with impaired tumorigenicity in a rat model. J Virol 78: 3827–3836
2. Kimura, T, Hashimoto, I, Nagase, T and Fujisawa, J-I (2004) CRM-1 dependent but not ARE-mediated nuclear export of IFN-alpha 1 mRNA. J Cell Science 117: 2259–2270
3. Mori, S, Matsuzaki, K, Yoshida, K, Furukawa, F, Tahashi, Y, Yamagata, H, Sekimoto, G, Seki, T, Matsui, H, Nishizawa, M, Fujisawa, J-i and Okazaki, K (2004) TGF-β and HGF transmit the signals through JNK-dependent Smad2/3 phosphorylation at the linker regions. Oncogene 23: 7416–7429

学会発表

1. 木村富紀，西川光重，日下博文，中井吉英，松田公志（2004）外来患者エスコート並びに病棟医療面接実習：臨床技能導入教育としての効果と問題点．第 36 回日本医学教育学会総会および大会，高知
2. 木村富紀，橋本岩雄，藤澤順一（2004）IFN-α ファミリー mRNA の CRM1 依存性核外輸送における標的塩基配列．第 6 回 RNA ミーティング，熊本
3. 伊藤道恭，芳賀　泉，藤澤順一（2004）STAR 蛋白質 Sam68 による hnRNP A2/B1mRNA の発現調節．第6回RNAミーティング，熊本
4. 木村富紀，橋本岩雄，藤澤順一（2004）HIV-1 Rev蛋白による核外輸送因子CRM1に対する拮抗抑制を介したインターフェロン -α ファミリー mRNA の核外輸送阻害．第57回日本細菌学会関西支部総会，京都
5. 古田里佳，藤澤順一（2004）HIV-1 Env媒介細胞膜融合のリアルタイム解析．第 52 回日本ウイルス学会学術集会・総会，横浜
6. 木村富紀，橋本岩雄，藤澤順一（2004）HIV-1 Rev蛋白質によるIFN-αファミリーmRNAの核外輸送抑制．ワークショップ：ウイルスの宿主防御回避機構．第 52 回日本ウイルス学会学術集会・総会，横浜
7. 古田里佳，藤澤順一（2004）HIV-1　誘導細胞膜融合のリアルタイムFRET解析. 第27回日本分子生物学会年会，神戸
8. 蒋　時文，稲田武文，古田里佳，藤澤順一（2004）個体内における転写レベルでの HTLV-1 発現抑制機構．第 27 回日本分子生物学会年会，神戸

衛生学講座

〈研究概要〉

1）ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明

最近，私達の研究グループは，ヒト臍帯血中に極めて少数存在するCD34抗原陰性幹細胞の確実な同定に世界に先駆けて成功した（Blood 101: 2924–2931, 2003）．これまでの研究で，独自に開発した骨髄腔内直接移植（IBMI）法を応用することにより，分化抗原陰性，CD45低発現，CD34陰性細胞集団の中に長期に骨髄を再構築する幹細胞（SCID-repopulating cell，SRC）が存在することを明らかにした．さらに，このCD34陰性SRCが，*in vivo*における高い自己複製能と増殖能を保持していることも示している．重要な発見として，このCD34陰性SRCが骨髄腔内ニッチへのホーミング能力が低いこと，さらにCD34陽性SRCの中にもCD34陰性SRCと同様にCXCR4などのホーミング受容体の発現レベルの低いSRCが存在することを明瞭に示したことが挙げられる．このことは臨床的にも重要な意義をもっている．すなわち，現在の静脈内投与による造血幹細胞移植法では，これらの CD34 陰性及び陽性 SRC は効率よく骨髄腔内ニッチへホーミングできない．そこで，本学で開発中の骨髄内骨髄移植法を臨床応用することができれば，現在の同種造血幹細胞移植に革命的な変化をもたらすものと思われる．

今後の研究として，新たな異種間移植系の開発，幹細胞の骨髄腔内ニッチへのホーミング機構の解明，その増殖分化機構（特に，自己複製機構）や可塑性（分化転換能）の解明，*ex vivo* 増幅系の開発，さら

に，ヒト造血幹細胞の本態の解明（そのhierarchy上の位置付け）などに取り組んでいく予定である．

2）食品中に含まれる内分泌撹乱化学物質の検索

エストロゲン活性を指標として，食品中に含まれる内分泌撹乱化学物質の検索を試みた．市販の15種類のハーブティー・ミックスからエタノールおよび熱水による抽出液を調製し，形質転換酵母株を使用したレポーターアッセイによるエストロゲン活性のスクリーニングを行った．抽出に用いた溶媒によってエストロゲン活性の分布パターンは著しく異なっていた．エタノール抽出では甘草を含むハーブティーのみがエストロゲン活性を示したのに対し，熱水抽出ではすべてのハーブティーにエストロゲン活性が認められた．熱水抽出で最大の活性を示したハーブはペパーミントであった．これらのハーブのエストロゲン活性は動物細胞を用いたレポーターアッセイにおいても確認された．

3）食餌制限による酸化ストレス軽減作用

実験動物において，栄養不良を惹起しない程度の食餌制限が生体内の酸化ストレスを減少させることが報告されている．食餌制限による酸化ストレス軽減作用の発現機序を解明するために，48 時間絶食したラット肝における酸化ストレス関連遺伝子の発現量の経時的変化をRT-PCRを用いて解析した. 48時間絶食により，一連のHSP（熱ショックタンパク質），メタロチオネインなどの抗ストレスタンパク質遺伝子のmRNAレベルは有意に増加し，給餌再開後再び減少した．カタラーゼ等の活性酸素の分解酵素に関しては変化が認められなかったため，これらの抗ストレスタンパク質が酸化ストレス軽減に関与している可能性が示唆された．

4）エネルギー制限が細胞増殖に及ぼす影響：肝臓における成長因子の発現変化

我々はこれまで，エネルギー制限によるアレルギー性疾患の抑制効果について報告をしてきた．エネルギー制限には一日一回給餌する方法や短期間の絶食を繰り返す方法などが用いられている．2003 年度は，短期間の絶食および再摂食が肝細胞の増殖やアポトーシスに著しい影響をおよぼすことを報告したが，2004 年度は，肝臓における種々の成長因子について検討した．その結果，短期間の絶食により種々の成長因子のmRNAの発現量が増加することを確認し，また，蛋白量も増加していることを確認した．

5）短期的エネルギー制限のエネルギー代謝及び生理機能への影響

短期的なエネルギー制限がヒトのエネルギー代謝および他の生理機能の状態にどのような影響を及ぼすかについて，2003 年度に引き続き，関西医科大学疫学倫理委員会の承認に基づいてデータ収集を重ねた．6日間の食事・運動指導コースにより体重・Body mass indexの低下が観察された．ポータブルガスモニターを用いて測定した呼吸商もコース期間中に低下し，エネルギー源が炭水化物から脂質に移行していることが確認された．基礎代謝量もコース終了時点において減少した．さらにこの減少量は中等度エネルギー制限群が軽度制限群より有意に多かった. 6日間のエネルギー制限によりヒトの基礎代謝量が減少することを確認した．

6）産業保健，小児保健に関する研究

ポリウレタンの原料であるイソシアネート類は呼吸器および皮膚アレルギーの原因物質であるが，代替物が存在せず，今後も生産が継続されるため，その対策が課題である．イソシアネート類により皮膚アレルギー反応を惹起したモデルマウスを作成し，惹起後に短期絶食を行ったところアレルギー性炎症の抑制効果を認めた．

歯科医師は重金属の粉塵を吸引することがあり，また手指からの血液を介した肝炎ウイルス感染の危険性が高いため，職業上がんに罹患する可能性がある．大阪府歯科医師会男性会員を対象に肺がんおよび肝がんリスクを求めたところ，大阪府一般府民と比較してそれぞれ1.01，0.72と高いリスクは認められ

なかった．ただし肺がん罹患リスクは，一般勤労者に比較すると高い傾向を示し，今後も研究が必要であると考えられた（2004年Journal of Occupational Healthに掲載）．また，歯科技工士は歯科医師と同様に，各種重金属に暴露することが報告されている．大阪府歯科技工士会の協力を得て歯科技工士の各種がん罹患リスクについても研究中である．

医療従事者の喫煙は禁煙教育推進上重要な問題であるがわが国ではこれまで歯科医師の喫煙状況の調査は乏しかった．複数の県歯科医師会の協力を得てアンケート調査を実施し，年齢階層別に補正して比較したところ，男性歯科医師の喫煙率は，一般市民よりは低いものの，医師よりも高い傾向を示した．

生活習慣病対策の一環として小児期からの栄養教育を中心とする健康教育が重視されている．小学生を対象に栄養教育を行い，その効果を判定する研究を実施中である．

〈研究業績〉

原　著

1. Kimura T, Minamiguchi H, Wang J, Kaneko H, Nakagawa H, Fujii H, Sonoda Y (2004) Impaired stem cell function of $CD34^+$ cells selected by two different immunomagnetic beads systems. Leukemia 18: 566–574
2. Kawakami M, Kimura T, Kishimoto Y, Tatekawa T, Baba Y, Nishizaki T, Matsuzaki N, Taniguchi Y, Yoshihara S, Ikegame K, Shirakata T, Nishida S, Masuda T, Hosen N, Tsuboi A, Oji Y, Oka Y, Ogawa H, Sonoda Y, Sugiyama H, Kawase I, Soma T (2004) Preferential expression of the vasoactive intestinal peptide (VIP) receptor VPAC1 in human cord blood-derived $CD34^+$ $CD38^-$ cells: possible role of VIP as a growth-promoting factor for hematopoietic stem/progenitor cells. Leukemia 18: 912–921
3. Ueda Y, Sonoda Y, Fujiki H, Harada S, Kimura T, Itoh T, Imura K, Naito K, Nomura K, Taniwaki M, Yamagishi H (2004) Mobilization of peripheral blood stem cells (PBSCs) after etoposide, adriamycin and cisplatin therapy, and a multimodal cell therapy approach with PBSCs in advanced gastric cancer. Oncol Rep 12: 323–332
4. Okuda K, Sato Y, Sonoda Y, Griffin JD (2004) The TEL/ARG leukemia oncogene promotes viability and hyperresposiveness to hematopoietic growth factors. Int J Hematology 79: 138–146
5. Kimura T, Wang J, Matsui K, Imai S, Yokoyama S, Nishikawa M, Ikehara S, Sonoda Y (2004) Proliferative and migratory potentials of human cord blood-derived $CD34^-$ severe combined immunodeficeincy repopulating cells that retain secondary reconstituting capacity. Int J Hematology 79: 328–333
6. Kimura T, Boehmler AM, Seitz G, Kuci s, Wesner T, Brinkmann V, Kanz L, Mohle R (2004) The sphingosine 1-phosphate receptor agonist FTY20 supports CXCR4-dependent migration and bone marrow homing of human $CD34^+$ progenitor cells. Blood 103: 4478–4486
7. Kouda K, Nakamura H, Tokunaga R, Takeuchi H (2004) Trends in levels of cholesterol in Japanese children from 1993 through 2001. J Epidemiol 14: 78–82
8. Kouda K, Nakamura H, Kohno H, Ha-Kawa SK, Tokunaga R, Sawada S (2004) Dietary restriction: effects of short-term fasting on protein uptake and cell death/proliferation in the rat liver. Mech Ageing Dev 125: 375–380
9. Iwashige K, Kouda K, Kouda M, Horiuchi K, Takahashi M, Nagano A, Tanaka T, Takeuchi H (2004) Calorie restricted diet and urinary pentosidine in patients with rheumatoid arthritis. J Physiol Anthropol Appl Human Sci 23: 19–24
10. Nakamura H, Kouda K, Tokunaga R, Takeuchi H (2004) Suppressive effects on delayed type hypersensitivity by fasting and dietary restriction in ICR mice. Toxicol Lett 46: 259–267
11. Nishio N, Tanaka H, Tsukuma H, Tokunaga R (2004) Lung cancer risk in male dentists, a retrospective cohort study in Japan. J Occup Health 46: 137–142
12. Tanaka H, Nishio N, Tokunaga R, Tsukuma H (2004) Liver cancer risk in male dentists, a retrospective cohort study in Japan. J Occup Health 46: 398–402

13. 小楠和典，中村晴信，甲田勝泰（2004）女子大学生のダイエット行動とその身体的影響．浜松大学研究論集　17: 371–375

学会発表

1. Sonoda Y (2004) Identifcation of CD34-negative SCID-repopulating cells and their stem cell characteristics. The 21st Century COE Program International Symposium “BMT and Regeneration Medicine”, Osaka
2. Sonoda Y (2004) Identifcation of a novel class of CD34-negative hematopoietic stem cells using the intra-bone marrow injection. The 21st Century Center of Excellence (COE) Program “New Strategies for Treatment of Intractable Dieseases” Satellite Smposium of the International Symposium, 15th Molecular Biology of Hematopoiesis (MBH), Awaji
3. Kaneko K, Ohkawara Y, Kimura T, Nomura K, Horiike S, Yokota S, Sonoda Y, Taniwaki M (2004) Feasibility of autologous peripheral blood stem cell transplantation in elderly patients with high risk non-Hodgkin’s lymphoma. The Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-pacific Division, Nagoya
4. Kouda K, Nakamura H, Okuda T, Higashine Y, Hisamori K, Tokunaga R (2004) Metabolic response to short-term energy restriction: first in a series on a controlled study. 7th International Congress of Physiological Anthropology, Columbus
5. Ogino T, Kouda K, Nakamura H, Sone Y (2004) Influence of intermittent feeding and fasting on diabetic states in OLETF rats. 7th International Congress of Physiological Anthropology, Columbus
6. Okuda K, Sonoda Y, Griffin JD (2004) A new model to evaluate signaling of raf in hematopoietc cells. The 46th Annual Meeting of American Society of Hematology, San Diego
7. Ogata K, Satoh C, Tachibana M, Hyodo H, Tamura H, Dan K, Kimura T, Sonoda Y, Tsuji T (2004) Identification and hematopoietic potential of CD45-negative clonal cells with very immature phenotype ($CD45^{-}CD34^{-}CD38^{-}Lin^{-}$) in patients with myelodysplastic syndromes. The 46th Annual Meeting of American Society of Hematology, San Diego
8. 木村貴文，王　剣鋒，辻　　孝，池原　進，薗田精昭（2004）SDF-1　非遊走性　SCID-repopulatingcellの同定とその幹細胞特性．第3回日本再生医療学会総会　シンポジウム，千葉
9. 河野比良夫，徳永力雄（2004）市販ハーブティーに含まれるエストロゲン活性を示す成分の検索（第2報）．第74回日本衛生学会総会，東京
10. 甲田勝康，中村晴信，竹内宏一，西尾信宏，河野比良夫，徳永力雄（2004）小学生における心血管疾患の危険因子：静岡県内の動向．第74回日本衛生学会総会，東京
11. 薗田精昭，木村貴文，王　剣鋒，辻　　孝，池原　進（2004）ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性幹細胞の同定とその幹細胞特性．文部科学省科学研究費補助金　特定領域研究 「幹細胞の可塑性と未分化性維持機構」平成 16 年度公開班会議，東京
12. 西尾信宏，甲田勝康，徳永力雄（2004）イソシアネート類感作マウスにおける短期絶食のアレルギー反応の抑制効果．第 77 回日本産業衛生学会総会，名古屋
13. 木村貴文，Mohle R，KanzL，薗田精昭（2004）免疫抑制剤FTY720による造血幹細胞のホーミング促進作用．第 6 回京都分子血液フォーラム，京都
14. 木村貴文，王　剣鋒，辻　　孝，池原　進，薗田精昭（2004）ヒト臍帯血由来SDF-1非遊走性CD34 陰性及び陽性 SCID-repopulatingcell の同定とその幹細胞特性．第 12 回近畿臍帯血幹細胞移植研究会，大阪
15. 木村貴文，王　剣鋒，辻　　孝，池原　進，薗田精昭（2004）ヒト臍帯血由来CD34陰性SCID-repopulatingcellの幹細胞特性．第66回日本血液学会総会・第 46 回日本臨床血液学会総会　プレナリーセッション，京都
16. 西尾信宏，甲田勝康，河野比良夫（2004）イソシアネート類感作マウスにおける短期絶食によるアレルギー反応の抑制．第 35 回日本職業環境アレルギー学会，福井
17. 薗田精昭（2004）ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性幹細胞の同定とその幹細胞特性．第7回造血

細胞研究会，札幌
18. 薗田精昭（2004）成体幹細胞の再生医学への応用―その可能性と将来展望―．第 42 回日本癌治療学会総会　シンポジウム，京都
19. 沖田善光，高橋　勲，高岡照海，中村晴信，甲田勝康，木村元彦，数井輝久（2004）野菜ジュース摂取後における脳波および心拍変動の変化について．日本生理人類学会第52回大会，東京
20. Ohgari Y, Sawamoto M, Kohno H, Taketani S (2004) Subunit interaction of human recombinant ferrochelatasse by co-expression. 第 77 回日本生化学会大会，横浜
21. 木村貴文，池原　進，薗田精昭（2004）骨髄腔内注入法を用いる新しい造血幹細胞移植法の開発―基礎から臨床応用まで―．第 24 回京都造血幹細胞移植研究会　ワークショップ，京都
22. 木村貴文，Mohle R，Kanz L，薗田精昭（2004）スフィンゴシン 1- リン酸受容体活性化による造血幹細胞のホーミング促進効果．第 27 回日本造血細胞移植学会総会　ワークショップ，岡山
23. 中村晴信，甲田勝康，徳永力雄，竹内宏一（2004）絶食がアレルギー性皮膚炎におよぼす炎症抑制効果．第74回日本衛生学会総会，東京
24. 中村晴信，甲田勝康，竹内宏一，徳永力雄（2004）食事制限：繰り返し短期間絶食がアレルギー性皮膚炎におよぼす影響．日本生理人類学会第51回大会，札幌

公衆衛生学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Kanda S, Tamada Y, Yoshidome A, Hayashi I, Nishiyama T. (2004) Over-expression of bHLH genes facilitate neural formation of mouse embryonic stem (ES) cells in vitro. Int J Dev Neurosci 22: 149–56
2. Nobuhara K, Okugawa G, Minami T, Takese, Yoshida T, Yagyu T, Tajika A, Sugimoto T, Tamagaki C, Ikeda K, Sawada S, Kinoshita T (2004) Effects of electroconvusive therapy on frontal white matter in Late-Life depression: A diffusion tensor lmaging study. Neuropsychobiology 50: 48–53
3. Toyoshima K, Noguchi R, Hosokawa M, Fukunaga K, Nishiyama T, Takagashi R, Miyashita K (2004) Separation of sardine oil without heating from surimi waste and its effect on lipid metabolism in rats. J Agric Food Chem 52: 2372–2375
4. Yamada K, Isotani T, Irisawa S, Yoshimura M, Tajika A, Yagyu T, Saito A, Jinoshita T (2004) EEG global field power spectrum changes after a single dose of atypical antipsychotics in healthy volunteers. Brain Topogr 16: 281–285
5. Isotani T, Yamada K, Irisawa S, Yoshimura M, Tajika A, Saito N, Yagyu T, Saito A, Kinoshita T (2004) EEG source gravity center location changed after a single dose of atypica antipsychotics in healthy volunteers. Int Congr Ser 1270: 345–347
6. Ishida T, Nishiyama T, Amano H, Sisonthorn B, Panyanouvong A, Ueda M (2004) A Method for blood examinations in overseas mobile clinics: clinical application in the rural areas of LAO PDR. Tropical Med Health 32: 241–243
7. 南　智久，延原健二，吉田常孝，奥川　学，高瀬勝教，田近亜蘭，柳生隆視，河　相吉，澤田　敏，木下利彦（2003）高齢者うつ病患者における電気けいれん療法の大脳の局所脳血流及び拡散異方性に及ぼす影響について．大阪てんかん研究会雑誌　14: 7–14
8. 林　義孝，奥田邦晴，淵岡　聡，樋口由美，伊藤健一（2003）リハビリテーション対策．関節外科　22: 1579–1585
9. 有木永子，福嶋正人，村上貴栄，柿永佳良子，砂原千穂，服部裕子，田近亜蘭，杉山祐夫，北代麻美，木下利彦（2003）精神科デイケアにおける心理教育の成長過程―治療構造論的観点から―．集団精神療法　19(2): 87–93
10. 小山敦子，保田佳苗，仁木　稔，山藤　緑，平野智子，陣内里佳子，岩上　芳，長野京子

（2003）医療・教育・福祉関係者は疲れている―ケアを供与する側のメンタルヘルス．心身医学　43: 679–688
11. 三宅眞理（2003）健康教育におけるダイバージョナルセラピーの実践．身体運動文化論攷 2: 113–127
12. 東実千代，磯田憲生，疋田洋子，宮崎竹二，竹内靖人，河合俊夫，圓藤陽子（2004）室内のフタル酸エステル濃度と健康影響に関する事例研究．家政学研究　50: 139–148
13. 飯塚　孝，古賀才博，打越　暁，安部慎治，本多瑞江，奥沢英一，氏田由可，津久井要，濱田篤郎，西川哲男，馬杉則彦（2004）海外赴任男性例における海外赴任中の生活習慣の変動について．日職災医誌　52: 119–124
14. 宮崎文子，渡部尚子，岡本喜代子，鈴井江三子，番内和枝，吉留厚子，林猪都子，中山晃志（2004）求められる受胎調節実地指導員のあり方に関する検討　家族計画指導（避妊相談等）に関するニーズ調査より．助産師　58: 59–64
15. 宮崎文子，渡部尚子，岡本喜代子，鈴井江三子，番内和枝，吉留厚子，林猪都子，中山晃志（2004）受胎調節実地指導員の意識と活動の現状分析．ペリネイタルケア　23: 918–923
16. 吉留厚子，藤内美保，江月優子（2004）わたしがわたしらしく入院中を過ごすために　入院中の患者の化粧について．看護実践の科学 29: 68–71
17. 東　朋子，中山晃志，吉留厚子，藤内美保，東佳代（2004）エタノール湿潤度と塗擦方法の違いによる消毒効果．大分看護科学研究　5: 1–7
18. 安心院登代美，穴井万亀子，杉安佐知子，安部寿美，吉留厚子，藤内美保（2004）ビデオレターを活用した試験外泊への家族指導．第3回 NPO 法人日本リハビリテーション看護学会学術大会収録　48–50
19. 吉留厚子，松井典子，小西清美，宮　文子，河野富美代（2004）乳腺炎における乳房マッサージ前後の乳房表面皮膚温度変化．母性看護（第35回日本看護学会論文集）149–151
20. 安部恭子，吉留厚子（2004）顕微鏡所見からみる母乳の意義．母性看護（第 35 回日本看護学会論文集）157–159
21. 後藤美由樹，杉本久美，佐藤祐子，安倍涼子，藤内美保，吉留厚子（2004）片麻痺患者に対するインスリン自己注射用補助具の作成．成人看護II（第35回日本看護学会論文集）252–254
22. 三宅眞理（2004）健康教育におけるダイバージョナルセラピの効果と評価．身体運動文化論攷　3: 43–46
23. 小嶋美穂子，藤田直樹，瀧野昭彦，徳田三郎（2003）滋賀県における日常食中の食品汚染物 1 日摂取量調査（1984～2001 年）．滋賀県立衛生環境センター所報　37: 55–62
24. 小嶋美穂子，藤田直樹，瀧野昭彦，徳田三郎（2003）食品汚染物質のデータベースについて．滋賀県立衛生環境センター所報　37: 103–110
25. 小嶋美穂子，中村昌文，西山利正（2004）E-CALUX assay による農薬のエストロゲン活性評価．滋賀県立衛生環境センター所報　39: 31–36
26. 小嶋美穂子，角野文彦，山川正信，辻　元宏（2004）基本健康診査成績と生活習慣病発症との関連について．滋賀県立衛生環境センター所報　39: 37–47

総　説

1. 古賀才博，濱田篤郎（2003）海外旅行に出かける前に旅行先の保健衛生医療情報の入手法．治療学　38: 243–246
2. 石田高明，林猪都子，西山利正（2004）海外渡航時の予防接種．総合臨床　53: 1839–1844
3. 石田高明，西山利正（2004）アジアでかかる寄生虫症．治療　86: 124–128
4. 西山利正，仁木　稔，石田高明（2004）便から寄生虫（卵）が出てきたときの対処．治療 86: 157–162
5. 嶋田雅暁，赤尾信明，石渡賢治，奥祐三郎，奥沢英一，竹内　勉，名和行文，西山利正，原樹，濱田篤郎，堀尾政博（2004）日常診療で役に立つ寄生虫情報システム　治療．86: 29–34
6. 石田高明，西山利正（2004）寄生虫症「新興再興感染症―SARS の教訓」．からだの科学増刊号：171–175

7. 石田高明（2004）基礎知識 Q&A―SARS のこと，どれくらい知っていますか．ナースビーンズ　5: 26–27
8. 石田高明（2004）ベトナム・シンガポールでの感染制御成功例に学ぶ．ナースビーンズ　5: 28–29
9. 古賀才博（2004）産業保健管理職としての役割．産業保健21　37: 4–6
10. 小西清美，吉留厚子，宮崎文子，神代雅晴（2004）産褥早期における桶谷式乳房マッサージが自律神経に及ぼす影響．日本助産学会誌 18: 87–93
11. 仁木　稔，北澤勇人，和田教義，竹内寛治，谷猛，中井吉英（2004）さまざまな治療薬の変遷　胃疾患の痛みと受療行動　ドクターショッピングはどうすれば止むのか．綜合臨床　53: 3078–3084

学会発表

1. 古賀才博（2004）トラベルクリニックの運営．第2回海外渡航者の健康学会　学術集会，東京
2. 古賀才博（2004）中国に展開する企業の産業保健の課題．第 14 回日本産業衛生学会　産業医・産業看護全国協議会，大阪
3. Tajika A, Nishiyama T, Ishida T, Tsukui K, Nishikawa T (2004) Mental health of Japanese workers and their families staying in foreign countries. 5th Asia Pacific Travel Health Conference, Malaysia
4. 田近亜蘭，杉山祐夫，福島正人，村上貴栄，服部裕子，柿永佳良子，有木永子，砂原千穂，北代麻美，木下利彦，西山利正（2004）デイケア中断に関与する要因の検討．第 96 回近畿精神神経学会，京都
5. 神田靖士，玉田育子，吉留厚子，林猪都子，西山利正（2004）bHLH を導入したマウス ES 細胞を用いたNeuronへの分化誘導. 第3回日本再生医療学会総会，千葉
6. 西山利正，林　栄二，神田靖士，石田高明，李権二，椋清美，シソントンヴァトン，天野博之（2004）ラオス国ビエンチャン県における僻地住民健康実相調査．第 45 回日本熱帯医学会，東京
7. 小笹裕美子，宮川眞一，仁木　稔，所昭　宏，中井吉英（2003）「痛みについてたくさん話してください」“痛み”を気兼ねなく語る場を設けたことに治療的効果があった慢性疼痛の 1 例．第36回日本心身医学会近畿地方会，京都
8. 伊藤健一，木村　穣，戸田佳孝，森本忠信，岩坂壽二，西山利正（2004）変形性膝関節症早期発見のスクリーニング項目の検討．日本総合健診医学会第32回大会，東京
9. 三宅俊宏，藤井留美，大備美紀，飯塚　孝，打越　暁，古賀才博，安部慎治，本多瑞江，奥沢英一，氏田由可，津久井要，濱田篤郎，西川哲男，馬杉則彦（2004）海外勤務者における心血管系自律神経障害の及ぼすインスリン抵抗性症候群の発症・進展に対する予防の意義．日本総合健診医学会第32回大会，東京
10. 三宅真理（2004）心の介護「ダイバージョナルセラピー：DT」について．大阪体育学会第42回大会，大阪
11. 伊藤健一，木村　穣，上田加奈子，宮内　妙，戸田佳孝，山本哲史，居原田善司，岩坂壽二，西山利正（2004）膝関節機能と BMI の関係年齢（年代）別特徴の検討．第 20 回臨床運動療法研究会，大阪
12. 古賀才博，濱田篤郎，尾崎真一，柿沼　歩，亀田高志，坂田晃一，清水隆司，高野知樹，山本　浩，西山利正（2004）企業のSARS（急性重症呼吸器症候群）対策についての全国調査．第77回日本産業衛生学会，名古屋
13. 伊藤健一，木村　穣，戸田佳孝，山本哲史，居原田善司，岩坂壽二，西山利正（2004）年齢（年代）別にみた中・高齢者の膝関節機能・運動能力とBMIの関係．第39回日本理学療法学術大会，仙台
14. 吉留厚子，松井典子，小西清美，宮崎文子，河野富美代（2004）乳腺炎における乳房マッサージ前後の乳房表面皮膚温度変化．第 35 回日本看護学会，松本
15. 安部恭子，吉留厚子（2004）顕微鏡所見からみる母乳の意義．第35回日本看護学会，松本
16. 後藤美由樹，杉本久美，佐藤祐子，安倍涼子，藤内美保，吉留厚子（2004）片麻痺患者に対するインスリン自己注射用補助具の作成．第35回日本看護学会，松本
17. 波川京子，吉留厚子，上林康子，近藤裕子，松永保子（2004）看護必要度について用語定義

についての文献検討．第 35 回日本看護学会，松本
18. 藤　昌子，林猪都子，大神純子，宮崎文子（2004）妊娠中の飲酒行動特性の検討．第45回日本母性衛生学会，東京
19. 寺川孝枝，岡部裕美，加藤元美，林猪都子（2004）妊娠中の乳頭・乳房の変化とブラジャーサイズが及ぼす影響．第 45 回日本母性衛生学会，東京
20. 浦崎康子，大神純子，林猪都子，宮崎文子（2004）出産に対する産婦の主体性と分娩施設選択条件の関係．第 45 回日本母性衛生学会，東京
21. 瀬口真奈美，林猪都子，大神純子，宮崎文子（2004）出産時分娩体位における女性の意識．第45回日本母性衛生学会，東京
22. 吉留厚子，神田靖士，林猪都子，西山利正（2004）新規結核診断用抗原の検索と血清診断への応用．第45回日本熱帯医学会，東京
23. 林猪都子，神田靖士，吉留厚子，石田高明，西山利正（2004）ヒト回虫と潰瘍性大腸炎（UC）に関する研究―ヒト回虫における mucin の局在部位―．第45回日本熱帯医学会，東京
24. 安心院登代美，穴井万亀子，杉安佐知子，安部寿美，吉留厚子，藤内美保（2004）ビデオレターを活用した試験外泊への家族指導．第3回 NPO 法人日本リハビリテーション看護学会学術大会，相模原
25. 松井典子，吉留厚子，小西清美，河野富美代，宮崎文子（2004）離乳時の乳房マッサージによる主観的症状と乳房皮膚温の変化．第1回大分県母性衛生学会，大分
26. 三苫恵子，萱島順子，小西清美，吉留厚子，河野富美代，宮崎文子（2004）授乳婦人における乳房マッサージによるリラクゼーション効果．第1回大分県母性衛生学会，大分
27. 吉留厚子，波川京子，上林康子，近藤裕子，松永保子（2004）医療機関における看護要員の配置算定方法の選択および運営での困難（第1報）．第 9 回日本看護研究学会九州地方会学術集会，熊本
28. 松永保子，波川京子，上林康子，近藤裕子，吉留厚子（2004）医療機関における看護要員の配置算定方法の選択および運営での困難（第2報）．第 9 回日本看護研究学会九州地方会学術集会，熊本
29. 眞鍋真理，神田靖士，小嶋美穂子，堀慎二郎，西山利正（2004）複数農薬共存農作物におけるエストロゲン活性エンハンス効果．日本内分泌撹乱化学物質学会第7回研究発表会，名古屋
30. 小嶋美穂子，藤田直樹，瀧野昭彦，徳田三郎（2003）滋賀県における日常食中の食品汚染物1日摂取量調査．第42回日本公衆衛生学会近畿地方会，滋賀
31. 小嶋美穂子，山川正信，角野文彦，辻元　宏（2003）健診時の血圧・肥満度からみた生活習慣病の発症リスク．第62回日本公衆衛生学会，京都
32. 小嶋美穂子，藪下尚智，西山利正，佐々木真理，福永健治，辻　元宏（2003）E-CALUX Assayによる農薬のエストロゲン活性評価．日本内分泌撹乱化学物質学会第 6 回研究発表会，仙台
33. 山本加奈子，Keo Sisaythong，黒田千加，川口伸浩，Virasack Banouvong，Bouathong Sisounthone，天野博之，西山利正（2004）ラオス国消化管寄生虫実相調査　―ルアンパバン県の小中学生における―．第9回滋賀国際医療研究会，大津
34. 上田照子，荒木由美子，西山利正（2004）介護家族による要介護高齢者に対する不適切処遇　―縦断調査から―．第 63 回日本公衆衛生学会総会，島根
35. 福永健治，吉田宗弘，佐々木真理，西山利正（2004）魚肉タンパク質の大腸癌制御作用．第58回日本栄養・食糧学会大会，5: 21–23　仙台
36. 高取　聡，北川陽子，田中之雄，西川淳一，西原　力，螺良愛郎，西山利正，堀慎二郎（2004）イソフラボン類とアルキルフェノール誘導体とのエストロゲン様作用の比較．環境ホルモン学会（正式名　日本内分泌撹乱化学物質学会）第 7 回研究発表会　要旨集　12: 192–193　名古屋

著　書

1. 石田高明，西山利正（2004）無鉤条虫症．人畜共通感染症（木村　哲，喜田　宏編）415–

418頁，医薬ジャーナル社，大阪
2. 西山利正，石田高明（2004）有鉤条虫症．人畜共通感染症（木村　哲，喜田　宏編）419–422頁，医薬ジャーナル社，大阪
3. 石田高明（2004）ウエステルマン肺吸虫症．症例からわかる臨床寄生虫学（日本臨床寄生虫学会編）150–155頁，医学図書，東京
4. 西山利正（2004）感染症と施設内対策．介護職の健康管理　今すぐできる予防と対策（車谷典男・徳永力雄編著）86–103頁，ミネルヴァ書房，京都
5. 石田高明，西山利正（2004）アニサキス症．共通感染症ハンドブック（日本農村情報システム協会編集）78–79頁，日本獣医師会，東京
6. 伊藤健一，木村　穣（2004）慢性疾患患者を対象とした院内での生活習慣病教室．理学療法 MOOK（11）健康増進と介護予防（鶴見隆正，大淵修一編）101–110頁，三輪書店，東京

法医学講座

〈研究概要〉

（1）DNA解析による新しい血液型判定法の開発の検討

Se式血液型遺伝子の判定法について，逆PCR法を応用した，未知の対立遺伝子検出にも対応できる検出法を確立した．Se 式血液型遺伝子の判定法について，温度勾配ゲル電気泳動法を応用し，ヘテロ二重鎖の生成の条件と電気泳動パターンについて検討を始め，効率的なDNA解析法が確立できた．同方法をABO式血液型に応用し，良好な結果をおさめている．さらにミトコンドリアDNA多型の解析への応用を始めている．

（2）分光光度計による尿中馬尿酸検査法の開発と飲料水中安息香酸の分析

トルエン濫用を証明する予備試験としてトルエンの代謝物である馬尿酸を指標とする簡易検査法を検討した．馬尿酸を呈色させて564 nmの吸光度を測定したところ，馬尿酸濃度に比例し，高速液体クロマトグラムでの測定結果と高い相関が得られた．本法は抽出操作などの前処理を省略でき，分析の迅速化が可能となった．馬尿酸はトルエン中毒の指標であるが，安息香酸の代謝物でもあるためトルエン非曝露者でも市販の飲料由来の馬尿酸も検出され得る．そこで飲料水（清涼飲料水11種，アルコール飲料水14種）中の安息香酸ナトリウム濃度とそれらの摂取者の尿中馬尿酸濃度を測定した．安息香酸ナトリウム含有飲料水摂取者の尿中馬尿酸濃度は非摂取者より高値で，トルエン曝露の評価の際には留意する必要があった．

（3）低温液–液抽出法およびアセトニトリル–NaCl抽出法のチアミラール分析への応用

チアミラール（バルビツール酸系誘導体麻酔薬）使用時は，呼吸抑制・循環抑制などの副作用を回避するために血液中濃度を把握する必要がある．そこで試料に親水性アセトニトリルを添加し，当講座で開発した低温液 - 液抽出法と NaCl- アセトニトリル抽出法でアセトニトリル相を水相から分離し，簡便・迅速に高速液体クロマトグラフで定量することができた．

（4）三波長紫外吸収検出高速液体クロマトグラフィーによる薬物スクリーニング法の開発

バルビツール酸系薬物とフェノチアジン系薬物を紫外吸収検出器の付いた高速液体クロマトグラフで簡便に同定するために，各薬物の220，250および300 nmの三種類の波長での吸光度の比を一覧にした検索テーブルを準備し，ベゲタミン中毒分析に応用した．検索テーブルにより薬物を同定，あるいは少なくとも種類を絞り込むことが可能となり，さらに保持時間や特異的吸収を確認することにより，簡便・迅速に薬物を同定できるようになった．このデータは同時に定量に適した波長を選択することもでき，薬物定量の精度の向上を図ることができた．

（5）検査済 Triage デバイスの検査結果の保存法の検討

乱用薬物検査キットの Triage は検査を実施した後，放置するとメンブランフィルターが紫色調に着色して出現したバンド（検査結果）が判別不能になる．検査結果保管を目的として種々の方法を検討した結果，水洗後グリセリンを滴下する方法が有効であった．

（6）脳波自動解析システムの小児を含めた脳死判定への応用

脳死判定の際の感度を上げて測定される脳波検査ではノイズの混入が問題となるが，従来から脳死患者に試行してきた脳波自動解析システムではノイズ問題を克服して脳波を定量的に解析できるため，実用性の検討を続けている．さらに，現在小児の脳死判定基準が発表されているが，この脳死判定基準でも除外されている 6 歳未満の小児についても脳波自動解析システムを導入して脳死判定の検討を行ったところ，成人同様に客観的に平坦脳波を判定することが可能であった．

（7）糖尿病マウスの血糖値に対するエタノール（EtOH）の影響

2 型糖尿病マウス（KK-Ay）と対照マウス（C57/6J）を用いて，糖や EtOH 経口投与後の血糖値の経時的変化を検討した．糖負荷試験では，両群共に血糖値は 30 分後にピークが見られ，対照マウスは 3 時間後にほぼ正常値に戻ったが，糖尿病マウスは22時間後も高値を維持していた．EtOH 負荷試験の場合，糖尿病マウスでは低濃度の EtOH 負荷でも血糖値が 180 分後にピークを示し，22時間後まで緩やかに減少した．一方，対照マウスでは，高濃度 EtOH 負荷では同様の反応を示したが，低濃度では血糖値に変化は見られなかった．糖尿病患者のアルコール摂取は少量でも問題があることが示唆された．

〈研究業績〉

原　著

1. Yoshida M, Akane A, Nishikawa M, Watabiki T, Tsuchihashi H (2004) Extraction of thiamylal in serum using hydrophilic acetonitrile with subzero-temperature and salting-out methods. Anal Chem 76: 4672–4675
2. Watabiki T, Tokiyasu T, Yoshida M, Okii Y, Yoshimura S, Akane A (2004) Comparative intralobular distribution of low Km aldehyde dehydrogenase activities in rat and guinea pig livers. Acta Histochem Cytochem 37: 281–285
3. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦（2004）脳波自動解析システム．Clin Neurosci　22: 568–569
4. 吉田　学，赤根　敦，西川眞弓，綿引利充，三谷友亮，吉村澄孝，時安太久磨，土橋　均（2004）紫外吸収検出器付き高速液体クロマトグラフによるベゲタミン成分の分析方法の検討．法医の実際と研　47: 65–71

学会発表

1. 綿引利充，赤根　敦，沖井　裕，吉村澄孝，時安太久磨，小林哲哉，三谷友亮，吉田　学（2004）アルコールは empty calories ではない（第 2 報）．第 24 回アルコール医学生物学研究会，奈良
2. 沖井　裕，赤根　敦，河本圭司，岩瀬正顕，吉田　学，吉村澄孝，時安太久磨，綿引利充（2004）脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の経時的観察．第 88 次日本法医学会総会，旭川
3. 吉田　学，赤根　敦，綿引利充，西川眞弓，三谷友亮，沖井　裕，吉村澄孝，時安太久磨，土橋　均（2004）アセトニトリル-NaCl（二相分離）抽出法を用いたペントバルビタールの分析．第88次日本法医学会総会，旭川
4. 綿引利充，赤根　敦，沖井　裕，吉村澄孝，時安太久磨，三谷友亮，吉田　学（2004）アルコールのカロリーと体重．第 88 次日本法医学会総会，旭川
5. 吉田　学，赤根　敦，三谷友亮，沖井　裕，吉村澄孝，時安太久磨，綿引利充（2004）検査した Triage デバイス保存法の検討．第 51 回日本法医学会近畿地方会，京都
6. 沖井　裕，綿引利充，吉田　学，吉村澄孝，時安太久磨，三谷友亮，小林哲哉，赤根　敦（2004）糖尿病マウスの血糖値に対するエタノールの影響．第 51 回日本法医学会近畿地方

会，京都
7. 三谷友亮，赤根 敦，小林哲哉，時安太久磨，吉村澄孝，沖井 裕，吉田 学，綿引利充（2004）温度勾配電気泳動法によるFUT2遺伝子の多型解析. 第88次日本法医学会総会，旭川
8. 松本孝一郎，三谷友亮，山入端奈津美，城尾智美，赤根 敦（2004）顔貌の形態学的特徴および人類学的計測値に及ぼす撮影距離の影響. 日本鑑識科学技術学会第10回学術集会，東京

著 書
1. 三谷友亮，赤根 敦（2004）逆PCR法によるSe式血液型分析法の検討. DNA多型 Vol. 12,（DNA多型学会編）206–209頁，東洋書店，東京
2. 三谷友亮，赤根 敦，小林哲哉，時安太久磨，吉村澄孝，沖井 裕，吉田 学，綿引利充（2004）温度勾配電気泳動法によるFUT2遺伝子のSNP解析. DNA多型 Vol. 12,（DNA多型学会編）210–213頁，東洋書店，東京
3. 綿引利充，赤根 敦，沖井 裕，吉村澄孝，時安太久磨，小林哲哉，三谷友亮，吉田 学（2004）アルコールはempty caloriesではない（第2報）. アルコールと医学生物学 Vol. 24,（アルコール医学生物学研究会）101–104頁，東洋書店，東京

内科学第一講座

〈研究概要〉

樹状細胞は生体に広く分布し，抗原特異的にT細胞を活性化，免疫応答を誘導する抗原提示細胞であり，近年免疫ネットワークを多方面から統御する細胞として注目を浴びている．樹状細胞は，自然免疫賦活剤として，抗腫瘍免疫療法の臨床試験も開始されてるが，臨床疾患における樹状細胞の側面からの免疫学的アプローチはHIV感染症等ごく限られた疾患においてのみなされており，樹状細胞と各臨床疾患との関わり，特に免疫異常を来す病態においての樹状細胞の関わりは未解明のままである．

樹状細胞は，その単離が難しいこと，生体内各組織における分布細胞密度が必ずしも高くないことなどにより，ヒトにおいては正常状態での解析も十分になされていなかった．しかしながら，我々が確立した方法により末梢血を循環する樹状細胞をそのままの状態で解析することが可能になり，これらを用いて，我々は，免疫異常を呈する難治性疾患の病態を，樹状細胞の性状と機能の面から解析することにより，これまで不明とされていた疾患の病態を把握し，さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし現在研究を行っている．

血液部門：

同種造血幹細胞移植は，血液疾患の治療のみならず他の固形癌に対する治療戦略の一つとなりうることが示されつつあり，今後ますます重要な治療法になると考えられる．同種造血幹細胞移植の中心理念はアロ抗原や腫瘍抗原に対する免疫反応による腫瘍根絶（graft-versus-tumor effect）であるが，この免疫反応は両刃の剣でありhostの組織障害性に作用し，しばしば致死的となるGVHD（graft-versus-host disease）が依然大きな問題となっている．当教室では同種造血幹細胞移植に関連して生じるこれらのダイナミックな免疫系の動態を多角的に解析することにより，graft-versus-tumor effectとGVHDの発生機序およびその相違を明らかにし，より効果的に前者を誘導し同時に後者を抑制する新しい治療戦略の開発を目的として検討を行っている．同種造血幹細胞移植を受けた造血器腫瘍患者では急性GVHD発症時にはミエロイド系樹状細胞とリンパ系樹状細胞の双方が末梢血において著しく減少していることを明らかにした．GVHD組織の免疫染色により，この減少は組織への能動的な動員によることが示された．これはドナーの樹状細胞がアロ抗原を提示することにより急性GVHDを惹起する可能性を示唆している．一方，慢性GVHD発症時には急性GVHDでみられたような末梢血樹状細胞の減少は認めなかった．しかしながら移植後慢性期にある患者では慢性GVHDの発症の有無に関わらずIFN-γおよびTNF-α産生性のエフェク

ターT 細胞の増加を認めた．これらの患者では腫瘍の再発を認めていないことより，これらのエフェクターT細胞がgraft-versus-tumor effectを担っている可能性がある．また興味深いことに慢性GVHDの発症時にはIL-4産生性のCD8+T細胞が必ず出現することが明らかとなった. すなわちこのIL-4産生性のCD8+T細胞は慢性GVHDの発症病態に深く関わっていることが示唆される.

呼吸器部門：

肺結核は高齢者のみならず，多くの若年者にも発症者が報告されており，現在最も重要視されている感染症のひとつである．結核菌に対する感染防御機構については，現在までに多くの研究がなされてきているが，当教室では抗原提示細胞として感染防御に重要である樹状細胞に焦点を当て検討を行っている．私たちはこれまで，肺結核患者では末梢血のミエロイド系樹状細胞が減少し選択的に結核組織に移行し Th1 応答を誘導していることを見いだした．また私たちは，結核と同様の肉芽腫性疾患に属するサルコイドーシスに注目し，その発症・疾患の進展の機序を，樹状細胞を含めた免疫応答のシステムの観点から解析することを試みている．サルコイドーシス患者ではミエロイド系樹状細胞のみならずリンパ系樹状細胞も末梢血において著しく減少していることを突き止めている．すなわち，同じ肉芽腫性疾患でも結核とサルコイドーシスでは樹状細胞の動態が異なることが明らかにされた.

免疫部門：

近年，自己免疫疾患の病態，治療に関して，樹状細胞の関与が注目されているが，我々の教室では，ヒト末梢血樹状細胞の亜群を同定し，原発性シェーグレン症候群において，その病態と亜群との関連を報告してきた．二次性シェーグレン症候群においての変動も検討し，罹患期間により樹状細胞の関与の仕方が変動する可能性が示唆されている.

また，多発性筋炎・皮膚筋炎は同じカテゴリーの中で論じられる疾患であるが，当教室では樹状細胞の観点から生検組織の見直しを行い，これらの疾患の異同を検討している.

〈研究業績〉

原　著

1. Ozaki Y, Son Y, Nakamura K, Takebayashi M, Nagahama M, Kagawa H, Fukuhara S (2004) Human Leukocyte antigen haplotype and autoantibodies of a famili with systemic lupus erythematosus. Mod Rheumatol 14: 241–244
2. Ota M, Amakawa R, Uehira K, Ito T, Yagi Y, Oshiro A, Date Y, Oyaizu H, Shigeki T, Ozaki Y, Yamaguchi K, Uemura Y, Yonezu S, Fukuhara S (2004) Involvement of dendritic cells in sarcoidosis. Thorax 59: 408–413
3. Ito T, Amakawa R, Inaba M, Hori T, Ota M, Nakamura K, Takebayashi M, Miyaji M, Yoshimura T, Inaba K, Fukuhara S (2004) Plasmacytoid Dendritic Cells Responses through OX40 Ligand and Type I IFN's. J Immunol 172: 4253–4259
4. Oshiro A, Otani H, Yagi Y, Fukuhara S, Chiyoko Inagaki (2004) Protease-Activated Receptor-2-Mediated Inhibition for Ca2+ Response to Lipopolysaccharide in Guinea Pig Tracheal Epithelial Cells. Am J Respir Cell Mol Biol 30: 886–892
5. Nakai K, Tajima K, Tanigawa N, Matsumoto N, Zen K, Nomura S, Fujimoto M, Kishimoto Y, Amakawa R, Sawada S, Fukuhara S (2004) Intra-arterial steroid-injection therapy for steroid-refractory acute graft-versus-host disease with the evaluation of augiography. Bone marrow transplantation 33: 1231–1233
6. Takebayashi M, Amakawa R, Tajima K, Miyaji M, Nakamura K, Ito T, Matsumoto N, Miyazaki Y, Zen K, Kishimoto Y, Fukuhara S (2004) Blood dendritic cells are decreased in acute graft-versus-host disease. Bone marrow transplantation 33: 989–996
7. Kuwana M, Nomura S, Fujimura K, Nagasawa T, Muto Y, Kurata Y, Tanaka S, Ikeda Y (2004) Effect of a single injection of humanized anti-CD154 monoclonal antibody on the platelet-specific autoimmune response in patients with immune

thrombocytopenic purpura. Blood 103: 1229–1236
8. Nomura S, Inami N, Kanazawa S (2004) The effects of Helicobacter pylori eradication on chemokine production in patients with immune thrombocytopenic purpura. Eur J Haematol 72: 304–305
9. Matsumoto N, Nomura S, Kamihata H, Kimura Y, Iwasaka T (2004) Increased level of oxidized LDL-dependent monocyte-derived microparticles in acute coronary syndrome. Thromb Haemost 91: 146–154
10. Kanazawa S, Nomura S, Muramatsu M, Yamaguch K, Fukuhara S (2004) Azithromycin and bronchiolitis obliterans. Am J Resp Crit Care Med 169: 654–655
11. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Effects of losartan and simvastatin on monocyte-derived microparticles in hypertensive patients with and without type 2 diabetes mellitus. Clin Appl Thromb/Hemost 10: 133–141
12. Shouzu A, Nomura S, Omoto S, Hayakawa T, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Effect of ticlopidine on monocyte-derived microparticles and activated platelet markers in diabetes mellitus. Clin Appl Thromb/Hemost 10: 167–173
13. Nomura S, Takahashi N, Inami N, Kajiura T, Yamada K, Nakamori H, Tsuda N (2004) Probucol and ticlopidine: effect on platelet and monocyte activation markers in hyperlipidemic patients with and without type 2 diabetes. Atherosclerosis 174: 329–335
14. Nomura S, Inami N, Iwasaka T, Yongge K (2004) Platelet activation markers, microparticles and soluble adhesion molecules are elevated in patients with arteriosclerosis obliterans: therapeutic effects by cilostazol and potentiation by dipyridamole. Platelets 15: 167–172
15. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Nishikawa M, Iwasaka T, Fukuhara S (2004) Activated platelet and oxidized LDL induce endothelial membrane vesiculation: clinical significance of endothelial cell-derived microparticles in patients with type 2 diabetes. Clin Appl Thromb/Hemost 10: 205–215
16. Nomura S, Inami N,Kanazawa S, Iwasaka T, Fukuhara S (2004) Elevation of platelet activation markers and chemokines during peripheral blood stem cell harvest with G-CSF. Stem Cells 22: 696–703
17. Nomura S (2004) Measurement of platelet microparticles by ELISA. J Thromb Haemost 2: 1847–1848
18. Inami N, Nomura S, Takahashi N, Isami Y, Nakamura E, Tsuda N, Kimura Y, Iwasaka T (2004) Correlation between platelet-derived microparticles and soluble L-selectin in patients undergoing hemodialysis. Thromb Haemost 92: 1452–1454
19. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Nishikawa M, Fukuhara S, Iwasaka T (2004) Losartan and simvastatin inhibit platelet activation in hypertensive patients. J Thromb Thromboly 18: 177–185
20. Nomura S, Fukuhara S (2004) Platelet microparticles, Platelet and Megakaryocyte volume 1: Functional Assays, Methods in Molecular Biology (edited by Jonathan M. Gibbins and Martyn P. Mahaut-Smith). Humana Press Totowa NJ 269–277
21. 横井　崇，森眞一郎，杉本博是，小宮山豊，植村芳子，谷尻　力，中井邦久，松本憲明，全勝弘，尼川龍一，岸本裕司，家子正裕，高橋伯夫，福原資郎（2004）抗リン脂質抗体を伴った脾辺縁帯 B 細胞リンパ腫．臨床血液　45: 1095–1099
22. 小柳津治樹，足立　靖，福原資郎，池原　進（2004）骨髄移植による肺気腫の治療と正常マウスへの肺気腫のトランスファー．分子呼吸器病　8: 388–391
23. 山本義尚，石井一慶，野村昌作，福原資郎（2004）イマチニブ投与中に trisomy8 が出現したCML．臨床血液　45: 164–166
24. 山本義尚，石井一慶，野村昌作，福原資郎（2004）多発性骨折にて発症した成人 T 細胞白血病リンパ腫．臨床血液　45: 547–249

総　説

1. 福原資郎（2004）特集・輸血医療の進歩と課題．輸血医療の進歩と課題．日本内科学会雑誌　73: 1–2
2. 福原資郎（2004）分子標的抗がん療法．守口

市医師会　会報　83: 167–168
3. 福原資郎（2004）【ホジキンリンパ腫　最近の進歩】ホジキンリンパ腫と樹状細胞（特集）. 血液フロンティア　14: 855–861
4. 尼川龍一（2004）樹状細胞によるT細胞応答の制御と疾患. 医学のあゆみ　211: 687–693
5. 岸本裕司（2004）特集・輸血医療の進歩と課題. 輸血後肝炎. 日本内科学会雑誌　73: 53–58
6. 森眞一郎，尼川龍一（2004）（悪性リンパ腫のすべて）個々の悪性リンパ腫の診断と治療濾胞性リンパ腫. 血液・腫瘍科　49: 531–539
7. 尾崎吉郎，永濱美紀（2004）膠原病と脳血管障害. AngiologyFrontier　3: 312–318
8. 伊藤量基，福原資郎（2004）Plasmacytoid dendritic cell のもつ T 細胞制御機構　OX40 ligand と type IIFN. 臨床免疫　42: 357–363
9. 森眞一郎，福原資郎（2004）【慢性リンパ性白血病(CLL)と類縁疾患】低悪性リンパ腫の白血病化の病態・診断・治療（解説）. 血液フロンティア　14: 731–737
10. 野村昌作（2004）広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査―その数値をどう読むか　VL. 血液凝固・線溶系検査：血小板結合IgG. 日本臨牀　62: 738–741
11. 野村昌作，木村　穣（2004）動脈硬化予防のためのスポーツ医学：血小板マイクロパーティクルと運動療法. 臨床スポーツ医学　21: 501–507
12. 野村昌作，小関　靖（2004）血栓と循環の検査法：血小板マイクロパーティクルの測定. 血栓と循環　12: 313–318
13. 野村昌作（2004）血栓症検査ガイドブック：microparticles. 血栓と循環　12: 349–352
14. 山田和雄，坂井信幸，森下竜一，野村昌作（2004）脳血管のマネジメント 2：頸動脈病変に対する治療戦略（座談会）. Nikkei Medical 10: 154–157
15. 石井一慶，野村昌作（2004）ITP（特発性血小板減少性紫斑病）～最近の進歩～：難治性ITPの取り扱いと新たな治療戦略（移植を含む）. 血液フロンティア　14: 1963–1970
16. 小関　靖，野村昌作（2004）血小板由来マイクロパーティクルの測定法－利点と問題点－. 日本血栓止血学会誌　15: 286–292

学会発表

1. Nakamura K, Zen K, Kishimoto Y, Amakawa R, Fukuhara S (2004) IL-4-producing CD8+ Tcell may be an Immunological hallmark of chronic GVHD. The Xth Congress of the International Society of Hematology, Asian-Pacificd Division, Nagoya
2. Masataka Kuwana, Yoshiyuki Kurata, Kingo Fujimura, Kouji Fujisawa, Hideo Wada, Toshirou Nagasawa, Shosaku Nomura, Tokuo Kojima, Yoshihiro Fujimura, Yasuo Ikeda (2004) Initial laboratory findings useful for predicting the diagnosis of chronic ITP: results of a multicenter prospective study. 46th ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, San Diego
3. Kinogo Fujimura, Masataka Kuwana, Yoshiyuki Kurata, Masato Imamura, Hidemi Harada, Hisato Sakamaki, Shosaku Nomura, Takashi Shimomura, Tetsurou Fujimoto, Kingo Oyashiki, Yasuo Ikeda (2004) Clinical features and effects of eradication on Helicobacter Pylori positive 207 ITP cases in Japan. 46th ASH ANNUAL MEETING AND EXPOSITION, San Diego
4. 尾崎吉郎，孫　瑛洙，竹林匡史，永濱美紀，福原資郎（2004）化膿性脊椎炎との鑑別を要した掌蹠嚢胞性関節炎の一例. 第 21 回関西免疫研究会，大阪
5. 竹林匡史，尾崎吉郎，孫　瑛洙，永濱美紀，中河いよう，澤本好克，福原資郎（2004）四肢の筋腫瘤形成を伴った若年発症の結節性多発動脈炎の一例. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会，岡山
6. 森眞一郎，植村芳子，谷尻　力，松本憲明，尼川龍一，福原資郎（2004）早期再発甲状腺MALTリンパ腫における樹状細胞分布の検討. 第 44 回日本リンパ網内系学会総会，京都
7. 森眞一郎，松本憲明，中井邦久，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）未治療濾胞性リンパ腫に対するRituximab単独および維持療法. 第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
8. 松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）再発，治療抵抗性 B 細胞性非ホジキンリンパ腫に対す

るR-ESHAP療法．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
9. 尾崎吉郎，尼川龍一（2004）炎症性疾患における末梢血樹状細胞の動態（Human Peripheral Blood Dendritic Cells in InflammatoryDiseases）．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
10. 伊藤量基（2004）ヒト樹状細胞サブセットと自然・適応免疫応答における役割．第 44 回日本リンパ網内系学会総会，京都
11. 福原資郎（2004）ホジキン氏病からの伝言．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
12. 中井邦久，神田善伸，福原資郎，坂巻　壽，岡本真一郎，小寺良尚，田野崎隆二，高橋　聡，松島孝文，熱田由子，浜島信之，笠井正晴，加藤俊一（2004）骨髄異形成症候群における同種幹細胞移植前化学療法の役割．第 27 回造血細胞移植学会，岡山
13. 横井　崇，松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全　勝浩，植村芳子，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）リツキシマブ投与後にCD20が陰性となった濾胞性リンパ腫．第 44 回日本リンパ網内系学会総会，京都
14. 谷尻　力，松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）自己末梢血幹細胞移植を施行後，肺高血圧症を認め，Pulmonary venoocclusivedisease が疑われた悪性リンパ腫．第 44 回日本リンパ網内系学会総会，京都
15. 中村謙吾，森眞一郎，松本憲明，中井邦久，全勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）Trisomy18 単独異常を認めた濾胞性リンパ腫．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
16. 杉本博是, 松下　広, 米津精文（2004）Kartagener症候群の一例．第 93 回日本結核病学会近畿地方会・第63回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪
17. 木村　卓，森眞一郎，市吉　浩，中井邦久，松本憲明，全　勝浩，尼川龍一，岸本裕司，福原資郎（2004）末梢血中EBV-DNA量増加を示した Senile EBV-associated lymphoproliferatived-isorderの1例．第82回近畿血液学地方会，京都
18. 中村謙吾，宮地理彦，孫　瑛洙，谷尻　力，横井　崇，尼川龍一，福原資郎（2004）IL-4-producing CD8+Tcellの表現系の解析．第34回日本免疫学会総会・学術集会，札幌
19. 孫　瑛洙，伊藤量基，尾崎吉郎，中村謙吾，尼川龍一，福原資郎（2004）Plasmacytoid dendritic cellにおけるprostaglandinE2の免疫学的影響について．第 34 回　日本免疫学会総会・学術集会，札幌
20. 尾本政太郎，生水　晃，西川光重，岩坂壽二，野村昌作（2004）2型糖尿病合併高血圧症における単球活性化マーカーとアディポネクチンに対するARBの効果．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
21. 生水　晃，野村昌作，尾本政太郎，早川　敬，小川善史，野村恵巳子，西川光重，岩坂壽二（2004）2型糖尿病におけるアディポネクチン・血小板活性化マーカー・可溶性接着分子へのセロトニン拮抗薬の効果．第 47 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
22. 嶋本佳子，石井一慶，野村昌作（2004）同種臍帯血移植後中枢神経再発したATL．第173回日本内科学会近畿地方会，大阪
23. 嶋本佳子，石井一慶，山本義尚，野村昌作（2004）JALSG-B-ALL+Rituxanが著効を示した子宮原発のバーキット型非ホジキンリンパ腫の一例．第81回近畿血液学地方会，大阪
24. 石井一慶，山本義尚，野村昌作，北山　等，林邦雄，麦谷安津子，藤野裕子，尾木敏也，手島博文，桂田達也，浦瀬文明，北島弘之（2004）高齢者aggressive非ホジキンリンパ腫に対するVNCOP-B療法有効性と安全性に関する検討第2報．第 66 回日本血液学会・第 46 回日本臨床血液学会合同総会，京都
25. 藤田あすか，竹林匡史，孫　瑛洙，永濱美紀，尾崎吉郎，松本憲明，所　敏子，森　泰清，福原資郎（2004）蛋白漏出性胃腸症で発症し，ヒトパルボウィルス B19 感染の関与が疑われたSLEの一例. 第175回日本内科学会近畿地方会，京都
26. 四宮敏章，福永幹彦，山本玉雄，中井吉英，尾崎吉郎（2004）原因不明の「心身症」にて心療内科に紹介されたループス膀胱炎の 1 症例．第175回日本内科学会近畿地方会，京都
27. 谷岡理恵，尾形　誠，中井邦久，田嶋健一郎，松本憲明，森眞一郎，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）AutoPBSCT 併用大量化学療法後に骨髄非破壊的同種移植を施行

した形質細胞腫．第 27 回造血細胞移植学会，岡山
28. 尾形　誠，中井邦久，田嶋健一郎，松本憲明，森眞一郎，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）AutoPBSCT 併用大量化学療法後に骨髄非破壊的同種移植を施行した多発性骨髄腫2例．第80回近畿血液学会，神戸
29. 石井一慶，嶋本佳子，野村昌作（2004）同種臍帯血移植後中枢神経再発した ATL．第 27 回日本造血幹細胞移植学会総会，岡山
30. 嶋本佳子，石井一慶，野村昌作（2004）診断・治療に難渋した形質細胞型/全身性キャッスルマン病の一例．第82回近畿血液学地方会，京都

著　書
1. 福原資郎（2004）サイトカインの病態への関与　血液疾患　Hodgkin病．別冊・医学のあゆみ　サイトカイン（宮坂信之編）285–287 頁，医歯薬出版，東京
2. 野村昌作（2004）活性化血小板の検出．血小板生物学，（池田康夫，丸山征郎編）745–750 頁，メディカルレビュー社，東京

内科学第二講座

〈研究概要〉

循環器

循環器学では，心筋虚血，心不全の病態解明についての基礎研究とともに，虚血性心疾患や不整脈の患者予後に直接還元できる臨床研究を主体としてきた．同時に新しい再生医療としての骨髄移植療法やNOGA システムの臨床応用など，今後の新しい医療と，QOL を重要視した臨床治療の確立を研究目標においている．

1. 動物実験による心筋虚血再灌流障害の研究

心臓超音波法の進歩にともない，非侵襲的局所心機能評価が可能となってきた．特に，組織ドプラ法を用いれば定量的な局所心機能評価が可能となってきている．そこで，心房細動および虚血性心疾患を対象に，組織ドプラ法による心機能評価の有用性について検討し報告してきた．また，動物実験において，心筋虚血再灌流時の心筋障害の評価において，新たな生化学的マーカーの開発とともに，局所心機能の面から検討を行うため，従来の摘出還流心モデルを，ワーキングモードで還流できるシステムを導入した．その結果，局所壁運動の評価を前述の組織ドップラーを用い評価することが可能となった．新たな心筋障害の生化学マーカーとしてアクロレインの評価を行い，心筋虚血再灌流時の新たなマーカーになることを報告した．同時に，心筋虚血再灌流時の局所心機能の回復過程を組織ドプラ法にて検討した結果，局所心機能は，生化学的指標の変化に遅れて出現することを証明し得た．このことは，臨床上の治療効果の判定においえも重要であると考えられた．今後，摘出還流心のワーキングモデルを用い，新たな薬剤，治療法による局所心機能の変化を検討し，臨床治療に応用を試みていく予定である．

2. 心臓リハビリテーション・運動療法に関する研究

心臓リハビリテーションは，EBMにもとづく心筋梗塞後の再梗塞，心不全の予防医学として確立されてきた．当科においても，健康科学センターを中心に，心筋梗塞，狭心症リハビリテーションとして，積極的な運動，食事，カウンセリングによる2次予防に取り組み，特に冠動脈再検術後の再狭窄においても良好な結果が得られ，その具体的機序を明らかにしているところである．この最狭窄の予防効果は，インスリン抵抗性，血小板機能，血管内皮機能，自律神経機能などさまざまな機序により得られ，今後，病態によりどの作用が主体であるかを解明し，より確実な再狭窄予防効果を，個々の症例に合った心臓リハビリテーションとして確立させているところである．また心不全の評価として化学受容体感受性の機能評価を交感神経機能活性として用い，心不全の評価，および心臓リハビリテーションの効果として

の有用性を報告した．この化学受容体感受性は，心不全のみならず，肥満や糖尿病においても変化が認められ，今後，生活習慣病の新たな重症度，予後の指標として研究していく予定である．運動療法に関しては，肥満，高血圧，糖尿病，高脂血症において注目されると思われる．

その他の生活習慣病治療として，肥満外来を開設し，心理的指標による分析・治療，遺伝子レベルでの解析としてアドレナリンβ3受容体多型，レプチンによる評価を行い，個々の肥満の病態を明らかにしてきた．また，高血圧運動療法においては，降圧剤の併用薬として，Ca拮抗剤，ACE阻害剤の運動時の血管作動性交感神経機能による評価を行い，ACE 阻害薬において，運動時の自律神経機能の改善を証明し，臨床面での薬剤選択基準の一つとして評価されている．運動時の血行動態，特に末梢循環動態においては，測定が困難であり今まで詳細な検討は少なかったが，今回我々はインピーダンス法を用い，自転車運動時の下肢血行動態の解析に成功した．その結果，運動強度の増加により下肢末梢循環量が変化していく過程で，有酸素運動閾値を越えてから新たな血液シフト（血流再分布）の出現の可能性が示唆され，今後我々の開発したインピーダンス法による運動時の詳細な血行動態の解明が期待される．

健康科学センターとしては，心臓リハビリテーションを中心に，高血圧，糖尿病，高脂血症，肥満症において, 運動, 栄養, 心理的介入方法を積極的に開発し, 生活習慣病治療•予防の研究を行う予定である．

3. 慢性心不全例における交感神経活動に関する研究

慢性心不全において交感神経活動の亢進は予後を左右する上で重要な指標である．交感神経活動の測定は血中noradrenaline，心拍変動スペクトラムなどが一般的であったが，我々は筋交感神経活動（MSNA）の測定方法を会得し，交感神経活動を直接的に測定している．慢性心不全例における交感神経活動の亢進に関与する因子としてはarterial baroreflex，cardiopulmonary baroreflex，metaboreflex，chemoreeflex の 4 つの圧受容体反射機能が関与していると報告されており，本施設において全て測定可能となっている．現在，これらの圧受容体反射機能と MSNA を用いて慢性心不全例における交感神経活動亢進の病態について検討している．さらに，ACE阻害薬，AngII拮抗薬などの交感神経活動に対する影響を比較検討中である．

4. 核医学を用いた冠動脈疾患における心筋灌流に関する研究

核医学を用いた心筋灌流イメージングは血管造影では評価できない心筋微小循環を非侵襲的のに評価可能である．急性心筋梗塞症に対する冠動脈血行再建術後の心筋微小循環傷害の定量的評価法を確立した. 加えて, 心筋微小循環傷害に対するverapamilの有効性を証明した. 最近開発された心電図同期SPECTを用いることにより（1）心筋梗塞後の血流–収縮乖離（Stunned myocardium）の検出,（2）再灌流後の局所心機能回復における残存心筋血流の関与を明らかにしていく．

5. 心筋微少循環の再生と評価

超音波造影剤の開発，心エコー装置の改良により，超音波造影剤を経静脈的投与することによっても心筋コントラストエコーが可能とった．経静脈心筋コントラストエコー（MCE）撮像の至適条件と臨床的意義は明らかになっていない．急性心筋梗塞慢性期に MCE を施行し，心筋微小循環障害と心機能改善・左室再構築の関連を検討中である．また，虚血性心疾患に対する骨髄細胞移植による新生血管の定量的評価をMCEを用いてを検討中であり，その結果の一部を報告した．さらに，超音波造影剤投与下に強度の超音波照射を行うとbioeffectにより毛細血管が破壊される事が明らかとなってきた．このbioeffectを利用しMCEによるdrug-delivery，cell- deliveryの基礎検討を開始している．

6. 心筋組織性状と心機能の非侵襲的評価

梗塞心筋における心筋内膜外膜側の組織性状の変化が左室形態維持に及ぼす影響は明らかにされていない．心筋 Integrated backscatter（IBS）により，心筋内膜側・外膜側の viability が個別に解析可能となっ

た．初回心筋梗塞の心筋内膜側と外膜側の IBS を記録し，その変動量と変動パターンを解析し，心筋内膜側と外膜側の IBS と左室形態との関連について検討中であり，その結果の一部を報告した．また，心外膜脂肪沈着が心機能に及ぼす影響は検討されていない．MRI，心エコー図を用いて心外膜脂肪の定量評価を行い，心外膜脂肪沈着が左室拡張能におよぼす影響を検討中である．さらに脂肪沈着群の心筋組織性状診断をIBSにて解析し*fatty heart*の概念を確立することを目的として検討を加えている．

7. 心臓カテーテル部門

循環器領域における観血的検査法および治療法に関する検討

近年の我が国における，食生活の欧米化や高齢化社会の到来は，生活習慣病を基盤とする動脈硬化疾患の増加をもたらし，循環器領域においては冠動脈硬化による狭心症，心筋梗塞，閉塞性動脈硬化症を始めとする末梢血管疾患が年々増加の傾向にある．一方，カテーテルによる冠動脈形成術（PCI）は薬物溶出性ステント（Drug Eluting Stent: DES）の登場により，その治療成績は飛躍的に向上した．しかしながら，急性心筋梗塞に対するPCI後に生じる微小循環障害は生命予後に関わる重大な合併症であり，PCI あるいは CABG によっても血行再建困難な末期冠動脈疾患に対する再生医療，年々増加する慢性腎疾患合併例に対するカテーテル検査や治療に伴う造影剤性腎炎の問題，増加する閉塞性動脈硬化症をはじめとする末梢血管疾患に対するカテーテル治療の確立など，多くの課題を抱えており．われわれは，これらの問題を克服すべく，精力的に臨床研究に取り組んでいる．

現在進行中の臨床研究

1. 急性心筋梗塞に対するPCI時の微少循環障害の予防

前処置として half dose tPA に引き続き血栓吸引療法を行った後にステント留置を行う群と直接ステント留置を行う対照群との二重盲検試験を行い，slow flowの頻度，TMP grade，遠隔期予後などの評価項目について検討を行っている．

2. 造影剤性腎炎

腎保護作用があるとされるhANPや重炭酸による造影剤性腎炎の予防効果を二重盲検試験にて検討中

3. 再生医療

カテーテルを用いた骨髄単核球細胞移植による重症狭心症例への臨床試験が進行中．

計画中の臨床研究

課題：冠動脈硬化進展の予測に関する検討

血管内音波検査により，冠動脈疾患患者の非有意狭窄（内腔狭窄 50%以下）のプラークの性状診断とその経時性状変化を観察し，動脈硬化進展予測が可能かを検討する．

方法：待機的に薬物溶出性ステント留置を行う労作性狭心症例（左室駆出率>40%）で，標的病変の近位部に非有意狭窄を有する100例を対象とする．患者登録期間は2年．PCI時に血管内超音波検査を施行し，非有意狭窄病変の性状診断を行う．脂質含量によってプラークを

1. lipid rich plaque（脂質成分の多いもの），
2. mixed plaque（lipid rich plaque，fibrous plaqueの中間型）
3. fibrous plaque（脂質成分のないもの）

に分類し，1年後のプラーク性状の変化と臨床経過を追跡調査する．

1）一次評価項目

プラーク性状の変化

1. 1年後に血管内超音波検査を再検し，プラーク性状の変化を観察する

2. 観察対象となった非有意狭窄病変に起因する心事故が生じた場合には，可能な限り血管内超音波検査を施行し，プラーク診断を行う.

2）二次評価項目

観察対象となった非有意狭窄病変に起因する心事故率をプラーク性状分類ごとに評価する.

1. 狭心症の再発
2. 心筋梗塞の発症
3. 心臓死
4. 再血行再建術（PCI，CABG）

3）サブ解析として

1. 動脈硬化進展抑制作用があると考えられている，スタチン，ARB，ACE，Ca 拮抗薬がプラーク性状の変化に与える影響
2. 糖尿病例におけるプラーク性状の変化の検討
3. 性差とプラーク性状の変化

8. 超音波を用いた心筋微少循環の再生と評価

超音波造影剤の開発，心エコー装置の改良により，超音波造影剤を経静脈的投与することによっても心筋コントラストエコーが可能とった．急性心筋梗塞慢性期にMCEを施行し，心筋微小循環障害と心機能改善・左室再構築の関連を検討中である．また，虚血性心疾患に対する骨髄細胞移植による新生血管の定量的評価をMCEを用いてを検討中であり，その結果の一部を報告した．さらに，超音波造影剤投与下に強度の低周波超音波照射を行うとbioeffectにより毛細血管が破壊される事が明らかとなってきた. このbioeffectを利用したMCEによるdrug-delivery，cell- deliveryの基礎検討を開始している．骨髄細胞移植は新たな血管・心筋再生治療法として有望であるが，このMCEによるcell-deliveryを用いると非常に効率のよい虚血・梗塞心筋への骨髄細胞移植が可能であることが明らかとなり，結果の一部を報告した．今後，安全性を含め，臨床応用に向けた基礎検討の蓄積を行っていく予定である.

9. 循環器疾患のデータベース構築

Evidence-based Medicineの普及に伴い，従来のメカニズムのみに基づく医療より，死亡など患者にとって重要な outcome を実際に減少させる事が証明された医療が重要視されてきている．そのためのデータベースとして急性心筋梗塞による死亡，致死性不整脈による死亡，心房細動に伴う血栓塞栓症の発症，Brugada 症候群の予後などの循環器疾患における重要な患者 outcome についてのデータベースを構築し，一部の結果を報告した.

10. 脳性利尿ペプチド（BNP）の臨床応用についての検討

血漿脳性利尿ペプチド（BNP）値は，心不全のマーカーとして広く臨床応用されているが，臨床所見との不一致もしばしば認められる．BNP 値の臨床応用について，その有効性と限界について各種の循環器疾患にて検討し，一部結果を報告した．また，心房性 BNP と心室性 BNP との差についても検討中である.

内分泌・代謝

内分泌・甲状腺外来，内分泌・代謝外来で，甲状腺疾患をはじめとする種々の内分泌・代謝疾患患者の診療を行うと共に，これらの臨床的ならびに基礎的研究を行っている.

1. 基礎研究分野

基礎的研究では，甲状腺ホルモン代謝酵素であるtype 1（D1）及びtype 2 iodothyronine deiodinase（D2）

の発現調節機構及び生理的意義に関する研究をしている．甲状腺から分泌されるT4は，D1及びD2により，生物学的により活性なホルモンであるT3に転換される．D1は，血中にT3を供給し，D2は，局所でのT3含量を調節する．すなわち，D2が発現する局所では，独自のT3含量の調節系が働いていることになる．

ヒト大動脈血管平滑筋細胞（HASMC）に，D2が発現することを明らかにした．HASMCは，甲状腺ホルモンの標的臓器であると考えられる．更に，HASMCのD2の発現が，platelet-derived growth factor及びbasic fibroblast growth factorなど，血管平滑筋細胞（VSMC）の増殖因子によりup-regulationされることを明らかにし報告した．動脈硬化症の重要な病変であるVSMCの増殖に，D2及び甲状腺ホルモンがどのように関与しているのか研究を進めている．重症消耗性疾患患者では，下垂体–甲状腺機能が正常であっても，血清中T3濃度はしばしば低下する．このように，血中T3濃度の低下した状態をlow T3症候群と呼ぶ．Low T3症候群の発現機序及び治療の是非に関してモデル動物を用いて研究している．

2. 臨床研究分野

悪性眼球突出症について，臨床的にステロイドパルス療法や照射療法を行うと共に，その病態を研究している．

糖尿病

1. 基礎研究分野

糖尿病分野での基礎研究としては，糖尿病性合併症の成因を明らかにすることを目的に研究をおこなっています．これまで糖尿病性合併症の進展因子としてはポリオール系代謝，C キナーゼ活性，糖化蛋白および酸化ストレスなどの関与が報告されています．現在我々は糖化蛋白の受容体のひとつであるRAGE（receptor for advanced glycation endproducts）のシグナル伝達様式の解明および，その新規リガンドであるS100関連蛋白の糖尿病性合併症への関与を，分子生物学的および発生工学的手法を用い検討しています．

2. 臨床研究分野

糖尿病は，それによる3大合併症である網膜症，神経障害，腎症のみならず，動脈硬化症の進展を基盤として，心筋梗塞，狭心症，脳卒中など，生命予後やQOLを規定する様々な病態を引き起こす危険因子の大きなものひとつです．これらを有機的に予防・治療するため当科では糖尿病専門外来，糖尿病教育を含む入院治療の連携で，きめ細かい診療を実施しています．糖尿病教室では，医師・薬剤師・看護師・栄養士・心理士がそれぞれ協力して患者さんの指導を行い糖尿病性合併症の予防と治療に力を注いでおります．合併症発症後は当科心臓・循環器や腎臓・透析グループおよび当院眼科と共にその管理治療を行っています．糖尿病治療の最近の特徴は，種々のインスリン製剤や経口血糖降下剤の開発により個々の病状に合わせた，よりオーダーメード的治療が可能となってきたことです．しかし本邦において頻度の高い2型糖尿病の治療の基本は食事療法および運動療法であり，日常診療においてはこれら生活習慣の改善ができない事による血糖コントロールの不良例も多数みられます．現在我々はこれらの血糖コントロールの不良例とその行動習慣，性格，情緒，社会的要因などの関連性について調査し，それらへの行動科学的介入法を確立してゆく予定です．

次に糖尿病性合併症の治療への新しい試みとして，糖尿病性末梢神経障害や慢性閉塞性動脈硬化症が明らかでない糖尿病性足部潰瘍へ自家末梢血単核球細胞移植治療を行ってゆく予定です．他稿にありますように，当科においてこれまで多数の下肢慢性閉塞性動脈硬化症およびビュルガー病の方へ骨髄および末梢血単核球細胞移植による血管新生治療が行われ良好な臨床成績が得られています．今後，我々は下肢の微小血管障害に由来して発症または増悪すると考えられている糖尿病性末梢神経障害や糖尿病性足部潰瘍への自家末梢血単核球細胞移植治療の有効性を検討してゆく予定です．

腎臓・高血圧

1. 基礎研究分野

1）超音波音波造影剤（マイクロバブル）による腎局所への遺伝子導入

急増する末期腎不全抑制に対し，慢性腎障害進展抑制の新規治療法が必要である．その一つとして，安全かつ繰り返し可能な腎局所への腎保護遺伝子の導入は開発意義が大きい．安全性に疑問が出現したウイルスベクターに代わって，超音波造影剤（マイクロバブル）による遺伝子導入が注目を浴びている．同法では，超音波照射を組合わすことにより局所臓器に安全な遺伝子導入が可能である．そこで，現在，我々はラット腎炎モデルに腎保護作用を有するアンジオテンシン2型受容体（AT2）や催線維化作用のあるTGF-βの細胞内シグナルを抑制するSmad7等の遺伝子導入を試みている．

2）慢性腎障害における骨髄・末梢血単核球移植による腎微小血管再生

慢性腎障害進展抑制の更なる試みとして，骨格筋でその効果がヒトにおいても明らかとなった骨髄・末梢血単核球移植をラット腎炎モデルに施行する．慢性腎障害の予後規定因子である間質線維化に対して，尿細管周囲細血管網の再生により，その進展を抑制する試みである．

2. 臨床研究分野

1）超音波音波造影剤（マイクロバブル）による腎局所血流評価

現在，腎局所とりわけ腎機能保持に重要な腎皮質血流を安全かつ簡便にベッドサイドで評価し，モニタリングし得る方法はない．私たちはすでに正常腎機能者に超音波音波造影剤を用いて，その評価法を新規に確立した．さらに機能的変化が定量的に観察できることをドパミン負荷の腎皮質血流増加描出により確認した．また，アンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）による腎皮質血流量の増加も観察した．今後，糖尿病性腎症やIgA腎症などの代表的な病的腎での血流異常状態の評価とARBなどの薬効評価の新しい検査法として確立する．

2）降圧薬併用による至適高血圧治療に関する臨床トライアル

関西医大附属3病院，関連病院，関連医院・診療所を含めた降圧治療に関する臨床トライアルを行う．一般実地臨床に即した形でアンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）+利尿剤，ARB+カルシウム拮抗薬の併用療法間での予後判定を試みる．

血液浄化

1. 臨床研究分野

維持透析患者の心血管合併症に関する研究.

・心筋シンチグラムを用いた「透析心」の発症のメカニズムおよび早期診断・重症度診断法の開発に関する研究を実施している.

・透析患者の重要な合併症に慢性閉塞性動脈硬化症（ASO）が存在する．本疾患は進行すると四肢切断に至る重篤な合併症である．残念ながら既存の治療法の臨床効果は不十分である．そこで，我々は独自に開発した自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法を開発し，透析患者のASOに対する臨床有効性の検討を実施している．

2. 基礎研究分野

腹膜中皮細胞再生に関する研究.

腹膜透析法は有効な維持透析療法として確立しているが，腹膜機能の劣化の問題で実施できる期間に限りがあるという大きな問題がある．我々はこの問題を解決する方法として，自己骨髄細胞を用いた腹膜再生法を検討している．

動脈硬化・血管再生

1. 基礎研究分野

動脈硬化発症の分子メカニズムの解明に関する研究

動脈硬化発症には，VEGF，HGFなどの血管内皮成長因子の作用が重要であるが，最近私達は炎症性サイトカインIL-1が動脈硬化巣で産生され，そのIL-1がVEGF，HGF産生を刺激し，動脈硬化の進展をもたらすことをみいだした．また，IL-1の作用発現は，PYK2などの細胞内のチロシンキナーゼ活性化が重要であることも見いだした．

2. 臨床研究分野

2001年7月よりすでに自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法を開発し，ASOに対する臨床試験を開始し，その臨床有効性を2002年LANCETに報告した．現在も症例を蓄積し，更なる有効性と安全性の確認を実施するとともに，治療適応条件因子の検索・評価をおこなっている．

さらに，虚血性心疾患を対象疾患とした自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法の臨床試験を開始し，2例に実施してその有効性と安全性を報告している．今後，多施設共同臨床試験として症例の蓄積をおこなう予定である．

〈研究業績〉

原　著

1. Akira Shouzu, Shosaku Nomura, Seitaro Omoto, Takashi Hayakawa, Mitsushige Nishikawa, Toshiji Iwasaka (2004) Effect of ticlopidine on macrocyte-derived microparticles and activated platelet markers in diabetes mellitus. Clin Appl Thrombosis/Hemostasis 10 10: 167–173
2. Saori Yasuzawa-Amano, Nagaoki Toyoda, Akimasa Maeda, Atsushi Kosaki, Yasukiyo Mori, Toshiji Iwasaka, Mitsushige Nishikawa (2004) Epression and regulation of type 2 iodothyronine deiodinase in rat aorta media. Endocrinology 145: 5638–5645
3. Kishimoto N, Mori Y, Nishiue T, Nose A, Kijima Y, Tokoro T, Yamahara H, Okigaki M, Kosaki A, Iwasaka T (2004) Ultrasound evaluatiosn of valsartan therapy for renal cortical perfusion. Hypertens Res 27: 345–349
4. Kosaki A, Hasegawa T, Kimura T, Iida K, Hitomi J, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Toyoda N, Masaki H, Inoue-Shibata M, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Increased Plasma S100A12 (EN-RAGE) Levels in Patients with Type 2 Diabetes. J Clin Endocrinol Metab 89: 5423–5428
5. Takamasa Hasegawa, Atsushi Kosaki, Tatsuji Kimura, Hiroaki Matsubara, Yasukiyo Mori, Mitsuhiko Okigaki, Hiroya Masaki, Nagaoki Toyoda, Megumi Inoue-Shibata, Yutaka Kimura, Mitsushige Nishikawa, Toshiji Iwasaka (2003) The regulation of EN-RAGE (S100A12) gene expression in human THP-1 macrophages. Atherosclerosis 171: 211–218
6. Konoshi T, Sanada M, Takehana K (2004) Myasthenic crisis after the cessation of FK506 in a patients with myasthenia gravis. J Neurol 251: 1154–1155
7. Komiyama Y, Dong XH, Nishimura N, Masaki H, Yoshika M, Masuda M, Takahashi H (2005) A novel endogenous digitalis, telocinobufagin, exhibits elevated plasma levels in patients with terminal renal failure. Clin Biochem 38: 36–45
8. Kosaki A, Hasegawa T, Kimura T, Iida K, Hitomi J, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Toyoda N, Masaki H, Inoue-Shibata M, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Increased plasma S100A12 (EN-RAGE) levels in patients with type 2 diabetes. J Clin Endocrinol Metab 89: 5423–5428
9. Masaki H, Nishikawa M (2004) Sexual dysfunction in ESRD patients. Nippon Rinsho 62: 549–552
10. Inami N, Nomura S, Takahashi N, Isami Y, Nakamura E, Tsuda N, Kimura Y, Iwasaka T (2004) Correlation between platelet-derived microparticles and soluble L-selectin in patients undergoing hemodialysis. Thromb Haemost 92: 1452–1454

11. Hisako Tsuji, Norihiro Nishino, Yutaka Kimura, Koichi Yamada, Toshiji Iwasaka, Hakuo Takahashi (2004) Haemoglobin level influences plasma brain natriuretic peptide concentration. Acta Cardiol, 59: 527–531
12. Matsumoto N, Nomura S, Kamihata H, Kimura Y, Iwasaka T (2004) Increased level of oxidized LDL-dependent monocyte-derived microparticles in acute coronary syndrome. Thromb Haemost 91: 143–154
13. Akira Shouzu, Shosaku Nomura, Seitaro Omoto, Takashi Hayakawa, Mitsushige Nishikawa, Toshiji Iwasaka (2004) Effect of ticlopidine on monocyte-derived microparicles and activated platelet markers in diabetes mellitus. Clin Appl Thrombosis 10: 167–173
14. Shosaku Nomura, Norihito Inami, Toshiji Iwasaka, Yongge Liu (2004) Platelet activation markers, microparticles and soluble adhesion molecules are elevated in patients with arteriosclerosis obliterans: therapeutic effects by cilostazol and potentiation by dipyridamole. Platelets 15: 167–172
15. Shosaku Nomura, Norihito Inami, Shegenori Kanazawa, Toshiji Iwasaka, Shirou Fukuhara (2004) Elevation of platelet activation markers and chemokines during peripheral blood stem cell harvest G-CSF. Stem Cell 22: 696–703
16. Norihito Inami, Shosaku Nomura, Nobuyuki Takahashi, Yasuhiro Isami, Eiichi Nakamura, Nobuyuki Tusda, Yutaka Kimura, Toshiji Iwasaka (2004) Correlation between platelet-derived microparticles and soluble L-selectin in patients undergoing hemodialysis. Thromb Haemost 92: 1452–1454
17. Norihito Inami, Shosaku Nomura, Hiraku Kikuchi, Takayuki Kajiura, Kohichi Yamada, Hisahito Nakamori, Nobuyuki Takahashi, Nobuyuki Tsuda, Makoto Hikosaka, Motoko Masaki, Toshiji Iwasaka (2004) P-selectin and platelet-Derived microparticles associated with monocyte activation markers in patients with pulmonary embolism. Clin Appl Thrombosis/Hemostasis 9: 309–316
18. Hiroshi Kamihata, Toshiji Iwasaka (2004) High-performance liquid chromatographic method with column-switching and post-column reaction for determination of serotonin levels in platelet-poor plasma. Clinical Biochemistry 37: 191–197
19. Keizo Minamino, Yasushi Adachi, Mitsuhiko Okigaki, Hidefumi Ito, Yoshimi Togawa, Kengo Fujita, Miniru Tomita, Yasuhiro Suzuki, Yuming Zhang, Masayoshi, Iwasaki, Keiji Nakano, Yasushi Koike, Hiroaki Matsubara, Toshiji Iwasaka, Miyo Matsumura, Susumu Ikehara (2004) Macrophage colony-stimulating factor (M-CSF), as well as granulocyte colony-stimulating factor (G-CSF) accelerates neovascularization. Stem Cell 23: 347–354
20. Hisako Tusji, Norihiro Nishino, Yutaka Kimura, Koichi Yamada, Minako Nukui, Satoshi Yamamoto, Toshiji Iwasaka, Hakuo Takahashi (2004) Haemoglobin level influences olasma brain natriuretic peptide concentration. Acta Cardiol 59: 527–531
21. Yasuo Sutani, Hiroshi Kamihata, Syuji Ueda, Yoshihiro Yamamoto, Toshiji Iwasaka (2004) Correlation of angiographic morphology immediately after coronary balloon angioplasty with coronary vasomotion late after angioplasty. Inter J Cardiol 95: 223–229
22. Nakamura H, Iwasaka T et al (2004) Desing and baseline characteristics of a study of primary prevention of coronary events with pravastatin among japanese with mildly elevated cholesterol levels. Circulation J 68: 860–867
23. 森田　寛，山本克浩，朴　幸男，佐久間孝雄，峯園浩二，酢谷保夫，神畠　宏，岩坂壽二（2004）右冠動脈起始異常に対し経皮的冠動脈形成術（PCI）を施行した 3 症例についての検討．日本心血管カテーテル治療学会誌　4: 358–364
24. 森島景子，竹花一哉，拝殿未央，山下浩司，神畠　宏，岩坂壽二（2004）Schonlein-Henoch 紫斑病を合併した拡張型心筋症の一例．大阪ハートクラブ　28: 11–15
25. 拝殿未央，前羽宏史，竹花一哉，岩坂壽二（2004）左室憩室の診断に超音波組織ドップラー法が有用であった 1 例．CirculationFrontier 8: 62–65

26. 木村　穣（2004）大学と連携した運動療法の取り組み．臨床栄養　104: 522–526
27. 馬場天信，木村　穣，佐藤　豪（2004）減量を目的とした治療的介入に有効な心理的サポートのあり方．日本臨床スポーツ医学会誌 12: 207–214
28. 田嶋佐和子，馬場　天信，木村　穣（2004）各疾患における栄養カウンセリングの実際と治療評価（3）肥満外来における栄養指導の実際―チーム医療における栄養士の役割―．栄養評価と治療　21: 366–369
29. 木村　穣（2004）運動処方とはなにか―呼気ガス分析のない施設で心臓リハビリテーションを実践するには―．Modern Physician　4: 463–466
30. 木村　穣（2004）運動療法．肥満と糖尿病　3: 262–264
31. 岩坂壽二，湯山令輔，宮坂陽子，拝殿未央（2004）急性心筋梗塞に発生する心房細動の背景と影響．ICUとCCU　28: 551–557
32. 沖垣光彦，岩坂壽二（2004）高血圧と高血圧性臓器障害．日本臨床　62: 139–143
33. 下條ひろみ，西上尚志，山本哲史，城　聡一，西澤信也，高山康夫，岩坂壽二（2004）心タンポナーゼを合併した尿毒症性心外膜炎の 1 例．J Cardiol　44: 27–31
34. 岩坂壽二，居原田善司，河村晃弘，拝殿未央，五十野剛，前羽宏史，揚　培慧，澤西高佳，秋田雄三，高田厚照（2004）診察・診断・検査についての質問15．HEART nursing　春季増刊 4月20日　24–45
35. 神畠　宏，岩坂壽二（2004）本邦における骨髄細胞による心筋再生治療．循環器科　56: 416–420
36. 岩坂壽二（2003）急性心筋梗塞の救急看護（1）早期治療で心筋梗塞は治る．ナースビーンズ 5: 10–13
37. 矢内洋次，山本哲史（2004）今月の心電図―広範囲なST上昇を伴う胸痛発作．HEARTnursing 18: 328–331

総　説

1. 西川光重（2004）ヨードの大量摂取と甲状腺機能の関係．日本医事新報　4178: 87–89
2. 西川光重（2004）甲状腺機能低下症での血清脂質・CK・肝機能検査異常．日本医事新報 4186: 90
3. 西川光重，水口　潤（2004）透析患者の性機能と妊娠をめぐって．日本透析医学会雑誌 37: 1471–1485
4. 正木浩哉，松原弘明，高橋伯夫，岩坂壽二（2004）【輸血医療の進歩と課題】細胞療法血管再生・新生療法．日本内科学会雑誌　93: 1398–1403
5. 辰巳哲也，松原弘明，高橋知三郎，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）【末梢血管疾患最近の展開】血管再生医療の現状と将来　末梢性血管から心臓病へ．循環器科　56: 77–83
6. 松原弘明，王　英正，辰巳哲也，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）【血管研究の最先端と治療への展開　血管新生・血管病態の分子メカニズムから現実となった新時代の臨床応用まで】治療への展開　細胞移植による血管再生医療　末梢性血管病から心臓病まで．実験医学　22: 1182–1187
7. 松原弘明，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）体性幹細胞移植と再生医療　末梢血管病から心臓病へ．関西医科大学雑誌　55: 155–161
8. 辰巳哲也，松原弘明，王　英正，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）【再生医療による心臓病治療の最前線　基礎と臨床】血管新生心臓　細胞移植再生医療による心臓病治療．Cardiovascular Med-Surg　6: 295–301

学会発表

1. Mori Y, Kishimoto N, Nakata M, Yamahara H, Kijima Y, Imada T, Tokoro T, Fukui M, Masaki H, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Nonviral transfer of the gene with microbubble-enhanced ultrasound in peritoneal fibrosis. ISPD/EuroPD congress, Amsterdam
2. Kosaki A, Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Hasegawa T, Inoue-Shibata M, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Increased Plasma S100A12 (EN-RAGE) Levels in Patients with Diabetic Nephropathy. 64th Scientific Sessions of American Diabetes Association, Orlando, Florida

3. Inoue-Shibata M, Kosaki A, Baba T, Kawata K, Sato S, Hasegawa T, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Personality Predictors of Glycemic Control in Patients with Type 2 Diabetes. 64th Scientific Sessions of American Diabetes Association, Orlando, Florida
4. Hasegawa T, Kosaki A, Matsubara H, Masaki H, Toyoda N, Inoue-Shibata M, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Ameliorated Diabetic Peripheral Neuropathy by Implantation of Hematopoietic Mononuclear Cells in Streptozotocin-induced Diabetic Rat. 64th Scientific Sessions of American Diabetes Association, Orlando, Florida
5. Takamasa Hasegawa, Atsushi kosaki, Hiroaki Matsubara, Hiroya Masaki, Nagaoki Toyoda, Megumi Inoue-Shibata, Mitsushige Nishikawa, Toshiji Iwasaka (2004) Ameliorated diabetic peripheral neuropathy by implantation of hematopoietic mononuclear cells in streptozocin-induced diabetic rats. The 64th American Diabetes Association, orland
6. Mori Y, Kishimoto N, Nakata M, Yamahara H, Kijima Y, Imada T, Tokoro T, Fukui M, Masaki H, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Nonviral transfer of the gene with microbubble-enhanced ultrasound in peritoneal fibrosis. ISPD/EuroPD congress, Amsterdam
7. Takanobu Imada, Hiroya Masaki (2004) PERITONEAL MEMBRANE REGENERATION BY AUTOLOGUS BONE MARROW MONONUCLEAR CELL IMPLANTAION. XLI 欧州腎臓病学会，ポルトガル
8. Takanobu Imada, Hiroya Masaki (2004) Peritoneal Mesothelial Cell Regeneration by autologus Mononuclear cells Implantation in a peritoneal dialysis Model of Rats. アメリカ腎臓病学会 , ST. Louis, USA
9. Hideki Yamahara, Yasukiyo Mori, Noriko Kishimoto, Yoko Uchiyama-Tanaka, Toshiko Tokoro, Hiroya Masaki et al (2004) Up Regulates Connective Tissue Growth Factor in Peritoneal Mesotheial cells. アメリカ腎臓病学会. ST. Louis, USA
10. Saori Amano, Nagaoki Toyoda, Toshiji Iwasaka, Mitsushige Nishikawa (2004) Adrenergic regulation of type 2 iodothyronine deiodinase in rat aorta media. 76th Annual Neeting of the American thyroid Associaton, Vancouver, BC, Canada
11. Yamahara H, Mori Y, Kishimoto N, Iwasaka T (2004) TGF-β upregulates connective tissue growth factor in peritoneal mesothelial cells: Involvement of MAP kinase pathway. Renal Week 2004, Annual meeting of American Society of Nephrology, St. Louis, USA
12. Kishimoto N, Mori Y, Nakata M, Yamahara H, Kijima Y, Imada T, Tokoro T, Fukui M, Masaki H, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Nonviral transfer of the gene with microbubble-enhanced ultrasound in peritoneal fibrosis. International society for therapeutic ultrasound, Kyoto
13. 豊田長興，石戸隆正，天野佐織，井上　恵，長谷川隆正，沖垣光彦，小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2004）糖尿病の経過中，高カルシウム血症を契機に発見された腹膜の結核性肉芽腫症の一例. 第77回日本内分泌学会学術総会，京都
14. 豊田長興，天野佐織，井上　恵，長谷川隆正，沖垣光彦，小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2004）糖尿病の経過中，高カルシウム血症を契機に発見された腹膜の結核性肉芽腫症の一例. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
15. 森田　寛，朴　幸男，神畠　宏，岩坂壽二，山本克浩，佐久間孝雄（2004）四肢急性動脈閉塞症に対する Fogarty Catheter を用いた X 線透視下血栓塞栓摘除術．第 13 回日本心血管インターベンション学会総会，名古屋
16. 森田　寛，朴　幸男，神畠　宏，岩坂壽二，山本克浩，佐久間孝雄（2004）四肢急性動脈閉塞症に対する X 線透視下血栓塞栓摘除術を中心とした治療戦略．第 52 回日本心臓病学会学術集会，京都
17. 森田　寛（2004）四肢急性動脈閉塞症の治療戦略―X 線透視下血栓塞栓摘除術を中心としたハイブリッド治療―．第 4 回日本心血管カテーテル治療学会学術集会，京都
18. 森田　寛，朴　幸男，神畠　宏，岩坂壽二，山本克浩，佐久間孝雄，河村晃弘，山下浩司（2004）各種冠動脈貫通用カテーテル，マイクロカテーテルの実験的比較．第4回日本心血管

カテーテル治療学会学術集会，京都
19. 内山葉子，森　泰清，小崎篤志，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，福井政慶，所敏子，正木浩哉，浦上昌也，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二，長原正幸（2004）血液透析患者における血漿S100A12蛋白濃度の検討．47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
20. 内山葉子，森　泰清，小崎篤志，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，福井政慶，所敏子，正木浩哉，浦上昌也，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二，長原正幸（2004）ヒト末梢血単核球由来細胞による腎尿細管再生の基礎的検討．47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
21. 内山葉子，森　泰清，小崎篤志，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，福井政慶，所敏子，正木浩哉，浦上昌也，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二，長原正幸（2004）維持血液透析（HD）患者での血中S100A12蛋白濃度の測定．第49回日本透析医学会学術総会，神戸
22. 森　泰清（2004）血液透析患者における血漿S100A12蛋白濃度の臨床的意義について．第49回日本透析医学会学術総会，神戸
23. 来島泰秋，森　泰清，所　敏子，山原英樹，岸本典子，能勢敦子，内山葉子，正木浩哉，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二（2004）感染性心内膜炎に伴った抗好中球細胞質抗体（C-ANCA）陽性の急速進行性腎炎の1例．34回日本腎臓学会西部学術集会，岡山
24. Kosaki A, Mori Y, Uchiyama-Tanaka Y, Fukui M, Kimura T, Matsubara H, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) S100A12: a potential new marker for accelerated atherosclerosis in patients with end stage renal disease. 第1回日本血管生物医学会，淡路，兵庫
25. 四馬田恵，小崎篤志，馬場天信，川田幸司，木村　穣，田嶋佐和子，長谷川隆正，豊田長興，沖垣光彦，西川光重，岩坂壽二（2004）糖尿病患者における血糖コントロールと心理特性との関連性について．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
26. 長谷川隆正，小崎篤志，松原弘明，四馬田恵，森　泰清，木村　穣，沖垣光彦，豊田長興，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2004）糖尿病モデルラットにおける末梢神経障害への骨髄・末梢血単核球細胞移植の有効性．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
27. 長谷川隆正，小崎篤志，松原弘明，四馬田恵，森　泰清，沖垣光彦，豊田長興，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2004）糖尿病モデルラットにおける末梢神経障害への骨髄・末梢血単核球細胞移植の有効性．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
28. 四馬田恵（2004）糖尿病患者における血糖コントロールと心理特性との関連性について．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
29. 正木浩哉，西川光重（2004）透析患者の続発性副甲状腺機能亢進症に対するマキサカルシトールの長期維持投与成績．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
30. 内山葉子，森　泰清，小崎篤志，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，福井政慶，所敏子，正木浩哉，岩坂壽二，西川光重，長原正幸（2004）維持血液透析（HD）患者での血中S100A12蛋白濃度の検討．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
31. 森　泰清，内山葉子，小崎篤志，福井政慶，長谷川隆正，岸本典子，山原英樹，柴崎泰延，今田崇裕，阪本憲彦，早川　敬，所　敏子，正木浩哉，西川光重，長原正幸，岩坂壽二（2004）血液透析患者における血漿S100A12蛋白濃度の臨床的意義について．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
32. 森　泰清，岸本典子，中田　緑，内山葉子，山原英樹，来島泰秋，正木浩哉，岩坂壽二，丸山弘樹（2004）ヒト末血単核球由来細胞による腎尿細管再生の基礎的検討．第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
33. Jun Minura, Fumio Yuasa, Reisuke Yuyama, Akihiro Kawamura, Masayoshi Iwasaki, Masue Yoh, Toshiji Iwasaka (2004) Effect of arterial baroreflexes on exercise capacity in patients with left ventricular dysfunction. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo
34. Akihiro Kawamura, Fumio Yuasa, Reisuke Yuyama, Jun Mimura, Masue Yoh, Toshiji Iwasaka (2004) Nonselective beta-blockade augments cardiopulmonary baroreflex control of heart rate

spectral and sympathetic nerve activity in patients with left ventricular dysfunction. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo

35. Reisuke Yuyama, Fumio Yuasa, Satoshi Yamamoto, Toshiji Iwasaka (2004) Home-based exercise training improves endothelium-dependent, flow-mediated dilation of large conduit vessels after acute myocardial infarction. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo
36. 木村　穣，山本哲史，居原田善司，妹尾　健，岩坂壽二（2004）膝関節超音波による膝変形性関節症の早期診断．第 32 回日本総合健診学会，東京
37. 秋田雄三，木村　穣，山本哲史，居原田善司，妹尾　健，岩坂壽二（2004）Evaluation of heart rate variability analysis for the patients with sleep apnea syndrome．第 69 回日本循環器学会総会，東京
38. 拝殿未央，木村　穣，山本哲史，居原田善司，妹尾　健，岩坂　壽二（2004）Evaluation of Regional Aortic Wall Compliance by Tissue Doppler．第69回日本循環器学会総会，東京
39. 正木茂美，西村美幸，永田真由美，安本マリ，上田加奈子，木村　穣，岩坂壽二（2004）糖尿病合併例における心臓リハビリテーション効果～ PCI 後の再狭窄での検討～．第 10 回日本心臓リハビリテーション学会，神奈川
40. 上田加奈子，木村　穣，居原田善司，秋田雄三，山本哲史，岩坂壽二（2004）閉塞性動脈硬化症の薬物運動併用療法の試み．第 10 回日本心臓リハビリテーション学会，神奈川
41. 西村美幸，正木茂美，永田真由美，安本マリ，上田加奈子，木村　穣，岩坂壽二（2004）心臓リハビリテーションの一環としての禁煙支援の効果的介入について―自己成長エゴグラムからの検討―．第 10 回日本心臓リハビリテーション学会，神奈川
42. 齋藤ひとみ，木村　穣，山本哲史，居原田善司，妹尾　健，岩坂壽二（2004）効果的な禁煙支援のための介入について―自己成長エゴグラムからの検討―．第 10 回日本心臓リハビリテーション学会，神奈川
43. 田嶋佐和子，木村　穣，山本哲史，居原田善司，妹尾　健，岩坂壽二（2004）アドレナリンβ3-受容体遺伝子多型が安静時代謝に及ぼす影響．第25回日本肥満学会，大阪
44. 有川愼子，木村　穣，山本哲史，居原田善司，妹尾　健，岩坂壽二（2004）IT を用いた栄養指導～生活習慣・食嗜好を考慮して～．第 25 回日本肥満学会，大阪
45. 神畠　宏，岩坂壽二，松原弘明，村松俊哉（2004）自家骨髄単核球細胞移植（BMI）による血管新生療法は冠動脈疾患に起因する低左心機能例に有効か．第 32 回日本集中治療医学会学術集会，福岡
46. 神畠　宏，木村　穣，酢谷保夫，竹花一哉，西上尚志，正木浩哉，栗原裕彦，栗本晃二，岩坂壽二，松原弘明（2004）重症狭心症に対する骨髄単核球細胞移植（BMI）を用いた血管新生療法．第32回日本集中治療医学会学術集会，福岡
47. Hiroshi Kamihata (2004) Bone Marrow-derived Mononuclear Cells Implantation (BMI) for Advanced Coroanry Artery Disease．第68回日本循環器病学会総会，東京
48. 神畠　宏，酢谷保夫，森田　寛，元廣将之，山本哲史，居原田善司，栗本晃二，京井志織，五十野剛，前波宏史，澤西高佳，秋田勇三，岩坂壽二，松原弘明，土師一夫，村松俊哉（2004）重症狭心症に対する骨髄単核球細胞移植の成績．第4回日本心血管カテーテル治療学会学術集会，京都
49. 神畠　宏，岩坂壽二，松原弘明（2004）重症狭心症に対する骨髄単核球細胞移植を用いた血管再生医療．第41回日本臨床生理学会総会，前橋
50. 山本哲史，木村　穣，岩坂壽二（2004）DP-205 急性心筋梗塞における血栓吸引と低容量血栓溶解薬の併用療法の効果―急性期での検討．第32回日本集中治療医学会学術集会，福岡
51. Saori Amano, Nagaoki Toyoda, Mitsushige Nishikawa, Toshiji Iwasaka (2004) Thyroid hormone activating enzyme is expressed in rat vascular smooth muscle cells. 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Tokyo
52. 天野佐織，豊田長興，岩坂壽二，西川光重

（2004）血管に発現する甲状腺ホルモン代謝酵素の日内リズムに関する検討．第 77 回日本内分泌学会学術総会，京都
53. 天野佐織，豊田長興，岩坂壽二，西川光重（2004）ラット培養血管平滑筋細胞の甲状腺ホルモン代謝酵素活性に及ぼす甲状腺ホルモンの影響. 第77回日本内分泌学会学術総会, 京都
54. 天野佐織，豊田長興，井上　恵，長谷川隆正，沖垣光彦，小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2004）バセドウ病を合併した抗GAD抗体陽性糖尿病患者6例の臨床経過に関する検討. 第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
55. 天野佐織，豊田長興，岩坂壽二，西川光重（2004）ラット大動脈中膜に発現する甲状腺ホルモン代謝酵素の日内リズム発現調節機構に関する検討．第47回日本甲状腺学会，群馬
56. 山原英樹，森　泰清，岸本典子，内山葉子，正木浩哉，岩坂壽二（2004）腹膜中皮細胞におけるCTGF発現～TGF-βによる刺激効果～．第49回日本透析医学会学術総会，神戸
57. 山原英樹，森　泰清，岸本典子，内山葉子，正木浩哉，岩坂壽二（2004）腹膜中皮細胞におけるCTGF発現：TGF-βによる刺激効果．第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
58. 岸本典子，森　泰清，中田　緑，丸山弘樹，山原英樹，来島泰秋，阪本憲彦，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，内山葉子，早川　敬，所敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2004）CAPD に伴う腹膜劣化に対する新規遺伝子治療法の基礎的検討．第 49 回日本透析医学会学術総会，神戸
59. 岸本典子，森　泰清，中田　緑，丸山弘樹，山原英樹，来島泰秋，阪本憲彦，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，内山葉子，早川　敬，所敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2004）慢性腎障害での腹膜線維症モデル作成と新規遺伝子治療法の基礎的検討．第 47 回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
60. 福井政慶，森　泰清，岸本典子，内山葉子，岩坂壽二（2004）慢性維持透析における十全大補湯の有用性について．第 49 回日本透析医学会学術総会，神戸
61. Maeba H, Takehana K, Nakamura S, Fukui M, Kurihara H, Iwasaka T (2004) Characteristics of Ischemic Cardiomyopathy compared with Non-ischemic Cardiomyopathy by assessment of Myocardial Perfusion and Regional Function with Electrocardiographic Gated SPECT in Patients with Severe Left Ventricular Dysfunction. 第68回日本循環器学会，東京
62. Maeba H, Takehana K, Nakamura S, Fukui M, Kurihara H, Iwasaka T (2004) Scintigraphic Assessment of Distal protection Strategy in percutaneous coronary intervention for acute myocardial infarction: Comparison with Direct Aspiration Strategy. 第68回日本循環器学会，東京
63. Imada Takanobu, Masaki Hiroya, Nozawa Yoshihisa, Yamahara Hideki, Sakamoto Norihiko, Kishimoto Noriko, Fukui Masayoshi, Hayakawa Takashi, Tokoro Toshiko, Mori Yasukiyo, Nishikawa Mithushige, Takahashi Hakuo, Iwasaka Toshiji (2004) Current Problems of Peritoneal Membrane in CAPD: Peritoneal Membrane Regeneration by Autologus Bone Marrow Mononeuclear Cells Implantation in a Peritoneal Dialysis Model of Rats. 第49回日本透析医学会学術集会
64. Imada Takanobu, Masaki Hiroya, Fukui Masayoshi, Yamahara Hideki, Mori Yasukiyo, Nishikawa Mithushige, Iwasaka Toshiji (2004) Theraputic peritoneal membrane or implantion of autologus BMMNCs in Rats Peritoneal Dialysis model. 第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
65. 岸本典子，森　泰清，山原英樹，来島泰秋，能勢敦子，内山葉子，所　敏子，正木浩哉，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二（2004）Predominant tubulointerstitialnephritis を認めた SLE 患者の一例．第 34 回日本腎臓学会西部学術集会，宇都宮
66. 福井政慶，森　泰清，岸本典子，内山葉子，今田崇裕，山原英樹，柴崎泰延，所　敏子，正木浩哉，長原正幸，西川光重，岩坂壽二（2004）慢性維持透析患者の QOL 改善における十全大補湯の有用性について．第 49 回日本透析医学会学術集会，神戸
67. Masue Yoh, Fumio Yuasa, Jun Mimura, Akihiro Kawamura, Masayoshi Iwasaki, Toshiji Iwasaka (2004) Relation between diastolic response during

dobutamine stress echocardiography and exercise capacity in patients with left ventricular dysfunction. The 68th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 東京

68. 竹花一哉（2004）虚血性心疾患の画像診断―日米のエキスパートによる実践と解説―. 第 68 回日本循環器学会　ファイァサイドカンファレンス，東京
69. 竹花一哉（2004）各種負荷薬剤による心臓核医学検査の有用性. 第4回ミッドサマー心臓核医学研究会，大阪
70. 竹花一哉（2004）重度神経疾患におけるミオMIBG の心集積に関する検討. 第 11 回 21 世紀心臓核医学セミナー，大阪
71. 木村　穣（2004）スポーツ心臓より見たスポーツの限界とトレーニング効果. 第 15 回日本臨床スポーツ医学会，大阪
72. 神畠　宏（2004）末梢動脈疾患に対する自家骨随単核球細胞移植による血管再生治療. 21st Live Demonstration in Kokura，北九州
73. 神畠　宏（2004）Bone Marrow Mononuclear Cells (BM-MNC) Implantation for the patients with Advanced Coronary Artery Disease. 第13回日本心血管インターベンション学会学術集会，名古屋
74. 山下浩司，豊田長興，山科雅央，天野佐織，井上　恵，長谷川隆正，沖垣光彦，小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2004）腫瘍性骨軟化症と考えられた一症例. 第 77 回日本内分泌学会学術総会，京都
75. 石戸隆裕，豊田長興，天野佐織，井上　恵，長谷川隆正，沖垣光彦，小崎篤志，沖　　隆，岩坂壽二，西川光重（2004）血中コルチゾール正常・ACTH 高値を呈した筋緊張性ジストロフィー症の一例. 第 77 回日本内分泌学会学術総会，京都
76. 万木孝富，豊田長興，天野佐織，井上　恵，長谷川隆正，沖垣光彦，小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2004）SubclinicalCushing 病が疑われADH不適切分泌症候群を呈した一例. 第77回日本内分泌学会学術総会，京都
77. Umemura S, Nakamura S, Sugiura T, Tsuka Y, Yoshida S, Kitamura T, Fukui M, Takehana K, Iwasaka T, Baden Y (2004) The effect of verapamil on restoration of myocardial perfusion and functional recovery in patients with angiographic no-reflow after primary PTCA. 第 68 回日本循環器学会，東京
78. Yoshida S, Nakamura S, Tsuka Y, Kitamura T, Umemura S, Fukui M, Takehana K, Sugiura T, Iwasaka T, Baden Y (2004) Factors associated with myocardial salvage immediately after primary coronary angiography. 第68回日本循環器学会，東京
79. 山下浩司，所　敏子，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，阪本憲彦，早川　敬，福井政慶，正木浩哉，森　泰清，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二（2004）難治性ネフローゼ症候群に対してLDLapheresis，シクロスポリン（CyA）併用にて急性腎不全から回復しえた 1 例. 第34回日本腎臓学会西部学術集会，宇都宮
80. 青田泰子，所　敏子，横江洋之，来島泰秋，山原英樹，岸本典子，阪本憲彦，早川　敬，正木浩哉，森　泰清，西川光重，岩坂壽二（2004）DFPP を併用した抗 GBM 抗体腎炎の一例. 第49回日本透析医学会学術集会，神戸

著　書

1. 西川光重他（2004）「第10回医学教育セミナーとワークショップ in 大阪」に参加して. 新しい医学教育の流れ―'03 医学教育セミナーとワークショップの記録―，（高橋優三，鈴木康之編）669–671 頁，全国共同利用施設岐阜大学医学部医学教育開発研究センター，岐阜
2. 西川光重他（2004）症例. 専門医資格診療実績（症例要約）モデル集，（日本透析医学会専門医認定委員会編），日本透析医学会専門医制度委員会，東京
3. 西川光重，豊田長興，天野佐織（2004）甲状腺機能低下症の定義・分類. 新しい診断と治療のABC25巻，甲状腺疾患，21–30頁，最新医学社，大阪
4. 豊田長興，天野佐織，西川光重（2004）原発性甲状腺機能低下症　レボチロキシンナトリウム. 臨床に直結する内分泌・代謝疾患治療のエビデンス，（阿部好文，西川哲男編）71–74 頁，文光堂，東京
5. 西川光重，豊田長興，天野佐織（2004）甲状

腺機能低下症の定義・分類．新しい診断と治療の ABC25 甲状腺疾患，（森　昌朋編）21–30 頁，最新医学社，大阪
6. 竹花一哉（2004）リスク評価における核医学検査：ST 上昇型心筋梗塞の予後と治療の評価．症例から学ぶACC/AHA/ASNCの心臓核医学ガイドライン，（中田智明，近森大志郎編）87 頁，メジカルセンス，東京
7. 岩坂壽二，宮坂陽子，高田厚照（2004）心電図を読む―心房肥大・負荷．Heart View，29–31 頁，メディカルビュー社
8. 神畠　宏，岩坂壽二，松原弘明（2004）自家骨随単核球細胞移植（BMI）により血管新生療法．臨床麻酔　第 28 巻　第 11 剛，2004–2011 頁，真興交易（株）医書出版部，東京
9. 神畠　宏，岩坂壽二（2004）本邦における骨随細胞による心筋再生治療．循環器科　第 56 巻　第4号，（松原弘明編）416–420 頁，科学評論社，東京

内科学第三講座

〈研究業績〉

原　著

1. Kazuichi Okazaki (2004) Multiple lymphomatous polyposis form is common but not specific for mantle cell lymphoma in the gastrointestinal tract. J Gastroenterol 39: 1023–1024
2. Matsumoto T, Miyazaki H, Nakahashi Y, Hirohara J, Seki T, Inoue K, Okazaki K (2004) Multidrug resistance 3 is in situ detected in the liver of patients with primary biliary cirrhosis, and induced in human hepatoma cells by bezafibrate. Hepatol Res Nov; 30(3): 125–136
3. Inagaki H, Nakamura T, Li C, Sugiyama T, Asaka M, Kodaira J, Iwano M, Chiba T, Okazaki K, Kato A, Ueda R, Eimoto T, Okamoto S, Sasaki N, Uemura N, Akamatsu T, Miyabayashi H, Kawamura Y, Goto H, Niwa Y, Yokoi T, Seto M, Nakamura S (2004) Gastric MALT lymphomas are divided into three groups based on responsiveness to Helicobacter Pylori eradication and detection of API2-MALT1 fusion. Am J Surg Pathol Dec; 28(12): 1560–1567
4. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Okazaki K, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid is a potent inducer of cell cycle arrest and apoptosis and inhibits growth of colo 201 human colon cancer cells. Nutr Cancer 50(1): 71–79
5. Taniguchi T, Okazaki K, Seko S, Okamoto M (2004) Association of HLA and autoantibodies against the exocrine pancreas in type 1 diabetes. Pancreas Oct; 29(3): 245–246
6. Iwano M, Okazaki K, Uchida K, Nakase H, Ohana M, Matsushima Y, Inagaki H, Chiba T (2004) Characteristics of gastric B-cell lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue type involving multiple organs. J Gastroenterol Aug; 39(8): 739–746
7. Mori S, Matsuzaki K, Yoshida K, Furukawa F, Tahashi Y, Yamagata H, Sekimoto G, Seki T, Matsui H, Nishizawa M, Fujisawa J, Okazaki K (2004) TGF-beta and HGF transmit the signals through JNK-dependent Smad2/3 phosphorylation at the linker regions. Oncogene Sep 23; 23(44): 7416–7429
8. Miwa H, Sakaki N, Sugano K, Sekine H, Higuchi K, Uemura N, Kato M, Murakami K, Kato C, Shiotani A, Ohkusa T, Takagi A, Aoyama N, Haruma K, Okazaki K, Kusugami K, Suzuki M, Joh T, Azuma T, Yanaka A, Suzuki H, Hashimoto H, Kawai T, Sugiyama T (2004) Recurrent peptic ulcers in patients following successful Helicobacter pylori eradication: a multicenter study of 4940 patients. Helicobacter Feb; 9(1): 6–19
9. Seno H, Konishi Y, Wada M, Fukui H, Okazaki K, Chiba T (2004) Improvement of collateral vessels in the vicinity of gastric cardia after endoscopic variceal ligation therapy for esophageal varices. Clin Gastroenterol Hepatol May; 2(5): 400–404

10. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kimura T, Sonomura K, Umemura S, Kishimoto N, Nose A, Tokoro T, Kijima Y, Yamahara H, Nagata T, Masaki H, Umeda Y, Okazaki K, Iwasaka T (2004) Acute tubulointerstitial nephritis associated with autoimmune-related pancreatitis. Am J Kidney Dis Mar; 43(3): e18–25
11. Fukui T, Okazaki K, Tamaki H, Kawasaki K, Matsuura M, Asada M, Nishi T, Uchida K, Iwano M, Ohana M, Hiai H, Chiba T (2004) Immunogenetic analysis of gastric MALT lymphoma-like lesions induced by Helicobacter pylori infection in neonatally thymectomized mice. Lab Invest Apr; 84(4): 485–492
12. 岡崎和一，須田耕一，川　茂幸，神澤輝実，田中滋城，西森　功，大原弘隆，伊藤鉄英，小泉　勝，大槻　眞（2004）自己免疫性膵炎の病態解明と診断基準の指針に関する研究．厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）難知性膵疾患に関する調査研究平成15年度総括・分担研究報告書：195–199
13. 岡崎和一，渡辺敏彦，川股聖二，松下光伸，西尾彰功，仲瀬裕志，千葉　勉，田畑泰彦（2004）良性腸疾患におけるデキサメサゾン含有ポリ乳酸マイクロカプセルの有用性に関する研究―ラットにおける長期投与の安全性に関する研究―．厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業　炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究　平成15年度総括・分担研究報告書：29–31
14. 廣原淳子，仲野俊成，岡崎和一（2004）原発性胆汁性肝硬変全国調査（第24報）．厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）　難治性の肝疾患に関する研究調査　平成15年度研究報告書：57–61
15. 梅原秀人，関　寿人，玉井　徹，池田耕造，井口亮輔，中島　淳，星野勝一，福島愼太郎，是枝ちづ，久保田佳嗣，岡崎和一（2004）経皮的ラジオ波焼灼治療による肝梗塞後に胆汁性胸膜炎に至った肝細胞癌の1例．肝臓　45: 366–372
16. 山本　伸，久保田佳嗣，岡崎和一（2004）原発性硬化性胆管炎に類似した胆管像を呈した胃原発印環細胞癌の1例. 臨床消化器内科　19: 1681–1684
17. 岡崎和一（2004）トピックス　自己免疫性膵炎（AutoimmunePancreatitis）．守口市医師会会報　82: 199–205

総　説

1. 岡崎和一（2004）Fitz-Hugh-Curtis症候群．MP 21: 823
2. 山本　伸，岡崎和一（2004）痛みがなく急に吐血した！肝疾患はない？．シミュレイション内科　上部消化管疾患を探る　131–133
3. 岡崎和一（2004）特集　フローチャートでみる生活習慣病診療指針1「慢性膵炎」．成人病と生活習慣病：108–109
4. 岡崎和一（2004）食道癌診断・治療の最前線「食道進行癌に対する補助療法」．モダンフィジシャン：57–59
5. 岡崎和一（2004）特集：黄疸を診る「良性閉塞性黄疸の治療の進歩―膵炎」．消化器内視鏡：69–76
6. 岡崎和一（2004）膵疾患：診断と治療の進歩　II. 慢性膵炎　3. 治療と予後．日本内科学会雑誌：45–50
7. 岡崎和一（2004）特集：内視鏡これが基本だ「上部消化管内視鏡―検査の前に」．消化管内視鏡：340–341
8. 岡崎和一，河南智晴，千葉　勉（2004）疾患2. ステロイドが効かない．シミュレイション内科「下部消化管疾患を探る」61–66
9. 岡崎和一（2004）特集・血液疾患と救急医療第I部　一般的救急医療の代表的症候と血液疾患　5. 消化管出血．血液フロンティア：545–553
10. 関　寿人，玉井　徹，池田耕造，梅原秀人，井口亮輔，岡崎和一（2004）特集：肝癌の局所治療　マイクロ波凝固療法．消化器内視鏡：595–601
11. 岡崎和一，松下光伸（2004）感染症の可能性から見たCrohn病の病態研究の現状と問題点．最新医学：1051–1057
12. 岡崎和一（2004）自己免疫性膵炎．臨床看護臨時増刊号　自己免疫性疾患のすべて：865–868
13. 岡崎和一，高御堂祥一郎，松下光伸，山本

伸，久保田佳嗣（2004）自己免疫性膵炎．日本内科学会雑誌：192–198
14. 山本　伸，岡崎和一（2004）内視鏡の読み方 食道血管腫の1例. 臨床消化器内科：1433–1435
15. 岡崎和一（2004）慢性膵炎の成因と臨床像．消化器の臨床：466–471
16. 山本　伸，田橋賢也，古川富紀子，福島愼太郎，森　茂生，岡崎和一（2004）続発性アミロイドーシスの十二指腸内視鏡像．臨床消化器内科：1549–1552
17. 岡崎和一（2004）女性内科疾患　外来プライマリ・ケア　V．消化器（系）の疾患　膵炎．産科と婦人科：1682–1690
18. 是枝ちづ，水野孝子，関　寿人，岡崎和一（2004）総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比（BTR）．日本臨床62巻増刊号11　広範囲血液・尿化学検査　免疫学的検査―その数値をどう読むか―［第6版］：571–574
19. 岡崎和一（2004）自己免疫性膵炎の内科的治療．先端医療シリーズ 25　肝・胆・膵疾患 肝・胆・膵疾患の最新医療
20. 岡崎和一（2004）腹痛はどうして起こるの？―腹痛のオリエンテーション―．臨床研修プラクティス：6–11
21. 岡崎和一，高御堂祥一郎，池浦　司（2004）アルコールと胆膵疾患．成人病と生活習慣病：1441–1445

学会発表

1. Koichi Matsuzaki (2004) Acceleration of Smad2 and Smad3 Phosphorylation via JNK-Pathway in Human Colorectal Adenoma-Carcinoma Sequence. Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System, Osaka
2. Kazuichi Okazaki (2004) Immunological analysis of autoimmune pancreatitis. 第 11 回国際膵臓学会，仙台
3. Shoichiroh Takamido, Yosky Kataoka, Yilong Cui, Akihide Tanano, Yoshitsugu Kubota, Kazuichi Okazaki, Hisao Yamada (2004) Intrapancreatic axonal branching of afferent nerve fibers in a rat model for chronic pancreatitis. 第 11 回国際膵臓学会，仙台
4. 岡崎和一（2004）胃のMALTリンパ腫の病態と最近の話題．第 15 回日本消化器内視鏡学会東北支部セミナー，秋田
5. 岡崎和一（2004）特別講演「自己免疫性膵炎の概念と病態」．第38回東北膵臓研究会，仙台
6. 岡崎和一（2004）慢性膵炎の病態と治療．第1回平成 16 年度日本内科学会生涯教育講演会 A セッション，大阪
7. 岡崎和一（2004）自己免疫性膵炎の概念と病態．第 14 回日本消化器病学会近畿支部教育講演会，大阪
8. 岡崎和一（2004）特別講演「慢性膵炎の最近の話題―自己免疫性膵炎をめぐって―」．第54回東海胆道研究会，名古屋
9. 関　寿人（2004）原発性胆汁性肝硬変について．原発性胆汁性肝硬変医療相談会（西宮市保健所），大阪
10. 岡崎和一（2004）特別講演「自己免疫性膵炎の概念と病態」．第 120 回関西医科大学学術集談会，大阪
11. 山本　伸，田橋賢也，岡崎和一（2004）シンポジウム「消化器内視鏡における偶発症・合併症とその対策」追加発表― 2．大口径ソフトキャップを用いた内視鏡的胃粘膜切除術（EMRC）の有用性と偶発症対策．第72回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，奈良
12. 古川富紀子，山本　伸，田橋賢也，森　茂生，中山新士，川村梨那子，山口隆志，佐藤行永，栗島亜希子，仲野俊成，河島祥彦，久保田佳嗣，岡崎和一（2004）ポリペクトミー後に粘膜下血腫が生じた一例．第 72 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，奈良
13. 久保田佳嗣（2004）新JFスコープ評価報告．第21回消化器内視鏡推進連絡会総会，京都
14. 是枝ちづ，村田美樹，梅原秀人，池田耕造，玉井　徹，水野孝子，関　寿人，岡崎和一，河相吉（2004）代償性肝硬変患者の特殊アミノ酸製剤を用いたLata Evening Snack（LES）の有用性．第40回日本肝臓学会総会，千葉
15. 松下光伸，高橋　博，岡崎和一（2004）潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセットの解析．第 41 回日本消化器免疫学会総会，大津
16. 吉田勝紀，松崎恒一，古川富紀子，田橋賢也，森　茂生，山縣英生，関　寿人，岡崎和一

（2004）急性肝障害時の活性化星細胞におけるSmadシグナル伝達の解析．第41回日本臨床分子医学会学術集会，福岡

17. 松下光伸，岡崎和一（2004）潰瘍性大腸炎患者の虫垂リンパ球サブセットの研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成16年度第1回総会，東京
18. 是枝ちづ，村田美樹，梅原秀人，池田耕造，水野孝子，関　寿人，岡崎和一，河　相吉（2004）代償性肝硬変治療としてのLate EveningSnack（LES）の意義．第11回日本門脈圧亢進症学会総会，東京
19. 廣原淳子，大西三朗，戸田剛太郎（2004）全国調査にみる症候性原発性胆汁性肝硬変（s-PBC）の長期経過．第 8 回日本肝臓学会大会，福岡
20. 松下光伸，高鍬　博，岡崎和一（2004）潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセットの解析．第16回大腸肛門疾患懇話会，京都
21. 宮崎浩彰，池田耕造，西蔭美鶴，藤井あつこ，村上里香，古賀真弓，竹中てるこ，北村　臣，関　寿人，岡崎和一（2004）肝細胞癌の内科的治療において複数のクリニカルパスを使用することの有用性に関する検討．第5回日本クリニカルパス学会学術集会，仙台
22. 松下光伸（2004）潰瘍性大腸炎患者の虫垂リンパ球サブセットの検討．第1回日本炎症性腸疾患研究会学術集会，東京
23. 梅原秀人（2004）PRFA後の胆管障害について―PRFA後に胆汁性胸膜炎に至った1例を中心に―．第5回大阪内科疾患談話会，大阪
24. 梅原秀人，関　寿人，玉井　徹，池田耕造，井口亮輔，福島愼太郎，是枝ちづ，岡崎和一（2004）灌流型マイクロ波電極による組織凝固の基礎的検討―ラジオ波焼灼との比較―．第40回日本肝臓学会総会，千葉
25. 梅原秀人，関　寿人，玉井　徹，池田耕造，井口亮輔，高橋　悠，坂尾将幸，福島愼太郎，是枝ちづ，岡崎和一（2004）灌流型マイクロ波電極による組織凝固の基礎的検討―ラジオ波焼灼との比較―．第23回Microwave Surgery研究会，大阪
26. 村田美樹，是枝ちづ，池田耕造，玉井　徹，梅原秀人，佐藤行永，栗島亜希子，関　寿人，岡崎和一，海堀昌樹，上山泰男，坂井田紀子，植村芳子（2004）造影超音波を行った若年者肝癌の1症例．第10回関西超音波造影剤研究会，大阪
27. 坂口雄沢，草深公秀，岡崎和一，池原　進（2004）膵障害モデルマウスにおける再生及び線維化の経時的解析．第49回日本唾液腺学会，東京
28. 中山新士，久保田佳嗣，山本　伸，島谷昌明，今井義仁，梅原秀人，村田美樹，井口亮輔，中島　淳，楠田武生，川村梨那子，山口隆志，佐藤行永，栗島亜希子，水野孝子，岡崎和一（2004）内視鏡的膵管ドレナージが有効であった膵性胸水の一例．第 72 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，奈良
29. 山口隆志，宮崎浩彰，星野勝一，梅原秀人，池田耕造，玉井　徹，福島愼太郎，是枝ちづ，関寿人，岡崎和一（2004）肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波凝固療法（PRFA）後に生じた横隔膜ヘルニアによる絞扼性イレウスの一例．第5回関西肝癌局所療法研究会，大阪
30. 坂尾将幸，古川富紀子，川村梨那子，中山新士，今井義仁，宮崎浩彰，山本　伸，渡辺敏彦，久保田佳嗣，岡崎和一（2004）術前診断が困難であった自己免疫性膵炎の1例．第173回日本内科学会近畿地方会，大阪
31. 山口隆志，宮崎浩彰，星野勝一，梅原秀人，池田耕造，玉井　徹，福島愼太郎，是枝ちづ，関寿人，岡崎和一（2004）肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波凝固療法（PRFA）後に生じた横隔膜ヘルニアひよる絞扼性イレウスの一例．第40回日本肝癌研究会，筑波
32. 徳原満雄，門田洋一，宮崎浩彰，福島愼太郎，中橋佳嗣，梅原秀人，池田耕造，松本隆之，関寿人，岡崎和一（2004）重篤な肝障害を主とした薬剤性過敏症症候群の2症例．第174回日本内科学会近畿地方会，大阪
33. 波柴尉充，福島愼太郎，宮崎浩彰，松本隆之，今井義仁，古川富紀子，山本　伸，廣原淳子，久保田佳嗣，岡崎和一（2004）広範な門脈血栓をともなった急性膵炎の1例．第175回日本内科学会近畿地方会，京都

著　書

1. 久保田佳嗣（2004）ESTとEPBDの基本と工夫．胆膵内視鏡治療の基本手技―困難例への対応とこつ―，（岡崎和一編）81–86 頁，診断と治療社，東京
2. 岡崎和一（2004）炎症性腸疾患の治療―最近の進歩―クローン病の内科的治療「活動期の薬物療法（免疫抑制剤）」．消化器病セミナー94，77–83頁，へるす出版，東京
3. 関　寿人，玉井　徹，池田耕造，梅原秀人，井口亮輔，岡崎和一（2004）経皮的エタノール注入療法（PEIT）．消化器疾患のインターベンション―1「肝疾患のインターベンション治療」，（藤田直孝編）21–29頁，MEDICALVIEW
4. 岡崎和一（2004）自己免疫性膵炎．消化器病診療「良きインフォームド・コンセントに向けて」，（監修：財団法人日本消化器病学会編集：「消化器病診療」編集員会）245–246頁
5. 岡崎和一（2004）治療薬剤；PPI．消化器病セミナー95　消化性潰瘍―最新の治療，（浅香正博編）145–153頁，へるす出版，東京
6. 岡崎和一，山本　伸，田橋賢也（2004）胃リンパ腫と MALToma．腫瘍内視鏡学，（長廻紘，大井　至，坂本長逸，星原芳雄編）95–99頁，医学書院，東京

心療内科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Kanbara, K, Mitani, Y, Fukunaga, M, Ishino, S, Takebayashi, N, Nakai, Y (2004) Paradoxical Results of Psychophysiological Stress Profile in Functional Somatic Syndrome: Correlation Between Subjective Tension Score and Objective Stress Response. Appl Psychophysiol Biofeedback 29: 255–268
2. Kengo Yoshii, Seizaburo Arita, Mikihiko Fukunaga, Yoshihide Nakai (2004) Biomedical Soft Computing and Human Science 10: 1–7
3. 小笹裕美子，北村香奈，石野振一郎，福永幹彦，中井吉英（2004）各診療科での抗不安薬治療の実際―症例呈示―. Modern Physician 24-6: 1063–1065
4. 三谷有子，佐久間春夫，福永幹彦，中井吉英（2004）ヘルスプロモーションにおけるWalkingのあり方について―自己爽快ペースによる検討．Japanese Journal of psychosomatic medicine 44(8): 595–602
5. 三谷有子，神原憲治，福永幹彦，竹林直紀，石野振一郎，中井吉英（2004）心療内科における Stretch and Active Biofeedback の効果．Japanese Journal of psychosomatic medicine in print. in print
6. 町田英世，中井吉英（2004）慢性疼痛における Milnacipran の使用と有効性の検討．心身医学　44: 755–762
7. 西田愼二（2004）心療内科領域の疾患と漢方治療（上）．漢方研究　11: 8–16
8. 西田愼二（2004）心療内科領域の疾患と漢方治療（下）．漢方研究　12: 26–31
9. 神原憲治，四宮敏章，三谷有子，福永幹彦，石野振一郎，中井吉英（2004）Functional Gastrointestinal Disorder と Functional Somatic Syndrome における Psychophysiological Stress Response．消心身医　11: 47–55
10. 西田愼二，西本　隆，保田佳苗，小山敦子（2004）自閉症児の衝動性に桃核承気湯と甘麦大棗湯が有効であった1例．日本東洋心身医学研究　18: 45–47

総　説

1. 中井吉英，福永幹彦（2004）ミドルエイジクライシス―中高年男性の心身の諸問題．綜合臨床　53: 437–441
2. 中井吉英，福永幹彦（2004）Aging Maleの心身医学．Urology View　1: 23–29
3. 中井吉英（2004）慢性膵炎の研究を通して―身体的に重篤なほど心理的に重篤である―」．心身医学　44: 225–230
4. 中井吉英，福永幹彦，竹林直紀（2004）全人的医療における身の意義．日本心療内科学会

誌　8: 95–98
5. 中井吉英（2004）慢性疼痛．今月の治療　12: 87–89
6. 中井吉英（2004）男性更年期障害は存在するか．日本医師会雑誌　132: 224–228
7. 中井吉英，北村香奈（2004）慢性疼痛．レジデントノート　6: 1092–1095
8. 町田英世，中井吉英（2004）慢性疼痛症における milnacipran の使用と有用性の検討．心身医学　44: 756–762
9. 福永幹彦（2004）アートを科学したい．消化器心身　11: 1–5
10. 町田英世（2004）医師のストレス管理―ストレスは管理できない．大阪保険医雑誌　446: 20–23
11. 四宮敏章（2004）これだけは知っておきたいうつ病診断の知識―老年期とうつ病―．医薬ジャーナル社　75–85
12. 神原憲治，福永幹彦，中井吉英（2004）機能性胃腸症～病態と薬物治療～．Medicament News　1808: 16–17
13. 西山利正，仁木　稔，石田高明（2004）便から寄生虫（卵）が出てきたときの対処．治療 86: 157–162
14. 仁木　稔，北澤勇人，和田教義，竹内寛治，谷猛，中井吉英（2004）さまざまな治療薬の変遷　胃疾患の痛みと受療行動　ドクターショッピングはどうすれば止むのか．綜合臨床　53: 3078–3084

学会発表

1. Fukunga M, Nakai Y, (2004) Lay conceptions of illness and disease in Japan and Australia. The 11th congress of the Asian college of psychosomatic medicine, Okinawa
2. Shinji Nishida, Kanae Yasuda, Rikako Jinnai, Tomoko Hirano, Atsuko Koyama (2004) A Case of Severe Irritable Bowel Syndrome and Biliary Dyskinesia Treated by Psychosomatic Therapy. 11th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, Okinawa
3. Tajika A, Nishiyama T, Ishida T, Tsukui K, Nishikawa T (2004) Mental health of Japanese workers and their families staying in foreign countries. 5th Asia Pacific Travel Health Conference, Malaysia
4. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2004）Cognitive-emotional-behavioral characteristics of adults with bronchial asthma．第4回世界行動療法認知療法会議，神戸
5. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2004）The relationship between patients understandings of their symptoms and changes of their characteristics through treatments; A prospective study．第 11 回アジア心身医学会，沖縄
6. 小笹裕美子，村松知子，村上典子（2004）The significance of Consultation-Liaison Service by Psychosomatic Internal Medicine in Kobe Red Cross Hospital. 第11回アジア心身医学会，沖縄
7. Kenji Kanbara, Yuko Mitani, Mikihiko Fukunaga, Naoki Takebayashi, Yoshihide Nakai (2004) Correlation Between Subjective Tension Score and Objective Stress Response in Patients with Functional Somatic Syndrome. World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004 (WCBCT2004)，神戸
8. 福永幹彦，中井吉英（2004）心身相関と心理臨床．45回　心身医学会総会，北九州
9. 福永幹彦，四宮敏章，石野振一郎，山本玉雄，中井吉英（2004）外来実習における患者自身の病態認知（Illness）への興味の喚起．保険医療行動科学会，東京
10. 福永幹彦，四宮敏章，石野振一郎，山本玉雄，中井吉英（2004）外来実習における患者自身の病態認知（Illness）への興味の喚起．医学教育学会，高知
11. 町田英世，生野照子，中井吉英（2004）摂食障害の連携治療への取り組み（第2報）―摂食障害フェスティバルにてのアンケートからの考察―．第44回日本心身医学会総会，北九州
12. 町田英世，生野照子，浅野浩子（2004）家族心理教育「摂食障害の連携的治療―摂食障害ネットワークの活動を通して―」．第12回日本精神障害者リハビリテーション学会，前橋
13. 西田慎二，保田佳苗，小山敦子，平野智子，陣内里佳子，町田英世，中井吉英（2004）心療内科を受診する歯科治療後の慢性疼痛患者に対する治療．第 8 回日本心療内科学会学術集

会，別府
14. 西田愼二，西本　隆（2004）自閉症児の精神的不安定に漢方薬が有効であった一例．第 40 回日本東洋心身医学研究会，東京
15. 西田愼二，保田佳苗，陣内里佳子，平野智子，小山敦子，中井吉英（2004）心療内科外来における漢方薬の使用についての検討．第 45 回日本心身医学会総会，北九州
16. 西田愼二，小山敦子，保田佳苗，平野智子，陣内里佳子，中井吉英（2004）心療内科的治療により著明に改善した重症過敏性腸症候群の 1 例．第174回内科学会近畿地方会，大阪
17. 西田愼二，町田英世，西本　隆（2004）加味逍遙散が有効であった男性患者について．平成16年度日本東洋医学会関西支部例会，神戸
18. 中井吉英（2004）教育シンポジウム「男性更年期障害―男性更年期の心と身体」．日本更年期学会，広島
19. 中井吉英（2004）教育講演「全人的医療における身の意義」．第 8 回日本心療内科学会学術大会，大分
20. 中井吉英（2004）シンポジウム「心身医学が進むべき方向」―全人的医療学の臨床・教育・研究を通して―．第45回日本心身医学会総会，北九州
21. 村上典子，村松知子（2004）心療内科における「グリーフケア」の視点の重要性（シンポジウム関連ワークショップ）．第45回日本心身医学会総会，福岡
22. 六浦裕美，佐藤純香，深尾篤嗣，中井吉英（2004）心療内科医師が患者の話を聴くことの意味―「共感的に理解してもらえた」と感じることの重要性．第45回日本心身医学会総会，小倉
23. 六浦裕美，佐藤純香，深尾篤嗣，中井吉英（2004）統合医療の実践―嘔吐発作の症例を通して―．第4回日本統合医療学会，札幌
24. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2004）患者は何を望んでいるのか？―患者の期待と受療行動の調査および心理テストを用いた解釈―．第8回日本心療内科学会，大分
25. 水野泰行，中井吉英（2004）患者にとって「よくなる」とはどういうことか　―パニック障害患者の一例を通して―．第 37 回日本心身医学会近畿地方会，滋賀
26. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2004）心身症患者群における，慢性疼痛性障害患者の心理特性の位置づけ．第33回日本慢性疼痛学会，東京
27. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2004）各心身症に特徴的な心理特性はあるのか―心療内科初診患者の心理テストの検討―．第 45 回日本心身医学会総会，福岡
28. 水野泰行，中井吉英（2004）不安が関連したと考えられる呼吸困難患者に対する治療の工夫と問題点．第 38 回日本心身医学会近畿地方会，京都
29. 水野泰行，橋爪　誠，福永幹彦，中井吉英（2004）“喘息パニックの悪循環”における認知・行動の研究．第174回日本内科学会近畿地方会，大阪
30. 水野泰行，橋爪　誠，福永幹彦，中井吉英（2004）認知療法により受診回数が激減した気管支喘息の一例．第174回日本内科学会近畿地方会，大阪
31. 水野泰行（2004）自我強化法により短期間で改善した反復性疼痛の 1 例．第6回日本臨床催眠学会，熊本
32. 神原憲治，三谷有子，竹林直紀，福永幹彦，中井吉英（2004）心身症患者における Psychophysiological StressProfile．第 32 回日本バイオフィードバック学会総会，岡山
33. 神原憲治，三谷有子，福永幹彦，竹林直紀，中井吉英（2004）心身症における Psychophysiological and Subjective StressProfile（PSSP）．第45回日本心身医学会総会，北九州
34. 神原憲治，四宮敏章，福永幹彦，石野振一郎，中井吉英（2004）Functional Gastrointestinal Disorder における Psychophysiological Stress Profile についての検討．第 63 回消化器心身医学研究会，福岡
35. 四宮敏章（2004）心療内科を受診した「炎症性腸疾患患者」の特徴について―関西医科大学心療内科初診患者の調査から―．心療内科学会総会，大分
36. 四宮敏章（2004）心療内科を受診した「炎症性腸疾患患者」の特徴について．心身医学会九州地方会，鹿児島

37. 四宮敏章（2004）森田療法的アプローチにて症状改善を得た難治性気管支喘息の一例．心身医学会総会，福岡
38. 四宮敏章（2004）原因不明の「心身症」にて心療内科に紹介されたループス膀胱炎の一症例．内科学会近畿地方会，大阪
39. 所　昭宏，中井吉英（2004）がん患者の QOL を高めるための心身医療の実践～呼吸器腫瘍領域での取り組み～．第8回日本心療内科学会学術大会，大分
40. 所　昭宏，中井吉英（2004）肺癌患者への緩和ケア～精神腫瘍学の立場より～．第 37 回日本心身医学会近畿地方会，大津
41. 所　昭宏，鈴木真優美，湯峯克也，竹内広史，木村　剛，清水俊樹，中　宣敬，沖塩協一，川口知哉，安宅信二，小河原光正，高田　實，河原正明（2004）肺癌患者への緩和ケア～精神腫瘍学の立場より～．第 79 回日本肺癌学会関西支部会，大阪
42. 所　昭宏（2004）がん患者の QOL 向上のための心身医療の実践　サイコオンコロジー入門．第91回日本保健行動医療学会近畿支部会，西宮
43. 所　昭宏，鈴木真優美，湯峯克也，竹内広史，木村　剛，清水俊樹，中　宣敬，沖塩協一，川口知哉，安宅信二，小河原光正，高田　實，河原正明（2004）当院に於ける外来化学療法の現状．第44回日本呼吸器病学会，東京
44. 所　昭宏，中井吉英（2004）各医療施設における緩和ケアの現状と展望　シンポジウム呼吸器疾患専門施設における緩和ケア．第 17 回日本サイコオンコロジー学会，福岡
45. 所　昭宏（2004）肺癌患者さんへのこころのケア―精神腫瘍学の立場より．第 69 回大阪から肺癌をなくす会，大阪
46. 所　昭宏，平井　啓，塩崎麻里子（2004）ストレスマネージメントからみた家族との対話．第5回ひまわり会関西医大乳癌患者会，大阪
47. 所　昭宏　中井吉英（2004）肺癌患者さんへのこころのケア―精神腫瘍学の立場より．第45回日本心身医学総会，小倉
48. 所　昭宏，平井　啓，荒井弘和，中　宣敬，小河原光正，河原正明（2004）肺癌患者の外来化学療法移行に関する行動科学的研究．第9回日本緩和医療学会総会，札幌
49. 所　昭宏，黒丸尊治，平井　啓，古村和恵（2004）わが国におけるがん代替療法に関する行動科学的研究．平成 16 年がん助成金兵頭班第1回班会議，京都
50. 所　昭宏，黒丸尊治，平井　啓，古村和恵（2004）わが国におけるがん代替療法に関する行動科学的研究．兵頭班プロトコール会議，松山
51. 所　昭宏，中　宣敬，平井　啓，荒井弘和，湯峯克也，竹内広史，木村　剛，沖塩協一，川口知哉，安宅信二，小河原光正，高田　實，河原正明（2004）肺癌患者の外来化学療法移行に関する行動科学的研究．第 35 回国立病院肺癌研究会，福岡
52. 所　昭宏，黒丸尊治，平井　啓，古村和恵（2004）がん患者の代替療法の行動科学的研究．平成16年がん助成金兵頭班班会議第2回班会議，松山
53. 三谷有子，神原憲治，中井吉英（2004）自己爽快ペース理論に基づくWalkingプログラムの効果．第45回日本心身医学会総会，小倉
54. 三谷有子，神原憲治，福永幹彦，石野振一郎，竹林直紀，中井吉英（2004）Stretching and active-biofeedback の効果．第 33 回日本バイオフィードバック学会，岡山
55. Yuko Mitani, Kenji Kanbara, Mikihiko Fukunaga, Yoshihide Nakai (2004) Relation of rated fatigue and ‘The refresh self paced walking’. World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, KOBE
56. 三谷有子，神原憲治，福永幹彦，中井吉英（2004）Stretching and activeBiofeedback の効果．第17回日本健康心理学会，東京

著　書

1. 福永幹彦（2004）壮年期とうつ病．これだけは知っておきたいうつ病診療の知識，（野添新一編）56–64 頁，医薬ジャーナル，大阪
2. 福永幹彦（2004）過敏性腸症候群．家庭医療学ハンドブック，（前沢政次，津田　司編）309–314 頁，中外医学社，東京
3. 西田愼二（2004）11．心身症　①分類・病態・

診断．ペインクリニックと東洋医学，（森本昌宏編）798–802 頁，真興交易医書出版部，東京
4. 西田愼二（2004）20．心因性疼痛　①分類・病態・診断．ペインクリニックと東洋医学，（森本昌宏編）664–668 頁，真興交易医書出版部，東京
5. 六浦裕美，中井吉英（2004）（III 痛みの評価・診断法）心理的因子の評価法．ペインマネジメント　痛みの評価と診察手順，93–98 頁，南江堂，東京
6. 中井吉英（2004）坂井文彦編著「片頭痛へのアプローチ」片頭痛の標準的治療と合併症を伴った片頭痛の治療戦略の立て方．先端医学社：157–166
7. 中井吉英（2004）はじめての心療内科．オフィスエム
8. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2004）香りとストレス―心療内科からのコメント．宮地良樹，久保千春編皮膚心療内科（診断と治療社）　259–262
9. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2004）心療内科からの症例提示．宮地良樹，久保千春編皮膚心療内科（診断と治療社）　262–264

神経内科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Shinde A, Nakano S, Kusaka H, Nakaya Y, Sawada H, Kohara N, Shibasaki H. (2004) Nucleolar characteristics of reducing bodies in reducing body myopathy. Acta Neuropathol 107(3): 265–271
2. Wate R, Ito H, Zhang J, Ohnishi S, Nakano S, Kusaka H. (2004) Glucose-regulated stress protein 78 (GRP78) immunoreactivity in eosinophilic structures in the spinal cord from ALS model mouse with human mutant SOD1. Neuropathology 24(2): A30
3. Zhang J, Ito H, Wate R, Ohnishi S, Nakano S, Kusaka H. (2004) Immunohistochemical investigation of karyopherin β family in spinal cords from mutant SOD1 transgenic mice. Neuropathology 24(2): A30
4. S Ohnishi, R Wate, J Zhang, H Doi, A Yagi, N Takabatake, A Shinde, H Ito, S Nakano, H Ito, H Kusaka (2004) A case ofsubacute combined degeneration (SCD) due to vitamin B12 metabolic disorder following polycythemia vera. Neuropathology 24(2): A56
5. Ito Hisashi, Ito H, Nakano S, Kusaka H. (2004) Low dose injection of botulinum toxintype A for facial hyperkinetic synkiness. J Clin Neurosci 11(Suppl. 1): S90

総　説

1. 伊東秀文，日下博文（2004）薬物による痴呆鎮静薬・催眠薬．日本臨床　62
2. 日下博文（2004）Babinski 反射，Chaddock 反射，Rossolimo 反射，Mendel-Bechterew 反射など．Clin Neurosci　22(8): 958–960
3. 日下博文（2004）麻痺．臨床医　30: 829–831
4. 日下博文（2004）末梢神経障害　診断と治療糖尿病性筋萎縮症．日本内科学会雑誌　93(8): 1563–1566

学会発表

1. Hisashi Ito, Satoshi Nakano, Hidefumi Ito, Hirofumi Kusaka (2004) Low dose injjection of botulinum toxin type A for facial hyperkinetic synkinesis. 11th ASIAN & OCEANIC CONGRESS OF NEUROLOGY, Singapore
2. 新出明代，中野　智，高畠　望，伊藤　恒，伊東秀文，日下博文（2004）炎症性筋疾患生検筋組織におけるSSA-52の分布の異常．第45回日本神経学会総会，品川
3. 中野　智，新出明代，伊藤　恒，伊東秀文，日下博文（2004）封入体筋炎における PABP1 の異常．第45回日本神経学会総会，品川
4. 新出明代，中野　智，伊藤　恒，伊東秀文，日下博文（2004）封入体筋炎における poly（A）含有RNAの検討．第45回日本神経病理学会総会，前橋

5. 中野 智，新出明代，高畠 望，伊藤 恒，伊東秀文，日下博文，田中惠子（2004）呼吸筋障害と心伝導障害を呈した遠位型ミオパチー例における特異な電顕所見．第45回日本神経病理学会総会，前橋
6. 伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）眼瞼痙攣・片側顔面痙攣に対するbotulinum toxinの反復投与と治療効果．―第2報―第22回日本神経治療学会総会，札幌
7. 和手麗香，伊東秀文，張 建華，土井 光，大西静生，中野 智，日下博文，平野朝雄（2004）家族性筋萎縮性側索硬化症におけるGRP78の免疫組織化学的検討．第45回日本神経学会総会，品川
8. 和手麗香，伊東秀文，張 建華，大西静生，中野 智，日下博文（2004）変異SOD1トランスジェニックマウスの脊髄におけるGRP78/BiPの免疫組織学的検討．第45回日本神経病理学会総会，前橋
9. 張 建華，伊東秀文，和手麗香，大西静生，中野 智，日下博文（2004）変異SOD1トランスジェニックマウスにおけるkaryopherin beta familyの免疫組織化学的検討．第45回日本神経病理学会総会，前橋
10. 大西静生，和手麗香，張 建華，土井 光，八木彩香，高畠 望，新出明代，伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）意識障害と脊髄症を来たした真性多血症の一例．第45回日本神経病理学会総会，前橋
11. 大西静生，和手麗香，張 建華，國枝武伸，八木彩香，新出明代，伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）神経Behcet病の一剖検例．第32回臨床神経病理懇話会，京都
12. 八木彩香，三宅浩介，朝山真哉，國枝武伸，新出明代，伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）高齢発症の脊髄肥厚性硬膜炎の一例．第15回日本老年医学会近畿地方会，大阪
13. 朝山真哉，中村聖香，三宅浩介，長島正人，國枝武伸，八木彩香，新出明代，伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）トキソプラズマ感染症との関連が疑われた多発性筋炎の一例．日本神経学会第81回近畿地方会，大阪
14. 守田純一，伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）眼瞼痙攣の治療に高用量のbotulinum toxinを必要とした1例．第22回日本神経治療学会総会，札幌
15. 中村聖香，守田純一，八木彩香，新出明代，伊藤 恒，中野 智，伊東秀文，日下博文（2004）原発性アルドステロン症に合併した低カリウム性ミオパチーの一例．日本神経学会第80回地方会，大阪

精神神経科学講座

〈研究概要〉

教室の伝統として，脳波に関する研究が主になされてきた．特に向精神薬の脳波に及ぼす影響を研究する定量薬物脳波学が中心であった．現在は，新しい高度な脳波解析手法を用い，薬物のみならず精神疾患の研究を行っている．更に種々のBrain Imaging techniqueを用いて精神疾患の原因解明に向け研究を発展させている．一方増加の一途をたどる痴呆患者の臨床研究や，統合失調症を中心とした精神科リハビリテーションの充実に向けた臨床研究にも力を入れている．さらに分子生物学部門を発展させ，神経伝達物質や受容体の機能解明による脳機能の研究をおこなっている．

1 脳波を用いたBrain Imaging

（統合失調症の大脳空間構造の研究）

Dipole追跡法やLORETA（Low Resolution Brain Electromagnetic Tomography）を用いて統合失調症の陽性症状（幻覚，妄想など），陰性症状（無為，会話の貧困，感情鈍麻など）と3次元的大脳電場構造変化との関係を検討している．統合失調症の情報処理時間が健常者に比較して減少している事を突き止めた．

このことは大脳の情報処理が時間が短すぎて不十分な状態に陥る可能性があり，そのことで精神症状が発現しているのではないかと推測している．

（抗精神病薬の健常男子被験者を用いた研究）

統合失調症の治療薬である抗精神病薬において，4種の新薬が登場した．従来のものに比べ，副作用が少なく，統合失調症の陰性症状にも効果を有する事が明らかになってきた．この新しい抗精神病薬は非定型抗精神病薬と呼ばれている．定量脳波学的手法を用いて前述の統合失調症の大脳の情報処理時間の短縮を改善する方向に作用するのかどうかを検討している．

2　MRIやSPECTを用いたBrain Imaging

（統合失調症の形態学研究）

アイオワ大学とカロリンスカ研究所との共同研究で統合失調症の容積の変化を微細に検討する研究をおこなっている．MRI を 0.5 mm 間隔で測定することおよびアイオワ大学で開発された解析ソフトBRAINS2を用いることで微細な変化を捉えることが可能となった．今までに判明したことは，前頭前野皮質，辺縁系，視床，小脳の容積が減少し，これらを繋ぐ神経回路の障害が統合失調症の病因に深く関与していることである．特に我々は小脳虫部の容積減少を見出し，小脳の関与が非常に強いのではないかと考え研究を進めている．現在症例を収集している．また各部位の容量を測定している．

（Diffusion Tensor Imaging）

Diffusion Tensor Imaging（DTI：拡散異方性画像）はMRIを用いて体内の自由水プロトンのブラウン運動を検出・画像化する手法で今まで画像化困難な超急性期虚血性病変の抽出を始めとして，出血・脱髄・腫瘍性病変・感染症・外傷などの画像化において「拡散能の変化」という面から病態を捉える研究である．統合失調症の大脳各領域白質の拡散能がコントロール群と比較して有意に低下していることを突き止めた．このことは統合失調症の病態が神経回路網の接続不良によるとする仮説を支持する所見であると考えている．最近は強迫性障害の症例を集めて研究している．

（痴呆の研究）

痴呆疾患センターを併設している関係上，痴呆患者が来院し診断を依頼されるケースが多い．脳波，MRI，SPECT，神経心理検査を駆使して診断を行っている．近年，アルツハイマー型痴呆や脳血管性痴呆に関する研究は臨床・基礎を問わず飛躍的に進歩しているが非アルツハイマー型痴呆の重要性も言うまでもない．症例研究の集積が新しい知見への貢献である．

3　精神疾患の疫学研究

精神疾患の社会に及ぼす影響が甚大であるという認識が浸透してきた．特にうつ病の生涯有病率が 10％を越え経済に及ぼす影響が計り知れないということが欧米の調査で分かってきた．しかるに本邦においては精神疾患に対する偏見とあいまって精神疾患の疫学研究がほとんどなされていなかった．このたび公衆衛生学と共同で邦人海外赴任者のうつ病を中心とする疫学研究をおこなっている．

4　肝代謝酵素P450の遺伝子多型の研究

薬物の代謝にチトクロームP450が関与していることが知られており，その遺伝子多型によって代謝が異なることが分かってきた．我々は，SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）であるパロキセチンと SNRI であるミルナシプランの臨床効果の比較を，チトクローム P450 2D6 を中心に研究をしている．SSRIのフルボキサミンとパロキセチンの使い分けを可能にする結果を得た．今後いわゆるオーダーメイド医療に向けた研究基盤の蓄積を目指している．

5 コンサルテーション・リエゾン精神医学に関する検討

コンサルテーション・リエゾン精神医学は，総合病院において精神科以外の領域で精神科医の行う診断・治療・教育・研究のすべての活動を含む臨床精神医学の分野である．われわれは，平成8年秋より，リエゾン専門外来を設置し，救命救急センターをはじめとする定期的回診や院内懇話会開催を含む活動を進めている．平成15年秋より形成外科，産婦人科，泌尿器科と共同でジェンダー・クリニックを開設し，現在，性同一性障害が100例ほど集まり心理学的検討を加えている．

6 児童青年期精神医学に関する検討

最近特に児童青年期精神医学に対する関心が高まっている．本年4月より児童青年期精神医学の特殊外来を開設した．臨床研究を中心とした症例の集積を行っている．

＜研究業績＞

原 著

1. Nobuhara K, Matsuda S, Okugawa G, Tamagaki C, Kinoshita T (2004) Succesful Electroconvulsive Treatment of Depression Associated With a Marked Reduction in the Symptoms of Tardive Dyskinesia. J ECT 20: 262–263
2. Nobuhara K, Okugawa G, Minami T, Tamagaki C, Takase K, Sugimoto T, Sawada S, Kinoshita T (2004) Effects of Electroconvulsive Therapy on Frontal White Matter in Late-Life Depression: A Diffusion Tensor Imaging Study. Neuropsychobiology 50: 48–53
3. Isotani T, Yamada K, Irisawa S, Tajika A, Saito N, Yagyu T, Saito A, Kinoshita T (2004) EEG Source Gravity Center Location Changes after a Single Dose of Atypical Antipsychotics in Healthy Volunteers. Int Congr Ser 1270: 345–347
4. Okugawa G, Nobuhara K, Minami T, Tamagaki C, Takase K, Sugimoto T, Sawada S, Kinoshita T (2004) Subtle Disruption of the Middle Cerebellar Peduncles in Patients with Schizophrenia. Neuropychobiology 50: 119–123
5. Takase K, Tamagaki C, Okugawa G, Nobuhara K, Minami T, Sugimoto T, Sawada S, Kinoshita T (2004) Reduced white matter volume of the caudate nucleus in patients with schizophrenia. Neuropsychobiology 50: 296–300
6. Yoshimura M, Isotani T, Yagyu T, Irisawa S, Yoshida T, Sugiyama M, Minami T, Sugimoto T, Nobuhara K, Okugawa G, Kinoshita T (2004) Global Approach to Multichannel Electroencephalogram Analysis for Diagnosis and Clinical Evaluation in Mild Alzheimer's Disease. Neuropychobiology 49: 163–166
7. Yamada K, Isotani T, Irisawa S, Yoshimura M, Tajika A, Yagyu T, Saito A, Kinoshita T (2004) EEG Global Field Power Spectrum Changes After a Single Dose of Atypical Antipsychotics in Healthy Volunteers. Brain Topography 16: 281–285
8. 木下利彦（2004）神経症の薬物治療の動向．日本森田療法学会雑誌 15: 1–5
9. 木下利彦，分野正貴，奥川 学（2004）ドパミンパーシャルアゴニスト, aripiprazoleはどう位置づけられるか．臨床精神薬理 7: 1737–1744
10. 奥川 学，延原健二，吉村匡史，木下利彦（2004）ペロスピロンが著効した皮膚寄生虫妄想を呈した統合失調症の1例．精神医学 46: 733–735
11. 奥川 学，延原健二，玉垣千春，高瀬勝教，南智久，杉本達哉，木下利彦（2004）統合失調症の神経画像研究―関西医科大学精神神経科学教室における臨床研究の取り組み―．脳と精神の医学 15(4): 441–446
12. 奥川 学，延原健二，玉垣千春，木下利彦（2004）ベンラファキシン．最新精神医学 9: 609–613
13. 吉村匡史，吉田常孝，杉本達哉，延原健二，入澤 聡，加藤正樹，奥川 学，木下利彦（2004）パロキセチンが著効したうつ病性仮性痴呆の1症例．Pharma Medica 22: 133–136
14. 加藤正樹，奥川 学，木下利彦（2004）抗精神病薬による離脱症候群．臨床精神薬理 7: 787–792

15. 有木永子，木下利彦（2004）プライマリケアにおける統合失調症―対応と専門医へのコンサルテーション―．日本醫事新報　4181号: 6–11
16. 有木永子，工藤　香，齊藤幸子，木下利彦（2004）困難な症例から学ぶ　統合失調症と強迫性障害との区別が長らくつきかねた症例．Schizophrenia frontier　5: 121–126
17. 中根允文，越野好文，木下利彦，Mark H. B. Radford, Keh–Ming Lin（2004）うつ病および不安障害における文化の影響．日本醫事新報 4179号: 27–32
18. 山根　寛，腰原菊恵，服部裕子，村上貴栄，木下利彦（2004）創作活動によるセルフコントロールプログラム―精神科デイケアにおける試みと事例を通して―．作業療法　23: 539–548
19. 高田あや，谷万喜子，井上博紀，鈴木俊明，若山育郎，柳生隆視，木下利彦（2004）重度の頸部右回施および不随意運動を呈した頸部ジストニア患者に対する鍼治療．関西鍼灸大学紀要　1: 53–58

総　説

1. 玉垣千春，木下利彦（2004）痴呆への薬物の関わり．ターミナルケア　14: 33–37

学会発表

1. Kinoshita T, Yoshimura M, Irisawa S, Yamada K, Isotani T (2004) Spatial temporal EEG changes after a single dose of atypical antipsychotics. The 14th Biennial Congress of International Pharmaco-EEG Society, Belgium
2. Nobuhara K, Okugawa G, Minami T, Sugimoto T, Takase K, Tajika A, Yagyu T, Sawada S, Kinoshita T (2004) Effects of ECT on structural connectivity in late-life depression: A Magnetic Resonance Diffusion Tensor Imaging Study. 8th International Congress of Biological Psychiatry, Sydney
3. Isotani T, Yamada K, Irisawa S, Yoshimura M, Tajika A, Saito N, Yagyu T, Saito A, Kinoshita T (2004) EEG source gravity center location changes after a single dose of atypical antipsychotics in healthy volunteers. International Society for Brain Electromagnetic Topography (ISBET) Urayasu, Chiba, Japan
4. Okugawa G (2004) Reduced fractional anisotropy of middle cerebellar peduncles in patients with schizophrenia. University of Oslo, Norway
5. Okugawa G (2004) Cerebellum and schizophrenia. Karolinska Institute, Sweden
6. Okugawa G (2004) Volumetric Magnetic resonance imaging study in schizophrenia. 8th World Federation of Societies of Biological Psychiatry International Congress of Biological Psychiatry, Cairns
7. Okugawa G (2004) Reduced cerebellar vermis volume in patients with chronic schizophrenia. 12th Association of European Psychiatrists, Geneva
8. Okugawa G (2004) Effect of Antipsychotics on Disruption of The Middle Cerebellar Peduncles in Schzophrnenia. 24th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum, Paris
9. Okugawa G (2004) Neuroimaging study of cerebellum in schizophrenia. 41th World Federation of Societies of Biological Psychiatry Asia-pacific Congress, Soul
10. Kato M, Wakeno M, Okugawa G, Nobuhara K, Ikenaga Y, Fukuda T, Fukuda K, Azuma J, Kinoshita T (2004) Controlled Clinical Conparison of Paroxetine and Fluvoxamine Considering of Pharmacogenetics in depression. 24th Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum, Paris
11. 木下利彦（2004）精神疾患，その治療と脳波．日本臨床神経生理学会，東京
12. 延原健二，奥川　学，南　智久，杉本達哉，高瀬勝教，玉垣千春，木下利彦（2004）拡散テンソル MRI を用いた高齢者うつ病患者の脳白質の拡散異方性研究．第 19 回日本老年精神医学会大会，長野
13. 延原健二，奥川　学，南　智久，杉本達哉，高瀬勝教，玉垣千春，池田耕志，澤田　敏，木下利彦（2004）電気痙攣療法が高齢うつ病患者の脳白質線維連絡に及ぼす影響について―拡散テンソル画像を用いて―．第 26 回日本生物学的精神医学会，東京
14. 磯谷俊明（2004）健常者における非定型抗精

神病薬の空間的脳電位活動への影響．第 34 回日本臨床神経生理学会シンポジウム，東京
15. 玉垣千春，村田　章，高瀬勝教，朝井　知，権野一敏，坂田哲二，木下利彦（2004）歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症（DRPLA）の 1 家系における3剖検例．第45回日本神経病理学会，群馬
16. 玉垣千春，村田　章，高瀬勝教，奥川　学，延原健二，木下利彦（2004）前頭葉に広範な欠損を認めた外傷後痴呆の一例 ―前頭側頭型痴呆との比較―．第 19 回日本老年精神医学会大会，長野
17. 玉垣千春，奥川　学，高瀬勝教，延原健二，木下利彦（2004）統合失調症患者における視床の体積減少についての定量的 MRI 研究．第 26 回日本生物学的精神医学会，東京
18. 奥川　学，延原健二，玉垣千春，木下利彦（2004）MRI を用いた慢性期統合失調症患者の脳形態学的研究．第 26 回日本生物学的精神医学会，東京
19. 吉村匡史，織田裕行，加藤正樹，松田郷美，守田　稔，吉田常孝，杉本達哉，南　智久，大戸貴弘，分野正貴，齊藤幸子，山田圭造，井上雅晴，片山裕美，嶽北佳輝，塚本紗千，西田圭一郎，三井　浩，磯谷俊明，木下利彦（2004）炭酸リチウム中毒による意識障害を来した一症例．第 17 回日本総合病院精神医学会総会，東京
20. 高瀬勝教，玉垣千春，奥川　学，延原健二，南智久，杉本達哉，木下利彦（2004）統合失調症における尾状核白質の減少．第 26 回日本生物学的精神医学会，東京
21. 織田裕行，田近亜蘭，加藤正樹，吉村匡史，三井　浩，杉本達哉，山田圭造，有木永子，吉野真紀，中平暁子，磯谷俊明，木下利彦（2004）関西医科大学附属病院における性同一性障害治療の現状．第 17 回日本総合病院精神医学会総会，東京
22. 砂原千穂，北代麻美，有木永子（2004）児童思春期における強迫性障害の特徴について．第45回児童青年期精神医学会，名古屋
23. 加藤正樹，奥川　学，延原健二，分野正貴，池永有香，福田剛史，福田和大，山下恵実，東純一，木下利彦（2004）Paroxetine, fluvoxamine の臨床効果に及ぼす遺伝的因子の影響―Randomized Control Trial における PK-PD 関連分子の包括的薬理遺伝解析―．第 14 回日本臨床精神神経薬理学会，神戸
24. 有木永子，砂原千穂，中平暁子，吉野真紀，中島　文，北代麻美，木下利彦（2004）抑うつと強迫行為を呈し過量服薬に至った広汎性発達障害の一例．第 24 回日本精神科診断学会，大阪
25. 吉田常孝，南　智久，加藤正樹，織田裕行，三井　浩，木下利彦（2004）関西医科大学附属病院高度救命救急センターにおける精神科救急受け入れと常勤精神科医の役割．第 12 回精神科救急医学会，岡山
26. 吉田常孝，南　智久，加藤正樹，織田裕行，杉本達哉，矢吹　輝，松尾信昭，磯谷俊明，中谷壽男，木下利彦（2004）関西医科大学附属病院高度救命救急センターにおける精神科常勤医師の役割．第 17 回日本総合病院精神医学会総会，東京
27. 杉本達哉，谷川　昇，池田耕士，大村直人，前原　稔，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，木下利彦，澤田　敏（2004）拡散強調画像による経皮的椎体形成術後の再発骨折についての検討．第32回日本磁気共鳴医学会大会，大津
28. 杉本達哉，池田耕士，谷川　昇，大村直人，赤井幹夫，小島博之，米虫　敦，木下利彦，澤田　敏（2004）拡散強調画像による経皮的椎体形成術後の再発骨折についての検討．第 63 回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
29. 山田圭造，磯谷俊明，吉村匡史，入澤　聡，田近亜蘭，斎藤朱実，木下利彦（2004）非定型抗精神病薬が健常者の脳波におよぼす影響．第7回日本薬物脳波学会，金沢
30. 井上雅晴，玉垣千春，吉村匡史，松田郷美，渡壁　藍，北代麻美，柳生隆視，木下利彦（2004）抑うつ状態が先行した複雑部分発作の 1 症例．第30回大阪てんかん研究会，大阪
31. 井上雅晴，玉垣千春，吉村匡史，松田郷美，渡壁　藍，北代麻美，柳生隆視，木下利彦（2004）抑うつ状態が先行した複雑部分発作の 1 症例．第 41 回近畿九大学精神神経科学教室集談会，大阪
32. 嶽北佳輝，奥川　学，北代麻美，稲垣友子，中

村　康，吉村匡史，加藤正樹，吉田常孝，杉本達哉，分野正貴，大戸貴弘，齊藤幸子，山田圭造，片山裕美，塚本紗千，西田圭一郎，守田　稔，三井　浩，織田裕行，木下利彦（2004）Milnacipran が腰椎圧迫骨折治癒後疼痛に著効した一例．第 17 回日本総合病院精神医学会総会，東京
33. 守田　稔，磯谷俊明，杉本達哉，松田郷美，織田裕行，加藤正樹，吉田常孝，吉村匡史，大戸貴弘，木下利彦（2004）「ぼかした告知」が有効であったパニック障害を有する終末期癌患者の一症例．第 17 回日本総合病院精神医学会総会，東京
34. 板東宏樹，柳生隆視，吉村匡史，入澤　聡，奥川　学，吉田常孝，片山裕美，北代麻美，木下利彦（2004）修正型電気けいれん療法施行後の錯乱状態再熱を繰り返す非定型精神病の一症例．第 41 回近畿九大学精神神経科学教室集談会，大阪
35. 中平暁子，吉野真紀，中島　文，有木永子，田近亜蘭，織田裕行，木下利彦（2004）性同一性障害患者の心理検査による検討―WAIS-R,MMPI を中心に―．第24回日本精神科診断学会，大阪
36. 吉野真紀，中平暁子，中島　文，有木永子，織田裕行，田近亜蘭，木下利彦（2004）性同一性障害患者のWAIS-RとMMPIの検討．第17回日本総合病院精神医学会総会，東京
37. 吉野真紀，織田裕行，砂原千穂，有木永子，中平暁子，中島　文，木下利彦（2004）「WAIS-R においてディスクレパンシーを認めた強迫性障害の1症例．第6回OCD研究会，仙台
38. 栗山康弘，藤田直子，木村秀樹，杉山祐夫，木下利彦（2004）治療構造を整理することによって安定し，減薬に至った症例．第 38 回全国作業療法士学会，長野
39. 藤田直子，栗山康弘，杉本達哉，田近亜蘭，北代麻美，木下利彦（2004）在院日数に合わせた疾病プログラムへの取り組み．第 38 回全国作業療法士学会，長野
40. 塚本優子，有木永子，前原寛子，中村紀子（2004）外来患者へのロールシャッハ・フィードバックセッション（RFBS）．第 10 回包括システムによるロールシャッハ学会，東京
41. 鈴木俊明，谷万喜子，井上博紀，高田あや，赤川淳一，若山育郎，吉田宗平，木下利彦（2004）書痙患者に対する鍼治療と筆圧・筋電図解析を用いた効果検討．第 34 回日本臨床神経生理学会学術大会，東京

小児科学講座

〈研究概要〉

本教室の研究は，種々の小児疾患の適確な診断法と病態把握のための新しい技法の開発，および専門的な治療法の確立を目的とした研究が主体である．特に，慢性肉芽腫症をはじめとする好中球機能異常症に関する研究は，小児科研究室に設置しているフローサイトメトリーを駆使して世界をリードする研究を行っている．

アレルギー・免疫に関する領域では，今年度はinhibition ELISA法や直接ELISA法で小麦アレルギーを示す5小児例について検討した．小麦のアレルゲンは，醤油の発酵過程の麹段階で塩類溶解あるいは塩類非溶解分画ともにIgE結合能を失ったペプタイドやアミノ酸に分解し，もろみ段階では完全に微生物の蛋白融解酵素によって分解する．したがって，醤油には小麦アレルゲンは含まれないことを明らかにした．また症例では，歯牙感染症が持続する発熱の原因となった5歳の慢性肉芽腫症患者例を報告した．

新生児領域では，本学附属病院NICUにおける*Bacillus cereus*菌による新生児敗血症症例に端を発した施設内の同菌定着および未熟児用ミルク中に含まれる同菌についての検討を行った．この結果をもとに，我が国でのミルク中に含有される*Bacillus cereus*菌数の規制を所轄官庁および乳業会社に具申し，本年から自主規制が制定されることになった．新生児遅発性敗血症の成因に関与する黄色ブドウ球菌毒素と好中球機能との関係，および，新生児プロトロンビン血症に対するケイツー N 注の有用性に関する研究報

告を行った．症例研究では，新生児期に発症した単純ヘルペスウイルス垂直感染による激症型心筋炎症例を報告し，総説では新生児難治性低血糖症の管理法，新生児免疫性血小板減少症の管理法について述べた．

循環器領域の研究では，川崎病患児の臨床症例報告として，抗利尿ホルモンの過剰分泌を伴った症例を報告し，本症経過中にみられる低ナトリウム血症の管理について考察した．症例報告では，CD4陽性T細胞減少症を伴うDown症候群の6歳の男児例を報告した．

内分泌代謝関係では，血小板の細胞内マグネシウム濃度を臍帯血で測定し，出生体重との関係を検討した．蛍光プローブであるmag-fura-2を用い，血小板の細胞内Mgの変化と基礎値を検討した．無刺激の細胞内Mgイオン濃度は出生体重に有意に相関したが，刺激細胞内Mgイオン濃度には差はなかった．低出生体重児のsmall-for-gestational age（SGA）群でも刺激細胞内Mg濃度は良好に反応性が認められた．このことから，胎児発育の悪いSGA児で細胞内Mgイオンの低下がみられる場合には，インスリン反応性が悪いと推定されることを報告した．

小児神経領域では，バルプロ酸内服中に薬剤耐性緑膿菌による肺炎に罹患した症例について報告した．

小児心身症に関する研究では，本年はヘッドダウンによるベッドレスト試験を用い，静脈還流を下大静脈径を指標として測定した研究や，精神衛生に与える影響を検討し報告した．また，本教室は日本心身医学会認定研修診療施設認定を受けており，小児心身症患者に対する関連諸機関の連携と小児心身医療の普及に関する提言を日本小児科学会シンポジウムで行い，厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）「小児心身症対策の推進に関する研究班」（主任研究者：小林陽之助）「子どもの心の健康問題ハンドブック」の作成を行った．

〈研究業績〉

原　著

1. Ishizaki Y, Fukuoka H, Ishizaki T, Kino M, Higashino H, Ueda N, Fujii Y, Kobayashi Y (2004) Measurement of inferior vena cava diameter for evaluation of venous return in subjects on the 10th day of bed rest experiment. J Appl Physiol 96: 2179–2186
2. Ishizaki Y, Fukuoka H, Ishizaki T, Tanaka H, Ishitobi H (2004) The implementation of game in a 20-day head-down tilting bed rest experiment upon mood status and neurotic levels of rest subjects. Acta Astronaut 55: 945–952
3. Kobayashi M, Hashimoto Y, Taniuchi S, Tanabe S (2004) Degranulation of wheat allergen in Japanese soy sause. Int J Mol Med 13: 821–827
4. Takaya J, Yamato F, Higashino H, Kobayashi Y (2004) Relation of intracellular magnesium of cord blood platelets to birth weight. Metabolism 53(12): 1544–1547
5. Tanaka S, TeraguchiM, Hasui M, Taniuchi S, Ikemoto Y, Kobayashi Y (2004) Idiopathic CD4+T-lymphocytopenia in a boy with Down syndrome. Report of a patient and a review of the literature. Eur J Pediatr 163: 122–123
6. Teraguchi M, Ikemoto Y, Unishi G, Ohkohchi H, Kobayashi Y (2004) Influence of CD36 deficiency on heart disease in children. Circ J 68: 435–438
7. Hasui M, Sasaki M, Tsuji S, Yamamoto A, Takaya J, Taniuchi S, Izumi H, Hagihara T, Daito M, Kobayashi Y (2004) Dental infections as a cause of persistent fever in a patient with chronic granulomatous disease. Clin Pediatr (Phila) 43: 171–173
8. Akiko Maeda, Urara Kohdera, Megumi Fujieda, Tetsuo Kase, Yoshio Hirota (2004) Evaluation of inactivated influenza vaccine in children aged 6–36 months. Int Congr Ser 1263: 666–669
9. Mine K, Takaya J, Teraguchi M (2004) A case of Kawasaki disease associated with syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone. Acta Pediatr 93: 1547–1549
10. Yamamoto A, Tanabe S, Kojima T, Sasai M, Hatano Y, Watanabe M, Kobayashi Y, Taniuchi S (2004) Hypoallergenic cupcake is a useful product for Wheat-Sensitive allergic patients. The Journal of Applied Research 4(3): 518–523
11. 荒木　敦，石崎優子，小林陽之助（2004）バルプロ酸内服中に薬剤耐性緑膿菌による肺炎

に罹患しカルバペネム系抗菌薬を投与した 1 症例．日小児臨薬理会誌　17(1): 104–106
12. 池本裕実子，河　相吉，寺口正之，荻野廣太郎，小林陽之助（2004）先天性心疾患を伴うDown症候群の肺病変―肺CT所見を検討した5症例の報告―．心臓　36(4): 285–289
13. 荻野廣太郎，岡本真道，田中智子，河村栄美子，寺口正之，池本裕実子，小林陽之助（2004）免疫グロブリン追加投与症例の検討―超大量用量の時代を迎えて―．Prog Med　24(7): 1676–1681
14. 木全貴久，寺口正之，野田幸弘，池本裕実子，荒木　敦，小林陽之助（2004）心身障害児の術前術後管理の実際．小児外科　36(2): 167–171
15. 小島崇嗣，谷内昇一郎，青木孝夫，小野　厚，蓮井正史，高屋淳二，小林陽之助（2004）アレルギー疾患合併患児に対するインフルエンザワクチン接種の副反応とフマル酸ケトチフェン予防内服の有効性．日小ア誌　18(2): 184–192
16. 小島崇嗣，谷内昇一郎，青木孝夫，木村彰宏，佐守友仁，蓮井正史，高屋淳二，小林陽之助（2004）アレルギー疾患合併患児に対するインフルエンザワクチン迅速診断の有用性と問題点．小児診療　67: 1179–1181
17. 小寺史子，磯崎夕佳（2004）過去 20 年間における溶連菌感染後急性糸球体腎炎（PSAGN）の管理の変化．日本プライマリ・ケア会誌 27(1): 23–28
18. 白幡　聡，千田勝一，田村正徳，仁志田博司，多田　裕，堀内　勤，後藤彰子，犬飼和久，船戸正久，藤村正哲，木下　洋，高橋幸博，中村　肇，山内芳忠，茨　聡（2004）新生児低プロトロンビン血症に対するケイツ―N 注の有効性および安全性に関する検討．日未熟児新生児会誌　16(1): 53–62
19. 辰巳貴美子，木下　洋，大橋　敦，北村直行，辻　章志（2004）新生児期に発症した単純ヘルペスウイルス垂直感染による劇症型心筋炎の1症例．日周産期・新生児会誌　40(3): 571–576
20. 谷内昇一郎，寺口正之，池本裕実子，木野稔，桝田　緑，小林陽之助（2004）川崎病患児のγグロブリン療法に対する反応性と白血球Fcγ受容体遺伝子多型との関連．Prog Med　24: 1667–1670
21. 辻　章志，木下　洋，北村直行，辰巳貴美子，大橋　敦，竹安晶子，伊藤太一，畑埜泰子（2004）Bacillus cereus による新生児敗血症．NICU 内での Bacillus cereus 定着の危険性とその対策．日周産期・新生児会誌　40(3): 534–538
22. 寺口正之，藤井喜充，池本裕実子，辰巳貴美子，角田智彦，今村洋二，小林陽之助（2004）右肺動脈近位部欠損・動脈管開存・肺高血圧に対する静注PGI2投与の経験．Prog Med　24: 303–306
23. 中野景司，蓮井正史，山戸史子，端　里香，野田令子，中野崇秀，寺口正之，中谷壽男，小林陽之助（2004）毒キノコ（ドクツルタケ）により肝性脳症をきたした1例．小児科　45(12): 2230–2233
24. 橋本裕一郎，古林万木夫，谷内昇一郎，田辺創一（2004）醤油醸造における小麦アレルゲンの分解．日本醤油研究所雑誌　30(6): 213–218
25. 藤井啓子，宗　　弘，荻野廣太郎，藤原　亨，田辺敏明，岡本真道，弓削堅志，今泉正仁（2004）1家系4世代にみられた色素失調症．皮の科　3(4): 378–383
26. 藤井由里，石崎優子，谷内昇一郎，木野　稔，小林陽之助（2004）起立性調節障害児の長期予後に関する調査．小児臨　57: 1029–1032
27. 村上貴孝，藤本雅之，中野景司，服部祐子，崔信明，奥田晃司，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）Clobazam が著効した，細菌性髄膜炎後の症候性局在関連性てんかん．小児臨 57(1): 73–76
28. 村上貴孝（2004）初回熱性けいれんとヒトヘルペスウイルス 6，7 型感染症との関係．脳と発達　36(3): 248–252
29. 村上貴孝（2004）各種小児てんかんに対するクロバザムの効果．Pharm Med　22(2): 166–168
30. 吉田多恵子，橋本裕一郎，古林万木夫，高畑能久，森松文毅，谷内昇一郎（2004）市販ELISAキットを用いた醤油中の小麦アレルゲンの定量．日本醤油研究所雑誌　30(6): 219–224
31. 新田貴子，伊達亜紀，吉田さつき，河井智美，

野間絵理奈，富永由夏，井月美恵子，岡本真道（2004）臍帯結紮時期の検討―臍残存物への影響―．第 35 回日本看護学会論文集―母性看護2004―　54–56
32.「小児心身症対策の推進に関する研究」班（小林陽之助，石崎優子含む）（2004）小児心身症対策の推進に関する研究．平成 15 年度厚生科学研究（子ども家庭総合事業）報告書　279–493
33. 村上　司，入谷展弘，久保英幸，改田　厚，圀府寺美，木野　稔（2004）無菌性髄膜炎を呈したインフルエンザ患者から 2 種類のインフルエンザウイルス（AH3型とB型）とエコーウイルス9型を分離した1例．大阪市環科研報告調査・研究年報　平成15年度　7–10

総　説

1. Takaya J, Higashino H, Kobayashi Y (2004) Intracellular magnesium and insulin resistance. Magnesium Res 17(2): 126–136
2. 石崎優子，小林陽之助（2004）小児心身症患者に関する関連諸機関の連携と小児心身医療の普及に関する提言．日小児会誌　108: 29–31
3. 伊藤太一，木下　洋，小林陽之助（2004）難治性低血糖の治療の選択はどうするのか？周産期医　34（増）: 563–565
4. 木野　稔（2004）小児科あれこれ：夢はでっかく，根はふかく．小児診療　67(6): 1010–1011
5. 木野　稔（2004）少子化時代の小児医療．ドクターズマガジン　53(4): 2–2
6. 木下　洋（2004）新生児一過性血小板減少症（新生児免疫性血小板減少症）．臨看　30(6): 999–1002
7. 谷内昇一郎（2004）自己免疫性好中球減少症．小児内科　36(10): 1625–1629

学会発表

1. Ishizaki Y, Fukuoka H, Ishizaki T, Tanaka H, Ishitobi H (2004) Effects of group interaction produced by the implementation of game in a 20-day head-down tilting bed rest on mood status and neurotic levels of young subjects. The 11th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, 那覇
2. Ishizaki Y, Kobayashi Y, Yamagata Z, Watanabe H, Tanaka H, Oki J, Miike T, Koeda T, Kano K, Hoshika A, Eto T (2004) Implementation and Benefits of Measures to Manage Children with Psychosomatic and Psychosocial Disorders in Japan. The 11th Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, 那覇
3. Takaya J, Yamato F, Higashino H, Kobayashi Y (2004) Relation of intracellular magnesium of cord blood platelets to birth weight. The 3rd Biennial Scientific Meeting Asia Pacific Paediatric Endocrine Society, 神戸
4. Taniuchi S, Fujii Y, Masuda M, Ito T, Tsuji S, Hasui M, Hatano Y, Kobayashi Y (2004) A role of mutation of CXCR4 gene in twin sisters with WHIM syndrome. The 9th Congress of the European Haematology Association, Jeneva
5. Tsuji S, Kinoshita Y, Kitamura N, Tatsumi K, Oohashi A, Itoh T, Hatano Y, Kobayashi Y (2004) Changes of CD62L expression in peripheral blood T cells of the patient with neonatal toxic-shock-syndrome-like exanthematous disease. 19th European Congress of Perinatal Medicine, Athens
6. 荒木　敦，杉本健郎，安原昭博（2004）大学付属病院神経外来のキャリーオーバー患者の実状と課題．第107回日本小児科学会，岡山
7. 荒木　敦，田中智子（2004）養護学校児童・生徒の肥満について．第46回日本小児神経学会，東京
8. 池本裕実子，寺口正之，今井雄一郎，寺西顕司，辰巳貴美子，吉村　健，市田蕗子（2004）左室心筋緻密化障害の2症例．第40回日本小児循環器学会，東京
9. 石崎優子，服部祐子，深井善光，長濱輝代，豆板律子，濱田梨恵，木野　稔，中野博光（2004）難病児・障害児の同胞の心理社会的問題―小児科医，学校医，心身症専門医の同胞症例の経験と認識の相違―．第 22 回日本小児心身医学会，高槻
10. 伊藤正寛，奴久妻聡一，圀府寺美，木野　稔，庵原俊昭，神谷　齊（2004）Real time RT-PCR による麻疹ウイルスの検出．第 45 回日本臨床ウイルス学会，大阪
11. 大橋　敦，木下　洋，北村直行，辰巳貴美子，

辻　章志，伊藤太一，竹安晶子，畑埜泰子（2004）PIカテーテルを用いた輸血療法の安全性に関する基礎的検討について．第 49 回日本未熟児新生児学会，横浜
12. 荻野廣太郎，中村好一，屋代真弓，柳川　洋（2004）第15～17回の川崎病全国調査資料からみた免疫グロブリン療法の変遷と冠動脈障害の推移．平成 15 年度厚生労働省「川崎病の発生実態及び長期予後に関する疫学的研究」班会議，東京
13. 荻野廣太郎，河村栄美子，田中智子，中村好一，屋代真弓，柳川　洋（2004）第 17 回川崎病全国調査資料からみた免疫グロブリン追加投与症例の検討．第 24 回日本川崎病研究会，京都
14. 北村直行，辻　章志，大橋　敦，辰巳貴美子，伊藤太一，畑埜泰子，竹安晶子，木下　洋（2004）ビスホスホネート治療を行った周産期致死型骨形成不全の1症例. 第40回日本周産期新生児医学会，東京
15. 木野　稔，圀府寺美，長濱輝代，今西美澄（2004）小児救急告示病院における開放型病院運営の意義. 第18回日本小児救急医学会, 金沢
16. 木野　稔（2004）小児専門急性期病院における病棟保育の意義．第 8 回日本医療保育学会，東京
17. 木野　稔，圀府寺美，村上貴孝，大西敏雄，卯西　元（2004）幼児副鼻腔炎におけるクラリスロマイシンの効果．第 107 回日本小児科学会，岡山
18. 木下　洋（2004）ワークショップ「新生児蘇生の標準化」大阪での新生児蘇生講習会の実際―北米における NRP 講習会との比較―．第49回日本未熟児新生児学会，横浜
19. 木下　洋，北島博之，金　太章，清水郁也，西原正人，松尾重樹，南　宏邦，末原則幸（2004）大阪における新生児蘇生講習会の取組み．第40回日本周産期新生児医学会，東京
20. 木全貴久，寺口正之，野田幸弘，池本裕実子，荒木　敦，小林陽之助（2004）GM1gangliosidosis（若年型）に合併した拡張型心筋症の1剖検例．第107回日本小児科学会，岡山
21. 圀府寺美，木野　稔，伊藤正寛（2004）アデノウイルス感染症における定量的ウイルス検出．第36回日本小児感染症学会，東京
22. 圀府寺美（2004）小児がんの治療～小児科の立場から　白血病と化学療法．第 41 回日本小児外科学会市民公開講座，大阪
23. 高屋淳二，松阪泰二，香取秀行，市川家國（2004）血管平滑筋と腎糸球体とのDNA合成にアンジオテンシンは直接（局所）作用するのではなく，アンジオテンシンを介する全身性因子が作用する：AII タイプ 1A（AT1A）ノックアウトキメラマウスによる解析．第8回小児分子内分泌研究会，富良野
24. 高屋淳二，小寺史子，東野博彦，小林陽之助（2004）糖尿病患児および肥満児の細胞内マグネシウムの経時的検討．第107回日本小児科学会，岡山
25. 高屋淳二，山戸史子，東野博彦，小林陽之助（2004）臍帯血の血小板細胞内マグネシウムと出生時体重との相関．第 24 回日本マグネシウム学会，大阪
26. 竹安晶子，北村直行，辰巳貴美子，大橋　敦，辻　章志，伊藤太一，畑埜泰子，木下　洋（2004）著明な左肺過膨脹を伴う慢性肺疾患に対し左肺下葉切除術を施行し救命し得た 1 症例．第40回日本周産期新生児医学会，東京
27. 谷内昇一郎，藤井喜充，蓮井正史，辻　章志，畑埜泰子，伊藤太一，小林陽之助（2004）ミエロカテキシスにおける責任遺伝子の解析：CXCR4 遺伝子変異蛋白の同定．第 107 回日本小児科学会，岡山
28. 辻美代子，藤原　亨，田中幸代（2004）神経性食欲不振症の男子症例．第 22 回日本小児心身医学会，高槻
29. 寺口正之，谷内昇一郎，池本裕実子，小林陽之助（2004）Down症候群合併した特発性CD4陽性Tリンパ球減少症．第107回日本小児科学会，岡山
30. 寺口正之，池本裕実子，森　喜造，辰巳貴美子，吉村　健，木村晃二，今村洋二，小林陽之助（2004）血管内エコーで著明な肺動脈解離が観察された経皮的バルーン拡張術々後例. 第152回日本Pediatric Interventional Cardiology研究会，東京
31. 寺口正之，藤井喜充，池本裕実子，辰巳貴美子，吉村　健，角田智彦，今村洋二（2004）長

期間の静注プロスタグランジン I2 投与を行った高度肺高血圧を伴う右肺動脈近位部欠損・動脈管開存の1症例. 第40回日本小児循環器学会，東京
32. 寺口正之（2004）新卒後研修システムにおける小児科，小児外科および小児循環器外科の連携. 新卒後研修システムにおける小児科，小児外科および小児循環器外科の連携，大阪
33. 野田幸弘，中野崇秀（2004）RAEB-II を発症し，monosomy7 を認めたモザイク型ダウン症候群の7歳女児例. 日本小児MDS治療研究会，名古屋
34. 野田幸弘，中野崇秀（2004）10；11 転座を認めた急性骨髄性白血病（M1）の1例. 第46回日本小児血液学会，京都
35. 藤井喜充，中野景司，石崎優子，木野　稔，中野博光（2004）遺糞症症例における直腸肛門機能評価. 第22回日本小児心身医学会，高槻
36. 藤井喜充，高田晃平，濱田吉則（2004）筋性防御出現前は血液検査と CT 上所見を認めなかった穿孔性虫垂炎. 第 40 回日本腹部救急医学会，東京
37. 藤井喜充，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）小児救急病院における腹部超音波検査について. 第18回日本小児救急医学会，金沢
38. 豆板律子，濱田梨恵，長濱輝代，杉村省吾，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）心理士は小児白血病患児に何ができるのか. 第 20 回日本小児がん学会，京都
39. 村上貴孝（2004）小児のけいれん重積状態に対する初期治療の検討. 第 46 回日本小児神経学会，東京
40. 村上貴孝（2004）痙攣重積症の治療：群発型痙攣について. 第 18 回日本小児救急医学会，金沢
41. 荻野廣太郎，岡本真道，田中智子，中村好一，屋代真弓，柳川　洋（2004）第15～17回の川崎病全国調査資料からみた免疫グロブリン療法の変遷と冠動脈障害の推移. 第107回日本小児科学会，岡山
42. 荒木　敦（2004）小児神経疾患のキャリーオーバー. 第7回こどもの成長を考える大阪フォーラム，大阪
43. 石崎優子，服部祐子（2004）小児科心身症外来受診患者および小児病院心理相談来談者における“小児心身症のcommon disease”―小児科医と心療内科医が共有すべき知識と認識についての一考察―. 第 34 回日本心身医学会近畿地方会，京都
44. 荻野廣太郎，佐中知恵子（2004）食生活と健康. 京都市学校保健会西京支部　健康教育講演会，京都
45. 荻野廣太郎（2004）特別講演：我が国における川崎病免疫グロブリン療法の実態と，追加投与を要した症例の背景について　第15～17回（1997～2002年）全国調査資料から―. 第19回和歌山川崎病研究会，和歌山
46. 荻野廣太郎，岡本真道，田中智子，寺口正之，池本裕実子，小林陽之助（2004）免疫グロブリン追加投与症例の検討―超大量用量の時代を迎えて―. 第28回近畿川崎病研究会，大阪
47. 木野　稔（2004）外来受付後に診察を受けずに帰宅した患者の実態調査. 第7回近畿外来小児科学研究会，大阪
48. 木野　稔（2004）少子化時代の小児医療に求められるもの. 守口市医師会学術講演会，守口
49. 木野　稔（2004）民間こども病院における外来小児科活動. 第 2 回鳥取県外来小児科研究会，倉吉
50. 木下　洋（2004）子供の咳. 第 34 回守口門真外来小児科勉強会，守口
51. 木下　洋（2004）小児科プライマリケア2. こどもの風邪―冬のソナタ―. 平成 16 年度守口市医師会学術講演会，守口
52. 木野　稔（2004）腹部エコーを用いて不定愁訴に迫る. 第9回西大阪小児疾患研究会，大阪
53. 圀府寺美（2004）冬の感染症と健康管理. 保育内容研修会，大阪
54. 高屋淳二，磯崎夕佳，野田幸弘，東野博彦，廣瀬陽子，端　里香，山戸史子，小林陽之助（2004）身長・体重はキャッチアップしたが高血圧が持続する特発性アルドステロン症の 1 症例. 第23回近畿小児内分泌研究会，大阪
55. 高屋淳二（2004）潰瘍性大腸炎を合併したTurner症候群の1例. 第14回大阪小児栄養消化器病懇話会，大阪
56. 谷内昇一郎，寺口正之，池本裕実子，小林陽之助，木野　稔（2004）川崎病におけるγグロ

ブリン療法に対する反応性と好中球Fcγレセプターの遺伝子多型との関連．第 28 回近畿川崎病研究会，大阪
57. 寺西顕司，寺口正之，中野崇秀，荒木　敦，野田幸弘，坂根正則，坂井田紀子，小林陽之助（2004）下肢麻痺で発症した硬膜外悪性リンパ腫の1症例．第17回近畿児科学会，大阪
58. 中野崇秀，寺西顕司（2004）下肢麻痺で発症した傍腰髄原発 NHL（lyphoblastic lynphoma）の1症例．第41回小児がん研究会，大阪
59. 藤井喜充（2004）消化器外来1年間の歩み（小児の便秘72例の検討）. 第14回大阪小児栄養消化器病懇話会，大阪
60. 藤井喜充（2004）腹痛を起こす病気について．第40回日本小児外科学会近畿地方会，守口
61. 豆板律子，長濱輝代，杉村省吾，奥田晃司，石崎優子，村上貴孝，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）急性リンパ性白血病を発病した6歳女児との関わり．第1回日本小児心身医学会関西地方会，大阪
62. 畑埜泰子，伊藤太一，辻　章志，蓮井正史，谷内昇一郎，小林陽之助（2004）好酸球の細菌貪食能―好中球との比較―．第 12 回食細胞機能異常研究会，東京
63. 畑埜泰子（2004）アトピー性皮膚炎患児における好酸球の細菌貪食能・殺菌能．アレルギー好酸球研究会，東京
64. 山戸史子，高屋淳二，東野博彦，小林陽之助（2004）骨系統疾患を疑わせる特発性低身長症の1症例．第36回発育異常研究会，大阪
65. 伊藤正寛，奴久妻聡一，圀府寺美，木野　稔，庵原俊昭，神谷　齊（2004）Real time RT-PCR による麻疹ウイルスの検出．第 45 回日本臨床ウイルス学会，大阪
66. 浦岡美奈子，原田佳明，荒木　敦，安原昭博，杉本健郎（2004）胃瘻造設術後の家族アンケート，第46回日本小児神経学会，東京
67. 川口琢也，稲垣隆介，大石哲也，山原崇弘，辻雅之，龍　暁志，桜井靖夫，山内康雄，河本圭司，北村直行，木下　洋（2004）低出生体重児の脳室内出血．第 32 回日本小児神経外科学会，さいたま
68. 豆板律子，濱田梨恵，長濱輝代，杉村省吾，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）心理士は小児白血病患児に何ができるのか．第 20 回日本小児がん学会，京都
69. 村上貴孝（2004）小児のけいれん重積状態に対する初期治療の検討．第 46 回日本小児神経学会，東京
70. 村上貴孝（2004）痙攣重積症の治療：群発型痙攣について．第 18 回日本小児救急医学会，金沢
71. 喜多俊二，村上貴孝（2004）軽症下痢に伴うけいれん，良性乳児けいれん：中野こども病院のまとめ．第46回大阪小児てんかん研究会，大阪
72. 喜多俊二，圀府寺美，村上貴孝，藤田安奈，奥田晃司，藤井喜充，目黒敬章，木野　稔，中野博光（2004）細菌性髄膜炎の臨床的検討―初期病像を中心に―．第17回近畿小児科学会，大阪
73. 田中幸代，藤原　亨，辻美代子（2004）バルプロ酸 Na 服用中に発生した慢性膵炎症例の 1 例．第28回大阪市東部小児談話会，大阪
74. 豆板律子，長濱輝代，杉村省吾，奥田晃司，石崎優子，村上貴孝，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）急性リンパ性白血病を発病した6歳女児との関わり．第1回日本小児心身医学会関西地方会，大阪
75. 原田佳明，中村眞紀子，大川　薫，高尾美幸（2004）病診連携における興味ある症例について：小児科主要入院疾患におけるクリニカルパスの使用経験と興味ある症例（大腸ポリポジースの1例）について．第2回寝屋川小児科懇話会，寝屋川
76. 原田佳明（2004）マイコプラズマ感染症の興味ある症例．第9回寝屋川小児科勉強会，寝屋川
77. 藤田安奈，目黒敬章，奥田晃司，喜多俊二，藤井喜充，村上貴孝，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2004）学校検尿で見つかった急性発症1型糖尿病（IDDM）の1例．第17回近畿小児科学会，大阪
78. 藤原　亨，田中幸代，辻　美代子（2004）エコーで診断した腸回転異常症．第 29 回大阪市東部小児談話会，大阪
79. 村上貴孝（2004）てんかんの基礎知識と現場での対応．大阪市立光陽養護学校　校内研修

会，大阪
80. 村上貴孝（2004）医ケアは会議室でおきてるんじゃない！　大阪養護教育と医療研究会，大阪
81. 村上貴孝（2004）各種小児てんかんに対するClobazamの効果. 第28回大阪てんかん研究会，大阪
82. 村上貴孝（2004）脳障害による発達障害とその支援．保育ボランティアステップアップ講座，大阪
83. 目黒敬章，大橋鈴子，喜多俊二，奥田晃司，藤井喜充，村上貴孝，圀府寺美，木野　稔，中野博光，山本哲郎（2004）肺炎を反復し，気管支拡張症と診断された喘息児の1例．第164回大阪小児科学会，大阪
84. 森　喜造，池本裕実子，寺口正之，小林陽之助（2004）心タンポナーデ，乳び胸を合併した特発性心外膜炎の1乳児例. 第18回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会，大阪
85. 森　喜造，池本裕実子，寺口正之（2004）大量の心嚢液・胸水・腹水貯留をきたした先天性リンパ管異形成の1乳児例. 第43回大阪小児循環器談話会，大阪
86. 森　喜造，寺口正之，荒木　敦，蓮井正史，木下　洋，小林陽之助（2004）CK高値を伴った急性脳症の 1 症例．第 162 回大阪小児科学会，大阪
87. 渡邉健太郎，高田晃平，徳原克治，棚野晃秀，北村直行，辰巳貴美子，木下　洋（2004）抜管に難渋している巨大臍帯ヘルニアの1例．第51回小児外科わからん会，大阪

著　書
1. 石崎優子（2004）慢性疾患児の長期フォローにおけるポイントと落とし穴．メンタルヘルスケア（小児科外来診療のコツと落とし穴）（星加明徳編）204–205頁，中山書店，東京
2. 木野　稔（2004）外来診断：腹部エコー検査を行っていて診断に迷う所見．外来診断（小児科外来診療のコツと落とし穴）（田原卓浩編）192–194頁，中山書店，東京
3. 木野　稔（2004）小児救急：救急の場で腎・尿路疾患を適切に評価するには．小児救急（小児科外来診療のコツと落とし穴）（市川光太郎編）107–107頁，中山書店，東京
4. 木野　稔（2004）小児救急：後で保護者とトラブルにならないための対策．小児救急（小児科外来診療のコツと落とし穴）（市川光太郎編）207–207頁，中山書店，東京
5. 木野　稔（2004）新臨床研修医のための救急診療ガイドライン　吐血．新臨床研修医のための救急診療ガイドライン（岡元和文・相馬一亥・山科　章・山田至康・行岡哲男編）36–37頁，総合医学社，東京
6. 谷内昇一郎（2004）食物アレルギーの治療と管理（主なアレルゲンとその対策：大豆）．食物アレルギーの治療と管理（小林陽之助監修）161–163頁，診断と治療社，東京
7. 谷内昇一郎（2004）食物アレルギーの治療と管理（食物アレルギーと喘息）．食物アレルギーの治療と管理（小林陽之助監修）247–253頁，診断と治療社，東京
8. 谷内昇一郎（2004）食物アレルギーの治療と管理（主なアレルゲンとその対策：卵）．食物アレルギーの治療と管理（小林陽之助監修）147–152頁，診断と治療社，東京

外科学講座

〈研究概要〉

1. 噴門側切除後の機能温存再建法

93–00年までに噴切後空腸間置術を施行した35例（幽門形成PP（–）17例，PP（+）18例）を対象とした．PP（–）症例ではほとんどの症例で胃排出が遅延し，QOLは不良であった．術後愁訴，食事摂取量，体重の回復においては，PP（+）は有益であったが，逆流性胃炎が強く機能温存の面からは問題が多い．そこで，迷走神経Latarjet枝を温存した再建法を考案し，03年より早期胃癌に適応しているが，愁訴は少

なく，胃排出も良好のようで，症例の集積を行っている．（中根恭司）

2. センチネルリンパ節生検（SLN）に基づく縮小手術

SLN に転移がなければ郭清を省略（縮小）する手術が可能かどうかにつき，症例を集積し検討中である．（中根恭司）

3. 早期胃癌におけるICG試薬を用いたセンチネルノードナビゲーションサージェリーの検討

我々は2001年7月からICGを用いたセンチネルリンパ節の同定を63例の症例に対し試みました．その結果ICGによるSNの同定は，簡便なSN同定法と考えられる．今後更なる症例の蓄積を続けていきたい．（中井宏治）

4. 小児胆道拡張症術後患児における胃内胆汁逆流の検討

成人では幽門側胃切除術後に残胃癌や食道炎の発症率が高いことが知られており，胆汁・膵液の胃・食道粘膜への暴露が発症要因とされる．胆道拡張症に対する分流手術後においても胆汁の流出路が変更されることで胆汁の胃粘膜への暴露が懸念される．そこで胆道拡張症術後の患児を対象に，胃内に留置した吸光度計を用いて胆汁逆流の程度を測定するとともに上部消化管内視鏡を施行し，再建術式による差異を検討した．その結果，肝管十二指腸吻合例で明らかな胆汁の胃内への逆流が確認されたのに対して，肝管空腸Roux-Y吻合例では有意な逆流所見は得られなかった．また内視鏡検査では肝管十二指腸吻合例で肥厚性胃炎と Grade 3 の逆流性食道炎を認めたが，肝管空腸 Roux-Y 吻合例では胃粘膜病変は認めなかった．術後長期の生命予後が確保されている胆道拡張症術後の患児において，将来の胃癌発癌を考慮すると肝管空腸Roux-Y吻合再建が望ましいと考えられた．（濱田吉則）

5. フリーラジカルスカベンジャーを用いた肝不全治療について

大量肝切除後の肝不全のメカニズムとして活性酸素などの free radical の TNF-α 誘導が関与していると考えられることから，肝切除後エンドトキシン血症モデルと肝不全モデルを作成し，free radical scavenger である Edaravone（Eda）の生体保護効果とその作用機序を検討した．70%肝切除ラットに LPS を静脈投与したエンドトキシン血症モデルとマウスに抗Fas抗体を投与した劇症肝炎モデルを作成．Edaは両実験モデルにおいて生存率を有意に向上させた．Eda投与で炎症性サイトカイン，肝組織の変性壊死やTUNEL染色陽性細胞数，肝組織中の転写因子nuclear factor-κB活性の有意な抑制と，Bcl-2の活性化によるcaspase 3，8 の抑制が認められた．Eda は炎症性サイトカインとアポトーシスの抑制による肝保護作用を示したことから，今後は臨床応用の検討を行う予定である．（權　雅憲）

6. 肝不全モデルにおけるフィブロネクチンの生体保護作用の検討

フィブロネクチン（FN）は細胞の保持と移動を制御する高分子糖蛋白である．われわれは，D-ガラクトサミン（D-G）と Lipopolysaccharide（LPS）の同時投与で誘発したマウスの肝不全モデルに対する FN の生体保護効果とその作用機序を検討した．9 週齢の雌性マウスに D-G 400 mg/kg と LPS 50 μg/kg を腹腔内に同時投与した．D-G/LPS 投与 30 分前に FN 500 mg/kg を静脈投与した群をF群とし，同量のBSAを投与した群をC群とした．D-G/LPS同時投与により，C群では24時間以内に全例が死亡したが，FN群での生存率は100%と有意に良好であった．また，F群ではC群よりも血清中および残存肝組織中炎症性サイトカインの上昇が抑制され，TUNEL染色のpositive indexやcaspase 3も抑制された．さらにF群ではtumor necrosis factor-αの転写因子であるnuclear factor-kappa B（NF-κB）の活性が抑制された．FNはNF-κBを介するサイトカインの抑制と caspase 3 を介するアポトーシスの抑制により，D-G/LPS 誘発肝不全マウスの生体保護作用をもたらしたと考えられた．（權　雅憲）

7. 糖尿病ラット皮膚欠損モデルにおけるフィブロネクチン局所投与の検討

フィブロネクチン（FN）は，フィブリン，コラーゲン，Factor XIII 等との結合性を有し，血液凝固，創傷治癒に関与している．われわれは，FN の皮膚欠損修復促進作用を検討した．SD 系雄性ラットの背部正中部に円形の皮膚全層欠損創を作製．欠損部にヒト血清FN 1 mg を単回投与した群をF群とし，生食を投与後した群をC 群とした．さらにストレプトゾトシンで糖尿病ラットを作製し同様の検討を行った．FN を0.1，1，2.5 mg 投与した群とC 群とを比較した前実験ではFN 1，2.5 mg 投与群がC 群よりも皮膚欠損部修復率が高く有意差を認めた．皮膚欠損部のハイドロキシプロリン量はF群がC群よりも有意な高値を示した．組織学的検討ではF群では線維芽細胞（3，5病日），新生血管（5病日），膠原線維（7病日），扁平上皮の再生（14 病日）の量的スコアーがC 群よりも有意に高かった糖尿病ラットの皮膚欠損モデルでの検討でも，F 群はC 群よりも有意に良好な皮膚欠損部修復率を示した．FN の局所単回投与は，正常及び糖尿病ラットの皮膚欠損部の良好な組織修復を示したことから，糖尿病患者の創傷治癒や皮膚潰瘍への臨床応用が期待できると考えられた．（權　雅憲）

8. フィブロネクチンを用いた術後創傷治癒促進効果の検討

フィブロネクチン（FN）はフィブリン，コラーゲン，Factor XIII 等との結合性を有し，血液凝固，創傷治癒に関与している．今回はFNの創傷治癒促進作用を検討した．創傷作製直後にヒト血清FN（10 mg/kg）投与群をF群，ヒト血清アルブミン（10 mg/kg）投与群をA群とした．ラット背部に皮膚切開創を縫合後，経時的に皮膚縫合部の抗張力を測定した．また，正中線上の開腹創を縫合後，腹部にバルーンを挿入し，腹壁が離開する圧を測定した．皮膚縫合部の抗張力および腹壁破裂圧は，F群がA群よりも高値を示し，4病日で有意差を認めた．皮膚縫合部のハイドロキシプロリン量もF群がA群よりも多く，7病日で有意差を認めた．ウサギの抗ラットFN抗血清（Anti-FN）用いた検討では，Anti-FN投与により皮膚縫合部の抗張力は著しく低下したが，FN の投与により良好な抗張力が維持された．FN 投与は皮膚および腹壁縫合部の抗張力維持に有効であった．（權　雅憲）

9. Dynamic graciloplasty による肛門機能の改善に関する研究

下部直腸癌患者においては依然として腹会陰式直腸切断術が行われている．これらの患者は腹部の永久的な人工肛門を有することにより社会的，精神的制約を受けている．この事実を踏まえて新しい手術術式を研究してきた．そして従来であれば腹会陰式直腸切断術を必要とする直腸癌患者に対し，薄筋の有茎移植により会陰部に新しい肛門を増設するいわゆるDynamic graciloplastyの手術を試みた．この術式は平成17年3月までにすでに直腸癌患者9例に対して施行し一定の結果を得た．肛門部の外傷により重症の便失禁をきたした 7 症例に対しても施行してきた．今後は Dynamic graciloplasty を施行された患者の continence と排便機能のメカニズムを明らかにし，理論的にも臨床的にもより優れた機能を有する術式を確立したい．（吉岡和彦）

10. 膵癌の術前放射線化学療法

当科では 2000 年末より，最難治消化器癌とされる膵癌の集学的治療の一環として，MD-CT 等で評価し，切除可能と診断された場合，術前放射線化学療法（CRT）を積極的に施行している．すでに 32 例に施行し，24 例で切除可能であった．現時点での本治療の臨床ならびに病理学的解析では，CRT により，有痛症例では大半に除痛効果があり，PS の悪化を招くことは稀で，重篤な副作用は認められなかった．従来の切除症例との比較では，CRT 症例で有意にリンパ節転移が減少し，予後向上することが明らかになった．今後さらに本治療を継続し，臨床データーを集積し，適格症例を明らかにすることにより，CRT の標準療法としての地位を確立する．（高井惣一郎）

11. 進行膵癌に対するGemcitabineとテーラーメード癌ペプチドワクチン併用療法

2004年9月より，久留米大学免疫学教室との共同研究で，切除不能膵癌と術後再発膵癌を対照として，Gemcitabine と癌ペプチドワクチン併用療法の第 1 相試験を完了し，本療法がコンプライアンス良好な治療法であることが証明された．（高井惣一郎）

12. 肝細胞癌手術の切除断端の評価

現在日本における肝細胞癌の9割以上がウイルス性肝硬変をベースに発生するため, 肝癌手術では癌の進展度と同時に肝機能障害の程度が手術適応や切除範囲に影響する.

手術術式としては解剖学的切除と部分切除があり，前者は術中転移や出血の制御に有利だが，切除範囲が大きく障害肝での適応には限界がある．逆に後者は術中転移や出血の懸念があるが，切除範囲を制限でき，肝機能低下症例への手術適応の範囲が広がる.

現在肝細胞癌に対する手術では，腫瘍と肝切離断端距離は5 mm以上が必要と言われている．しかし肝機能低下による切除範囲の制限や腫瘍と肝内脈管の位置関係から，肝切離断端距離0 mmで肝内脈管から直接腫瘍を剥離摘出せざるを得ない場合も少なくない.

当科では，肝内脈管に接する肝細胞癌をその脈管から直接剥離摘出した症例の予後や再発形式を評価し，肝切離断端距離 0 mm の手術の妥当性を検討した．その結果，肝癌を切除断端距離 0 mm で切除し，残存肝容量温存を計る切除術式は有効な術式であることを示した．（松井陽一）

13. 肝細胞癌術前全肝chemolipiodolizationによる術後肝癌再発および生存率におよぼす効果について

肝細胞癌に対する肝切除前のtranscatheter arterial chemoembolization（TAE）に関しては，これまでに多数報告されているが, 術前TAEは術後肝癌再発や術後生存には寄与しないとする考え方が一般的である．肝細胞癌に対する術前 TAE は，肝細胞癌の基礎疾患に肝硬変が併存していることが多いため，TAE 自体による肝機能障害を考慮し, 最近では担癌区域枝あるいは亜区域枝よりの選択的なTAEが行われている.

我は1992年から 1999年までに59例の肝細胞癌治癒切除症例に対して施行された術前TAEを以下の2群に分類した．すなわち担癌葉にのみTAEを施行した36例（局所治療群），および担癌葉にTAEを施行し，さらに非担癌葉に対して chemolipiodolization を施行した 23 例（全肝治療群）である．これらの 2 群間で 2003 年 1 月までの術後無再発生存率，累積生存率は全肝治療群が有意に良好であった．しかしこれらは retrospective study なので，より詳細な検討を行うために2003年11月より消化器内科，放射線科との連携のもとrandomized control studyを現在行っている．（海堀昌樹）

14. C型肝炎関連肝細胞癌に対する系統的および非系統的肝切除の検討

C 型肝炎関連肝癌に限局し，1992 年より 2003 年までに 247 例の根治的肝切除術例を対象に系統的および非系統的肝切除（以下，部分切除）の短期及び長期予後について比較検討した．背景因子では術前肝機能は部分切除群が有意に不良であった．部分切除群は手術時間が有意に短かった．部分切除群では系統切除群に比し切除断端癌浸潤が多く，また肝線維化が高度であった．しかし，術後無再発生存率，累積生存率において両群で差は認めなかった．C 型肝炎関連肝癌に対する肝切除は局所根治性を確保した必要最小限の肝部分切除術が有用と考えられた．（海堀昌樹）

15. 肝アシアロシンチによる生体部分肝移植前後の肝機能評価

肝細胞膜表面上のアシアロ糖蛋白受容体との結合を集積機序とする ^{99m}Tc-GSA シンチグラフィは肝細胞の機能総量の直接的な評価が可能である．当科では放射線科との協同にて，ドナー（残存左葉），レシピエント（ドナーの右葉）に対し術前，術後1，3，6，12ヶ月での肝再生の評価を行っている.

ドナー肝再生における肝アシアロシンチでの肝機能評価は腹部 CT 検査での再生肝容積の経過と概ね同じ傾向を示した．レシピエントでは，肝アシアロシンチは特に C 型肝炎レシピエントでの術後肝炎再

発時に，一般生化学検査および腹部CT検査などでは評価し得ない再発肝炎による肝障害の進行性悪化の病態を鋭敏に反映していた．（海堀昌樹）

16. 肝細胞癌肝切除後の予後におよぼす腎機能障害の影響

術前に creatinine clearance（CrCl）を施行した 224 例の肝癌肝切除患者を腎機能障害群，正常群に分けた．また腫瘍径 5 cm 以下，単発肝癌 132 例に限定し，同様に 2 群に分けた．CrCl が 70 ml/min 以下を腎機能障害とした．結果は肝癌の腫瘍径，数を考慮しない場合は両群において生存率は有意差を認めなかった．単，多変量解析による無再発生存率，累積生存率に影響を与える予後因子はともに術前腎機能障害の有無であった．（海堀昌樹）

17. 当科における肝細胞癌手術症例の予後解析

当科では10年前から肝細胞癌の手術に，肝切除容積を最小限にし，術後肝虚血再潅流傷害を予防するため，肝門部血流遮断を伴わないMicrowave凝固壊死療法を用いた肝切除術を施行してきた．214 例の手術経験からこの手術方法の簡便性, 安全性, 有用性を報告した．: Hepatogastroenterology in press.（里井壮平）

18. 肝内胆管癌におけるC型肝炎罹患者の変遷とその予後について

過去10年間の当院消化器外科・内科の肝内胆管癌症例を後ろ向きに検討し，肝内胆管癌35例のC型肝炎罹患率・年次推移・臨床的予後を調査した．最近5年間でC型肝炎罹患率は明らかに増加しており，切除症例の検討では，C 型肝炎併存患者では肝予備能が低下し，肝切除容積が少ない傾向があり，治癒切除率が低く，予後が悪い傾向がみられた．：消化器外科学会雑誌37巻12号1813–1818，2004.（里井壮平）

19. 膵癌進展度診断におけるMulti-Detector row CT（MDCT）の有用性

過去10年間に経験した202例の膵癌のうち160例に開腹術が行われた．44例（27.5%）が切除不適と判断され，切除例116例のうち42例（36%）がr2手術となり，膵癌の術前診断の不正確性が浮き彫りとなった．そこでわれわれは，MDCT を導入し，腫瘍の進展度を評価した上で angiography/CTHA/CTAP（従来検査）の所見と比較した．2002年9月から2004年7月 までに経験した61例を対象とした．従来検査所見との比較で，肝転移診断に対するMDCTの感度（88%），特異度（93%）はともに優れていた．特に最大径10 mm以下の肝転移の検出能に差が見られた．切除例における腫瘍因子との整合性に関して，外科的・病理学的門脈/動脈浸潤とMDCTの一致率は90%前後であり，従来検査法より優れていた．（里井壮平）

20. 膵頭十二指腸切除術（PD）194症例の術後合併症の疾患別解析

過去10年間の膵頭部領域の悪性腫瘍に対するPD194例の術後合併症を診断別に比較し，それらの予知因子を分析した．対象の内訳は膵癌110例（P群），胆管癌45例（B群），十二指腸乳頭部癌39例（V群）であった．合併症発生率はP群で47%，B群で71%，V群69%で，有意にP群で低く，在院死は各々 5.5%，11%，2.6%であり，有意な差は認められなかった．（里井壮平）

21. 膵臓外科領域における閉鎖吸引式ドレーンの臨床的評価

膵臓外科領域の術後合併症率は依然高く，当科での手術死亡率は1.8%，在院死亡率は5.5%であるが，合併症率は47%であり，その内，感染性合併症は60%を占める．また，全合併症に占めるドレーン感染の割合は10%と高い．そこで，2004年4月から逆行性感染予防のため閉鎖吸引式ドレーンを導入し，ドレーン感染や腹腔内感染症の発症率やドレーン排液の培養検査結果を従来の開放式ドレーン管理の結果と比較している．（里井壮平）

22. 術後創感染に対する創傷被覆材の使用

創傷被覆剤を用いた創管理のパイロットスタディを行った．過去 1 年間の当科での手術症例は 1260 例で，小児・乳腺・血管・腹腔鏡外科を除く開腹手術症例は359例であった．その内，術後離開創を認めたのは36症例であった（10%）．臓器・体腔感染を伴った4例と創傷治癒遅延により再縫合処置を余儀なくされた 4 例を除いた 28 例を対象とした．ハイドロファイバーを用いて被覆した群（アクアセル群）11 例とガーゼを用いて被覆したコントロール群（ガーゼ群）17 例とに無作為に振り分け，創部が上皮化した時点を治癒と判断し，それぞれの治癒期間を評価した．両群の背景因子に差はなく，創最大径や治癒日数に差はなかったが，アクアセル群の創 1cm あたりの治癒日数はガーゼ群と比較して有意に短縮していた．また創培養陽性症例においても有意差は検出されなかったが，創傷治癒日数の短縮傾向を示した．以上より，術後離開創におけるハイドロファイバーの有用性が示唆された．（里井壮平）

23. 乳癌

当大学の乳癌手術症例は約 160 件で，近年の乳癌検診の普及に伴い，早期癌が約 55%と増加してきている．早期癌の5年生存率は約90%と極めて良好である．

そのなかでまず問題となるのは悪性腫瘍のリンパ節転移である．腫瘍占拠部位から流出するリンパ流が最初に経由するセンチネルリンパ節といわれ，検索することにより下流のリンパ節への癌の転移状況をしる指標となる．いままではリンパ節郭清は腫瘍占拠部位に属する領域リンパ節をすべて郭清するのが主流であったが，近年の医学の進歩により最小限の手術が普及し，なるべく侵襲の少ない手術が叫ばれるようになっている．よって腋窩リンパ節廓清により上肢の浮腫やしびれは必須であったが，センチネルリンパ節生検により患者様のQOLは確実に向上している．

そこで当科において1999年より色素をもちいたセンチネルリンパ節生検を行ったきたが，さらに臨床研究として4 node sampling method（触れるリンパ節を4つ摘出する方法）を行ない，これにより異物を用いる必要のなく，センチネルリンパ節生検に比しほぼ正診率が同等であることが分かった．

そしてさらに患者様へのICのもとすぐ腋窩リンパ節廓清するのではなく，乳癌手術後に腋窩リンパ節が触れるようになった場合のみ廓清するというDelayed surgeryも行なっている．

また，術前診断に関しては非触知性乳癌に対するマンモトーム生検や異常乳頭分泌症例に対して乳管内視鏡を積極的に行っている．（山本大悟）

24. 乳管洗浄液のLOH解析による乳癌の診断

乳癌は乳管から発生するため，乳管からのアプローチは早期診断，早期手術につながると期待できる．そこで我々は術前に乳管より生食 2–3 ml にて洗浄し，採取した洗浄液の遺伝子解析による乳癌の存在診断の可能性を検討している．これまでに 35 例の乳癌，5 例の乳管内乳頭腫について血液，洗浄液，組織の（1p34領域：D1S552，D1S2843，D1S2644，13q12領域：D13S171，D13S260，D13S267，17p13.3領域：D17S849，D17S926，D17S1866，17q21.1 領域：D17S934，D17S920，D17S1861）の各 Marker における Microsatellite analysis を行い，その結果を検討したところでは乳癌において洗浄液のLOH patternは腫瘍組織のLOH patternと一致した．

今後，症例数，Marker数を増やしていき，より感受性，特異性の優れたMarkerの組み合わせを設定することによって画像診断や血中腫瘍Markerでは診断困難な早期の乳癌を洗浄液で検出する事である．（山本大悟）

25. MNU誘導による乳癌発癌モデルにおけるパクリタキセルの経乳管内投与の抗腫瘍効果の検討

パクリタキセルは乳癌治療における重要な抗癌剤のひとつであり，そのメカニズムは細胞分裂を阻害しアポトーシスをひきおこすと考えられている．

そこでS-DラットにMNU投与を行ない，発生した乳癌を乳管内視鏡で確認．また，パクリタキセルを

乳頭より乳管内へ直接投与し，乳癌に対するパクリタキセル抗腫瘍効果について検討した．

結果としてパクリタキセル投与群では，非治療群に比べて乳腺腫瘍個数の減少を認めた．さらに，高濃度経乳管投与群では高濃度腹腔内投与群より顕著に減少がみられた．組織学的には，高濃度経乳管投与群で腫瘍細胞の多くにアポトーシスを認め，apoptotic indexにおいても高濃度経乳管投与群は低濃度経乳管投与群，高濃度腹腔内投与群に比べ高かった．

高濃度経乳管投与群で，microvessel densityは，高濃度腹腔内投与に比べ低かった．ラットのパクリタキセル血中濃度では，経乳管投与のパクリタキセルのCmaxは，腹腔内投与に比べて低かった．

副作用としてまず各群間において経時的に体重は有意差がなかった．

さらにH-E染色とWhole mountで乳腺構造を検索したところ，各投与群で乳腺構造に異常なく，各臓器にも副作用は認めなかった．

よってパクリタキセル経乳管投与は，直接腫瘍細胞にパクリタキセルが曝露されることにより，より多くアポトーシスを誘導し，血管新生を抑制することで乳癌細胞の増殖を抑制したと考えられた．

パクリタキセルを局所投与することにより全身に対する副作用を軽減し，抗腫瘍効果を増強することができるかもしれない．

将来的にこの研究は，乳癌治療の可能性を広げるものである．（山本大悟）

26. ラット小腸移植モデルにおけるEGFの腸適応促進効果の検討

EGFはラット小腸移植後の移植腸管に対し，糖の消化吸収とペプチドの吸収に促進効果が期待される．（中井宏治）

27. 食道癌術後患者に対して，グルタミン投与効果の検討

グルタミンはImmunonutritionの効果があるとされており，外科的浸襲野多い食道癌術後患者に対し，その効果の検討を行っている．予定患者数は10例，現在3例が終了しました．（中井宏治）

〈研究業績〉

原　著

1. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Okazaki K, Tsubura A (2004) Conjugated Docosahexaenoic Acid Is a Potent Inducer of Cell Cycle Arrest and Apoptosis and Inhibits Growth of Colo 201 Human Colon Cancer Cells. Nutrition and Cancer 50(1): 71–79
2. Hamada Y, Tanano A, Takada K, Watanabe K, Tokuhara K, Sato M (2004) Magnetic resonance cholangiopancreatography on postoperative work-up in children with choledochal cysts. Pediatr Surg Int 20(1): 43–46
3. Inoue K, Nakane Y, Michiura T, Nakai K, Satu M, Okumura S, Yamamichi K, Okamura S, Imabayashi N (2004) Trends in long-term survival following surgery for gastric cancer: A single institution experience. Oncology Reports 11: 459–464
4. Inoue K, Onishi H, Kato Y, Michiura T, Nakai K, Sato M, Yamamichi K, Machida Y, Nakane Y (2004) Comparison of intraperitoneal continuous infusion of floxuridine and bolus administration in a peritoneal gastric cancer xenograft model. Cancer Chemother Pharmacol 53: 415–422
5. Yamamoto D, Tanaka K (2004) A Review of Mammary Ductoscopy in Breast Cancer. The Breast Journal 10(4): 295–297
6. Yamamoto D, Tanaka K, Blamey Roger (2004) Mammary ductoscopy and breast cancer. Transworld Research Network 6: 211–216
7. Yamamoto D, Yamada M, Okugawa H, Tanaka K (2004) Predicting invasion in mammographically detected microcalcifcation: a preliminary report. World Journal of Surgical Oncology 2(8)
8. Nakane Y, Inoue K, Michiura T, Nakai K, Sato M, Baden T, Okumura S, Yamamichi K (2004) Combined S-1 and Cisplatin Preoperative Chemotherapy for Patients with Advanced Gastric Cancer: Report of Five Cases. Hepato-Gastro-

enterology 51: 289–293
9. Nakane Y, Michiura T, Inoue K, Sato M, Nakai K, Ioka M, Yamamichi K (2004) Role of Pyloroplasty after Proximal Gastrectomy for Cancer. Hepato-Gastroenterology 51: 1867–1871
10. Nakai K, Hamada Y, Kato Y, Kitagawa K, Hioki K, Ito S, Okumura T (2004) Further evidence that epidermal growth factor enhances the intestinal adaptation following small bowel transplantation. Life Sciences 75(2004): 2091–2102
11. Okumura S, Baba H, Kumada T, Nanmoku K, Nakajima H, Nakane Y, Hioki K, Ikenaka K (2004) Cloning of a G-protein-coupled receptor that shows an activity to transform NIH3T3 cells and is expressed in gastric cancer cells. Cancer Sci 95(2): 131–135
12. Kaibori M, Matsui Y, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) Positive status of alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin:important prognostic factor for recurrent hepatocellular carcinoma. World J Surg 28(7): 702–707
13. Kaibori M, Tanigawa N, Matsui Y, Kwon A-H, Sawada S, Kamiyama Y (2004) Preoperative chemolipiodolization of the whole liver for hepatocellular carcinoma. Anticancer Res 24(3b): 1929–1933
14. Kaibori M, Yanagida H, Nakanishi H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T, Kamiyama Y (2004) Effect of hepatocyte growth factor on induction of cytokine-induced neutrophil chemoattractant in rat hepatocytes. Transplant Proc 36(7): 1977–1979
15. Kaibori M, Yanagida H, Uchida Y, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T, Kamiyama Y (2004) Pirfenidone protects endotoxin-induced licer injury after hepatic ischemia in rats. Transplant Proc 36(7): 1973–1974
16. Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Hijikawa T, Kwon A-H, Okumura T, Kamiyama Y (2004) Effects of pirfenidone on endotoxin-induced liver injury after partial hepatectomy in rats. Transplant Proc 36(7): 1975–1976
17. Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T, Kamiyama Y (2004) Effect of pirfenidone on induction of chemokines in rat hepatocytes. Transplant Proc 36(7): 1980–1984
18. Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Giulietti A, Overbergh L, Rutgeerts O, Valckx D, Waer M, Mathieu C, Pirenne J (2004) Early accumulation of IFN-γ in grafts tolerized by donor-specific blood transfusion: friend or enemy. Transplantion 78(12): 1747–1755
19. Kitade H, Kawai M, Rutgeerts O, Landuyt W, Waer M, Mathieu C, Pirenne J (2004) Requirements, compartments, timing of expansion, and phenotype of regulatory cells induced by donor-specific blood transfusion alone. J Immunol submitted
20. Kitagawa K, Hamada Y, Kato Y, Nakai K, Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2004) Epidermal growthe factor and interleukin-1β synergistically stimulate the production of nitric oxide in rat intestinal epithelial cells. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 287: G1188–G1193
21. Kwon AH, Matsui Y, Kaibori M, Kamiyama Y (2004) Functional hepatic regeneration following hepatectomy using galactosyl-human serum albumin liver scintigraphy. Transplantation Proceedings 36(8): 2257–2260
22. Kwon AH, Matsui Y, Kaibori M, Satoi S, Kamiyama Y (2004) Safety of hepatectomy for living donors as evaluated using asialoscintigraphy. Transplantation Proceedings 36(8): 2239–2242
23. Kwon A-H, Tsuchiya H, Qiu Z, Yanagimoto H, Kaibori M (2004) Fibronectin Protects Endotoxin-Induced Liver Injury After Partial Hepatectomy. Transplantation Proceedings 36: 1985–1987
24. Kwon A-H, Inui H, Matsui Y, Uchida Y, Fukui J, Kamiyama Y (2004) Laparoscopic Cholecystectomy in Patients with Porcelain Gallbladder based on the Preoperative Ultrasound Findings. Hepato-Gastroenterology 51: 950–953
25. Nakamura K, Inaba M, Sugiura K, Yoshimura T, Kwon A-H, Kamiyama Y, Ikehara S, (2004) Enhancement of Allogeneic Hematopoietic Cell Engraftment and Prevention of GvHD by Intra-Bone Marrow Bone Marrow Transplantation Plus

Donor Lymphocyte Infusion. Stem Cells 22(2): 125–134
26. Nakanishi H, Kaibori M, Teshima S, Yoshida H, Kwon A-H, Kamiyama Y Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2004) Pirfenidone inhibits the induction of iNOS stimulated by interleukin-1beta at a step of NF-kappaB DNA binding in hepatocytes. J Hepatol 41(5): 730–736
27. Pirenne J, Van Gelder F, Kharkevitch T, Nevens F, Verslype C, Peetermans WE, Kitade H, Vanhees L, Devos Y, Hauser M, Hamoir E, Noizat-Pirenne F, Pirotte B (2004) Tolerance of liver transplant patients to strenuous physical activity in high-altitude. Am J Transplant 4(4): 554–560
28. Tanigawa N, Kariya S, Komemushi A, Satoi S, Kamiyama Y, Sawada S, Kojima (2004) Stenting of the superior mesenteric artery as a preoperative treatment for total pancreatectomy. Cardiovasc Intervent Radiol 27(5): 533–535
29. Teshima S, Nakanishi H, Kamata K, Kaibori M, Kwon A-H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2004) Cycloprodigiosin up-regulates inducible nitric oxide synthase gene expression in hepatocytes stimulated by interleukin-1β. Nitric Oxide 11: 9–16
30. Teshima S, Nakanishi H, Nishizawa M, Kitagawa K, Kaibori M, Yamada M, Habara K, Kwon A-H, Kamiyama Y, Ito S, Okumura T (2004) Up-regulation of IL-1 receptor through P13K/Akt is essential for the induction of iNOS gene expression in hepatocytes. J Hepatol 40(4): 616–623
31. Tsuchiya H, Kaibori M, Yanagida H, Yokoigawa N, Kwon A-H, Okumura T, Kamiyama Y (2004) Pirfenidone prevents endotoxin-induced licer injury after partial hepatectomy in rats. J Hepatol 40(1): 94–101
32. Yanagida H, Kaibori M, Yamada M, Habara K, Yokoigawa N, Kwon A-H, Kamiyama Y, Okumura T (2004) Induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes isolated from rats with ischemia-reperfusion injury. Transplant Proc 36(7): 1962–1964
33. Tanaka K, Yamamoto D, Yamada M, Okugawa H (2004) Influence of cellularity in human breast carcinoma. The Breast 13: 334–340
34. Kwon AH, Matsui Y, Uemura Y (2004) Laparoscopic cholecystectomy as a treatment for xanthogranulomatous cholecystitis. J Am Coll Surg 199(2): 204–210
35. Kwon AH, Qiu Zeyu, Nagahama H, Kaibori M, Kamiyama Y (2004) Fibronectin suppresses apoptosis and protects mice from endotoxic shock. Transplant Proc 36(8): 2432–2435
36. 吉岡和彦，岩本慈能，森田美佳，米倉康博（2004）【肛門疾患診断・治療の実際】 肛門機能不全の診断・治療の実際（解説 / 特集）．臨床外科　59(8): 1007–1011
37. 吉岡和彦，岩本慈能，森田美佳，米倉康博，中野雅貴，中根恭司（2004）特集　日常よくみる大腸疾患診療の実際　大腸疾患診療の実際　巨大結腸・慢性便秘. 外科治療　91(1): 63–66
38. 元廣高之，真田俊明，大道道大，浜田吉則（2004）成人S状結腸間膜裂孔ヘルニアの1例. 日本消化器外科学会雑誌　37(11): 1777–1780
39. 佐藤正人，小切匡史（2004）腹腔鏡下盲腸固定術を施行したMobile Cecum Syndromeの1例（原著論文／症例報告）．日本小児外科学会雑誌　40(1): 34–36
40. 山道啓吾，中根恭司，日置紘士郎（2004）悪性腫瘍と栄養管理の基本．事例・症例に学ぶ栄養管理　174–177
41. 山本大悟，為政大幾，岡本真由美，山田正法，坂井田紀子，植村芳子，奥川帆麻，田中完児（2004）乳頭部にできた皮膚原発Adenoid Cystic Carcinoma の 1 例．乳癌の臨床　Jpn J Breast Cancer　19(4): 358(50)–362(54)
42. 田中完児（2004）社会医学　乳癌の啓発運動をはじめとする社会運動　乳癌ピンクリボン運動（解説）．医学のあゆみ　別冊乳腺疾患：507–510
43. 徳原克治，浜田吉則，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，佐藤正人，上山泰男（2004）小児期に発見された肝左葉形成不全の1例. 日本小児外科学会雑誌　40(1): 64–65(82–83)
44. 畑　嘉高，岩本慈能，米倉康博，森田美佳，吉岡和彦，坂井田紀子（2004）直腸原発巨大GISTの1例．日本大腸肛門病学会雑誌　57(4): 198–203

45. 浜田吉則，加藤泰規，川口雄才，上山泰男，日置紘士郎（2004）【緩和医療における輸液】終末期がん患者の QOL を高めるための輸液療法（解説／特集）．緩和医療学　6(2): 124–129
46. 浜田吉則，高田晃平，大石賢玄，渡辺健太郎，棚野晃秀，徳原克治，上山泰男（2004）タンコンブケースレポート　肝臓外科領域（小児）巨大臍帯ヘルニアの二期的腹壁閉鎖手術における肝被膜破綻部からの出血に対するタンコンブの使用経験（原著論文／症例報告）．医薬の門　44(3): 302–303
47. 浜田吉則，棚野晃秀，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，上山泰男（2004）小児膵・胆管合流異常の術前画像診断 : MRCP と DIC-spiral CT の比較．小児外科　36(4): 440–444
48. 北出浩章，高田秀穂，森　　毅，奥野雅史，小倉徳裕，上田創平，渡辺京子，伊藤美由紀，井上さだ子（2004）【フローチャートでわかる！術後の急変，対策マニュアル】 フローチャートでわかる術後の急変対策　腹痛（解説 / 特集）．消化器外科ナーシング　9(2): 137–141
49. 權　雅憲，松井陽一，上山泰男，植村芳子（2004）黄色肉芽腫性胆嚢炎における組織学的炎症所見と手術難易度の比較．胆と膵　25(9): 587–591
50. 高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，高橋完治，寺川直良，豊川秀吉，荒木　浩，松井陽一，權　雅憲，上山泰男，寒川光治，澤田　敏（2004）当科での局所進行膵癌の術前放射線化学療法．医薬の門　44(4): 402–406
51. 寺川直良，里井壮平，柳本泰明，山本栄和，山本智久，高井惣一郎，權　雅憲，山本　伸，久保田佳嗣，上山泰男（2004）C 型肝炎併存胆管細胞癌の当施設における年次推移とその臨床的特徴．日本消化器外科学会雑誌　37(12): 1813–1818
52. 川口雄才，上山泰男（2004）臨床におけるサプリメント】 臨床におけるサプリメント；私はこのように指導する　免疫増強サプリメント（AHCC，紫イペ）（解説／特集）．Progress in Medicine　24(6): 1455–1459
53. 内田洋一朗，木下浩一，田中具治，金井陸行，田野龍介，高林有道（2004）CDDPが誘因と考えられたSIADHを発症した消化器癌FP療法の 2 例．日本消化器外科学会雑誌　37(9): 1588–1593
54. 尾崎　岳，高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，山尾　順，寺川直良，高橋完治，權　雅憲，上山泰男（2004）腫瘤形成性膵炎の形態を呈した自己免疫性膵炎と考えられた 1 例．膵臓 19(4): 425–431
55. 尾崎　岳，田中宏典，祝迫惠子，三木　明，瀬尾　智，加茂直子，岡本大輔，古家敬三，井ノ本琢也，鍛　利幸，亥埜恵一，東山　洋，有本　明，中島康夫，浮草　実（2004）左側腹部痛にて発見された高齢者上腰ヘルニアの 1 例．外科　66(9): 1101–1103
56. 内田洋一朗，川口雄才，海堀昌樹，福井淳一，石崎守彦，上山泰男（2004）分類不能の重複胆嚢にみられた胆嚢結石症の 1 例．臨床外科 59(5): 647–651

学会発表

1. 上山泰男（2004）肝臓がんの治療について．札幌市医師会五支部合同学術講演会，札幌
2. 吉岡和彦（2004）肛門の再建と機能改善をめざして―Dynamic graciloplasty による治療経験―．第4回播州手術手技研究会，姫路
3. 吉岡和彦（2004）肛門機能障害の診断と治療．第71回近畿肛門疾患懇談会，大阪
4. Yoshioka K, Nakano M, Iwamoto S, Yonekura Y, Morita M, Nakane Y, Kamiyama Y (2004) What do they lose and what do they get after dynamic graciloplasty in patients with rectal cancer? Colorectal Research Meeting, Birmingham, UK
5. Yoshioka K, Iwamoto S, Morita M, Yonekura Y, Nakano M, Nakane Y (2004) Utility value as a tool for decision making on dynamic graciloplasty. The 9th conference on colorectal and anal function, Tokyo
6. Nakane Y, Michiura T, Inoue K, Ymaguchi K, Kamiyama Y (2004) Postoperative evaluation of pylorus-preserving gastrectomy for early gastric cancer. The 50th Annual Congress of The Japan Section The International College of Suurgeons, Kurume
7. Kawai M, Kitade H, Mathieu C, Waer M, Pirenne J (2004) Rapid presence of CD4+/CD45RC-regula-

tory cells in tolerated grafts: evidence for a protective role in the tolerated tissues. Annual Meeting of the Belgian Transplantation Society, Brussels

8. Kawai M, Kitade H, Mathieu C, Waer M, Pirenne J (2004) Rapid presence of CD4+/CD45RC-regulatory cells in tolerated grafts: evidence for a protective role in the tolerated tissues. American Transplant Congress, Boston
9. Kawai M, Kitade H, Mathieu C, Waer M, Pirenne J (2004) High-dose calcineurin inhibitor blocks the generation of regulatory cells, whereas low-dose promotes their development. American Transplant Congress, Boston
10. Kawai M, Kitade H, Mathieu C, Waer M, Pirenne J (2004) High-dose calcineurin inhibitor blocks the generation of regulatory cells, whereas low-dose promotes their development. XX International Congress of the Transplantation Society, Austria
11. Kawai M, Kitade H, Mathieu C, Waer M, Pirenne J (2004) CD4+/CD45RC-regulatory cells are rapidly present in tolerated grafts where they directly protect allotransplanted tissues from CD4+/CD45RC+ effector cells. XX International Congress of the Transplantation Society, Austria
12. Pirenne J, Kawai M, Kitade H, Koshiba T, Mathieu C, Waer M (2004) Propetolerance after intestinal transplantation in man. Eleventh N.A.T. Inducing and detecting allograft tolerance in humans, France
13. Pirenne J, Kawai M, Kitade H, Koshiba T, Mathieu C, Waer M (2004) Propetolerance after intestinal transplantation in man. XX International Congress of the Transplantation Society, Austria
14. Takai S, Satoi S, Yanagimoto H, Takahashi K, Toyokawa H, Araki H, Matsui Y, Kamiyama Y (2004) Neoadjuvant Chemoradiation for the Patients with Locally Advanced Pancreatic Cancer. International Hepato-Pancreato-Biliary, Washington
15. Satoi S, Takai S, Yanagimoto H, Komemushi A, Tanigawa N, Ishizaki M, Iwaki R, Fukuyasu A, Kwon A-H, Sawada S, Kamiyama Y (2004) Preoperative Evaluation of Pancreatic Cancer by Multidetector-row CT (MDCT)—omparison with Catheter Angiography—. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
16. Kaibori M, Yanagida H, Uchida Y, Matsui Y, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) Preoperative Chemolipiodolization of the Whole Liver for Hepatocellular Carcinoma. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
17. Kaibori M, Yanagida H, Uchida Y, Matsui Y, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) Prognosis of Hepatocellular Carcinoma after Hepatectomy in Patients with Renal Dysfunction. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
18. Imamura A, Tanaka H, Ozaki T, Saito T, Yamada H, Kamiyama Y (2004) Effectiveness of Acid-Electrolyzed Water Irrigation and Total Omental Wrapping of a Synthetic Gragt for Complicated Abdominal Aortic Surgery. ESSR, Greece
19. Imamura A, Saito T, Ozaki T, Tanaka H, Yamada H, Kamiyama Y (2004) Management of Aortic Synthetic Graft in an Infected and Contaminated Field. 6th International Congress of Asian Vascular Society & 11th Annual Conference of Vascular Society of India, India
20. Kwon A-Hon, Yoshida K, Matsui Y, Inui H (2004) New conception for organ preservation using Just above the freezing point. 第31回日本低温医学会総会，東京
21. Takai S, Yanagimoto H, Satoi S, Toyokawa H, Terakawa N, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) The Functional Improvement of Circulating Dendritic Cells in the Patients with Pancreatic Cancer after Surgical Resection. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
22. Satoi S, Takai S, Yanagimoto H, Takahashi K, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) TNF-α Production Stimulated by Lipopolysaccharide in Patients with Pancreatic Cancer. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
23. Takai S, Sotoi S, Toyokawa H, Takahashi K, Terakawa N, Tanaka K, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) Circulating dendritic cells as a prognostic factor in patients with pancreatic cancer. ASCO, ニューオリンズ

24 Takai S, Satoi S, Toyokawa H, Takahashi K,

Terakawa N, Kwon A-H, Kamiyama Y (2004) Evaluation of Circulating Dendritic Cell Number and Function of Patients with Pancreatic Cancer Who Underwent Chemoradiotherapy. 19th World Congress of International Society for Digestive Surgery, 横浜
25. Teshima S, Kaibori M, Ozaki T (2004) Cyclo-prodigiosin up-regulates inducible nitric oxide synthase gene expression in hepatocytes stimulated by interleukin-1beta. 第77回日本生化学会, 横浜
26. Teshima S, Kaibori M, Yoshida H, Ozaki T, Nishizawa M, Ito S, Okumura T (2004) Cyclo-prodigiosin up-regulates inducible nitric oxide synthase gene expression in hepatocytes stimulated by interleukin-1beta. 第77回日本生化学会, 横浜
27. Sato M, Hamada Y, Takada K, Tanano A, Tokuhara K, Hatano T (2004) Thoracoscopic Diaphragmatic Procedures under Artificial Pneumothorax. 第41回日本小児外科学会総会，大阪
28. 井上健太郎，神原達也，田中義人，道浦　拓，中井宏治，佐藤睦哉，山道啓吾，中根恭司（2004）胃悪性リンパ腫の手術成績．第76回日本胃癌学会総会，米子
29. 井上健太郎，中根恭司，佐藤睦哉，中井宏治，道浦　拓，田中義人，神原達也，山道啓吾，上山泰男（2004）FUDR（2'-deoxy-5-fluorouridine）腹腔内化学療法における急速投与の比較．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
30. 井上健太郎，中根恭司，藤谷和正，辻仲利政，後藤昌弘，瀧内比呂也，楢原啓之，上堂文也，木村　豊，今野元博，今村博司，古河　洋（2004）TS-1/Paclitaxel併用療法における推奨用量と有効性および有害事象（胃癌を対象とした多施設共同第I/II相臨床試験OGSG0105）．第42回日本癌治療学会総会，京都
31. 岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司（2004）直腸癌に対する腹腔鏡補助下手術．第42回日本癌治療学会総会，京都
32. 岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，米倉康博，中根恭司（2004）大腸癌に対する腹腔鏡補助下手術―当科症例での検討―．第 59 回日本大腸肛門病学会総会，久留米
33. 岩本慈能，吉岡和彦，米倉康博，森田美佳（2004）当院における直腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術．第59回日本消化器外科学会，鹿児島
34. 吉岡和彦，岩本慈能，森田美佳，中野雅貴，米倉康博，中根恭司（2004）鎖肛術後の排便機能障害に対するgraciloplasty．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
35. 吉岡和彦，岩本慈能，森田美佳，米倉康博，中野雅貴，中根恭司（2004）肛門管とは何か？：Dynamic graciloplasty における「肛門管」の機能的意義の検討．第 59 回日本大腸肛門病学会総会，久留米
36. 吉岡和彦，岩本慈能，米倉康博，森田美佳，上山泰男（2004）Dynamic graciloplasty：直腸癌患者と重度便失禁患者の比較検討．第 59 回日本消化器外科学会，鹿児島
37. 高田晃平，浜田吉則，田中義人，徳原克治，棚野晃秀，上山泰男（2004）小児盲腸軸捻転症の2例．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
38. 高田晃平，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，棚野晃秀，上山泰男（2004）胆道拡張症術後における胃内胆汁逆流の検討．第 41 回日本小児外科学会総会，大阪
39. 高田晃平，浜田吉則，徳原克治，棚野晃秀，渡辺健太郎，大橋　敦，北村直行，蓮井正史，上山泰男（2004）小児の消化管出血．第 40 回日本腹部救急医学会総会，東京
40. 佐藤正人，高田晃平，棚野晃秀，徳原克治，小切匡史，畑埜武彦，浜田吉則（2004）腹腔鏡下幽門筋切開術―その術式の変遷ならびに経験．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
41. 佐藤正人，馬殿徹也，小切匡史（2004）小児そけいヘルニアに対するクリニカルパス導入の経緯ならびに最近の問題点．第 41 回日本小児外科学会総会，大阪
42. 山道啓吾，浅井　晃，小松優治，松浦　節，神原達也，田中義人，馬殿徹也，中野雅貴，道浦　拓，井上健太郎，中根恭司，上山泰男（2004）進行食道癌に対する化学放射線療法後のsalvage operation．第58回日本食道学会学術集会，東京
43. 山道啓吾，浅井 晃，田中義人，小松優治，松浦　節，神原達也，道浦　拓，中野雅貴，井上健太郎，中根恭司，上山泰男（2004）進行

食道癌に対する集学的治療．第 66 回日本臨床外科学会総会，盛岡
44. 山道啓吾，浅井 晃，田中義人，小松優治，松浦　節，馬殿徹也，道浦　拓，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，中根恭司，上山泰男（2004）進行食道癌における術前化学放射線療法施行後のリンパ節郭清のあり方．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
45. 山道啓吾，浅井 晃，道浦　拓，松浦　節，神原達也，田中義人，井上健太郎，川口雄才，中根恭司，上山泰男（2004）食道胃多重癌に対する食道切除・腹腔内空腸Roux-Y再建法．第59回日本消化器外科学会，鹿児島
46. 森田美佳，畑　嘉高，中野雅貴，岩本慈能，米倉康博，吉岡和彦，中根恭司（2004）ストーマ造設患者へのアンケート調査によるQOLの把握．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
47. 森田美佳，畑　嘉高，中野雅貴，岩本慈能，米倉康博，吉岡和彦，中根恭司（2004）ストーマアンケート調査によるQOL決定因子の解析．第59回日本大腸肛門病学会総会，久留米
48. 中井宏治，小松優治，神原達也，田中義人，道浦　拓，井上健太郎，佐藤睦哉，奥村俊一郎，山道啓吾，中根恭司（2004）胃癌術後における上部消化管内視鏡検査の検討．第 76 回日本胃癌学会総会，米子
49. 中根恭司，井上健太郎，道浦　拓，小松優治，神原達也，田中義人，山道啓吾，上山泰男（2004）胃全摘後の機能再建術式―空腸 pouch 間置再建法―．第 42 回日本癌治療学会総会，京都
50. 中根恭司，道浦　拓，三宅　岳，松浦　節，神原達也，田中義人，中井宏治，佐藤睦哉，井上健太郎，山道啓吾，上山泰男（2004）RI 胃排出試験を用いた機能温存胃切除後の評価．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
51. 中根恭司，道浦　拓，神原達也，田中義人，中井宏治，佐藤睦哉，井上健太郎，山道啓吾，上山泰男（2004）幽門機能温存を目指した噴門側胃切除術―Latarjet枝温存の意義―．第76回日本胃癌学会総会，米子
52. 徳原克治，浜田吉則，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男，野田幸弘，中野崇秀，藤井喜充，國府寺美（2004）腫瘍破裂，大量腹水貯留を伴った卵巣若年性顆粒膜細胞腫の1幼児例．第20回日本小児がん学会，京都
53. 徳原克治，浜田吉則，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，佐藤正人，上山泰男（2004）日常よく遭遇する小児外科疾患とその対応―腸重積症について―．第 66 回日本臨床外科学会総会，盛岡
54. 徳原克治，浜田吉則，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男（2004）良性一過性新生児非器質性腸閉塞症の診断に生検は必要か．第41回日本小児外科学会総会，大阪
55. 徳原克治，浜田吉則，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男（2004）胆道拡張症に合併するCommunicating accessory bile duct―とくに肝管形成の工夫について．第 41 回日本小児外科学会総会，大阪
56. 畑埜武彦，佐藤正人，二階堂任，木田裕之，二階堂泰資，小路徹二，螺良愛郎（2004）高プロラクチン血症を伴った乳癌症例の検討．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
57. 里井壯平，高井惣一郎，山本栄和，米虫　敦，福井淳一，山木　壮，權　雅憲，谷川　昇，澤田　敏，上山泰男（2004）膵癌 27 例の進展度診断におけるMultidetecror row CT（MDCT）の有用性―血管造影との比較から―．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
58. 里井壯平，高井惣一郎，川口雄才，柳本泰明，松井陽一，福井淳一，石崎守一，由井倫太郎，權　雅憲，上山泰男（2004）重症急性膵炎6例における進行性肝機能障害と臨床的予後．第59回日本消化器外科学会総会，鹿児島
59. 權　雅憲，吉田和正，乾　広幸，松井陽一，上山泰男（2004）氷温領域を用いた臓器保存法の検討．第 104 回日本外科学会定期学術集会，大阪
60. 權　雅憲，松井陽一，上山泰男（2004）超高齢者（80 歳以上）に対する胆石治療術式の選択．第40回日本腹部救急医学会総会，東京
61. 權　雅憲，邱　澤雨，辻　勝成，土屋英人，海堀昌樹，上山泰男（2004）エンドトキシンショックモデルにおけるフィブロネクチンの生体保護効果について．第 40 回日本腹部救急医学会総会，東京
62. 海堀昌樹，松井陽一，柳田英佐，横井川規巨，

肱川　健，權　雅憲，上山泰男（2004）肝癌術前全肝 chemolipiodolization による術後肝癌再発および生存率におよぼす効果．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
63. 高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，高橋完治，杉本直俊，辻　勝成，寺川直良，山本栄和，松井陽一，權　雅憲，上山泰男（2004）教室における局所進行膵癌の集学的治療．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
64. 高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，高橋完治，寺川直良，尾崎　岳，福井淳一，荒木　浩，松井陽一，上山泰男（2004）当教室における局所進行膵癌の治療戦略．第 59 回日本消化器外科学会総会，鹿児島
65. 松井陽一，由井倫太郎，里井壮平，海堀昌樹，高井惣一郎，權　雅憲，上山泰男（2004）切除マージン 0 で肝内脈管より剥離摘出した肝細胞癌患者の予後．第 59 回日本消化器外科学会総会，鹿児島
66. 森　　毅，山田正法，山本大悟，田中完児（2004）血清 CEA および CA15-3 の高値を示した巨大乳腺悪性葉状腫瘍の一例．第 12 回日本乳癌学会
67. 羽原弘造，海堀昌樹，柳田英佐，山田正法，浜田吉則，權　雅憲，奥村忠芳，上山泰男（2004）エンドトキシン由来肝臓障害に対する抗繊維化剤 pirfenidone の保護作用．第 41 回日本外科代謝栄養学会，愛媛
68. 三宅　岳，浜田吉則，渡辺健太郎，棚野晃秀，徳原克治，高田晃平，上山泰男，中野崇秀（2004）opsoclonus-myoclonus-ataxia（OMA）症候群を合併した神経芽腫の1例．第41回日本小児外科学会総会，大阪
69. 山田正法，浜田吉則，羽原弘造，吉田秀行，尾崎　岳，海堀昌樹，權　雅憲，上山泰男，奥村忠芳（2004）肝細胞における炎症性サイトカインの一酸化窒素合成酵素の誘導メカニズム．第41回日本外科代謝栄養学会，愛媛
70. 寺川直良，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，高橋完治，權　雅憲，上山泰男（2004）膵癌症例における免疫機能評価―LPS 刺激による全血 TNFα 産生能の比較―．第59回日本消化器外科学会総会，鹿児島
71. 石崎守彦，海堀昌樹，内田洋一朗，尾崎　岳，田中宏典，福井淳一，權　雅憲，上山泰男（2004）若年者に発症した非B型非C型肝細胞癌の1切除術．第66回日本臨床外科学会，盛岡
72. 石崎守彦，高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，高橋完治，權　雅憲，上山泰男（2004）下部胆管癌を疑い手術施行後，自己免疫性膵炎と診断された1例．第66回日本臨床外科学会，盛岡
73. 辻　勝成，權　雅憲，吉田秀行，邱　澤雨，海堀昌樹，奥村忠義，上山泰男（2004）ラット肝切除後エンドキシン血症モデルにおける edaravone の生体保護効果の検討．第59回日本消化器外科学会総会，鹿児島
74. 内田洋一朗，海堀昌樹，福井淳一，石崎守彦，尾崎　岳，川口雄才，上山泰男（2004）分類不能の重複胆嚢にみられた胆嚢結石症の 1 例．第66回日本臨床外科学会，盛岡
75. 尾崎　岳，由井倫太郎，里井壮平，高井惣一郎，權　雅憲，上山泰男（2004）術後離開創の創傷治癒に対するハイドロファイバーの評価．第66回日本臨床外科学会，盛岡
76. 福井淳一，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，高橋完治，石崎守彦，尾崎　岳，宮宗武史，權雅憲，上山泰男（2004）当科における慢性膵炎手術46例の臨床的検討．第66回日本臨床外科学会，盛岡
77. 柳田英佐，海堀昌樹，肱川　健，内田洋一朗，横井川規巨，權　雅憲，奥村忠義，上山泰男（2004）ラット肝硬変モデルにおける肝部分切除後の rhHGF-activator による肝内 HGF の活性化及び，肝再生促進効果の解析．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
78. 柳本泰明，高井惣一郎，里井壮平，豊川秀吉，高橋完治，寺川直良，權　雅憲，上山泰男（2004）膵癌症例における末梢血樹状細胞機能解析と予後予測への応用．第104回日本外科学会定期学術集会，大阪
79. 柳本泰明，高井惣一郎，里井壮平，豊川秀吉，高橋完治，寺川直良，權　雅憲，上山泰男（2004）膵癌切除症例における末梢血樹状細胞の予後予知因子としての有用性．第 59 回日本消化器外科学会総会，鹿児島
80. 高橋完治，高井惣一郎，柳本泰明，里井壮平，豊川秀吉，寺川直良，權　雅憲，上山泰男

（2004）局所進行膵癌における放射線化学療法の検討：末梢血樹状細胞を中心とした免疫学的評価．第59回日本消化器外科学会総会，鹿児島
81. 加藤健志，池永雅一，三嶋秀行，福永　睦，村田幸平，富永修盛，加納寿之，池田公正，山崎恵司，天野正弘，池田正孝，森田俊治，勝本善弘，石田秀之，関本貢嗣，瀧内比呂也，吉岡和彦，古河　洋，森田智視，坂本純一，門田守人（2004）進行・再発大腸癌に対するCPT-11と5'-DFUR併用化学療法の第II相臨床試験．第42回日本癌治療学会総会，京都
82. 吉田　良，霜田雅之，肥田候矢，山神和彦，山本秀和，小西靖彦，武田　惇（2004）十二指腸潰瘍が原因と考えられる特発性食道破裂の1例．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
83. 桜本和人，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男，佐藤正人（2004）腹腔鏡下尿膜管切除術の経験．第41回日本小児外科学会総会，大阪
84. 小松優治，山道啓吾，坂井田紀子，浅井　晃，中野雅貴，神原達也，松浦　節，田中義人，道浦　拓，中井宏治，中根恭司，上山泰男（2004）食道アカラシアに合併した広範な多発食道癌の一例．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
85. 小松優治，山道啓吾，浅井 晃，三宅　岳，松浦　節，馬殿徹也，田中義人，道浦　拓，中井宏治，中根恭司，上山泰男（2004）TS-1によるsecond line chemotherapyが奏効した進行下部食道腺癌の一例．第58回日本食道学会学術集会，東京
86. 大石賢玄，浜田吉則，徳原克治，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男（2004）Anocutaneous fistulaとの鑑別が困難であったAnorectal stenosisの1例．第41回日本小児外科学会総会，大阪
87. 棚野晃秀，浜田吉則，高御堂祥一郎，片岡洋祐，渡辺　淳，山田久男（2004）共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児期腸管における筋層間神経叢の免疫組織学的検討．第45回日本組織細胞化学学会総会学術集会，鹿児島
88. 棚野晃秀，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，佐藤正人，上山泰男，片岡洋祐，渡辺　淳，山田久夫（2004）共焦点蛍光顕微鏡を用いたラット胎児腸管における腸管神経系構築過程の免疫組織学的検討．第41回日本小児外科学会総会，大阪
89. 棚野晃秀，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，上山泰男（2004）膵胆管合流異常症に対するMRCPによる画像診断．第41回日本小児外科学会総会，大阪
90. 棚野晃秀，浜田吉則，徳原克治，高田晃平，貴島和久，貴島範彦（2004）膵肝胆道合流異常症に対する分流手術後遺残胆管の1切除例．第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学会大会合同大会，大阪
91. 田中義人，山道啓吾，谷川　昇，中野雅貴，小松優治，松浦　節，神原達也，道浦　拓，井上健太郎，浅井　晃，中根恭司，上山泰男（2004）食道癌術後乳び胸に対するリンパ管造影の有用性．第58回日本食道学会学術集会，東京
92. 田中義人，中根恭司，神原達也，道浦　拓，井上健太郎，岩本慈能，山道啓吾，吉岡和彦，上山泰男（2004）術後癒着性イレウスの手術適応のタイミング及び保存的治療の限界．第66回日本臨床外科学会総会，盛岡
93. 田中義人，中根恭司，神原達也，道浦　拓，中井宏治，井上健太郎，佐藤睦哉，山道啓吾，上山泰男（2004）胃癌再発イレウスに対する外科的治療の意義．第76回日本胃癌学会総会，米子
94. 田中義人，中根恭司，道浦　拓，中井宏治，井上健太郎，岩本慈能，山道啓吾，吉岡和彦，上山泰男（2004）当科における術後癒着性イレウスの治療戦略．第40回日本腹部救急医学会総会，東京
95. 渡辺健太郎，浜田吉則，徳原克治，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男，北村直行，木下　洋（2004）脾臓に被膜形成不全を伴った新生児特発性乳糜水の1例．第41回日本小児外科学会総会，大阪
96. 藤井喜充，高田晃平，浜田吉則（2004）筋性防御出現前は血液検査とCT上所見を認めなかった穿孔性虫垂炎．第40回日本腹部救急医学会総会，東京
97. 道浦　拓，山道啓吾，小松優治，田中義人，井上健太郎，浅井　晃，中根恭司，上山泰男

（2004）上縦郭リンパ節再発に対する化学放射線療法．第58回日本食道学会学術集会，東京

98. 道浦　拓，中根恭司，中井宏治，井上健太郎，佐藤睦哉，山道啓吾，上山泰男（2004）ビーグル犬に対する 13C 呼気試験法胃排出能検査の検討．第59回日本消化器外科学会，鹿児島

99. 福安厚子，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男（2004）Prune belly 症候群の亜型と思われた右上側腹部腹壁ヘルニアの 1 例．第 41 回日本小児外科学会総会，大阪

100.北川克彦，浜田吉則，加藤泰規，中井宏治，山田正法，羽原弘造，中竹利和，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2004）EGF と炎症性サイトカインによる小腸上皮細胞における一酸化窒素の産生誘導. 第77回日本生化学学会, 横浜

101.北川克彦，浜田吉則，中井宏治，加藤泰規，上山泰男，奥村忠芳（2004）炎症時の腸管におけるEGFの一酸化窒素産生増加のメカニズム．第40回日本腹部救急医学会総会，東京

102.由井倫太郎，浜田吉則，徳原克治，富野敦捻，岡本真由美，渡辺健太郎，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男（2004）二卵性双生児の双方に発症した先天性胆道拡張症．第 41 回日本小児外科学会総会，大阪

103.由井倫太郎，尾崎　岳，里井壮平，山木　壮，福安厚子，松井陽一，高井惣一郎，權　雅憲，中根恭司，上山泰男（2004）抗リン脂質抗体症候群を伴った膵仮性嚢胞の抗凝固療法に難渋した一例．第66回日本臨床外科学会，盛岡

104.中田　博，横井川規巨，稲葉隆明，海堀昌樹，小倉徳裕，高田秀穂，井上瑞江，權　雅憲，上山泰男（2004）担癌状態におけるムチンの生物学的意義. 第63回日本癌学会学術総会, 福岡

105.三宅　岳，山本大悟，田中義人，田中完児（2004）マンモグラフィ検診で発見される非浸潤癌の検討,微細石灰化. 第12回日本乳癌学会, 北九州

106.山田正法，山本大悟，奥川帆麻，森　毅，田中完児（2004）当科における良性・境界・悪性葉状腫瘍の検討．第 12 回日本乳癌学会，北九州

107.奥川帆麻，山本大悟，植村芳子，坂井田紀子，山田正法，田中完児（2004）乳癌患者における NottighamPrognostic Index の有用性について．第12回日本乳癌学会，北九州

108.權　雅憲，松井陽一，上山泰男（2004）超高齢者（80 歳以上）に対する胆石治療術式の選択．第40回日本腹部救急医学会総会，東京

109.權　雅憲，邱　澤雨，辻　勝成，土屋英人，海堀昌樹，上山泰男（2004）ラット肝切除後エンドトキシン血症におけるフィブロネクチンの生体保護効果の検討．第 40 回日本腹部救急医学会総会，東京

110.權　雅憲，吉田和正，乾　広幸，松井陽一，上山泰男（2004）氷温領域を用いた臓器保存法の検討．第104回日本外科学会総会，大阪

111.權　雅憲，邱　澤雨，辻　勝成，海堀昌樹，上山泰男（2004）ラット肝切除後エンドトキシン血症におけるELASPOLの生体保護効果の検討．第59回日本消化器外科学会総会，鹿児島

112.海堀昌樹，松井陽一，柳田英佐，肱川　健，内田洋一朗，權　雅憲，上山泰男（2004）肝細胞癌肝切除後の予後におよぼす腎機能障害の影響. 第59回日本消化器外科学会総会, 鹿児島

113.今村　敦，尾崎　岳，田中宏典，斎藤隆道，山田　斉，上山泰男（2004）“Hostile” abdomenを伴う腹部大動脈瘤患者に対するステントグラフト治療の有用性．第 32 回日本血管外科学会総会，東京

114.田中宏典，今村　敦，尾崎　岳，斎藤隆道，中本博之，山田　斉，上山泰男（2004）腹部大動脈手術における感染あるいは汚染創での強酸性水洗浄，in-situ再建，人工血管完全大網被覆の有用性．第 32 回日本血管外科学会総会，東京

115.尾崎　岳，今村　敦，田中宏典，山田　斉，上山泰男（2004）シャント作製に難渋した下大動脈への吻合を行った下腹部ループシャントの一例．第32回日本血管外科学会総会，東京

著　書

1. 中根恭司，井上健太郎（2004）局所再発ほか．再発胃癌治療ガイドブック（前原喜彦，馬場秀夫編） 231–235頁，南江堂

2. 田中完児（2004）乳がんにおけるチーム医療の実践―特に乳がん専門看護師 Breast Care Nurse）との共働．乳癌診療二頁の秘訣（光山

昌珠編） 320–321頁，金原出版
3. 田中完児（2004）乳がんの啓発運動．乳癌診断のコツと落とし穴（霞富士雄編） 252–253頁，中山書店
4. 田中完児（2004）専門看護師を中心としたチーム医療．外来看護新時代 93–97頁，日本総研出版
5. 權 雅憲（2004）肝臓・胆嚢・膵臓の病気．最新版 家庭医学大全科，胆嚢と胆管の病気（高久史麿，猿田享男，北村惣一郎，福井次矢編） 2088–2100，法研

胸部心臓血管外科学講座

〈研究概要〉

胸部心臓血管外科は，心臓血管外科と呼吸器外科に大別される．心臓血管外科は心臓血管病センターの外科部門として，循環器内科や小児科循環器グループとともに，先天性心疾患，虚血性心疾患，弁膜症，大動脈疾患等の心大血管疾患に対し，内科と外科が一体となって研究活動を行っている．また，呼吸器外科は，肺癌の外科治療を中心として，第一内科呼吸器グループ，放射線科，病態検査科病理部門と研究グループを作り，協力して研究活動を行っている．

心臓血管外科部門では，手術件数は300例を超え，手術内容も含めて，大学病院としての標準的レベルを維持している．先天性心疾患の治療は心臓血管外科医の基本である．小児科循環器グループやNICUと密接な関係を保ち，術前より互いに協力して治療を行っており，今後も，成績向上のため，術前状態の改善，迅速で正確な手術，きめ細かい術後管理が必要である．虚血性心疾患の治療方針は，動脈グラフとを用いた完全血行再建である．術中の心停止時間の短縮，長年の心筋保護法の研究成果が実り，安全に手術が行えるようになり，最近8年間の予定手術例に死亡例がなく，良好な成績を維持している．再生医療として，循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として，本学倫理委員会の許可を得て，骨髄幹細胞移殖による血管再生治療を他施設に先駆けて臨床に試みている．また無輸血手術遂行のための研究も行い，最近8年間の成人予定手術の約90%が無輸血手術であった．弁膜症の治療方針は，可能な限り自己弁温存をはかる弁形成，弁輪形成術を第一選択とし，不可能な例に人工弁置換術を行う方針である．経食道エコーの術中導入により適切な弁機能の判定が可能となった．大血管疾患は，破裂性大動脈瘤や急性大動脈解離が含まれ，脳合併症や多臓器不全，感染による死亡例が多いが，大動脈弓部3分枝置換も超低体温循環停止法と選択的脳灌流法の併用により，安全に手術が可能になった．すべての動脈瘤は破裂するものと考え，今後も，早期の適切な外科治療により，成績向上の努力が必要である．また，大動脈遮断に伴う脊髄麻痺予防の問題も極めて重要であり，その予防法の研究をすすめている．昨年は，海外での研修や研究を終えた若い心臓血管外科医の導入をはかり，新しい治療法も積極的に取り入れ，成績向上に努めている．

呼吸器外科は，年間ほぼ200例前後の手術症例があり，その約半数が，原発性肺癌，悪性縦隔腫瘍，転移性腫瘍である．肺癌は，地域医師会の協力も受け，早期発見例も増加しており，治療成績は向上し，その成績を逐次公表している．悪性縦隔腫瘍に対しては手術前後の化学療法等の併用により著明な成績向上をみた．また自然気胸，転移性肺腫瘍，開胸肺生検等において，胸腔鏡下手術を多用している．

平成16年度も，心臓血管外科，呼吸器外科ともに，これらの臨床経験に基づいた研究発表が行いえた．また，6月には，日本小児外科学会総会を主催した．

実験的研究では，平成15年度日本学術振興会科学研究費，私学振興財団よりの学術研究振興資金，再生医学難病治療センター，癌治療センターの補助により，1）組織培養装置の導入により，分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的，基礎的研究（心筋細胞特異的心筋保護法に関する研究，統合的薬理学Preconditioningに関する研究），2）心，肺移植に関する基礎的研究，3）肺癌に関する細胞免疫学的研究，4）吸収性気管支ステントの開発とその臨床応用，5）冬眠を応用した臓器保存の

研究，6）虚血性心疾患に対する系統的治療戦略として，骨髄幹細胞移殖による再生医療の研究（虚血心の血管新生療法における自家骨髄細胞移植の有効性と安全性に関する研究，自家骨髄幹細胞移植を用いた不全心筋の再生に関する研究）などを行っている．

また，大阪工業大学生体システム研究室とともに，1）赤血球変形能，2）磁界の生体への影響，3）生体細胞インピーダンス測定4）心筋再生の医工学的応用，などの共同研究も進めている．

〈研究概要〉

原　著

1. Wakeno M, Otani H, Nakao S, Uchiyama Y, Imamura H, Shingu K (2004) Adenosine and a nitric oxide donor enhances cardioprotection by preconditionig with isoflurene through mitochondrial adenosine triphosphate-sensitive K+channel-dependent and-independent mechanism. Anesthesiology 100: 515–524
2. Otani H (2004) Reactive oxygen species as mediators of signal trnsduction in ischemic preconditioning. Antioxid Redox Signal 6: 449–469
3. Kido M, Otani H, Kyoi S, Sumida T, Fujiwara H, Okada T, Imamura H (2004) Ischemic preconditioning-mediated restoration of membrane dystrophin during reperfusion correlates with protection against contraction-induced myocardial injury. Am J Physiol Heart Cric Physiol 287: H81–H90
4. Hattori R, Matubara H (2004) Therapeutic angiogenesis for severe ischemic heart disease by autologous bone marrow cells transplantation. Molecular and Celluar Biochemistry 264: 151–155
5. Fujii H (2004) Is coma an absolute contraindication for emergency central aortic operation? J Thorac and Cardiovasc Surg 128: 749–750
6. Darry Chu, Christpher C, Sullivan LD, Augustine JC, Kido M, Paul TW, Jamieson SW, Thistlethwuite PA (2004) A new animal model for pulmonary hypertention based on the overexpress of a single gene, angiopoietin-1. Ann Thorac Surg 77: 449–456
7. Saito Y, Minami K, Kaneda H, Okada T, Maniwa T, Imamura H (2004) New tubular bioabsorbable knitted airway stent-Feasibirity assessment for delivery and deployment in a dog model. Ann Thorac Surg 78: 1438–1440
8. Linglig Du, Kido M, Lee DV, Robinowitz J, Samulski RJ, Jamieson SW, Weitzmann MD, Thistlethwaite PA (2004) differntial myocardial gene delivery by reconbinant serotype-specific adeno-associated viral vectors. Molecular Therapy 10: 604–608
9. 藤井弘史，中谷寿男（2004）肺塞栓症の診断と治療．臨床婦人科産科　58: 671–675
10. 服部玲治（2004）マレーシア心臓血管外科事情．胸部外科　57: 474–476
11. 藤井弘史，中谷寿男（2004）胸部の画像診断．レジデントノート　6: 451–454

総　説

1. Saito Y (2004) Endobrochial stents: Past, present, Future. Resp and Crit Care Med 25: 375-380

学会発表

1. Hattori R (2004) Therapeutic strategies for severe heart failure. 8th Annual Scientific Meeting, National Heart Association of Malaysia, Kuala Lumpur
2. Kido M, Du L, Sullivan C, Deutsch R, Jamieson SW, Thistlethwaite PA (2004) Gene transfer of soluble TIE amerioates pulmonary hypertention in rodents. 84th American Association for Thoracic Surgery (AATS), Toronto
3. Saito Y, Minami K, Omiya H, Imamura H (2004) Tracheal leiomyoma—a report of case—. 13th World Congress Bronchology, Barcelona
4. Sumida T, Otani H, Fujiwara H, Kyoi S, Hiroji I (2004) Antistunning effect of ischemic preconditioning paradoxically increases cardiomyocyte necrosis. 77th Amercan Heart Association, Scientific Session, New Orleans
5. Kaneda H, Gutierrez C, de Perrot M, Yamane M, Quadri SM, Arenovich T, Waddell T, Lui M, Keshavjee S (2004) Pre-implantation multiple cytokine mRNA expression analysis in donor lung grafts predicts survival after lung transplantation.

24th International Society for Heart and Lung Transplantation (ISHLT), San Francisco
6. Andrade CF, Kaneda H, Der S, Tsang M, Santos CC, Keshavjee S, Liu M (2004) Alterations in gene expression of toll-like receptors in human lung tranplantation. 24th International Society for Heart and Lung Transplantation (ISHLT), San Francisco
7. Kaneda H, Andrade CF, Yamane M, Waddell T, Lui M, Keshavjee S (2004) 4264-Gene expression profiling of hypothermic ischemia and reperfusion injury in rat lung trnsplantation. 100th American Thoracic Society, Orland, U.S.A.
8. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H, Shingu K (2004) The optimal dose, the time, and the mechanism of delayed cardioprotection by isoflurane. アメリカ麻酔学会，San Francisco
9. Kyoi S, Otani H, Sumida T, Fujiwara H, Imamura H, Kamihata H, Iwasaka T (2004) Translocation of sarcolemmal dystrophin is a mechanistic link between mitochondrial dysfunction and necrosis in ischemic-reperfused heart. 第 77 回アメリカ心臓病学会，New Orleans
10. 大谷　肇，岡田隆之，呉　　越，服部玲治，角田智彦，藤原弘佳，京井志織，今村洋二（2004）Phosphatidylinositol-3 kinase-depentent cell to-cell interactions promote growth and differentiation of bone marrow cells in vitro. 第 68 回日本循環器学会総会，東京
11. 角田智彦，大谷　肇，藤原弘佳，岡田隆之，京井志織，今村洋二（2004）Free radical scavenger protects the ischemic heart from stunning and necrosis through distinct mechanisms. 第68回日本循環器学会総会，東京
12. 藤井弘史，三宅建作，大谷　肇，今村洋二（2004）感染性内腸骨動脈瘤の 1 手術治験例．第18回日本血管外科学会近畿地方会，大阪
13. 藤井弘史，弘津喜史，三宅建作，井上　豪，吉岡正太郎，岸本真房，松尾信昭，山本　透，田中孝也，中谷寿男（2004）当センターにおける急性大動脈解離症例の現状．第9回河内救急医療懇話会，大阪
14. 藤井弘史，大谷　肇，弘津喜史，三宅建作，山本　透，北沢康秀，田中孝也，中谷寿男，今村洋二（2004）当救命センターにおける急性大動脈解離に対する上行，弓部置換術例．第47回近畿心臓外科研究会，大阪
15. 藤原弘佳，角田智彦，宮本　隆，中尾佳永，大迫茂登彦，大谷　肇，今村洋二（2004）巨大Valsalva洞動脈瘤に対する大動脈基部再建術の一治験例．第47回関西胸部外科学会，京都
16. 藤原弘佳，大谷　肇，角田智彦，宮本　隆，中尾佳永，今村洋二（2004）The mechanism of terminal hot shot revisited. 第 57 回日本胸部外科学会，札幌
17. 大谷　肇，藤原弘佳，角田智彦，宮本　隆，中尾佳永，今村洋二（2004）心筋特異的再灌流障害の機序と対策．57 回日本胸部外科学会札幌
18. 岡田隆之，大谷　肇，呉　　越，角田智彦，藤原弘佳，今村洋二（2004）Bone marrow cell differentiation depends on adhesion to host cardiac cells I vitro. 第104回日本外科学会総会，大阪
19. 岡田隆之，大谷　肇，呉　　越，服部玲治，角田智彦，藤原弘佳，今村洋二，Yacub Mohd Azhari（2004）Insulin-like growth factor1 enhances growth and differentiation of bone marrow cells upon contact with cardiomyocytes. 第57回日本胸部外科学会総会，札幌
20. 京井志織，大谷　肇，角田智彦，岡田隆之，藤原弘佳，今村洋二，神畠　宏，岩坂寿二（2004）Restroration of membrane dysprophin during reperfusion correlates protection against contraction-induced myocyte injury in preconditioned heart. 第68回日本循環器学会総会，東京
21. 京井志織，大谷　肇，角田智彦，岡田隆之，藤原弘佳，今村洋二，神畠　宏，岩坂寿二（2004）Cardiomyopthy heart is tolerant to ischemia/reperfusion injury through the mechanism dependent on iNOS, Protein Kinase C, and mitochondrial KATP channels. 第68回日本循環器学会総会，東京
22. 京井志織，大谷　肇，角田智彦，岡田隆之，藤原弘佳，今村洋二，神畠　宏，岩坂寿二（2004）P38MAP Kinase and c-Jun NH2-terminal Kinase play differential rales in progression of heart failure in cardiomyopathy hamuster. 第 68 回日本循環器学会総会，東京

著　書

1. 斉藤幸人（2004）肺切除術後の気管支断端トラブルの防止．肺癌診療二頁の秘訣，24–235 頁，金原出版，東京
2. 馬庭知弘，近藤晴彦（2004）肺切除術：肺全摘術．麻酔科診療プラクテイス，120–122 頁，文光堂，東京

脳神経外科学講座

〈研究概要〉

脳腫瘍では悪性グリオーマに対する集学的治療を行い，手術材料は全例に電顕，組織培養を試みている．株化細胞を基礎にして，フローサイトメトリー（FACS can購入），レーザースキャニングサイトメーターによるDNA histgramの解析，サイクリンによるcell kinetics，無菌的細胞分取，更に分子生物学的手法による解析などを行っている．また，透過型，走査型電顕による形態学的観察も行っている．最近では，脳腫瘍の遺伝子治療の基礎実験を行っている．脳血管障害では臨床的に血管内手術とを組み合わせた最先端の治療を行っている．小児脳外科では先天性奇形の実験的作成や，水頭症の発生機序について研究をしている．脳死研究では，平坦脳波の自動解析を法医学・救急科・精神科と合同で研究を行っている．頭蓋底外科では，耳鼻科・形成外科とのチームにより困難な手術例に対する種々のアプローチを研究している．

虚血脳や脊髄損傷における骨髄移植による神経再生の基礎実験を臨床応用に向けて研究中である．

＜研究業績＞

原　著

1. Masayuki Tsuji, Takayuki Inagaki, Harubumi Kasai, Yasuo Yamanouchi, Keiji Kawamoto, Yoshiko Uemura (2004) Solitary myofibromatosis of the skull: a case report and review of literature. Childs Nerv Syst 20: 366–369
2. Tian-Xue Fan, Hiroko Hisha, Tie-Nan Jin, Kikuya Sugiura, Muneo Inaba, Guo-Xiang Yang, Qing Li, Xiao-Li Wang, Chang-Ye Song, Yun-Ze Cui, Qiang Li, Yuming Zhang, Xiao-Guang Zhang, Hong-Xue Fan, Susumu Ikehara (2004) Induction of Tolerance in Quadruple Chimeric Mice. Stem Cells 22: 683–695
3. Qiang Li, Yasuo Sakurai, Takashi Ryu, Keiichi Azuma, Kunikazu Yoshimura, Yasuo Yamanouchi, Susumu Ikehara, Keiji Kawamoto (2004) Expression of Rb2/p130 protein correlates with the degree of malignancy in gliomas. Brain tumor Pathol 21: 121–125
4. T Inada, Y Yamanouchi, S Jomura, S Sakamoto, M Takahashi, T Kambara, K Shingu (2004) Effect of propofol and isoflurane anaesthesia on the immune response to surgery. Anaesthesia 59: 954–959
5. 大重英行，稲垣隆介，吉村晋一，我妻敬一，笠井治文，今堀　巧，山内康雄，河本圭司，中野崇秀，藤本幸子，植村芳子（2004）新生児未熟型奇形腫の 1 例．小児の脳神経　29: 355–359
6. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦（2004）脳波自動解析システム．CLINICAL NEUROSCIENCE 22(5): 568–569
7. 笠井治文，大重英行，塚崎裕司，山内康雄，河本圭司（2004）軽微な腫瘍内出血を呈した小脳 glioblastoma の 1 例．脳神経外科ジャーナル 13: 706–710
8. 久徳茂雄，河本圭司（2004）CT 計測による正常頭蓋骨成長過程の検討．CI 研究　26: 163–168
9. Yasuo Yamanouchi (2004) Occipital extra- and intracranial lipoencephalocele associated with tectocerebellar dysraphia: case for discussion. Childs Nerv Serv 20: 238

総　説

1. Yoshihiro Numa, Yuhji Tsukazaki, Harubumi Kasai, Li Qiang, Keiji Kawamoto (2004) DNA content analysis using Laser Scanning Cytometry

(LSC) in Brain Tumors. Cytometry Research 14: 63–68
2. Keiji Kawamoto, Yuji Tsukazaki, Yoshihiro Numa, Qiang Li (2004) Regional analysis of DNA-ploidy using laser scanning cytometer in glioma and its clinical application. Cytometry (Abstract) 59B: 18
3. 河本圭司，笠井治文，吉村晋一，大重英行，櫻井靖夫，山内康雄，中嶋安彬（2004）頭蓋骨腫瘍分類・軟骨腫・良性軟骨芽細胞腫・軟骨肉腫．脳神経外科　32: 427–435
4. 稲垣隆介（2004）二分脊椎　顕在性二分脊椎症．Brain Nursing 20: 867–875
5. 稲垣隆介（2004）二分脊椎　潜在性二分脊椎症．Brain Nursing 20: 974–977
6. 稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）水無脳症（Hydraencephaly）の実態調査から―診断指針の作成に向けて．平成 15 年度総括・分担研究報告書（厚生労働科学研究費補助金「先天性水頭症」調査研究班）: 83–84
7. 河本圭司，稲垣隆介，塚崎裕司，龍　尭志，植村芳子，坂井田紀子，中嶋安彬（2004）骨腫・良性骨芽細胞腫・骨肉腫．脳神経外科　32: 549–556
8. 河本圭司，沼　義博，今堀　巧，加藤隆行，山田明史，中嶋安彬（2004）Ewing肉腫，悪性リンパ腫，形質細胞腫，多発性骨髄腫．脳神経外科　32: 669–676
9. 河本圭司，小田恭弘，松本匡章，辻　雅之，山原崇弘，中嶋安彬（2004）血管腫，脊索腫，血管内皮腫．脳神経外科　32: 781–787
10. 河本圭司，川上勝弘，岩瀬正顕，須山武裕，李強，中嶋安彬（2004）転移性骨腫瘍，類表皮嚢胞，類皮嚢胞，頭蓋骨内髄膜腫．脳神経外科　32: 895–903
11. 河本圭司，大内雅文，久徳茂雄，辻　裕之，山下敏夫，中嶋安彬（2004）動脈瘤様骨嚢胞，線維性異形成，好酸球肉芽腫．脳神経外科　32: 985–993
12. 河本圭司，我妻敬一，大石哲也，上坂達郎，瀬野敏孝，川口琢也，中嶋安彬（2004）頭蓋骨巨細胞腫，筋線維腫，骨Paget病．脳神経外科 32: 1085–1090
13. 稲垣隆介（2004）もやもや病．Brain Nursing 20: 1268–1274

学会発表

1. 稲垣隆介（2004）臨床検査技師に必要な脳神経外科疾患．大阪府臨床衛生検査技師会　平成16年度生涯教育推進講座，大阪
2. 稲垣隆介（2004）シャントの基本と問題点．第63回日本脳神経外科学会総会，名古屋
3. 河本圭司（2004）Glio-neural tumor. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会，熊本
4. Keiji Kawamoto, Harubumi Kasai, Tetsuya Oishi, Takashi Ryu, Keiichi Aduma, Takayuki Inagaki, Yasuo Yamanouchi, Isao Nishimura (2004) Ultra-structural study of hematopoietic brain tumor. 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy, Kanazawa
5. Keiji Kawamoto, Yuji Tsukazaki, Yoshihiro Numa, Qiang Li (2004) Regional analysis of DNA-ploidy using Laser Scanning Cytometer in glioma and its clinical application. ISAC, France
6. Takayuki Inagaki, Hideyuki Ohshige, Takumi Imahori, Takahide Nakano, Noriko Sakaida, Yasuo Yamanouchi and Keiji Kawamoto (2004) Primitive Neuroectodermal Tumor of the Skull Base: A Case Report. 11th International Symposium on Pediatric Neuro-oncology, Boston
7. Inagaki T, Yamanouchi Y, Kawamoto K (2004) Histological study of tight filum terminale. 32nd Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Buenos Aires
8. Shiguang Zhao, Jian Hua Zhang, Bao Hong Jiang, En Zhong Liu, Keiji Kawamoto (2004) Effect of arsenic trioxide on cell cycle arrest in glioma cell lines by using laser scanning cytometry. 8th Asia-Pacific Conference on Electron Microscopy, Kanazawa
9. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，神嵜清一郎，田中達也，中谷壽男，河本圭司（2004）重症頭部外傷の集学的治療　頭蓋内圧と脳波の持続測定の有用性．第 63 回日本脳神経外科学会総会，名古屋
10. 河本圭司（2004）サイトメトリーの今後の動向―ISAC の報告―．第 14 回日本サイトメトリー学会，高崎
11. 稲垣隆介，吉村晋一，塚崎裕司，山内康雄，河本圭司（2004）脊髄の再繋留について：ゴア

テックスの使用は予防効果があるか？　第 21 回日本二分脊椎研究会，東京
12. 岩瀬正顕，神嵜清一郎，吉岡正太郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2004）重症脊椎損傷患者の急性期管理．第9回日本脳神経外科救急学会，広島
13. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦，岩瀬正顕，神嵜清一郎，中谷壽男（2004）脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の経時的に解析した一例．第9回日本脳神経外科救急学会，広島
14. 沼　義博，辻　雅之，山内康雄，河本圭司（2004）Basal Interhemispheric Approach にて摘出した頭蓋咽頭腫の4例．第14回日本間脳下垂体腫瘍学会，金沢
15. 稲垣隆介，笠井治文，山内康雄，河本圭司（2004）眼窩内（眼窩周辺）の腫瘤性病変について．第15回義眼床手術研究会，大阪
16. 吉村晋一，川口琢也，上坂達郎，山原崇弘，我妻敬一，櫻井靖夫，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）再出血を呈した横 S 状静脈洞 dural AVFに対し導出静脈draining vein切断と洞塞栓sinus occlusionを行った一例．第33回日本脳卒中の外科学会，名古屋
17. 久徳茂雄，富野祐里，黒岡定浩，谷口俊子，稲垣隆介，山内康雄（2004）頭蓋冠拡大術を骨延長で行うべきでなかった症例について．第47回日本形成外科学会，東京
18. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，田中孝也，中谷健二，中谷壽男，河本圭司（2004）重症脳損傷病態管理における BIS モニターの有用性と問題点．第7回日本臨床救急医学会総会，横浜
19. 稲垣隆介，笠井治文，吉村晋一，川口琢也，今堀　巧，我妻敬一，山原崇弘，山内康雄，中野崇秀，野田幸弘，藤本幸子，河本圭司（2004）小児後頭蓋窩腫瘍の治療方針．第 27 回日本小児神経外科学会，埼玉
20. 久徳茂雄，稲垣隆介，山内康雄，富野祐里，黒岡定浩，河本圭司（2004）頭蓋冠拡大術における延長器の minor complications とその改良．第27回日本小児神経外科学会，埼玉
21. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）頭蓋冠骨延長術における前頭蓋底骨切りについて．第 16 回日本頭蓋底外科学会，横浜
22. 稲垣隆介（2004）二分脊椎症に関する基礎実験の体得と臨床像との対比．第 44 回日本先天異常学会，佐賀
23. 沼　義博，辻　雅之，山内康雄，河本圭司（2004）トルコ鞍近傍の炎症性疾患の治療経験．第63回日本脳神経外科学会総会，名古屋
24. 吉村晋一，笠井治文，櫻井靖夫，塚崎裕司，龍尭志，我妻敬一，山原崇弘，大石哲也，上坂達郎，川口琢也，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）鞍結節部髄膜腫に対する摘出術と Strategy．第 63 回日本脳神経外科学会総会，名古屋
25. 山内康雄，稲垣隆介，山原崇弘，吉村晋一，笠井治文，河本圭司，久徳茂雄（2004）水頭症病態による巨頭症の手術治療．第 63 回日本脳神経外科学会総会，名古屋
26. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，神嵜清一郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2004）重症頭部外傷の集学的治療　頭蓋内圧と脳波の持続測定の有用性．第 63 回日本脳神経外科学会総会，名古屋
27. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，中谷健二，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2004）頸椎クリアランスの現状と問題点．第 32 回日本救急医学会，幕張
28. 沼　義博，辻　雅之，山内康雄，河本圭司（2004）脳腫瘍と鑑別を要したトルコ鞍近傍の炎症性疾患．第9回日本脳腫瘍の外科学会，金沢
29. 笠井治文，稲垣隆介，吉村晋一，山内康雄，河本圭司（2004）治療に難渋した頭蓋内原発悪性リンパ腫の一例．第59回近畿脳腫瘍研究会，神戸
30. 山原崇弘，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）大後頭孔狭窄を伴った軟骨異栄養症の1例．第59回近畿脳腫瘍研究会，神戸
31. 我妻敬一，吉村晋一，笠井治文，塚崎裕司，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）けいれんにて発症した毛細血管拡張症の1例．第48回日本脳神経外科学会近畿地方会，大阪
32. 辻　雅之，加藤隆行，稲垣隆介，笠井治文，大重英行，山内康雄，河本圭司（2004）頭蓋底から眼窩内へ拡がる肉芽腫の一例．第 27 回日本脳神経CI学会，名古屋

33. 李　　強，趙　世光，櫻井靖夫，龍　尭志，我妻敬一，笠井治文，沼　義博，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）Expression of cyclins, p53 and DNA content anallysis in glioma. 第22回日本脳腫瘍病理学会，新潟
34. 李　　強，安水良知，王　暁麗，宋　昌曄，張玉明，河本圭司，池原　進（2004）虚血脳モデルに対する骨髄細胞を用いた脳内移植の検討．第93回日本病理学会総会，札幌
35. 李　　強，櫻井靖夫，龍　尭志，沼　義博，河本圭司（2004）Immunohistochemical and LSC analysis for expression of cyclins, p53 and DNA content in glioma. 第14回日本サイトメトリー学会，群馬
36. 大重英行，笠井治文，今堀　巧，龍　尭志，吉村晋一，山内康雄，河本圭司（2004）錐体骨に発生し小脳出血を伴った chondrosarcoma の一例．第16回日本頭蓋底外科学会，横浜
37. Qiang Li, Yasuo Sakurai, Takashi Ryu, Keiicchi Aduma, Harubumi Kasai, Yoshihiro Numa, Takayuki Inagaki, Yasuo Yamanouchi, Keiji Kawamoto (2004) Immunohistochemical and flow cytometric analysis of p53 and DNA content in glioma. 第22回日本ヒト細胞学会，東京
38. 李　　強，櫻井靖夫，龍　尭志，我妻敬一，笠井治文，沼　義博，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）Immunohistochemical and flow cytometric analysis of p53 and DNA content in glioma. 第5回日本分子脳神経外科学会，東京
39. 李　　強，龍　尭志，我妻敬一，櫻井靖夫，笠井治文，沼　義博，山内康雄，村上知之，河本圭司（2004）脳腫瘍cyst液のサイトカインのマルチ解析．第63回日本脳神経外科学会総会，名古屋
40. 大石哲也，笠井治文，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）頭蓋骨に発生した血管内皮腫の一例. 第36回日本臨床電子顕微鏡学会, 熊本
41. 山原崇弘，稲垣隆介，我妻敬一，上坂達郎，川口琢也，吉村晋一，塚崎裕司，櫻井靖夫，山内康雄，河本圭司（2004）低位円錐症例に対する検討．第 22 回日本こども病院神経外科医会，神戸
42. Qiang Li, Naoki Hosaka, Wenhao Cui, Takashi Ryu, Yunze Cui, Xiaoli Wang, Yuming Zhang, Changye Song, Kequan Guo, Ming Li, JianFeng Wang, Keiji Kawamoto, Susumu Ikehara (2004) Lin-CD34+ Bone Marrow Cells Express Neural-Specific Markers and Appear As Neuron-like Cells by Ex Vivo Treatment. 第 34 回日本免疫学会総会，札幌
43. 川口琢也，吉村晋一，笠井治文，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）意識障害・外眼筋麻痺で発症した下垂体卒中の一例．第 59 回近畿脳腫瘍研究会，神戸
44. 上坂達郎，吉村晋一，大石哲也，川口琢也，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2004）小児小脳膠芽腫の1例. 第48回日本脳神経外科学会近畿地方会，大阪
45. 川口琢也，吉村晋一，稲垣隆介，笠井治文，今堀　巧，我妻敬一，山原崇弘，辻　雅之，大重英行，上坂達郎，山内康雄，河本圭司（2004）緊急処置を要する小児後頭蓋眼窩の治療方針．第9回日本脳神経外科救急学会，広島
46. 川口琢也，塚崎裕司，稲垣隆介，笠井治文，今堀　巧，山内康雄，河本圭司（2004）硬膜転移を来した急性リンパ性白血病（ALL）の一例．第27回日本脳神経CI学会，名古屋
47. 上坂達郎，稲垣隆介，吉村晋一，今堀　巧，笠井治文，山内康雄，河本圭司（2004）悪性リンパ腫の治療との関係が示唆される小児悪性脳腫瘍の一例. 第27回日本小児神経外科学会，埼玉
48. 川口琢也，稲垣隆介，大石哲也，山原崇弘，辻雅之，龍　尭志，櫻井靖夫，山内康雄，河本圭司，北村直行，木下　洋（2004）低体重出生児の脳室内出血．第 27 回日本小児神経外科学会，埼玉
49. 仙波都志香，李　　強，櫻井靖夫，龍　尭志，沼　義博，河本圭司（2004）Sorting による微量細胞の光顕，電顕用試料作成法．第 14 回日本サイトメトリー学会，群馬

著　書

1. 河本圭司（2004）“脳腫瘍の外科”に必要な病理：脳神経外科医の立場から．脳腫瘍の外科―脳腫瘍外科のコンセプトと治療予後向上の工夫（吉井與志彦編）98–106 頁，メディカ出版，大阪

2. 河本圭司（2004）．脳腫瘍臨床病理カラーアトラス　第2版2刷（河本圭司編集代表）脳腫瘍臨床病理カラーアトラス　第2版2刷，東京
3. 河本圭司（2004）近畿脳腫瘍病理検討会記録総集編（その 1）（河本圭司編集代表）264 頁，近畿脳腫瘍病理検討会
4. 山内康雄（2004）水頭症の治療．水頭症のてびき（松本　悟，山内康雄編）48–64頁，財団法人　日本二分脊椎・水頭症研究振興財団
5. 稲垣隆介（2004）シャント治療後の水頭症患者さんの長期予後と生活上の留意点．水頭症のてびき（松本　悟，山内康雄編）87–95 頁，財団法人　日本二分脊椎・水頭症研究振興財団
6. 山内康雄（2004）水頭症のてびき（松本　悟，山内康雄編）財団法人　日本二分脊椎・水頭症研究振興財団

整形外科学講座

＜研究業績＞

原　著

1. Braun A, Takemura S, Vallejo AN, Goronzy JJ, Weyand CM (2004) Lymphotoxin beta-mediated stimulation of synoviocytes in rheumatoid arthritis. Arthritis Rheum 50: 2140–2150
2. Keizo Takada, Muneo Inaba, Naoya Ichioka, Susumu Baba, Mitsuru Taira, Koichi Nakamura, Hirokazu Iida, Susumu Ikehara (2004) Prevention of Senile Osteoporosis in SAMP6 Mice by Intra-Bone Marrow Injection of Allogeneic Bone Marrow Cells. International Congress Series 1260 (2004) The Senescence-Accelerated Mouse (SAM): An Animal Model of Senescence 393–397
3. Takemura S, Toda Y, Goronzy JJ, Weyand CM, Ogawa R, Iida H (2004) HLA-DRB1 haplotype did not affect the medium-term results of total knee arthroplasty in patients with rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol 14: 37–42
4. 佐々木万弓，脇田重明（2004）当科における大腿骨転子部骨折に対するガンマネイルの治療成績．Hip Joint 30: 158–160
5. 菅　俊光，橋本寿子，沖井　明，奥中美早，北村多愛，山田志穂（2004）人工股関節置換術におけるクリニカルパスの症例別検討―関節リウマチ―．クリニカルリハビリテーション 13: 86–91
6. 和田孝彦，松矢浩暉，徳永裕彦，飯田寛和（2004）成人における化膿性股関節炎および THA 後感染例の検討―antibiotics loaded acry cement (ALAC) の使用経験―．整・災外　47: 393–402
7. 西原　歩，和田孝彦，徳永裕彦，飯田寛和（2004）股関節に発生した osteochondromatosis の 1 例―杉岡式大腿骨頭回転骨切り術の進入方法を用いて―．整・災外　47: 915–919
8. 和田孝彦，徳永裕彦，飯田寛和（2004）関節リウマチに対するセメントレス人工股関節置換術の中期成績．整形災害外科　47: 193–197
9. 和田孝彦，飯田寛和（2004）成人に発症した化膿性股関節炎に対する人工股関節全置換術．整形外科　55: 948–954
10. 矢野光紀，前川　徹，浅野太洋，佐々木万弓，脇田重明（2004）関節リウマチに合併する上位頚椎病変の検討．中部整災誌　47: 907–908
11. 佐々木万弓，脇田重明，浅野太洋，前川　徹，寺脇之博（2004）当院における大腿骨転子部骨折に対する CHS, gamma nail の治療成績．中部整災誌　47: 945–946
12. 和田孝彦，徳永裕彦，松矢浩暉，飯田寛和（2004）当科における人工股関節置換術後感染に対する治療経験―Antibiotics Loaded Acryl Cement (ALAC) を用いた一期的，二期的再置換術―．日本人工関節学会誌　34: 3–4
13. 大窪　博，徳永裕彦，塚本英資，松矢浩暉，和田孝彦，飯田寛和（2004）感染性人工股関節に対する Staging System の有用性について．日本人工関節学会誌　34: 9–10
14. 長谷川潔（2004）京セラ KLS 腫瘍用近位置換型システムを使用し，再置換術した二症例の経診．日本人工関節学会誌　34: 945–946
15. 谷川暢之 , 斉藤貴徳 , 飯田寛和（2004）末梢神

経 bypass 移植術の再生軸索の起源についての検討．末梢神経 15: 128–130
16. 和田孝彦（2004）特発性大腿骨頭壊死症に対する骨髄未分化幹細胞移植の効果―家兎骨頭壊死モデルを用いて―（中間報告）．財団法人日本股関節研究振興財団 19

総 説

1. 赤木繁夫（2004）頸椎症性頸髄症．SEIKEI-GEKAKANGO 9(1): 68–75
2. 福田 登，飯田寛和（2004）腱板損傷．SEIKEI-GEKAKANGO 9(2): 75–83
3. 児島 新，飯田寛和（2004）肘部管症候群．SEIKEI-GEKAKANGO 9(3): 68–75
4. 中村誠也（2004）橈骨遠位端骨折．SEIKEI-GEKAKANGO 9(4): 94–100
5. 笹井邦彦（2004）腰椎椎間板ヘルニア．SEIKEI-GEKAKANGO 9(5): 43–49
6. 和田孝彦（2004）大腿骨頭壊死．SEIKEI-GEKAKANGO 9(6): 82–88
7. 大野博史（2004）前十字靭帯損傷．SEIKEI-GEKAKANGO 9(7): 74–79
8. 宮島茂夫，飯田寛和（2004）関節リウマチ．SEIKEI-GEKAKANGO 9(8): 54–60
9. 坂根正則（2004）先天性内反足．SEIKEI-GEKAKANGO 9(9): 38–43
10. 森 良樹（2004）後縦靱帯骨化症．SEIKEI-GEKAKANGO 9(10): 72–78
11. 二宮俊憲（2004）五十肩．SEIKEI-GEKAKANGO 9(11): 74–79
12. 大成浩征（2004）腰部脊柱管狭窄症．SEIKEI-GEKAKANGO 9(12): 50–56
13. 飯田寛和（2004）Spitzy 変法．関節外科 23: 146–151
14. 飯田寛和（2004）臼蓋形成術．関節外科 23: 1103–1107
15. 飯田寛和（2004）再置換術の工夫―弛んでいないステムの抜去方法―．関節外科 23: 125–130

学会発表

1. Iida H (2004) Case Debate: 51 years old Southern Chinese Female with Dysplastic hip. ASPAC 2004, オーストラリア，ブリスベーン
2. Iida H, Wada T, Matsuya H (2004) A device for accurate stem insertion in cemented THA. 14th Asia Pacific Orthopaedic Association, Kuala Lumpur, Malaysia
3. Iida H (2004) THA for CDH. 14th Asia Pacific Orthopaedic Association, Kuala Lumpur, Malaysia
4. Nakamura M, Iida H, Ishida H (2004) Distraction lengthening of middle metacarpal bone in a patient with Tricho-Rhino-Phalangeal Syndrome. A case report. The 5th Congress of THE ASIAN PACIFIC FEDERATION OF SOCIETIES FOR SURGERY OF THE HAND, Osaka
5. Esumi T (2004) Successful Allogeneic Leg Transplantation in Rats in Conjunction with Intra-Bone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells. The 5th Congress of THE ASIAN PACIFIC FEDERATION OF SOCIETIES FOR SURGERY OF THE HAND, Osaka
6. 大窪 博，徳永裕彦，塚本英資，松矢浩暉，和田孝彦，飯田寛和（2004）感染性人工股関節の治療に対する staging system の有用性について．第34回日本人工関節学会，幕張
7. 和田孝彦，松矢浩暉，飯田寛和（2004）当科における人工股関節置換術後感染に対する治療経験―Antibiotics Loaded Acryl Cement（ALAC）を用いた一期的，二期的再置換術．第35回日本人工関節学会，幕張
8. 坂根正則，赤木繁夫，中村誠也，飯田寛和（2004）膝外反伸展変形，脚長差のあるOllier's病に対して，イリザロフ創外固定器を用いて治療した 1 例．第 33 回近畿小児整形外科懇話会，大阪
9. 坂根正則，赤木繁夫，中村誠也，大野博史，宮島茂夫，飯田寛和（2004）膝蓋骨に発生した外骨腫の 1 例．第 33 回近畿小児整形外科懇話会，大阪
10. 岡村泰三，松田康孝，梁瀬義章（2004）明らかな骨折前に画像診断が可能であった大腿骨頚部疲労骨折の1例．第24回大阪整形外科症例検討会，大阪
11. 若林 英，清水克時，細江英夫，杉山誠一，大西量一郎（2004）頸椎から胸椎レベルに及ぶ多発性椎間板ヘルニアの稀な1例．第102回中部日本整形外科災害外科学会，松山市

12. 長谷川潔，原田理人，北西正光（2004）無輸血治療を希望するエホバ証人の二治療経験．第102回中部日本整形外科災害外科学会，松山市
13. 矢野光紀，前川　徹，浅野太洋，佐々木万弓，脇田重明（2004）関節リウマチに合併する上位頚椎病変の検討．第102回中部日本整形外科災害外科学会，松山市
14. 佐々木万弓，脇田重明，前川　徹，浅野太洋，矢野光紀（2004）当科における大腿骨転子部骨折に対するCHS, Gamma Nailの治療成績．第102回中部日本整形外科災害外科学会，松山市
15. 薬師寺厚芳，濱田　彰，徳永裕彦，中谷晃之，塚本英資（2004）早期荷重をおこなったセメントレスTHAの短期成績．第102回中部日本整形外科災害外科学会，松山市
16. 前川　徹，脇田重明，浅野太洋，矢野光紀，佐々木万弓（2004）リウマチ性上位頚椎病変の自然経過．第48回日本リウマチ学会，岡山
17. 竹村清介，二宮俊憲，飯田寛和（2004）関節リウマチ滑膜におけるリンパ球集簇の免疫学的検討．第48回日本リウマチ学会，岡山
18. 中村誠也，飯田寛和，南川義隆，浅井聖子（2004）リウマチ手の術後におけるスプリントの工夫．第47回日本手の外科学会学術集会，大阪
19. 市岡直也，斉藤貴徳，森　良樹，笹井邦彦，飯田寛和（2004）腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術．第47回日本手の外科学会学術集会，大阪
20. 斉藤貴徳，市岡直也，森　良樹，笹井邦彦，飯田寛和（2004）全型腕神経叢損傷に対する対側C7移行術の有用性と問題点．第47回日本手の外科学会学術集会，大阪
21. 福田　登（2004）健常者の肩関節MRI像（T2*画像における腱板断裂擬陽性について）．第9回日本関節症研究会学術集会，東京
22. 大窪　博，徳永裕彦，薬師寺厚芳，塚本英資，中谷晃之，濱田　彰，松矢浩暉，和田孝彦，飯田寛和（2004）Staging systemを用いた感染性人工股関節の治療評価．第77回日本整形外科学会学術総会，神戸
23. 斉藤貴徳，市岡直也，藤澤礼子，森　良樹，笹井邦彦，飯田寛和（2004）顕微鏡下片側侵入全周除圧術の術後短期成績―従来法による両側開窓術との比較検討―．第77回日本整形外科学会学術総会，神戸
24. 池田一博，亀山　修，中尾浩志，鈴木史和（2004）神経選択的電流知覚閾値（CPT）を用いた腓骨神経麻痺発生機序についての一考察．第77回日本整形外科学会学術総会，神戸
25. 塚本英資，徳永裕彦，中谷晃之，大窪　博，薬師寺厚芳，濱田　彰（2004）骨移植併用セメントレス人工股関節置換術後の早期荷重の検討．第77回日本整形外科学会学術総会，神戸
26. 飯田寛和，伊藤達雄，中村孝志（2004）生体活性骨補填材料使用実態調査結果．第77回日本整形外科学会学術総会，神戸
27. 斉藤貴徳，市岡直也，藤澤礼子，森　良樹，小串むつみ，飯田寛和（2004）motor point刺激による伝導速度測定を用いた手根管症候群の診断．第77回日本整形外科学会学術総会，神戸
28. 大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，飯田寛和（2004）転移性脊椎腫瘍と鑑別を要した脊椎カリエスの2例．第27回日本骨・関節感染症研究会，旭川市
29. 中村誠也，宮島茂夫，重栖　孝，飯田寛和（2004）下肢長管骨骨髄炎に対する抗生剤含有骨セメント髄内釘を用いた治療．第27回日本骨・関節感染症研究会，旭川市
30. 大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，飯田寛和（2004）頚椎椎弓形成術後の軸性疼痛についての検討―アンケート調査法による―．第33回日本脊椎脊髄病学会，東京
31. 笹井邦彦，斉藤貴徳，大成浩征，若林　英，赤木繁夫，飯田寛和（2004）胸椎脊柱管内病変に対する顕微鏡視下片側侵入椎弓切除術の有用性．第33回日本脊椎脊髄病学会，東京
32. 笹井邦彦，斉藤貴徳，大成浩征，赤木繁夫，飯田寛和（2004）脊髄症あるいは脊髄神経根症を呈した頚椎椎間板ヘルニアに対する椎弓形成術を併用した顕微鏡視下後方摘出術．第33回日本脊椎脊髄病学会，東京
33. 斉藤貴徳，森　良樹，今田直紀，小串むつみ，飯田寛和（2004）体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリング．第33回日本脊椎脊髄病学会，東京
34. 山本龍範，加須屋崇，坂根正則，児島　新，飯

田寛和（2004）人工関節周辺の大腿骨骨折治療への骨セメント使用の試み．第 30 回日本骨折治療学会，東京
35. 中村誠也，飯田寛和，中谷健治，中谷壽男（2004）Limited Contact-LCP plateを用いた上肢骨疾患に対する治療経験．第 30 回日本骨折治療学会，東京
36. 徳永裕彦（2004）前方侵入による低侵襲人工股関節置換術．第12回Hip Forum 2004，函館市
37. 飯田寛和（2004）人工股関節周辺骨折に対する対策．第12回Hip Forum 2004，函館市
38. 加藤勇司，児島　新，飯田寛和（2004）腰椎前方固定に用いる新しい interlocking device の開発と初期固定性について　第一報―．第 13 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会，札幌
39. 笹井邦彦，大成浩征，赤木繁夫，若林　英，梅田眞志，飯田寛和（2004）腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡を用いた片側侵入黄色靱帯全切除術．第 11 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS），埼玉
40. 吉田雄吾，笹井邦彦，大成浩征，赤木繁夫，飯田寛和，湯川尚哉，辻　裕之，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄（2004）再発ダンベル型神経鞘腫の摘出後に椎骨動脈の仮性動脈瘤破裂を生じた1症例．第11回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS），埼玉
41. 大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，飯田寛和，稲垣隆介，山内康雄（2004）抜去を要したMagerl Screwの1例．第11回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS），埼玉
42. 宮島茂夫，大野博史，飯田寛和（2004）初回TKA に rotating hinge prosthesis を使用した症例に関する検討．第 32 回日本リウマチ・関節外科学会，奈良
43. 徳永裕彦，近藤　誠，北川　洋，東　隆司（2004）臼蓋に骨移植を併用した人工股関節置換術の早期荷重．第 32 回日本リウマチ・関節外科学会，奈良
44. 徳永裕彦，近藤　誠，北川　洋，東　隆司（2004）小切開による人工股関節置換術の検討．第32回日本リウマチ・関節外科学会，奈良
45. 福田　登，児島　新，今田直紀，飯田寛和（2004）鎖骨遠位端切除術後に腕神経叢麻痺を発症した1例．第31回日本肩関節学会，横浜
46. 飯田寛和，和田孝彦，松矢浩暉（2004）臼蓋形成術（Spitzy変法）手術手技のポイント．第31回日本股関節学会，長崎
47. 佐々木万弓，脇田重明（2004）Modified trans-gluteal approach (Dall)によるTHAにおける大転子切離骨片の検討．第 31 回日本股関節学会，長崎
48. 中村誠也（2004）開放骨折に対する創外固定器を用いた初期治療．第 2 回 Limb Deformity Course KOBE JAPAN, 神戸
49. 斉藤貴徳，今田直紀，小串むつみ，谷川暢之，飯田寛和（2004）経頭蓋電気刺激―筋記録法による術中モニタリングの適応限界．第 19 回日本整形外科学会基礎学術集会，東京
50. 今田直紀，小串むつみ，飯田寛和，斉藤貴徳（2004）経頭蓋電気刺激―筋記録による運動誘発電位の至適記録法の検討．第 19 回日本整形外科学会基礎学術集会，東京
51. 小串むつみ，斉藤貴徳，今田直紀，飯田寛和（2004）手根管症候群にたいする motor point 刺激による伝導速度測定．第 19 回日本整形外科学会基礎学術集会，東京
52. 前川　徹，三木孝人，脇田重明，片平恵津子（2004）レミケード点滴治療クリニカルパス．第5回日本クリニカルパス学会，仙台
53. 三木孝人，前川　徹，脇田重明，片平恵津子（2004）THA クリニカルパス．第5回日本クリニカルパス学会，仙台
54. 足立　崇，大成浩征，赤木繁夫，笹井邦彦，飯田寛和（2004）感染性脊椎炎の初期診断について．第 103 回中部日本整形外科災害外科学会，神戸
55. 児島　新，小林義輝，中村誠也，中谷健治，飯田寛和（2004）転落受傷患者についての検討．第103回中部日本整形外科災害外科学会，神戸
56. 和田孝彦，松矢浩暉，飯田寛和（2004）新しいコンセプトで開発された Tripple Taper Polished Stem (C-Stem) の短期成績．第 103 回中部日本整形外科災害外科学会，神戸
57. 若林　英，赤木繁夫，大成浩征，笹井邦彦，飯田寛和（2004）脊髄砂時計腫の検討．第103回中部日本整形外科災害外科学会，神戸
58. 梅田眞志，笹井邦彦，大成浩征，赤木繁夫，飯

田寛和（2004）腰椎の硬膜内に転移した前立腺癌の1例．第103回中部日本整形外科災害外科学会，神戸

59. 奠　賢一，千束福司，三木堯明，池田　登，上尾豊二（2004）腰椎変性辷り症に対する非固定術の中期成績．第103回中部日本整形外科災害外科学会，神戸

60. 長谷川　潔，北西正光（2004）京セラ腫瘍用KLS近位置換型システムを使用し再置換した三症例の経験．第103回中部日本整形外科災害外科学会，神戸

61. 斉藤貴徳，藤澤礼子，市岡直也，森　良樹，飯田寛和（2004）X-tubeを用いた顕微鏡下片側進入全周除圧術．第103回中部日本整形外科災害外科学会，神戸

62. 中村誠也（2004）救急医療における整形外科疾患について．第39回北河内救急研究会，大阪

63. 飯田寛和（2004）股関節外科 40 年の進歩と今後の課題．第 396 回東北大学整形外科談論会，仙台

64. 笹井邦彦（2004）頚椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡視下後方摘出術．第 14 回大阪整形外科手術手技研究会，大阪

65. 飯田寛和（2004）人工股関節置換術―前外側アプローチ．第 14 回大阪整形外科手術手技研究会，大阪

66. 福田　登，和田孝彦，宮島茂夫，足立　崇，菅俊光，小串むつみ，飯田寛和（2004）在宅加療困難な重度RA患者の1考察．第11回大阪リウマチケア研究会，大阪

67. 赤木繁夫（2004）関節リウマチの外科的治療．近畿地区リウマチのケア研修会，大阪

68. 菅　俊光（2004）呼吸理学療法とその効果について．第 17 回日本リハビリテーション医学会近畿地方会，大阪

69. 飯田寛和（2004）人工股関節再置換術の手技とpitfall. 第13回奈良県骨・関節研究会，奈良

70. 飯田寛和（2004）人工股関節に関わる諸問題．第6回Latest Orthopedics研究会，神戸

71. 谷川暢之，斉藤貴徳，小串むつみ，今田直紀，飯田寛和（2004）末梢神経不全損傷に対するbypass graft 術の再生形式についての検討．第47回日本手の外科学会学術集会，大阪

72. 高田敬蔵，稲葉宗夫，平　　充，馬場　奨，飯田寛和，池原　進（2004）SAMP6 マウスを用いた，骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療．日本病理学会，北海道

73. 高田敬蔵，稲葉宗夫，上田祐輔，平　　充，馬場　奨，福井淳一，郭　可泉，飯田寛和，池原　進（2004）SAMP6 マウスを用いた，骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療．老化促進モデルマウス（SAM）研究協議会，大阪

74. 谷川暢之 , 斉藤貴徳 , 飯田寛和（2004）末梢神経 bypass 移植術の再生軸索の起源についての検討．第15回日本末梢神経学会，つくば市

75. 高田敬蔵，稲葉宗夫，上田祐輔，平　　充，馬場　奨，福井淳一，郭　可泉，李　　銘，飯田寛和，池原　進（2004）SAMP6 マウスを用いた，骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療．日本免疫学会総会，学術総会，北海道

76. 谷川暢之，斉藤貴徳，飯田寛和（2004）末梢神経 Bypass 移植術の再生軸索の起源と再生形式についての検討．第 19 回日本整形外科学会基礎学術集会，東京

77. 山本　慶，大野博史，加須屋崇，赤木繁夫，飯田寛和（2004）大腿骨頭に発生した良性軟骨芽細胞腫の一例．第396回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

78. 黒井亜弥，和田孝彦，福田　登，飯田寛和（2004）CT ガイド下に経皮的切除を行った類骨々腫の1例．第397回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

79. 河野良太，山本龍範，赤木繁夫，飯田寛和（2004）腰椎黄色靱帯内血腫の一例．第 398 回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

80. 薬師寺厚芳，中谷晃之，大窪　博，塚本英資，徳永裕彦，濱田　彰（2004）生後1ヵ月の乳児に発症した橈骨骨髄炎の1例．第399回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

81. 若林　英，赤木繁夫，大成浩征，笹井邦彦，飯田寛和（2004）対麻痺を呈した第8胸椎血管腫の1例. 第399回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

82. 守屋　円，宮島茂夫，児島　新，飯田寛和（2004）両中指伸展拘縮を来した血清反応陰性対称性滑膜炎（RS3PE）の1例．第400回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

83. 森　康治，笹井邦彦，梅田眞志，若林　英，大

成浩征，赤木繁夫，飯田寛和（2004）腰椎黄色靱帯嚢腫の2例．第401回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

84. 井上 豪，福田 登，中村誠也，宮島茂夫，飯田寛和（2004）鳥口突起骨折を合併した肩鎖骨関節脱臼に対し，Dewar法にて治療した1例．第402回整形外科集談会京阪神地方会，大阪

著 書

1. 菅 俊光（2004）第 1 部運動不足による影響第2章用語の定義．エクササイズ―疾患予防のための運動―（前島伸一郎，前島悦子監訳）5–9頁，エルゼビア・ジャパン，東京
2. 菅 俊光（2004）第 3 章スポーツ障害の治療スポーツ障害に対する治療の概略．親とコーチのためのスポーツ医学 傷害の予防と対策（前島伸一郎，前島悦子監訳）34–40 頁，金芳堂，京都

形成外科学講座

〈研究概要〉

形成外科学の対象領域は，体表を中心とする全身で，先天外表異常，外傷，腫瘍切除などによる形態の変化，損傷・欠損や母斑，血管腫など色調変化の機能的，整容的再建を行うことを目的としている．その研究対象も極めて幅広い．現在の主な基礎的・臨床的研究を列挙する．

1）創傷治癒
2）潰瘍，熱傷，褥瘡に対する創傷被覆材
3）ケロイド，瘢痕
4）毛の発毛，育毛
5）皮膚，皮膚付属器腫瘍の免疫組織学的検討
6）皮膚腫瘍,母斑,血管腫,しみの臨床とそのレーザー・ケミカルピール治療
7）熱傷の病態生理および臨床
8）新しい皮弁の開発
9）骨髄移植の免疫寛容における他家同種移植
10）頭蓋顎顔面骨の発育，計測
11）骨・軟骨形成，骨・軟骨誘導，培養軟骨，人工骨，骨・軟骨代謝
12）脂肪組織由来多分化能細胞の分化研究
13）アデノウイルスベクターを用いた遺伝子導入
14）マイクロサージャリー，微小循環再建
15）多指（趾）症，合指（趾）症の発生と再建
16）眼瞼•眼窩領域の解剖と再建
17）顔面外傷，顔面骨骨折の病態と臨床
18）頭蓋底の発生，解剖，手術
19）頭頚部腫瘍手術とその再建
20）唇裂口蓋裂の発生と集学的治療
21）構音障害，音声障害の病理と臨床
22）GIDの病態と手術
23）その他

以下に概説する．

1）創傷治癒

創傷治癒における線維芽細胞の動態

線維芽細胞のケモタキシス
2）潰瘍，熱傷，褥瘡に対する創傷被覆材
各種被覆材の開発と応用
家兎耳介を用いた創傷被覆材と創傷治癒過程に関する研究
3）ケロイド，瘢痕
ケロイド体質と発生病理，毛孔性苔癬との関連の研究
ケロイド由来細胞のTGF-β，SMADsの検討
4）毛の発毛，育毛
Wistar rat およびC57BL6 mouseを用いた毛成長・毛周期に関する研究
IL6による毛育毛促進の研究
5）皮膚，皮膚付属器腫瘍の免疫組織学的検討
皮膚，皮膚付属器腫瘍の診断，機能評価
6）皮膚腫瘍,母斑,血管腫,しみの臨床とそのレーザー・ケミカルピール治療
単純性血管腫，母斑のレーザー治療とその病理，機序に関する研究
顔面皮膚腫瘍の治療および切除後再建
7）熱傷の病態生理および臨床
熱傷ラットショックモデルによる生体反応に関する研究
超早期植皮のアログラフトを用いた実験的検討
重度熱傷顔貌の頭部X線規格撮影を用いた軟部組織，硬組織の分析
8）新しい皮弁の開発
新規皮弁の開発と微小血管造影による検索
9）骨髄移植の免疫寛容における他家同種移植
皮膚，組織，四肢移植への検討
10）頭蓋顎顔面骨の発育，計測
頭蓋顎顔面外科一般における解剖および計測
Computed radiographyによる当科の頭部X線規格写真分析標準値の検討
CT計測による正常頭蓋骨成長過程の研究
11）骨・軟骨形成，骨・軟骨誘導，培養軟骨，人工骨，骨・軟骨代謝
人工骨•人工材料一般の基礎研究と臨床応用
rhBMP-2による軟部組織内骨誘導能に関する実験的研究
12）脂肪組織由来多分化能細胞の分化研究
骨，軟骨，腱，筋肉への分化応用の研究
13）アデノウイルスベクターを用いた遺伝子導入
BMP-2遺伝子導入による骨形成の研究
14）マイクロサージャリー，微小循環再建
マイクロサージャリー後の組織血流の研究
切断指肢再接着術の予後判定とケミカルメディエーター動態の研究
15）多指（趾）症，合指（趾）症の発生と再建
合指症手術におけるピンサーによる新しい体外拡張法の開発
16）眼瞼•眼窩領域の解剖と再建
眼瞼•眼窩の再建，義眼床の再建
眼瞼，眼球の位置計測と運動性の検討
17）顔面外傷，顔面骨骨折の病態と臨床
外傷，骨折病態と硬固定法の検討

18）頭蓋底の発生，解剖，手術
前頭蓋底延長術等の外科的侵襲による前頭洞発育への影響に関する臨床研究
胎児頭蓋縫合部の組織発生の検討
19）頭頚部腫瘍手術とその再建
前頭蓋底悪性腫瘍の可及的積極的切除への新しい侵入経路の開発
新しい前頭蓋底悪性腫瘍の切除分類と臨床利用
20）唇裂口蓋裂の発生と集学的治療
唇裂•口蓋裂の発生と集学治療
顎裂骨移植，構音改善手術，顔面骨骨切り術の先進治療
21）構音障害，音声障害の病理と臨床
各種構音障害，音声障害の他覚的診断と治療
22）GIDの病態と手術
GIDの病態と外性器再建術
23）その他
バーチャル•リアリティの形成外科的応用
下肢再建の臨床例における新しいティシューエキスパンダーの開発
食品による癌抑制
唇裂,熱傷,外傷例の治療終了後メーキャップ施術による心理効果の検討

以上の基礎・臨床研究の成果は，国際学会や国内全国規模学会・研究会発表，学会雑誌・一般学術誌投稿が活発におこなわれている．その他，形成外科臨床部門において当教室では下記のごとく対外的にも研究会，カンファレンス等を持ち，臨床研究，検討を進めている．
・義眼床手術研究会（全国規模，年1回，1989年～）
・大阪市立大学・形成外科との臨床症例検討会（KC会，年3回，1994年～）

＜研究業績＞

原　著

1. Kyutoku S, Kurooka S, Tomino Y, Kawakami K (2004) Nasofrontal Duct Management in the Surgery of a Craniofacial Junction. Craniofacial Surgery 10: 305–307
2. Yuri T, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Kiyozuka Y, Senzaki H, Shikata N, Kanzaki H, Tsubura A (2004) Perillyl alcohol inhibits human breast cancer cell growth in vitro and in vivo. Breast Cancer Res Treat 84(3): 251–260
3. Pei R-J, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Tsubura A (2004) Immunohistochemical profiles of Mallory body by a panel of anti-cytokeratin antibodies. Med Electron Microsc 37(2): 114–118
4. Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Danbara N, Senzaki H, Kiyozuka Y, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Ogawa Y, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid suppresses KPL-1 human breast cancer cell growth in vitro and in vivo: potential mechanisms of action. Breast Cancer Res 6(4): R291–R299
5. Nikaido Y, Yoshizawa K, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Uehara N, Tsubura A (2004) Effects of maternal xenoestrogen exposure on development of the reproductive tract and mammary gland in female CD-1 mouse offspring. Reprod Toxicol 18(6): 803–811
6. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Okazaki K, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid is a potent inducer of cell cycle arrest and apoptosis and inhibits growth of colo 201 human colon cancer cells. Nutr Cancer 50(1): 71–79
7. Detlev Erdmann, Ranya Sweis, Chritoph Heitmann, Koji Yasui, Kevin C. Olbrich, L. Scott Levin, A. Adams Sharkawy, Bruce Klitzman

(2004) Side-to-side sutureless vascular anastomosis with magnets. Journal of vascular surgery 40(3): 505–511
8. 葛西健一郎（2004）レーザー治療．月刊眼科診療プラクティス99巻　6(10): 134–135
9. 葛西健一郎（2004）眼瞼手術のシミュレーション．月刊眼科診療プラクティス 99 巻　6(10): 138–139
10. 葛西健一郎（2004）肌の若返りとコラーゲン・ヒアルロン酸・ボツリヌス注射．日皮会誌 114(13): 2112–2115
11. 葛西健一郎（2004）炭酸ガスレーザーの美容皮膚科•皮膚外科への応用. 日皮会誌　114(13): 2119–2124
12. 久徳茂雄（2004）OR　ナースのための各科トピック集―形成外科．OPE nursing 19: 484
13. 中村智之，島影達也，久徳茂雄，黒岡定浩，南方竜也，神田栄光（2004）MR-microscopyによるMR-microscopyによる皮膚腫瘍の術前評価．臨床皮膚科　58: 404–409
14. 南方竜也，久徳茂雄，黒岡定浩（2004）フィブラストスプレーが有効であった糖尿病性足趾壊死切断後潰瘍の1例．新薬と臨床　53: 77–81
15. 河本圭司，大内雅文，久徳茂雄，辻 裕之，山下敏夫，中嶋安彬（2004）動脈瘤様骨嚢胞，線維性骨異形性症，好酸性肉芽腫（頭蓋骨腫瘍の臨床と病理（6））．脳神経外科　32(9): 985–993
16. 山中英治，加藤裕子，根来礼美，小倉幸子，谷藤美幸，杉山昌晃，長見周平，久徳茂雄（2004）クリニカルパスとの連動による効果（特集NSTの確立―活動の継続と展開）．臨床栄養　105: 581–586
17. 久徳茂雄，黒岡定浩，富野祐里，山下耕助，上羽哲也，岩瀬正顕，川上勝弘，河本圭司（2004）前頭蓋底顔面外傷の急性期治療における形成外科の役割．Neurosurgical Emergency 9: 114–120
18. 久徳茂雄，富野祐里，稲垣隆介，山内康雄（2004）頭蓋冠拡大術における延長器の minor complications とその改良．小児の脳神経　29: 423–427
19. 久徳茂雄，河本圭司（2004）CT 計測による正常頭蓋骨成長過程の検討．CI 研究　26: 163–168
20. 小川　豊（2004）手背熱傷における手の機能温存と手術．熱傷　30(3): 135–142
21. 小川　豊（2004）形成外科手術の基本1．縫合法1）愛護的皮膚切開と剥離，止血操作．形成外科　47 増刊: S151–S155
22. 伊藤文人，菅　豊明，小川　豊，南方竜也（2004）涙嚢原発悪性腫瘍 4 例の治療経験．日形会誌　24: 112–119
23. 裴　仁正，四方伸明，圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，螺良愛郎（2004）周生期Genistein暴露による化学発癌剤誘発ラット乳癌の抑制ならびにその作用機序．乳癌基礎研　13: 41–46
24. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）ドコサヘキサエン酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果．乳癌基礎研　13: 47–50
25. 鈴木健司，下間亜由子，楠本健司，小川　豊（2004）抜歯後に発症した軟治性側頭下窩膿瘍の一例．日形会誌　24: 120–123
26. 梅原真紀子，速水淳史，中東祐子，黒川一郎，楠本健司（2004）手術療法と術後の電子線治療が奏功した皮膚原発 Anaplastic Large Cell Lymphoma (Primary Cutaneous Anaplastic Large Cell Lymphoma Successfully Treated by Resective Operation and Postoperative Electron-beam Therapy)．皮膚の科学　3(5): 493–496
27. 佐々木富美子，楠本健司，小川　豊（2004）ヒト線維芽細胞培養でのヒト血清，ウシ血清使用の比較および培地中TGF-β含有量の検討. 第 9 回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会記録集　35–39
28. 楠本健司，小川　豊（2004）皮下茎皮弁による顔面皮膚悪性腫瘍切除後再建．Skin Cancer 18(3): 274–277
29. 福田　智，大西早百合，新居康夫，楠本健司，小川　豊（2004）頬骨骨折整復時に鼻・口腔内から大量出血を来した1例．関西医科大学雑誌　55(2–4): 151–154
30. 田辺敦子，楠本健司，下間亜由子，松島貴志，竹本剛司，日原正勝，小川　豊（2004）下顎角部骨折と智歯の関係について．日頭顎顔会

誌　20(2): 145–150
31. 安井浩司，松本幸子，三宅省吾，清水隆之，森小夕里，伊藤洋子，薦田友美（2004）臨床における体圧分散寝具の適正体圧と創傷治癒について．洛和会病院医学雑誌　15: 27–30
32. 安井浩司，松本幸子，坂田晋吾，加川隆三郎（2004）肛門を温存しえた肛門全周性の扁平上皮癌の1例．日形会誌　24: 427–430

学会発表

1. 葛西健一郎（2004）シミの集学的治療―診断と治療のポイント．第 9 回スキンケア研究会，静岡
2. 葛西健一郎（2004）肌の若返りとコラーゲン・ヒアルロン酸・ボツリヌス注射．第103回日本皮膚科学会総会，京都
3. 葛西健一郎（2004）皮膚病変に対する各種レーザー治療について．第 11 回東東京皮膚臨床勉強会，東京
4. 葛西健一郎（2004）Rejuvenation医療をこころざす先生へ．第 1 回リジュビネーションセミナー，東京
5. 葛西健一郎（2004）シミや小腫瘤のレーザー治療の実際. 第27回日本美容外科学会，軽井沢
6. Kasai K (2004) Recent advance in Flashlamp Dye Laser Treatment for Cutaneous Vascular Lesions. 第30回台湾皮膚科学会年次学術検討会，台北
7. Kasai K (2004) Laser Removal of Various Kinds of Senile Skin Lesions. 第 4 回ブラジルレーザー医学会総会，Guaruja, Brazil
8. Kasai K (2004) Diagnosis and Treatment of Pigmented Lesions of Asian Skin. 第4回ブラジルレーザー医学会総会，Guaruja, Brazil
9. Kyutoku S (2004) Surgical treatment of craniosynostosis by a distraction method; outcomes and definitive indications. The 5th Asian Pacific Craniofacial Association Conference, Seoul, Korea
10. 小川　豊（2004）顔面軟部組織損傷　眼瞼・眼窩周囲．第 13 回日本形成外科学会基礎学術集会（Instructional Course），東京
11. 國吉京子（2004）口蓋裂の臨床と今後の課題．発達障害教育研究会　シンポジウム，京都
12. 國吉京子（2004）自閉症児における母子関係で考えること，及び保護者相談会．池田ADサポート（自閉症児親の会），大阪
13. 國吉京子（2004）小児例への全体構造法の適応．全体構造法研究会全国大会，大阪
14. 楠本健司，小川　豊（2004）臨床ディジタル画像の保存と応用について．第 22 回日本臨床皮膚外科学会シンポジウム，大阪
15. Kenji Kusumoto (2004) Panfacial fracture. 9th AO Cranio-Maxillofacial Course in Nagoya, Nagoya
16. 楠本健司（2004）手術創や種々の創傷，創痕をきれいに治す方法について．第537回大阪外科集談会　教育セミナー講演，大阪
17. 楠本健司（2004）口唇・鼻二次形成のためのプチ形成を含めた改善治療について．平成 16 年度　京都口友会　講演会，京都
18. 楠本健司（2004）顎顔面領域の整容をめざした形成外科的治療の考え方と実際について．第147回京都歯科集談会，京都
19. Kasai K (2004) Laser Facial Rejuvenation. 第 41 回ブラジル形成外科学会総会，Florianopolis, Brazil
20. Kasai K (2004) Combined Normal Mode and Q-switched Ruby Laser Treatment for Giant Pigmented Nevi. 第4回ブラジルレーザー医学会総会，Guaruja, Brazil
21. Kasai K (2004) Improvement of Laser Treatment for Portwine Stains by New Long Pulse Dye Laser with Contact Cooling Device. 第 4 回ブラジルレーザー医学会総会，Guaruja, Brazil
22. Ogawa Y, Wang Y, Kusumoto K (2004) Successful skin allograft for burn injury by inducing donor specific tolerance with bone marrow transplant in rabbits. Joint Meeting of The Middle East Burn and Fire Disaster Society & The Plastic and Reconsrtuctive Surgery, Cairo, Egypt
23. Kusumoto K, Yamamoto I, Kuniyoshi K, Ogawa Y (2004) Analysis of lip motion of cleft lip using an in-contact motion capture system. 17th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Tour
24. Takemoto T, Kusumoto K, Kakudo N, Sasao T, Ogawa Y (2004) The distorted deformity after the augmentation rhinoplasty with costal cartilage. 17th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Tour

25. Tanabe A, Kusumoto K, Miyake S, Ogawa Y (2004) Fat Injection and Transplantation in Nasal Deformation and Nasal Bone Fracture. The 5th APCA Conference, Seoul
26. Kakudo N, Kusumoto K, Takemoto T, Tanaka Y, Kurokawa I, Nakahigashi Y, Ogawa Y (2004) dumbbell-formed lipoma under zygomatic arch. 17th Congress of European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Tour
27. 南方竜也，松島貴志，王　毅彪，井ノ山隆英，小川　豊（2004）当院における動注療法について．第31回日本マイクロサージャリー学会，熊本
28. 南方竜也，松島貴志，王　毅彪，井ノ山隆英，小川　豊（2004）当院における切断端部の保存的療法について．第 83 回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪
29. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，大橋菜都子，葛西健一郎（2004）頭部顔面巨大獣皮様母斑の治療経験．第22回日本頭蓋顎顔面外科学会，東京
30. 葛西健一郎（2004）自由診療をめぐって―留意点・トラブルの回避など―．第 56 回日本皮膚科学会西部支部学術集会，久留米
31. 葛西健一郎（2004）単なるシミと誤診してレーザー治療を行っていた lentigo maligna の 1．第 83 回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪
32. 黒岡定浩，久徳茂雄，富野祐里，村岡道徳（2004）リンパ管静脈吻合を行った左上肢リンパ浮腫（2報）と蛋白漏出性胃腸症による右上下肢リンパ浮腫の治療方針．第 18 回大阪マイクロサージャリー研究会，大阪
33. 日原正勝，小川　豊，久徳茂雄，北澤康秀（2004）手部深達熱傷の治療方針と問題点．第30回日本熱傷学会総会，東京
34. 川上勝弘，久徳茂雄（2004）頭部外傷の顔面形成術．第 24 回日本脳神経外科コングレス，徳島
35. 久徳茂雄，稲垣隆介，山内康雄，富野祐里，黒岡定浩，河本圭司（2004）頭蓋冠拡大術における延長器の minor complications とその改良．第32回日本小児神経外科学会，埼玉
36. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史（2004）頭蓋冠骨延長術における前頭蓋底骨切りについて．第16回日本頭蓋底外科学会，横浜
37. 上野正人，横田順一郎，久徳茂雄（2004）多彩な臨床症状を起こした外傷性頚動脈海綿静脈洞瘻の1例. 第90回日本救急医学会近畿地方会
38. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，前川 徹，斉藤福樹，永田昌弘（2004）顕微鏡下の再建を要したリストカットの1例. 第19回大阪マイクロサージャリー研究会，大阪
39. 三木田直哉，島影達也，久徳茂雄，富野祐里，井上唯史（2004）坐骨部褥瘡に合併したフルニエ壊疽の1例．第6回日本褥瘡学会，札幌
40. 加藤裕子，佐藤美香，久徳茂雄，富野祐里，北野らん子，狩谷佳寛，小倉幸子，山中英治（2004）院内発生要因から分析した今後の褥瘡予防への課題．第6回日本褥瘡学会，札幌
41. 佐藤美香，加藤裕子，久徳茂雄，富野祐里，北野らん子，狩谷佳寛，山中英治，井上唯史（2004）褥瘡対策チーム発足 2 年目を迎えての現状と課題．第6回日本褥瘡学会，札幌
42. 宇野喜代美，和田　香，松岡祐子，小久保香織，桜井友子，加藤裕子，北野らん子，久徳茂雄，山中英治（2004）術中・術後褥瘡発生の現状と対策．第6回日本褥瘡学会，札幌
43. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，永田昌弘（2004）当科における精神疾患患者の体部分切断症例の検討．第 31 回日本マイクロサージャリー学会，熊本
44. 久徳茂雄，辻　裕之，富野祐里，井上唯史，川上勝弘（2004）Supraorbital barを骨切りしない前頭蓋底腫瘍に対する一塊切除法について．第22回日本頭蓋顔面外科学会，東京
45. 松島貴志，小川　豊，竹本剛司，王　毅彪，井上唯史，井ノ山隆英（2004）当科における小児指尖部再接着症例の検討．第 47 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
46. 黒岡定浩，久徳茂雄，富野祐里，村岡道徳（2004）リンパ管静脈吻合を行った左上肢リンパ浮腫（2報）と蛋白漏出性胃腸症による右上下肢リンパ浮腫の治療方針．第 18 回大阪マイクロサージャリー研究会，大阪
47. 伊藤文人，菅　豊明（2004）眉毛外側部へのキシロカインE局注，18G針での穿刺，ケナコ

ルト局注の手技により網膜動脈閉塞症を生じた1例．第31回KC会，大阪
48. 伊藤文人，菅　豊明（2004）義眼装着患者の健側眼に生じた涙丘部原発扁平上皮癌の 1 例．第 22 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，東京
49. 福田　智，大西早百合（2004）成人発症型青色ゴムまり様母斑症候群の1例. 第83回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪
50. 日原正勝，小川　豊，岩瀬正顕（2004）経眼窩的穿通性頭蓋底損傷の2例. 第82回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸
51. 山村有美，葛西健一郎，酒井めぐみ，久野文（2004）新型レーザー（V-Star）によるポートワイン母斑の治療．第 20 回日本臨床皮膚科医学会臨床学術集会，東京
52. 酒井めぐみ，葛西健一郎，山村有美，久野文（2004）色素性母斑のレーザー治療について．第 82 回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸
53. 酒井めぐみ，葛西健一郎，山村有美，久野文，井口有子（2004）色素レーザー治療における表面冷却の重要性について．第 20 回大阪形成外科医会学術講演会シンポジウム，大阪
54. 山村有美，葛西健一郎，酒井めぐみ，久野文，井口有子（2004）特殊血管病変のレーザー治療．第 20 回大阪形成外科医会学術講演会シンポジウム，大阪
55. 斉藤福樹，津田雅庸，深見紀彦，北澤康秀，久徳茂雄，黒岡定浩，富野祐里（2004）当院における超早期手術．第 12 回日本熱傷学会近畿地方会，大阪
56. 松本清乃，大塚和美，木岡佳子，北野らん子，久徳茂雄（2004）疼痛・睡眠・精神状態のケアに苦慮した熱傷患者2例. 第12回日本熱傷学会近畿地方会，大阪
57. 松本幸子，小川　豊（2004）眼瞼欠損や眼瞼変形を伴う義眼床再建．第 15 回義眼床手術研究会，岸和田
58. 松本幸子，木下慎介，笹尾卓史，小川　豊（2004）四肢の外傷性難治性潰瘍に対し β-FGF が奏功したいくつかの症例．第 2 回 OWH 研究会，大阪
59. 松本幸子，竹本剛司，王　毅彪，小川　豊（2004）切除 15 年後に再発をきたした眼窩 Solitary fibrous tumor の一例．第 22 回日本頭蓋顔面外科学会，東京
60. 下間亜由子，楠本健司，小川　豊（2004）正面頭部 X 線規格写真分析に基づく成人正面標準顔貌テンプレートの応用．第 47 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
61. 楠本健司，山本一郎，國吉京子，小川　豊（2004）当科における咽頭弁形成術を行った症例についての検討．第 47 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
62. 田辺敦子，楠本健司，小川　豊（2004）鼻骨骨折症例を含む鼻変形に対する脂肪注入・移植．第47回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
63. 楠本健司，山本一郎，國吉京子（2004）唇裂例における光学式動作解析システムによる口唇運動記録解析の試み（第2報）―片側唇裂術後の健側および患側口唇の動きの比較検討―．第 28 回日本口蓋裂学会総会・学術集会，鹿児島
64. 楠本健司，國吉京子，山本一郎，小川　豊（2004）当科における構音時頭部X線規格撮影を用いた鼻咽腔閉鎖機能の診断について．第22回頭蓋顎顔面外科学会，東京
65. 田辺敦子，小川　豊，楠本健司，王　毅彪，竹本剛司（2004）創傷治癒因子IL6の毛成長への影響について．第 13 回日本形成外科学会基礎学術集会，東京
66. 高井美穂，田邊敦子，三宅省吾，中島大毅（2004）診断・治療に難渋した慢性硬化性下顎骨骨髄炎の1例．第32回KC会，大阪
67. 安井浩司，松本幸子（2004）痔瘻を合併した広範囲臀部膿皮症に対する術式の検討．第 47 回日本形成外科学会総会，東京
68. 安井浩司，三宅省吾（2004）当院における過去2年間の褥瘡手術の検討．第6回日本褥瘡学会学術集会，札幌
69. 森小夕里，伊藤洋子，山川節子，安井浩司，三宅省吾（2004）当院における褥瘡対策委員会の活動の評価～褥瘡の発生率や程度の比較～．第6回日本褥瘡学会学術集会，札幌
70. 森　雄大，松島貴志，福田　智，日原正勝，藤森佐和子，楠本健司，小川　豊（2004）上顎

欠損に対する遊離骨付き皮弁による再建症例の検討．第 18 回大阪マイクロサージャリー研究会，大阪
71. 森　雄大，松島貴志，笹尾卓史，小川　豊（2004）顔面頬部の萎縮が著明な眼球欠損に対する義眼床再建．第 47 回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
72. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）ヒト乳癌細胞株（KPL-1）における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制機序の解析．第 93 回日本病理学会，札幌
73. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，上原範久，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）共役ドコサヘキサエン酸によるヒト乳癌細胞株（KPL-1）における増殖抑制効果．第14回乳癌基礎研究会，茨城
74. 清塚康彦，上原範久，段原直行，圦　貴司，辻田（久徳）美樹，島野直人，螺良愛郎（2004）マウス胸腺細胞の dexamethasone 誘発 apoptosis における telomere 長短縮と telomerase RNA の発現亢進．第93回日本病理学会，札幌
75. 上原範久，清塚康彦，辻田（久徳）美樹，森口佳映，四方伸明，螺良愛郎（2004）ニコチンアミドによる poly（ADP-ribose）polymerase（PARP）-1 を介したラット視細胞アポトーシスの抑制機序．第93回日本病理学会，札幌
76. 段原直行，辻田（久徳）美樹，圦　貴司，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）共役ドコサヘキサエン酸によるMNU誘発ラット乳癌に対する抗腫瘍効果．第 93 回日本病理学会，札幌
77. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，二階堂泰資，島野直人，上原範久，清塚康彦，四方伸明，螺良愛郎（2004）Zeranol の思春期前暴露における雌 Sprague-Dawley ラットにおよぼす影響．第93回日本病理学会，札幌
78. 島野直人，段原直行，圦　貴司，辻田（久徳）美樹，二階堂泰資，螺良愛郎（2004）Indole-3-carbinol の思春期前暴露による MNU 誘発ラット乳癌におよぼす影響．第93回日本病理学会，札幌
79. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，上原範久，松岡洋一郎，四方伸明，螺良愛郎（2004）Perillyl alcohol のヒト乳癌細胞株に対する増殖抑制効果．第14回乳癌基礎研究会，茨城
80. 吹角善隆，安達ゆかり，中田洋子，竹内　寛（2004）acne scar の治療．第97回近畿皮膚科集談会，大阪
81. 中田洋子，安達ゆかり，竹内　寛，吹角善隆（2004）毛細血管拡張症の治療．第97回近畿皮膚科集談会，大阪
82. 富野祐里，久徳茂雄，井上唯史（2004）Gluteal thigh flap による座骨・大転子部褥瘡の治療について．第 83 回形成外科関西支部学術集会，大阪
83. 富野祐里，久徳茂雄，黒岡定浩（2004）拡大縫合切除と骨延長を行った短頭の1例．第82回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸
84. 井口有子，小川 豊，久徳茂雄，竹本剛司，三宅省吾（2004）熱傷性外鼻変形に対する再建術．第30回日本熱傷学会総会，東京
85. 菅　豊明，伊藤文人（2004）分層採皮のエーテル使用時に引火によって熱傷を受傷した 1 例．第30回KC会，大阪
86. 菅　豊明，伊藤文人（2004）前額部に発生した Masson 腫瘍の 1 例．第82回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸
87. 大西早百合，福田　智（2004）化膿性尿膜管嚢腫の1例．第83回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪
88. 笹尾卓史（2004）腹部皮膚弛緩症の余剰皮膚切除後，スキンバンクへ登録した1例．第83回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪
89. 國吉京子，楠本健司，山本一郎（2004）口蓋形成術後の構音指導における [p] 音獲得と異常構音の関係．第28回日本口蓋裂学会，鹿児島
90. 國吉京子，楠本健司，山本一郎（2004）当科における構音時セファロによる鼻咽腔閉鎖機能の診断と治療について．第 49 回日本音声言語医学会，熊本
91. 田中義人，楠本健司，小川　豊（2004）von Recklinghausen 氏病の乳房再建．第82回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸
92. 三宅省吾，安井浩司（2004）治療に苦慮する成人唇裂患者の鼻変形症例．第30回KC会，大阪
93. 三宅省吾，安井浩司（2004）高周波メスと炭酸ガスレーザーの併用による鼻瘤剥皮術の有

用性．第 82 回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸

94. 三宅省吾，安井浩司（2004）入院中に仙骨部褥瘡より壊死性筋膜炎を発症し死に到った症例．第6回日本褥瘡学会学術集会，札幌

95. 山本　純，下間亜由子，藤森佐和子，覚道奈津子，小川　豊（2004）ステロイド剤の副作用により高度の皮膚弛緩症を来たした1例．第 82 回日本形成外科学会関西支部学術集会，神戸

96. 山本　純（2004）食道巨大憩室後に食道狭窄及び胸腔皮膚朗?を生じた1例．第　回KC会，大阪

著　書

1. 葛西健一郎（2004）YAG レーザー．レーザー治療最近の進歩（第2版）（谷野隆三郎編）55–59頁，克誠堂，東京
2. 葛西健一郎（2004）刺青．レーザー治療最近の進歩（第2版）（谷野隆三郎編）143–147頁，克誠堂，東京
3. 葛西健一郎（2004）皮膚科診療プラクティス 17巻（葛西健一郎ゲスト編集）頁，文光堂，東京
4. 葛西健一郎（2004）Rejuvenation医療をこころざす人たちへ．皮膚科診療プラクティス 17 巻 Rejuvenationの実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）2-9頁，文光堂，東京
5. 葛西健一郎（2004）オリエンテーション―何からはじめてどこへ行くのか？―．皮膚科診療プラクティス17巻　Rejuvenationの実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）36–40頁，文光堂，東京
6. 葛西健一郎（2004）いわゆるシミとは何か？―私はこう考える―．皮膚科診療プラクティス 17 巻　Rejuvenation の実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）41–44頁，文光堂，東京
7. 久野　文（2004）老人性色素斑および脂漏性角化症．皮膚科診療プラクティス17巻　Rejuvenation の実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）67–73頁，文光堂，東京
8. 葛西健一郎（2004）〈ディベート〉レーザーやピーリングなどの処置後にサンスクリーンは必要か？　皮膚科診療プラクティス 17 巻 Rejuvenationの実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）126–127頁，文光堂，東京
9. 葛西健一郎（2004）眼の下の隈（くま）の鑑別診断．皮膚科診療プラクティス17巻　Rejuvenation の実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）235–236 頁，文光堂，東京
10. 葛西健一郎（2004）私の rejuvenation 戦略．皮膚科診療プラクティス17巻　Rejuvenationの実際／皮膚の若返り（葛西健一郎，宮地良樹，瀧川雅浩編）296–303頁，文光堂，東京
11. 葛西健一郎（2004）眉毛・睫毛の再建．毛髪疾患の最新治療（平山　峻編）135–146頁，金原，東京
12. 小川　豊（2004）自己臭症（腋臭症）形成外科から．皮膚心療内科（宮地良樹ら編）213–216頁，診断と診療社，東京
13. 小川　豊（2004）母斑・母斑症．形成外科学第2版（森口隆彦編）249–258頁，南山堂，東京
14. 小川　豊（2004）鼻骨骨折．家庭医学大全科，3073–3074頁，法研，東京
15. 小川　豊（2004）口唇・口腔内の損傷．家庭医学大全科、3074–3075頁，法研，東京
16. 小川　豊（2004）舌の損傷．家庭医学大全科，3075–3076頁，法研，東京
17. 小川　豊（2004）顔面骨骨折．家庭医学大全科，3077–3079頁，法研，東京
18. 小川　豊（2004）広範囲皮膚剥脱．家庭医学大全科，3132–3133頁，法研，東京
19. 土井秀明（2004）レーザー脱毛（1）レーザー脱毛の原理．形成外科ADVANCEシリーズII-2 レーザー治療最近の進歩（第 2 版）（谷野隆三郎編）178–184頁，克誠堂，東京

皮膚科学講座

＜研究業績＞

原　著

1. Mizuno K, Okamoto H, Horio T (2004) Inhibitory influences of xanthine oxidase inhibitor and angiotensin I-converting enzyme inhibitor on multinucleated gian cell formation from monocytes by downregulation of adhesion molecules and purinergic receptors. Br J Dermatol 150: 205–210
2. Mizuno K, Okamoto H, Horio T (2004) Ultraviolet B radiation suppresses endocytosis, subsequent maturation, and migration activity of Langerhans cell-like dendritic cells. J Invest Dermatol 122: 300–306
3. Ohe S, Danno K, Sasaki H, Isei T, Okamoto H, Horio T (2004) Treatment of acquired perforating dermatosis with narrowband ultravioletB. J Am Acad Dermatol 50: 892–894
4. Yamazaki F, Okamoto H, Miyauchi-Hashimoto H, Matsumura Y, Itoh T, Tanaka K, Kunisada T, Horio T (2004) XPA gene-deficient, SCF-transgenic mice with epidermal melanin are registant to UV-induced carcinogenesis. J Invest Dermatol 123: 220–228
5. Mizuno K, Okamoto H, Horio T (2004) Langhans-type more than foreign body-type multinucleated giant cells are induced from UVB-irradiated monocytes. J Dermatol Sci 35: 227–229
6. Matsumura Y, Matsumura Yu, Nishigori C, Horio T, Miyachi Y (2004) PIG7/ LITAF gene mutation and overexpression of its gene product in extramammary Paget's disease. Int J Cancer 111: 218–223
7. Matsumura Y, Moodycliffe, AM, Nghiem DX, Ullrich SE, Ananthaswamy HN (2004) Resistance of CD1d-/- mice to ultraviolet-induced skin cancer is associated with increased apoptosis. Am J Pathol 165: 879–887
8. 中島とう子，岡本祐之，堀尾　武（2004）Basedow 病を伴ったサルコイドーシス．皮膚臨床 46: 521–523
9. 村江美保，河合修三，堀尾　武（2004）陰圧密封療法が奏効した巨大ポケットを有する下腿潰瘍．皮膚の科学　3: 161–165
10. 今井亜紀子，山崎文和，杉原　昭，橋本洋子，岡本祐之，堀尾　武（2004）外傷を契機に発症した水疱性類天疱瘡の例．皮膚臨床　46: 1819–1821
11. 井関宏美，岡本祐之，松下匡孝，仲野俊成，堀尾　武（2004）Cowden 病の 2 例．皮膚臨床 46: 1927–1930
12. 杉原　昭，岡本祐之，堀尾　武（2004）ロメフロキサシンおよびオフロキサシン点耳液による播種状紅斑丘疹型薬疹の1例．日皮アレルギー　12: 65–69
13. 山本典雅，大貫雅子，為政大幾，堀尾　武（2004）血液透析中のアナフィラキシー．日皮アレルギー　12: 91–94
14. 阿曽沼由香，堀尾　武（2004）ニンジンI型アレルギー，金属，ラテックスIV型アレルギー，光アレルギーの合併例．日皮アレルギー　12: 95–99
15. 大江秀一，為政大幾，河本慶子，大貫雅子，堀尾　修，幾井宣行，堀尾　武（2004）巨大な腫瘍を形成した Bowen 癌の 1 例．皮膚の科学 3: 572–575

総　説

1. Matsumura Y, Ananthaswamy HN (2004) Toxic effects of ultraviolet radiation on the skin. Toxicol Appl Pharm 195: 298–308
2. 堀尾　武，橋本洋子（2004）光線過敏症の動物モデル．アレルギー科　17: 116–121
3. 堀尾　武，山中滋木（2004）局面状類乾癬．Visual Dermatology 3: 366–367
4. 堀尾　武，太田　馨（2004）Mucha-Habermann 病．Visual Dermatology 3: 378–379
5. 大江秀一，堀尾　武（2004）Acquired perforating dermatosis. Visual Dermatology 3: 386–387
6. 為政大幾，二村省三，堀尾　武（2004）Photodynamic therapy: PDT. Visual Dermatology 3: 396–397
7. 秋友保千代，堀尾　武（2004）皮脂腺および皮脂に及ぼす紫外線（UVB）の影響．フレグランス　ジャーナル　32（3）: 19–25

8. 正木浩哉，松原弘明，天野克也，岩坂寿二，河合修三，堀尾　武（2004）皮膚難治性潰瘍に適応される骨髄細胞移植を用いた血管新生治療の現状．MB Derma 74: 14–18
9. 堀尾　武（2004）光皮膚科学IV，光線療法．皮膚の科学　3: 137–139
10. 堀尾　武，山埼文和，橋本洋子，今井亜紀子（2004）非ステロイド系消炎鎮痛剤による光アレルギーの臨床と動物実験．新薬と臨床　53: 702–711
11. 堀尾　武（2004）循環器系・免疫系に対する日光の作用．日本医事新報　4197: 94–95
12. 堀尾　武（2004）小児にみる光線過敏症．MB Derma 93: 179–185
13. 杉原　昭，岡本祐之，堀尾　武（2004）樹状細胞およびランゲルハンス細胞における細胞骨格成分の役割．皮膚の科学　3: 449–454
14. 岡本祐之, 水野可魚，堀尾　武（2004）ヒト末梢血単球由来の多核巨細胞．日本ハンセン病学会雑誌　73: 245–251
15. 岡本祐之（2004）サルコイドーシス：新しい病因の話題と診療の基本　皮膚サルコイドーシス．Mebio 7: 90–94
16. 岡本祐之（2004）手許に置きたい診断基準とその解説，サルコイドーシス．皮膚科の臨床 46: 1578–1583

学会発表

1. 堀尾　武，山埼文和（2004）紫外線による免疫抑制と発癌に対する表皮メラノサイトの役割．第14回太陽紫外線防御研究委員会，金沢
2. Horio T (2004) DNA damage initiates photobiological reactions. 14th International Congress of Photobiology, Jeju, KOREA
3. Horio T (2004) Photoallergic reactions: Clinical features and pathomechanisms. Honam Regional Meeting of Korean Dermatological Assosiation, Kwangju, KOREA
4. 堀尾　武（2004）菌状息肉症の内服 PUVA 療法．第103回日本皮膚科学会総会，京都
5. 堀尾　武（2004）最近話題の治療：ナローバンドUVB療法．第20回日本臨床皮膚科医会近畿支部学会，大阪
6. 岡本祐之，水野可魚，杉原　昭，浜川素子，堀尾　武（2004）ランゲルハンス細胞に対する紫外線の影響．第 26 回光医学・光生物学会，大阪
7. 伊藤健人，橋本洋子，堀尾　武（2004）ニューキノロン系抗菌薬とUVAによるCPD型DNA損傷と発癌性．第26回光医学・光生物学会，大阪
8. 堀尾　武（2004）PUVA療法の歴史と応用．第55回日皮会中部支部学会，金沢
9. Matsumura Y, Moodycliffe AM, Neghiem DX, Ullrich SE, Ananthaswamy HN (2004) Resisitance of CD1d-deficient mice to UV skin carcinogenesis is associated with increased keratinocyte apoptosis. The 14th International Congress of Photobiology, Jeju, KOREA
10. 松村康洋（2004）適応外使用されている皮膚疾患に有効な薬剤（教育講演）．第 103 回日本皮膚科学会総会，京都

著　書

1. 堀尾　武（2004）光アレルギー．総合アレルギー学（福田　健編）597–603頁，南山堂，東京
2. 堀尾　武（2004）PUVAと発癌．皮膚科診療プラクティス 16：乾癬にせまる（飯塚　一編）98–100頁，文光堂，東京
3. 堀尾　武（2004）グルカゴノーマ．皮膚診断の技法―皮膚を診ると全身が見える（岩月啓氏，宮地良樹編）220–221 頁，診断と治療社，東京
4. 堀尾　武（2004）老徴，光老化，皮膚発癌．最新皮膚科学大系・特別巻 1（玉置邦彦，飯塚一，清水宏，富田　靖，宮地良樹，橋本公二，古江増隆編）252–259頁，中山書店，東京
5. 堀尾　武（2004）環状紅斑．皮膚疾患最新の治療2005–2006（滝川雅浩，渡辺晋一編）39頁，南江堂，東京
6. 岡本祐之（2004）Cobb syndrome, Weber-Christian syndrome, yellow nail sindrome. 最新皮膚科学大系　特別巻2（玉置邦彦ほか編）75，374，388，2004頁，中山書店，東京
7. 岡本祐之（2004）肉芽腫様病変，サルコイドーシス．皮膚診断の技法（岩月啓氏，宮地良樹編）94–97，246–247頁，診断と治療社，東京

泌尿器科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Matsuda T, Nakagawa M, Ohguchi N, Yanishi M, Fukui S, Kawa G, Muguruma K (2004) Retroperitoneoscopic partial nephrectomy with transient occlusion of renal artery for treatment of small renal tumors. Urology 64: 26–30
2. Akaza H, Yamaguti A, Matsuda T, Igawa M, Kumon H, Soeda A, Arai Y, Usami M, Naito S, Ohashi Y (2004) Superior Anti-tumor Efficacy of Bicalutamide 80 mg in Combination with a Luteinzing Hormone-(LHRH) Agonist Versus LHRH Agonist Monotherapy as First-line Treatment for Advanced Prostate Cancer: Interim Results of a Randomized Study in Japanese Patients. Jap J Clin Oncol 34: 20–28
3. 松田公志，巽　一啓，六車光英（2004）男性更年期障害患者の QOL：男性ホルモン補充療法による改善．Urol View　2: 100–106
4. 杉　素彦（2004）尿路閉塞による敗血症性ショックにエンドトキシン吸着療法を行った2症例．泌紀　50: 685–689
5. 日浦義仁，岡田日佳，佐藤仁彦，河　　源，木下秀文，松田公志（2004）腹腔鏡下副腎摘除術．最新医　59: 99–105
6. 六車光英，日浦義仁，松田公志（2004）閉塞性無精子症の診断と治療．泌紀　50: 553–557
7. 杉　素彦（2004）尿膜管腫瘍と鑑別が困難であった腹壁デスモイドの 1 例．泌紀　50: 489–492
8. 六車光英，松田公志（2004）EBM から見た精索静脈瘤手術．日生殖外会誌　17: 26–29
9. 松田公志，河　　源，中川雅之，福井勝一，矢西正明，吉田健志（2004）腎動脈遮断による後腹腔鏡下腎部分切除術：腫瘍部位別手術手技．VIDEO JOURNAL of JUA

総　説

1. 松田公志，六車光英（2004）精索静脈瘤の治療―妊孕性への効果を中心に．Urology Today 11
2. 松田公志，佐藤仁彦（2004）腎癌に対する手術療法．Highlights of AUA　8: 13
3. 松田公志（2004）高齢男性におけるアンドロゲン補充療法．Highlights of AUA　8: 17
4. 岡田日佳，川喜多繁誠，河　　源，六車光英，松田公志（2004）副腎偶発腫瘍に対する腹腔鏡下副腎摘除術―泌尿器科の立場から―．ホルモンと臨　52: 83–90
5. 松田公志，六車光英（2004）泌尿器科領域における腹痛への対応はどうするの？　臨研プラクティス　1: 58–67
6. 松田公志，内藤誠二，小野佳成（2004）泌尿器科における腹腔鏡手術の教育体制．日内視鏡外会誌　9: 278–281
7. 松田公志，六車光英（2004）精索静脈瘤手術は有効か．日生殖外会誌　17: 46–49

学会発表

1. 松田公志（2004）男性の更年期を考える．ジェンダーフリー講座，京都
2. 松田公志（2004）男にもある更年期～注意信号を見逃さないために～．男性のための自己管理講座，大阪
3. Matsuda T（2004）Laparoscopic Surgical Skill Qualification System: Japanese experience. 13th Annual Scientific Meeting of Hong Kong Society of Minimal Access Surgery, バリ
4. 松田公志（2004）更年期を健やかに過ごすために男性更年期障害とは．ライフサイクルとしての更年期（研修会），兵庫
5. Matsuda T (2004) Retroperitoneoscopic partial nephrectomy. 7th Asian Congress of Urology, Asian Society of Endourology 13th Scientific Meeting, Pre-congress Endo-Laparoscopic Urology Workshop, 香港
6. 松田公志（2004）男性更年期障害治療の現状と課題. 第77回日本内分泌学会学術総会, 京都
7. 松田公志（2004）男性更年期障害と ED―何がどこまで分かったのか―．広島市内科医会学術講演会，広島
8. 松田公志（2004）ART時代の男性不妊症診療：泌尿器科の役割．第7回日本IVF研究会，大阪
9. 松田公志（2004）男性更年期の治療学を考え

る．第4回日本Asing Male研究会，東京
10. Tatsumi M, Danno S, Muguruma K, Matsuda T (2004) Improvement in the quality of life of PADAM patients following testosterone replacement therapy. The 4th world congress on the aging male, プラハ
11. Matsuda T, Nakagawa M, Nishida T, Yanishi M, Kawa G, Muguruma K (2004) Laparoscopy assisted ileal replacement of the ureter: An initial experience for a patient with ureteral stricture. 15th Video-Urology World Congress, 韓国
12. Matsuda T, Kawa G, Kinoshita H (2004) Retroperitoneoscopic Partial Nephrectomy: Comparison between Non-lschemic and lschemic Methods. Endoscopic And Laparoscopic Surgeons of Asia, バリ
13. Hiura Y, Kawa G, Kinoshita H, Matsuda T (2004) Laparoscopic Retroperitoneal Pyeloplasty for Ureteropelvic Junction Stenosis. Endoscopic And Laparoscopic Surgeons of Asia, バリ
14. Matsuda T, Ono Y (2004) Laparoscopic Surgical Skill Qualification system in Urology. Urological Research Society Meeting, 韓国
15. 佐藤仁彦（2004）腹腔鏡下手術における合併症の検討．第23回泌尿器科手術研究会，香川
16. 乾　秀和，川喜多繁誠，岡田日佳，河　　源，松田公志（2004）術後 14 年目に穿孔をきたしたコックパウチの一例．第186回日本泌尿器科学会関西地方会，大阪
17. 巽　一啓，日浦義仁，六車光英，松田公志（2004）男性更年期障害患者に対するホルモン補充療法の検討．第120回関西医科大学学術集談会，大阪
18. 巽　一啓，六車光英，松田公志（2004）男性更年期外来受診患者の気分プロフィール検査POMSによる評価．第126回日本不妊学会関西支部集談会・第 27 回関西アンドロロジーカンファレンス，大阪
19. 中川雅之，福井勝一，西田晃久，巽　一啓，矢西正明，田中朋子，大口尚基，河　　源，六車光英，松田公志（2004）腎動脈遮断による後腹膜腔鏡下腎部分切除術．第119回関西医科大学学術集談会，大阪
20. 松田公志（2004）How to manage complications during laparoscopic renal surgery．泌尿器科腹腔鏡下手術研究会，愛知
21. 河　　源，松田公志（2004）腎動脈遮断による鏡視下腎部分切除術．第 92 回日本泌尿器科学会総会，大阪
22. 河　　源，西田晃久，日浦義仁，三島崇生，吉田健志，大口尚基，六車光英，松田公志（2004）馬蹄腎に対する腹腔鏡下半腎摘除術の経験．第92回日本泌尿器科学会総会，大阪
23. 六車光英，巽　一啓，檀野祥三，日浦義仁，松田公志（2004）男性更年期外来受信患者の血中テストステロン値の検討．第 92 回日本泌尿器科学会総会，大阪
24. 佐藤仁彦，谷口久哲，吉田健志，乾　秀和，巽　一啓，西田晃久，川喜多繁誠，日浦義仁，大口尚基，河　　源，岡田日佳，六車光英，松田公志（2004）腹腔鏡下手術における合併症の検討．第92回日本泌尿器科学会総会，大阪
25. 日浦義仁，河　　源，吉田健志，谷口久哲，乾秀和，巽　一啓，西田晃久，佐藤仁彦，川喜多繁誠，大口尚基，岡田日佳，六車光英，松田公志（2004）腎癌に対する鏡視下手術の予後の検討．第92回日本泌尿器科学会総会，大阪
26. 大口尚基，佐藤仁彦，巽　一啓，谷口久哲，福井勝也，河　　源，六車光英，松田公志（2004）後腹膜鏡下ドナー腎摘出術の経験．第 92 回日本泌尿器科学会総会，大阪
27. 松田公志，河　　源，大口尚基，岡田日佳，佐藤仁彦，西田晃久，六車光英（2004）T2 腎癌に対する復帰鏡下根治的腎摘除術：郭清を含めた左側手術．第92回日本泌尿器科学会総会，大阪
28. 川端和史，駒井資弘，土井　浩，大原　孝，室田卓之，松田公志（2004）関西医科大学附属香里病院における ESWL の治療成績．第 92 回日本泌尿器科学会総会，大阪
29. 松田公志（2004）日本での泌尿器腹腔鏡下手術の技術認定制度．泌尿器科腹腔鏡下手術研究会，愛知
30. 巽　一啓，檀野祥三，日浦義仁，六車光英，松田公志（2004）男性更年期患者の包括的健康関連QOL尺度SF-36を指標にした，ホルモン療法の有用性．第 92 回日本泌尿器科学会総会，大阪

31. 松田公志（2004）腹腔鏡下副腎摘除術の教育と技術認定制度．第16回日本内分泌外科学会，東京
32. 河　　源（2004）当科における副腎褐色細胞腫に対する腹腔鏡下手術の経験．第 16 回日本内分泌外科学会，東京
33. 西田晃久（2004）当科におけるアルドステロン症の予後調査．第16回日本内分泌外科学会，東京
34. 河　　源，巽　一啓，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）男性更年期障害に対するホルモン補充療法後のAMS質問紙スコアの変化に関する検討．第23回日本アンドロロジー学会，山梨
35. 松田公志，中谷嘉男，西川光重，米田　博，鏡山博行，（2004）選択性臨床実習における大学間相互乗り入れ：関西医科大学と大阪医科大学での試み．第 36 回日本医学教育学会大会，高知
36. 河　　源，巽　一啓，六車光英，日浦義仁，木下秀文，松田公志（2004）男性更年期障害に対するホルモン補充療法後の性機能に関する検討．第14回日本性機能学会中部総会，京都
37. 六車光英（2004）間質性膀胱炎患者のQOL．第3回大阪排尿障害研究会，大阪
38. 六車光英（2004）精索静脈瘤．第 49 回日本不妊学会学術講演会，北海道
39. 木下秀文（2004）再燃前立腺癌の問題点と治療の現状．第69回日本泌尿器科学会東部総会，東京
40. 河　　源，巽　一啓，六車光英，日浦義仁，木下秀文，松田公志（2004）当院における男性更年期外来受診患者の性機能に関する検討．第15回日本性機能学会学術総会，徳島
41. 川喜多繁誠，大口尚基，巽　一啓，西田晃久，河　　源，岡田日佳，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）LH-RH アナログ製剤の変更によるテストステロンへの影響．第 42 回日本癌治療学会総会，京都
42. 木下秀文，賀本敏行，清川岳彦，山本新吾，高橋　毅，中村英二郎，羽渕友則，松田公志，小川　修（2004）前立腺特異抗原（PSA）が高値で生検陰性例の臨床的意味．第 42 回日本癌治療学会総会，京都
43. 岡田日佳，川喜多繁誠，河　　源，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）表在性膀胱癌に対する術後 pirarubicin（THP）膀胱内投与（時間・回数）方法の比較．第 42 回日本癌治療学会総会，京都
44. 地崎竜介，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）関西医大における性同一性障害患者の診療の流れ．第 29 回関西アンドロロジーカンファレンス，大阪
45. 安田鐘樹，谷口久哲，巽　一啓，河　　源，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）経尿道的尿管砕石術（TUL）の臨床的検討．第 18 回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
46. 河　　源，巽　一啓，日浦義仁，佐藤仁彦，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）腎盂尿管移行部狭窄症に対する後腹膜鏡下腎盂形成術の検討．第18回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
47. 佐藤仁彦，谷口久哲，福井勝也，地崎竜介，巽一啓，日浦義仁，河　　源，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）上部尿路腫瘍に対する腎尿管全摘除術：腹腔鏡下手術と開放手術の検討．第18回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
48. 河　　源，巽　一啓，安田鐘樹，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）Hem-o-lok を用いた腎動脈クリッピング後，同部の離断をみた一例．第18回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
49. 川喜田睦司，安田鐘樹，島田　治，中川雅之，大口尚基，松田公志（2004）右腎癌の左横隔膜脚後部リンパ節転移に対する後腹膜鏡下傍大動脈リンパ節郭清術．第 18 回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
50. 松田公志（2004）Laparoscopic surgical skill qualification system in urology．第 18 回日本Endourology ・ESWL学会総会，岡山
51. 松田公志（2004）泌尿器腹腔鏡技術認定について．第18回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
52. 松田公志（2004）技術認定制度委員会報告．第18回日本Endourology・ESWL学会総会，岡山
53. 巽　一啓，河　　源，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）術中異常高血圧により診断に

至った褐色細胞腫の1例．第8回内視鏡下内分泌手術研究会，神奈川
54. 松田公志，小野佳成，寺地敏郎，内藤誠二，三木恒治，馬場志郎（2004）泌尿器腹腔鏡技術認定制度が開始されて．第 17 回日本内視鏡外科学会総会，神奈川
55. 木下秀文，佐藤仁彦，地崎竜介，河　　源，六車光英，松田公志（2004）腹腔鏡下神経温存膀胱全摘除術および回腸新膀胱造設術の経験．第17回日本内視鏡外科学会総会，神奈川
56. 巽　一啓，河　　源，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）男性更年期患者におけるホルモン補充療法によるBMIの変化の考察．第4回日本Asing Male研究会，東京
57. 河　　源，巽　一啓，六車光英，木下秀文，松田公志（2004）男性更年期障害患者に対するホルモン補充療法有効例の検討．第 4 回日本Asing Male研究会，東京
58. 木下秀文，賀本敏行，清川岳彦，河　　源，六車光英，松田公志，小川　修（2004）前立腺全摘除術後の PSA 再発と PSA nadir について．第20回前立腺シンポジウム，東京
59. 渡辺仁人，乃美昌司，杉田良文，吉野　薫，谷風三郎（2004）経膀胱的手術にドレーンは必要か？　第 13 回日本小児泌尿器科学会総会，大阪
60. 谷口久哲，佐藤仁彦，巽　一啓，大口尚基，河　源，松田公志，山崎由紀子，神崎秀陽，坂井田紀子（2004）卵巣癌膀胱転移の1例．第186回日本泌尿器科学会関西地方会，大阪
61. 吉田健志，西田晃久，日浦義仁，河　　源，六車光英，松田公志（2004）腹腔鏡手術で治療した腎杯憩室結石・憩室破裂の1例．第187回日本泌尿器科学会関西地方会，兵庫
62. 谷口久哲，佐藤仁彦，巽　一啓，大口尚基，河　源，松田公志（2004）膀胱原発平滑筋肉腫の1例．第187回日本泌尿器科学会関西地方会，兵庫
63. 三島崇生，佐藤仁彦，谷口久哲，巽　一啓，大口尚基，河　　源，六車光英，木下秀文，松田公志，坂井田紀子（2004）肺扁平上皮癌腎盂転移の1例．第189回日本泌尿器科学会関西地方会，京都

著　書

1. 河　　源，松田公志（2004）腹腔鏡手術　泌尿器腹腔鏡下手術における周術期管理の特徴．泌尿器科周術期管理のすべて（荒井陽一，松田公志編）98–103頁，メディカルビュー社，東京
2. 六車光英（2004）オープンサージャリー　男性不妊症の手術．泌尿器科周術期管理のすべて（荒井陽一，松田公志編）282–290 頁，メディカルビュー社，東京
3. 日浦義仁，六車光英，松田公志（2004）閉塞性無精子症．必携　今日の生殖医療　産婦人科治療　Vol. 88　増刊　333–340頁, 永井書店，東京
4. 松田公志（2004）閉塞性無精子症の診断　適切な診断を目指して．生殖医療のコツと落とし穴　40頁，中山書店，東京
5. 松田公志，川喜田睦司，室田卓之（2004）腹腔鏡下副腎摘除術．鏡視下手術手技図譜 202–213頁，永井書店，東京
6. 川喜田睦司（2004）後腹腔鏡下腎摘除術．鏡視下手術手技図譜　214–219頁，永井書店，東京
7. 川喜田睦司（2004）腹腔鏡下停留精巣診断と腹腔内精巣固定術．鏡視下手術手技図譜 220–224頁，永井書店，東京

眼科学講座

〈研究概要〉

I　臨床研究

1. 高齢者の視機能をおびやかす加齢黄斑変性症において脈絡膜新生血管が網膜中心窩に発生した時には有効な治療法がなかったが，最近光線力学療法の治験が終わり，臨床応用が開始された．日本人における効果の程度と限界をあきらかにするべく，多くの治療症例を蓄積して詳細な経過観察を行っている段

階である．さらに，薬剤で脈絡膜新生血管を抑制することを目的に，現在3種類の治験が進行中である．
2. 網膜深層および脈絡膜の病変は通常の診療技術ではとらえにくく，それを補うものとしてフルオレスセインとインドシアニングリーンの蛍光造影剤を用いた蛍光眼底造影による検査所見と遠赤外光を用いた網膜断面観察計optical coherence tomography（OCT）とにより黄斑部病変の詳細な観察を行う研究に力を注いできた．黄斑変性症の代表である加齢黄斑変性症と，それに似ていて異なる疾患であるポリープ状脈絡膜血管症とを疫学的，臨床的に比較検討し，日本人におけるこの疾患の病態が欧米人とは異なる点が明らかとなってきた．この成果は治療適応やその時期・方法などの検討に重要で臨床に役立つものである．
3. 黄斑上膜，網膜剥離，加齢黄斑変性，緑内障と眼科で手術対象となる疾患は高齢者に多く，同時に白内障も罹患していることが多い．これらの手術治療に際し，超音波による水晶体摘出術，眼内レンズ挿入術を同時に行うことができれば，1回の手術で複数の眼疾患を治療することが出来る．その治療結果は術式の洗練により飛躍的に向上し，むしろ同時手術の方が原疾患の治療成績もよいことがわかってその成績を報告してきたが，さらに精密な視機能を得るべく臨床データの蓄積と解析を行っている．
4. 慢性の緑内障はゆっくりと視野障害が進行し，決定的な治療法に欠けるが，新しい眼圧下降薬と新しい手術術式が登場し，その効果を確かめる臨床成績を報告してきた．現在新しい眼圧下降点眼薬の治験を進めている．

II　実験研究

1. 培養細胞を用いて，緑内障における房水流出抵抗の場である線維柱帯細胞において，NO が保護的作用を持つことがわかってきて緑内障の研究に展開がある．
2. 神経栄養因子であるPigment epithelium derived factor（PEDF）は同時に血管新生抑制作用ももつ．ヒトの硝子体におけるPEDF濃度は，増殖糖尿病網膜症で低く，網膜剥離では高いことがわかった．増殖糖尿病網膜症における新生血管の発生メカニズムに PEDF の低下が関与していることは今後の治療を考えるうえで重要である．
3. 薬剤誘発網膜色素変性症において，網膜の変性が食餌性にある程度コントロールできることがわかってきて，本症への介入に新たな展開を期待したい．
4. 網膜色素上皮は高濃度のオルニチンで傷害されるが，培養網膜色素上皮においては傷害されるタイプとされないタイプの2種類があり，障害はプロリンによってレスキューされ，その傷害のメカニズムにアミノ酸トランスポーターが関与することがわかってきた．網膜変性のメカニズムに新たな視点が加えられている．

〈研究業績〉

原　著

1. Kiuchi K, Kondo M, Ueno S, Moriguchi K, Yoshizawa K, Miyake Y, Matsumura M, Tsubura A (2003) Functional rescue of N-methyl-N-nitrosourea-induced retinopathy by nicotinamide in spraque-Dawley rats. Current Eye Res 26: 355–362
2. Nahoko Ogata, Masato Matsuoka, Masahito Imaizumi, Miwa Arichi, Miyo Matsumura (2004) Decrease of Pigment Epithelium-derived Factor in Aqueous Humor With Increasing Age. Am J Ophthalmol 137: 935–936
3. Nahoko Ogata, Masato Matsuoka, Masahito Imaizumi, Miwa Arichi, Miyo Matsumura (2004) Decreased Levels of Pigment Epithelium-derived Factor in Eyes With Neuroretinal Dystrophic Diseases. Am J Ophthalmol 137: 1129–1130
4. Naotaka Hayashi, Nobuo Jo, Motokuni Aoki, Kunio Matsumoto, Toshikazu Nakamura, Yasufumi Sato, Nahoko Ogata, Toshio Ogihara, Yasufumi Kaneda, Ryuichi Morishita (2004) Invivo evidence of angiogenesis induced by transcription factor Ets-1. Ets-1 is located upstream of angiogenesis cascade. Circulation 109: 3035–3041
5. Masato Matsuoka, Nahoko Ogata, Tetsuya Nishi-

mura, Kanji Takahashi, Miyo Matsumura (2004) Expression of pigment epithelium-derived factor and vascular endothelial growth factor in choroidal neovascular membranes and polypoidal choroidal vasculopathy. British Journal of Ophthalmology 88: 809–815

6. Nobuo Jo, Guey-Shuang Wu, and Narsing A. Rao (2004) Upregulation of Chemokine Expression in the Retinal Vasculature in Ischemia-Reperfusion Injury. Investigative Ophthalmology & Visual Science 44: 4054–4060
7. Masahito Imaizumi, Nahoko Ogata, Miwa Arichi (2004) Development of Multiple Sclerosis in a Child Presenting with Acute Bilateral Retrobulbar Optic Neuritis. Jpn J Ophthalmol 48: 177–179
8. Kaei Moriguchi, Katsuhiko Yoshizawa, Nobuaki Shikata, Takashi Yuri, Hideho Takada, Takahiko Hada, Airo Tsubura (2004) Suppression of N-Methyl-N-Nitrosourea-Induced Photoreceptor Apoptosis in Rats by Docosahexaenoic Acid. Ophthalmic Research 36: 98–105
9. Tomita Minoru, Matsubara Takashi, Yamada Haruhiko, Takahashi Kanji, Nishimura Tetsuya, Sho Kenichiro, Uyama Masanobu, Matsumura Miyo (2004) Long term follow up in a case of successfully treated idiopathic retinal vasculitis, aneurysms, and neuroretinitis (IRVAN). Br J Ophthalmol 88: 302–303
10. Tomita Minoru, Yamada Haruhiko, Adachi Y, Cui Y, Yamada Eri, Higuchi Akiko, Minamino Keizou, Suzuki Y, Matsumura Miyo, Ikehara Susumu (2004) Choroidal neovascularization is provided by bone marrow cells. Stem Cells 22: 21–26
11. Hiroyuki Nambu, Rie Nambu, Yuji Oshima, Sean F Hackett, Godwin Okoye, S Wiegand, G Yancopoulos, Donald J Zack and Peter A Campochiaro (2004) Angiopoietin 1 inhibits ocular neovascularization and breakdown of the blood-retinal barrier. Gene therapy 11: 865–873
12. 黒川弘晶，金　熙乾，清水　健，赤井幹夫，池田耕士，澤田　敏，有地美和，緒方奈保子，松村美代（2003）頭蓋内血管による視神経圧迫の MRI　正常眼圧緑内障による視野障害も含めて．Japanese Journal of Clinical Radiology（臨床放射線）　48: 1655–1662
13. 安藤　彰，金子志帆，松村美代（2004）ブタ培養線維柱帯細胞の増殖に対する細胞増殖因子の効果．日眼会誌　108: 549–553
14. 安藤　彰，大山奈美，安田光代，松村美代（2004）視神経乳頭所見と視野との対応が異なる視神経低形成に併発した開放隅角緑内障の2例．臨床眼科　58: 315–320
15. 緒方奈保子，今泉正仁，宮代美樹，生水　晃，野村昌作，松村美代（2004）糖尿病網膜症と血小板由来マイクロパーティクル．臨床眼科 58: 1441–1444
16. 山田晴彦，山田英里，中田知伸（2004）網膜静脈分枝閉塞症と裂孔原性網膜剥離を伴った眼トキソカラ症の 1 例．臨床眼科　58: 2159–2164
17. 二階堂潤，山田晴彦，三間由美子，宮本秀樹，松村美代（2004）未熟児網膜症自然治癒 31 年後に発症した裂孔原性網膜剥離の1例．臨床眼科　58: 2165–2169
18. 佐々木奈穂，岡見豊一，松永裕史，白数純也，畑埜浩子，弓削堅志，津村晶子，西信昭子，岩下憲四郎（2004）加齢性内反症に対する下眼瞼牽引筋腱膜短縮による手術成績．眼科手術 17: 131–134
19. 山田晴彦，山田英里（2004）新しい水晶体核処理の提案と Harry Phaco Chopper の有用性の検討．眼科手術　17: 591–596
20. 木内克治，山田晴彦，河合江実，藤関義人，和田光正，内田宜子，樋口暁子，南野桂三，松村美代（2004）糖尿病網膜症に対する硝子体手術施行症例の僚眼から検討した硝子体手術の施行時期．眼紀　55: 96–99
21. 藤本正流，有地美和，緒方奈保子（2004）Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus（MRSA）に対する治療が奏効した眼内炎の1例. 眼紀　55: 218–221
22. 南野桂三，山田晴彦，河合江実，藤関義人，和田光正，木内克治，内田宜子，樋口暁子，松村美代（2004）Optical Coherence Tomography 3（OCT3）による糖尿病網膜症に伴う硬性白斑の局在．眼紀　55: 187–191
23. 有馬由里子，河原澄枝，松岡雅人，尾辻　剛，高橋寛二，松村美代（2004）著明な乳頭浮腫

を伴った小児の強膜炎．眼紀　55: 465–470
24. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，宇山昌延，松村美代（2004）ポリープ状脈絡膜血管症の自然消退例のインドシアニングリーン造影所見．眼紀　55: 529–535
25. 山崎有加里，河原澄枝，木本高志，垰本　慎，松岡雅人，松村美代，神本英徳（2004）副腎皮質ステロイド薬の全身投与を行わずに自然軽快した原田病．眼紀　55: 691–696
26. 永井由巳，岸本直子，高橋寛二，宇山昌延（2004）ポリープ状脈絡膜血管症の臨床的特徴．眼臨　98: 795–798
27. 緒方奈保子，松岡雅人，今泉正仁，有地美和，松村美代（2004）Pigment Epithelium Derived Factor（PEDF）濃度の加齢による影響．眼臨　98: 995–997
28. 尾辻　剛，安藤　彰，福井智恵子，桑原敦子，松村美代（2004）ラタノプロスト，β遮断薬併用例における塩酸ブナゾシン併用時の眼圧下降効果の検討．あたらしい眼科　21: 955–956

総　説

1. 松村美代（2004）眼科の魅力と研修制度．日眼　108: 496
2. 松村美代（2004）臨床研究に思う．Ophthalmic Surgeouns　4: 31
3. 松村美代（2004）若手医師への手術教育．日本の眼科　75: 1219–1222
4. 西村哲哉（2004）スポーツで網膜剥離になった患者さんのケア．眼科ケア　6: 728–734
5. 福島伊知郎（2004）特集『糖尿病網膜症―最近の進歩　II. 病態研究の進歩』糖尿病脈絡膜症の病態と脈絡膜循環．Diabetes Frontier 15(3): 293–296
6. 高橋寛二，津村晶子，正健一郎，福地俊雄（2004）OCT3000．眼科手術　17: 57–59
7. 高橋寛二（2004）脈絡膜新生血管の読影―JAT Study―．眼紀　55: 513–519
8. 高橋寛二（2004）加齢黄斑変性に対する光線力学療法の適応．あたらしい眼科　21: 1303–1311
9. 高橋寛二（2004）II. 硝子体疾患　2. 加齢変化．眼科　46: 1657–1661
10. 正健一郎（2004）ロービジョンケア～残された視力をどう生かすか～　黄斑部手術後のロービジョンケア．眼科ケア　6(6)（通巻 56 号）: 89–94
11. 山田晴彦，松村美代（2004）糖尿病網膜症と RAS．Angiotensin Research　1(4): 346–350
12. 高橋寛二（2004）高齢者に増加している加齢黄斑変性．読売新聞記事　10 月 7 日

学会発表

1. Miyo Matsumura (2004) Vitrectomy for diabetic retinopathy. Diabetic Retinopathy Forum, 中国（北京）
2. Kanji Takahashi (2004) Diabetic macular edema. Diabetic Retinopathy Forum, 中国（北京）
3. Kanji Takahashi (2004) Polypoidal choroidal Vasculopathy. Diabetic Retinopathy Forum, 中国（北京）
4. N. Ogata, M. Matsuoka, M. Imaizumi, M. Arichi, M. Matsumura (2004) DECREASED LEVELS OF PIGMENT EPITHELIUM-DERIVED FACOTR (PEDF) IN EYES WITH NEURORETINAL DYSTROPHIC DISEASES. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
5. A. Ando, Y. Yamazaki, S. Kaneko, M. Matsumura. (2004) DOWN REGULATION OF APOPTOSIS RELATED GENE EXPRESSION AND ACTIVATION OF NF-kB BY NIPRADILOL DURING SERUM DEPRIVATION ?INDUCED APOPTOSIS IN PC12 CELLS. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
6. H. Yamada, A. Higuchi, E. Yamada, M. Matsumura. (2004) Effect of Anti-hyperlipidemia drug against retinal neovascularization. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
7. A. Higuchi, H. Yamada, E. Yamada, M. Matsumura. (2004) Inhibitory Effect of St. John's wort and Hypericin on Retinal and Choroidal Neovascularization. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
8. M. Matsuoka, N. Ogata, T. Otsuji, M. Matsumura.

(2004) Expression Of Pigment Epithelium-derived Factor And Vascular Endothelial Growth Factor In Eyes Of Type 2 Diabetes Mellitus Model In Rats. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida

9. K. Minamino, Y. Adachi, H. Yamada, A. Higuchi, Y. Suzuki, M. Iwasaki, Y. Zhang, M. Matsumura, S. Ikehara. (2004) A new strategy for transplantation of bone marrow stem cells into the retina. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2004 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
10. 木本高志，西村哲哉，松原　孝，寺井実知子，福井智恵子，松村美代（2004）網膜静脈分枝閉塞症の黄斑浮腫に対する硝子体手術の光干渉断層装置（OCT）による評価．第 27 回日本眼科手術学会総会，東京
11. 松原　孝，垰本　慎，松山加耶子，河合江実，西村哲哉，松村美代（2004）後部硝子体剥離のない裂孔原性網膜剥離の硝子体手術成績．第27回日本眼科手術学会総会，東京
12. 安藤　彰，福井智恵子，尾辻　剛，桑原敦子，金子志帆，竹内正光，松村美代（2004）Advanced NPT 単独と白内障同時手術の成績．第 27 回日本眼科手術学会総会，東京
13. 尾辻　剛，加賀郁子，安藤　彰，福井智恵子，桑原敦子，松村美代（2004）開放隅角緑内障に対するビスコカナロストミーとトラベクロトミーの効果の比較．第 27 回日本眼科手術学会総会，東京
14. 福井智恵子，安藤　彰，尾辻　剛，桑原敦子，竹内正光，松村美代（2004）トラベクレクトミー術後経過（結膜切開法の比較）．第27回日本眼科手術学会総会，東京
15. 垰本　慎，松原　孝，松山加耶子，河合江実，西村哲哉，松村美代（2004）裂孔原性網膜剥離に対するトリアムシノロンを用いた硝子体手術の視力予後．第 27 回日本眼科手術学会総会，東京
16. 福井智恵子，安藤　彰，松村美代（2004）ヒーロンVを用いた白内障併用隅角癒着解離術. 第27回日本眼科手術学会総会，東京
17. 松村美代（2004）教育セミナー　緑内障―代表的な術式の適応と基本手技―　トラベクロトミー2. 第27回日本眼科手術学会総会，東京
18. 福島伊知郎（2004）教育セミナー　バックリング手術　ジアテルミー凝固を用いたエクソプラント. 第27回日本眼科手術学会総会，東京
19. 高橋寛二（2004）教育セミナー　光力学療法. 第27回日本眼科手術学会総会，東京
20. 和田光正（2004）教育講演　検査―眼科糖尿病診療の基本的検査法について．第 10 回日本糖尿病眼学会総会，福岡
21. 和田光正，河合江実，南野桂三，樋口暁子，平本裕盛，緒方奈保子，松村美代（2004）糖尿病黄斑症に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の効果．第 10 回日本糖尿病眼学会総会，福岡
22. 山田晴彦，山田英里，樋口暁子，松村美代（2004）SDTラットにおける眼内血管新生の発生について．第 10 回日本糖尿病眼学会総会，福岡
23. 緒方奈保子，松岡雅人，今泉正仁，松村美代（2004）視神経・網膜萎縮性疾患の眼内Pigment epithelium derived factor（PEDF）濃度．第108回日本眼科学会総会，東京
24. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，津村晶子，尾辻　剛，松村美代（2004）悪性ポリープ状脈絡膜血管症の臨床的特徴．第108回日本眼科学会総会，東京
25. 安藤　彰，金子志帆，松村美代（2004）線維柱帯細胞の増殖に対する細胞増殖因子の効果．第108回日本眼科学会総会，東京
26. 西川真生，高橋寛二，永井由巳，尾辻　剛，和田光正，福地俊雄，正健一郎，山崎有加里，津村晶子，松村美代（2004）Retinal angiomatous proliferationの長期経過. 第108回日本眼科学会総会，東京
27. 山田晴彦，樋口暁子，山田英里，松村美代（2004）抗高脂血症薬の網膜新生血管に対する効果．第108回日本眼科学会総会，東京
28. 安藤　彰，萩原実早子，寺井実知子，安田光代，後藤昌久，徳田愛子，仲村永江，中村千香子，蔵重知帆，伏見智雅子，篠畑佳世子，宮田律子，松村美代（2004）不同視弱視の弱視眼と僚眼における黄斑部形態の定量的検討．第29回小児眼科学会総会，第60回斜視弱視学

会総会合同学会，沖縄
29. 松本泰明，三間由美子，河原澄枝，松村美代（2004）緑膿菌性壊死性強膜炎の 1 例．スリーサム・イン札幌，第 41 回日本目感染症学会総会，札幌
30. 山崎有加里，河原澄枝，木本高志，松岡雅人，松村美代（2004）長期経過後に他眼に再発した桐沢型ぶどう膜炎の2例．スリーサム・イン札幌，第41回日本目感染症学会総会，札幌
31. 桑田満喜，南部裕之，安藤　彰，尾辻　剛，松村美代（2004）下方から行ったトラベクロトミー＋シヌソトミーの術後 3 年の成績．第 110 回京都眼科学会，京都
32. 高橋寛二（2004）シンポジウム　光線力学的療法（PDT）の適応．第21回日本眼循環学会，旭川
33. 緒方奈保子，今泉正仁，有地美和，生水　晃，野村昌作，松村美代（2004）マイクロパーティクルと糖尿病網膜症の微小循環．第 21 回日本眼循環学会，旭川
34. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，津村晶子，尾辻　剛，和田光正，有澤章子，松村美代（2004）びまん性網膜色素上皮症（DRPE）の蛍光眼底造影所見．第21回日本眼循環学会，旭川
35. 正健一郎，高橋寛二，永井由巳，津村晶子，有澤章子，尾辻　剛，和田光正，松村美代（2004）経瞳孔温熱療法後に classic CNV 様に転化したポリープ状脈絡膜血管症．第 21 回日本眼循環学会，旭川
36. 木本高志，西村哲哉，松本泰明，国富　薫，松村美代（2004）網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する内境界膜剥離併用硝子体手術成績．第21回日本眼循環学会，旭川
37. 松村美代（2004）シンポジウム「問題点からみた緑内障手術の評価」．第15回日本緑内障学会，新潟
38. 南部裕之（2004）シンポジウム「問題点からみた緑内障手術の評価」問題点からみた緑内障手術Advanced-NPT. 第15回日本緑内障学会，新潟
39. 松原敬忠，竹内正光，南部裕之，松村美代（2004）Advanced Non-penetrating trabeculectomy（ad-NPT）術後のUBM所見．第15回日本緑内障学会，新潟
40. 安藤　彰，南部裕之，桑原敦子，竹内正光，粉川弥栄子，松村美代（2004）正常眼圧緑内障に対するラタノプロストの眼圧下降効果―2年の経過．第15回日本緑内障学会，新潟
41. 湖崎　淳，郡山昌敬，寺内博夫，松村美代（2004）GDXアクセスVCCの有用性―GPとの比較．第15回日本緑内障学会，新潟
42. 中内正志，亀田隆範，松村美代，石郷岡均（2004）トラベクロトミー単独手術の術後長期成績．第15回日本緑内障学会，新潟
43. 山田晴彦，樋口暁子，松村美代（2004）ACE阻害薬リシノプリルによる網膜新生血管抑制効果．第24回日本眼薬理学会，八王子
44. 今泉正仁，黒川弘晶，緒方奈保子，松村美代（2004）内頚動脈による圧迫性視神経症例の視野異常．第42回日本神経眼科学会総会，名古屋
45. 松村美代（2004）シンポジウム「手術の最先端と限界―ロービジョンケアとの関わり―」緑内障とロービジョン．第 58 回日本臨床眼科学会，東京
46. 松村美代（2004）シンポジウム「訴訟に至らない手術を目指して」安全確実な手術教育．第58回日本臨床眼科学会，東京
47. 中内正志，亀田隆範，石郷岡均（2004）術後10 年以上の経過観察における線維柱帯切開術単独手術の長期成績．第 58 回日本臨床眼科学会，東京
48. 南部裕之，桑田満喜，安藤　彰，松原敬忠，竹内正光，松村美代（2004）隅角癒着解離術の術後成績．第58回日本臨床眼科学会，東京
49. 木本高志，西村哲哉，松本泰明，国冨　薫，松村美代（2004）網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫に対するトリアムシノロン併用硝子体手術成績．第58回日本臨床眼科学会，東京
50. 正健一郎，高橋寛二，永井由巳，津村晶子，有澤章子，尾辻　剛，和田光正，松原　孝，松村美代（2004）ポリープ状脈絡膜血管症に対する経瞳孔温熱療法の治療成績．第 58 回日本臨床眼科学会，東京
51. 有澤章子，垰本　慎，松原　孝，西村哲哉，松村美代（2004）巨大裂孔網膜剥離に対する手術成績．第58回日本臨床眼科学会，東京
52. 安藤　彰，宮崎秀行，福井智恵子，南部裕之，松村美代（2004）炭酸脱水酵素阻害剤点眼後

に不可逆的な角膜浮腫を来たした1例. 第58回日本臨床眼科学会，東京
53. 高橋寛二（2004）ランチョンセミナー「加齢黄斑変性の新しい治療法―眼科光線力学的療法―」ビスダインによる光線力学的療法の治療適応．第58回日本臨床眼科学会，東京
54. 高橋寛二（2004）専門別研究会「レーザー眼科学」滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法．第58回日本臨床眼科学会，東京
55. 加藤　聡，池田誠宏，緒方奈保子，安藤伸明，松橋英昭（2004）インストラクションコース　これだけは知っておきたい網膜光凝固術の実際．第58回日本臨床眼科学会，東京
56. 永井由巳，高橋寛二，沢　美喜，五味　文，喜田照代，張野正誉（2004）インストラクションコース　上方流・黄斑塾．第 58 回日本臨床眼科学会，東京
57. 松村美代（2004）教育セミナー　医学教育．第70回日本中部眼科学会，大阪
58. 松原　孝（2004）教育セミナー　手術教育．第70回日本中部眼科学会，大阪
59. 三木克朗，高橋寛二，有澤章子，西村哲哉，松村美代，植田美幸，植村芳子（2004）複数回手術後に発症した交感性眼炎の起交感眼の病理組織像．第70回日本中部眼科学会，大阪
60. 松村美代（2004）ランチョンセミナー　Back to the Basic! NTG診療の基本を考える．第70回日本中部眼科学会，大阪
61. 有澤章子，永井由巳，高橋寛二，正健一郎，松村美代（2004）光線力学療法後，早期に視力低下した症例の検討．第 43 回日本網膜硝子体学会総会，前橋市
62. 緒方奈保子，宮代美樹，松岡雅人，安藤　彰，松村美代（2004）高度近視眼のPigment Epithelium Derived Factor（PEDF）の発現．第43回日本網膜硝子体学会総会，前橋市
63. 郡山昌敬，松原　孝，垰本　慎，福島伊知郎，高橋寛二，西村哲哉，松村美代（2004）裂孔原性網膜剥離に対する強膜内陥術と硝子体手術のprospective studyの長期成績．第43回日本網膜硝子体学会総会，前橋市
64. 垰本　慎，松原　孝，西村哲哉，松村美代（2004）強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離に対する硝子体手術後経過の検討．第 43 回日本網膜硝子体学会総会，前橋市
65. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，有澤章子，津村晶子，和田光正，尾辻　剛，松村美代（2004）滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法の早期治療成績．第 43 回日本網膜硝子体学会総会，前橋市
66. 和田光正，緒方奈保子，南野桂三，郡山昌敬，中内正志，樋口暁子，松村美代（2004）硝子体手術後の糖尿病黄斑症に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の効果．第 43 回日本網膜硝子体学会総会，前橋市
67. 松村美代（2004）増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術の成果．眼手術セミナー，大阪
68. 高橋寛二（2004）摘出脈絡膜新生血管の病理．眼手術セミナー，大阪
69. 安藤　彰，安田光代，萩原実早子，寺井実知子，徳田愛子，仲村永江，中村千香子，伏見智雅子，篠畑佳世子，松村美代（2004）不同視弱視における黄斑部形態の左右差の検討．第339回大阪眼科集談会，大阪
70. 山崎有加里，河原澄枝，木本高志，松岡雅人，松村美代（2004）長期経過後に他眼に再発した桐沢型ぶどう膜炎の2例．第340回大阪眼科集談会，大阪
71. 小林　敦，正健一郎，緒方奈保子，松原敬忠，寺井実知子，上原雅美，松村美代（2004）多数の網膜血管腫と滲出性網膜剥離がみられたvon Hippel-Lindau病の一例．第341回大阪眼科集談会，大阪
72. 国冨　薫，木本高志，西村哲哉，松本泰明，松村美代（2004）網膜静脈分枝閉塞症に対するトリアムシノロン併用硝子体手術を行った3症例．第341回大阪眼科集談会，大阪
73. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，有澤章子，津村晶子，松村美代（2004）関西医大病院眼科における光線力学療法．第342回大阪眼科集談会，大阪
74. 新井英子，安藤　彰，秋岡真砂子，河合江実，北川誠彦，松井淑江，松村美代（2004）神経梅毒の5症例．第343回大阪眼科集談会，大阪
75. 國富　薫，垰本　慎，松原　孝，松原敬忠，有澤章子，松山加耶子，西村哲哉，松村美代（2004）網膜剥離の硝子体手術後に生じた黄斑円孔の2症例．第343回大阪眼科集談会，大阪

76. 南部裕之（2004）緑内障手術　適応と基本手術手技　当科におけるトラベクロトミー．第31回大阪眼科手術の会，大阪
77. 高橋奈津子，下妻晃二郎，鈴鴨よしみ，森田智視，藤田京子，高橋寛二，湯沢美都子，福原俊一（2004）「加齢黄斑症の読書困難に対するロービジョンケア前後の QOL 評価」におけるレスポンスシフト（Response shift）研究．厚生労働省科学研究　難治性疾患克服研究事業「特定疾患アウトカム研究：QOL，介護負担，経済評価」班　平成 15 年度研究発表会（主任研究者　福原俊一），東京
78. 下妻晃二郎，湯沢美都子，藤田京子，高橋寛二，鈴鴨よしみ，山口拓洋，大橋靖雄，福原俊一（2004）加齢黄斑症（ARM）の読書困難に対するロービジョンケア前後の QOL．厚生労働省科学研究　難治性疾患克服研究事業「特定疾患アウトカム研究：QOL，介護負担，経済評価」班　平成 15 年度研究発表会（主任研究者　福原俊一），東京
79. 松村美代（2004）『プライマリィ・ケア・シリーズ 36　内眼手術の術後管理』緑内障．日本眼科学会第40回専門医制度講習会，東京
80. 松村美代（2004）解放隅角緑内障の治療戦略．第60回東京医大臨床懇話会，東京
81. 南部裕之（2004）症例検討会（5）手術の適応に迷う症例．第4回近畿眼科オープン症例検討会，大阪
82. 南部裕之（2004）症例報告「症例の検討」．第9回大阪緑内障研究会（在阪 5 大学緑内障研究会），大阪
83. 松村美代（2004）目は情報の源．関西医科大学高校生公開講座，大阪
84. 松村美代（2004）BRVO 後の血管増殖は虚血だけが原因だろうか．第6回Japan Macula Club総会，蒲郡
85. 松村美代（2004）緑内障の病診連携に望むもの―病院の立場から―．鴨川緑内障勉強会，京都
86. 松村美代（2004）糖尿病網膜症の手術治療―10年の歩み．倉敷眼科懇話会，倉敷
87. 松村美代（2004）高齢化に伴う眼疾患．第134回加多乃会勉強会，大阪
88. 緒方奈保子（2004）加齢黄斑変性の病態と臨床．第24回金沢医大眼科勉強会，金沢
89. 松村美代（2004）糖尿病網膜症に対する硝子体手術の成果．大分眼科集談会，大分
90. 高橋寛二（2004）ポリープ状脈絡膜血管症の診断と治療．第2回上方黄斑研究会，大阪
91. 高橋寛二（2004）加齢黄斑変性に対する光線力学療法の実際．伊吹眼科研究会，彦根
92. 高橋寛二（2004）滲出型加齢黄斑変性の診断と新しい治療．倉敷眼科懇話会，倉敷
93. 白神史雄，湯沢美都子，高橋寛二（2004）ランチョンセミナー　みんなでお勉強～ ICG 蛍光造影part 3～．第21回日本眼循環学会，旭川
94. 高橋寛二（2004）Retinal angiomatous proliferation（RAP）の光学的干渉断層計所見．第6回Japan Macula Club総会，蒲郡
95. 高橋寛二（2004）働き盛りを襲う中心性網膜炎．NHK ラジオ「関西ラジオワイド・季節の健康」，大阪
96. 高橋寛二（2004）高齢者の視力低下の原因「加齢黄斑変性」．NHK ラジオ「関西ラジオワイド・季節の健康」，大阪
97. 高橋寛二（2004）黄斑疾患の診断．第 59 回香川大学眼科研究会，高松
98. 高橋寛二（2004）加齢黄斑変性に対する光線力学的治療（PDT），治療適応と実際の手技．第70回日本中部眼科学会，大阪
99. 高橋寛二（2004）加齢黄斑変性に対する新しいレーザー治療～適応と限界～「光線力学療法」．第73回網膜病変談話会，東京
100. 高橋寛二（2004）治療部位の確定．眼科 PDT 講習会　第1回講習会，東京
101. 高橋寛二（2004）治療部位の確定．眼科 PDT 講習会　第2回講習会，東京
102. 高橋寛二（2004）治療部位の確定．眼科 PDT 講習会　第3回講習会，大阪
103. 高橋寛二（2004）治療部位の確定．眼科 PDT 講習会　第4回講習会，東京
104. 高橋寛二（2004）治療部位の確定．眼科 PDT 講習会　第5回講習会，東京
105. 高橋寛二（2004）治療部位の確定．眼科 PDT 講習会　第6回講習会，旭川
106. 樋口暁子，山田晴彦，山田英里，松村美代（2004）セントジョーンズワートとヒペリシンによる眼内血管新生抑制効果．第108回日本眼

科学会総会，東京

107.松岡雅人，河原澄枝，木本高志，山崎有加里，松村美代（関西医大），濱田恒一（ハマダ眼科）（2004）梅毒性ぶどう膜炎の 2 症例．スリーサム・イン札幌，第41回日本目感染症学会総会，札幌

108.南野桂三，和田光正，河合江実，郡山昌敬，樋口暁子，平本裕盛，緒方奈保子，松村美代（関西医大）（2004）糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の効果 3ヶ月以上の経過．第 58 回日本臨床眼科学会，東京

109.南野桂三，和田光正，河合江実，樋口暁子，平本裕盛，緒方奈保子，松村美代（関西医大）（2004）糖尿病黄斑症に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の効果．第338回大阪眼科集談会，大阪

110.松岡雅人，緒方奈保子，尾辻　剛，西村哲哉，松村美代（2004）眼内における pigment epithelium-derived factor（PEDF）．第 8 回眼科分子生物学研究会

111.松岡雅人，緒方奈保子，南野桂三，尾辻　剛，西村哲哉，松村美代（2004）糖尿病増殖性線維性血管膜組織における PEDF と VEGF．第10回日本糖尿病眼学会総会，福岡

112.松岡雅人，緒方奈保子，尾辻　剛，松村美代（2004）2 型糖尿病モデルラットにおける PEDF と VEGF．第108回日本眼科学会総会，東京

113.松山加耶子，正健一郎，松原　孝，松村美代（2004）外傷性黄斑円孔から裂孔原性網膜剥離を来たした 1 例．第110回京都眼科学会，京都

114.久保木香織，永井由巳，高橋寛二，正健一郎，松村美代（2004）出血性網膜色素上皮剥離に色素上皮裂孔が合併した 2 症例．第110回京都眼科学会，京都

115.吉川匡宣，緒方奈保子，高橋寛二，南部裕之，松村美代，森真一郎，植村芳子（2004）眼球突出を初発症状とし両眼窩腫瘍を形成した成人 T 細胞白血病（リンパ腫型）の 1 例．第58回日本臨床眼科学会，東京

116.津村晶子，高橋寛二，正健一郎，尾辻　剛，永井由巳，福地俊雄，松村美代（2004）自然経過観察中に classic CNV の所見を示したポリープ状脈絡膜血管症の検討．第 58 回日本臨床眼科学会，東京

117.久保木香織，永井由巳，高橋寛二，正健一郎，松村美代（2004）出血性網膜色素上皮剥離に網膜色素上皮裂孔が合併した 2 症例．第58回日本臨床眼科学会，東京

118.舘野寛子，高橋寛二，福地俊雄，永井由巳，山崎有加里，正健一郎，松村美代（2004）近視眼の視神経乳頭周囲にみられる脈絡膜分離の OCT3 所見．第58回日本臨床眼科学会，東京

119.松原敬忠，福地俊雄，垰本　慎，竹内正光，松村美代（2004）外傷性毛様体解離と毛様体脈絡膜剥離の UBM（ultrasound biomicroscope）所見の検討．第58回日本臨床眼科学会，東京

120.久保木香織，松山加耶子，垰本　慎，山崎有加里，松原　孝，西村哲哉，松村美代（2004）2 種アクリル製眼内レンズを使用した白内障硝子体同時手術後屈折誤差の検討．第 43 回日本網膜硝子体学会総会，前橋市

121.松山加耶子，垰本　慎，松原　孝，大山奈美，西村哲哉，松村美代（2004）化学療法により続発性網膜剥離が消失した転移性脈絡膜腫瘍の一例．第 43 回日本網膜硝子体学会総会，前橋市

122.吉川匡宣，緒方奈保子，高橋寛二，松村美代，森真一郎（2004）眼窩内腫瘍を形成した成人 T 細胞白血病の 1 例．第 338 回大阪眼科集談会，大阪

123.舘野寛子，高橋寛二，福地俊雄，正健一郎，山崎有加里，松村美代（2004）高度近視にみられる乳頭周囲脈絡膜分離の OCT3 所見．第338回大阪眼科集談会，大阪

124.桑田満喜，南部裕之，安藤　彰，尾辻　剛，萩原実早子，松村美代（2004）下方から行ったトラベクロトミー＋シヌソトミーの術後 3 年の成績．第339回大阪眼科集談会，大阪

125.久保木香織，永井由巳，高橋寛二，正健一郎，松村美代（2004）出血性網膜色素上皮剥離に網膜色素上皮裂孔が合併した 2 症例．第340回大阪眼科集談会，大阪

126.桑田満喜，郡山昌敬，南部裕之，松村美代（2004）高血圧が関与したと思われる NLFD の 2 症例．第342回大阪眼科集談会，大阪

127.松山加耶子，垰本　慎（2004）経時的な病巣の移動が観察された眼トキソカラの一例．第3

回OCULAR INFECTION FORUM，大阪

128.桑田満喜，南部裕之，安藤　彰，尾辻　剛，萩原実早子，松村美代（2004）下方から行ったトラベクロトミー＋シヌソトミーの術後 3 年の成績．第110回京都眼科学会，京都

著　書

1. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」中心性漿液性網膜剥離脈絡膜症．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）381頁，文光堂，東京
2. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」網膜色素上皮剥離，網膜色素上皮裂孔．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）382–383 頁，文光堂，東京
3. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」網膜色素上皮症．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）384頁，文光堂，東京
4. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」急性後部多発性斑状色素上皮症．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）385頁，文光堂，東京
5. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」多発性後極部網膜色素上皮症，胞状網膜剥離．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）386頁，文光堂，東京
6. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」急性網膜色素上皮炎．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）387頁，文光堂，東京
7. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」多発性一過性白点症候群．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）388頁，文光堂，東京
8. 岸本直子（2004）「黄斑疾患」散弾状脈絡網膜症．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）389頁，文光堂，東京
9. 松村美代（2004）「原発緑内障」原発開放隅角緑内障・正常眼圧緑内障．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）484–485 頁，文光堂，東京
10. 松村美代（2004）「原発緑内障」高眼圧症．眼科診療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）486頁，文光堂，東京
11. 松村美代（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「緑内障」Schwartz 症候群．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）101頁，文光堂，東京
12. 河原澄枝（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「ぶどう膜」水晶体起因性ぶどう膜炎．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）143頁，文光堂，東京
13. 河原澄枝（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「ぶどう膜」リウマチ性疾患に伴うぶどう膜炎．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）143頁，文光堂，東京
14. 高橋寛二（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「ぶどう膜」地図状脈絡膜症．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）144–145頁，文光堂，東京
15. 高橋寛二（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「網膜」中心性漿液性脈絡網膜症．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）160–161頁，文光堂，東京
16. 高橋寛二（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「網膜」，網膜色素上皮症．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）162頁，文光堂，東京
17. 高橋寛二（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「網膜」，急性後極部多発性斑状網膜色素上皮症．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）162頁，文光堂，東京
18. 高橋寛二（2004）『I　疾患別：薬の使い方』「網膜」，多発性後極部網膜色素上皮症．眼科薬物治療ガイド　眼科診療プラクティス編集委員

（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）163–164頁，文光堂，東京
19. 高橋寛二（2004）『I 疾患別：薬の使い方』「網膜」，急性網膜色素上皮炎．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）165頁，文光堂，東京
20. 高橋寛二（2004）『I 疾患別：薬の使い方』「網膜」，多発性消失性白点症候群．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）166頁，文光堂，東京
21. 河原澄枝（2004）『I 疾患別：薬の使い方』「ぶどう膜」線虫性眼内炎―眼トキソカラ症―．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）146頁，文光堂，東京
22. 河原澄枝（2004）『I 疾患別：薬の使い方』「ぶどう膜」線虫性眼内炎―オンコセルカ症（回旋糸状虫症）―．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）147頁，文光堂，東京
23. 河原澄枝（2004）『I 疾患別：薬の使い方』「ぶどう膜」線虫性眼内炎―顎口虫症―．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）147頁，文光堂，東京
24. 松村美代（2004）『I 疾患別：薬の使い方』「網膜」続発性網膜剥離．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）174–175 頁，文光堂，東京
25. 松村美代（2004）『II 作用別：薬の基礎知識』眼科手術：手術補助薬．眼科薬物治療ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）400–404頁，文光堂，東京
26. 高橋寛二（2004）フルオレセイン蛍光眼底造影．眼科検査ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）600–605頁，文光堂，東京
27. 西村哲哉（2004）III，眼所見から見た疾患の鑑別と治療，8白色瞳孔．眼科当直医・救急ガイド 眼科診療プラクティス編集委員（丸尾敏夫，本田孔士，臼井正彦，田野保雄編）166–168頁，文光堂，東京

耳鼻咽喉科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Keiji Takemura, Mototane Komeda, Masao Yagi, Chiemi Himeno, Masahiko Izumikawa, Tadashi Doi, Hiromichi Kuriyama, Josef M. Miller, Toshi Yamashita (2004) Direct inner ear infusion of dexamethasone attenuates noise-induced trauma in guinea pig. Hear Res 196: 58–68
2. Shu-Ping Cai, Tadashi Doi, Shen jing, Toshihiko Kaneko, Shi-Ming Yang, Mikiya Asako, Ayumi Matsumoto-Ono, Nobuhiko Waka, Toshio Yamashita (2004) Optical Mapping of Neural Responses and their gannma-Aminobutyric Acid-ergic Inhibitory Effects in the Auditory Brainstem of Early Postnatal Mice. Acta Otolaryngol (Suppl) 553: 43–49
3. T. Enomoto, S. Onishi, H. Sogo, Y. Dake, H. Ikeda, H. Funakoshi, A. Shibano, T. Sakoda (2004) Japanese cedar pollen in floating indoor house dust after a pollinating season. Allergology International 53: 279–285
4. Yuko Saitoh, Takema Sakoda, Akira Shibano, Hiroko Funakoshi, Hiroki Ikeda, Shinji Yajin, Shigetoshi Yoda, Yoshihiro Dake, Tadao Enomoto (2004) Granular Cell Tumor of the Head and Neck: Immunohistochemical Study. 和医医誌 22: 49–54
5. Iwai H, Lee S, Baba S, Tomoda K, Inaba M, Ikehara T, Yamashita T (2004) Bone marrow cells as an origin of immune-mediated hearing loss. Acta Otololaryngol 124: 8–12
6. Nakaizumi, T., Kawamoto, K., Minoda, R., Raphael, Y (2004) Adenovirus-mediated expres-

sion of brain-derived neurotrophic factor protects spiral ganglion neurons from ototoxic damage. Audiol Neurootol 9: 135–143
7. Minoda, R., Izumikawa, M., Kawamoto, K., Raphael, Y (2004) Strategies for replacing lost cochlear hair cells. Neuroreport 15: 1089–1092
8. Le Prell, C.G., Yagi, M., Kawamoto, K., Beyer, L.A., Atkin, G., Raphael, Y., Dolan, D.F., Bledsoe, S.C., Jr., Moody, D.B (2004) Chronic excitotoxicity in the guinea pig cochlea induces temporary functional deficits without disrupting otoacoustic emissions. J Acoust Soc Am 116: 1044–1056
9. Kawamoto, K., Sha, S.H., Minoda, R., Izumikawa, M., Kuriyama, H., Schacht, J., Raphael, Y (2004) Antioxidant gene therapy can protect hearing and hair cells from ototoxicity. Mol Ther 9: 173–181
10. Izumikawa, M., Minoda, R., Kawamoto, K., Abrashkin, K.A., Swiderski, D.L., Dolan, D.F., Brough, D.E., Raphael, Y (2004) Auditory hair cell replacement and hearing improvement by Atoh1 gene therapy in deaf mammals. Nat Med 11: 271–276
11. Munemoto Y, Houtani T, Kase M, Sakuma S, Baba K, Yamashita T, Sugimoto T (2004) Mouse homolog of KIAA0143 protein: hearing deficit induces specific changes of expression in auditory brainstem neurons. Brain Res Mol Brain Res 128: 131–140
12. 南野雅之，辻　裕之，大岡久司，湯川尚哉，永田基樹，矢野純也，井上俊哉，大西純夫，山下敏夫（2004）当科における縦隔気管孔症例の検討．頭頸部外科　14: 151–153
13. 和歌信彦，土井　直，岩井　大，川崎英子，馬場　奨，中江　香，山下敏夫（2004）上咽頭原発悪性黒色腫例．耳鼻臨床　97: 307–312
14. 竹村景司，土井　直，米田元胤，栗山博道，北尻雅則，山下敏夫，恵田敏信（2004）中耳カルチノイドの1例．耳鼻と臨床　50: 285–290
15. 土井　直，白石修悟，中澤浩子，米田元胤，池田浩己，金子敏彦，足立真理，北尻雅則，山下敏夫（2004）稀な単独アブミ骨奇形の一症例　アブミ骨筋腱が正常でアブミ骨と錐体隆起の骨性固着．耳科学会会報　14: 244–247
16. 池田浩己，中澤浩子，河本光平，山下敏夫，圓藤陽子，芝埜　彰，嶽　良博，榎本雅夫（2004）光触媒装置により軽快を認めたシックハウス症候群の1例．アレルギーの臨床　24: 478–481
17. 榎本雅夫，程　　雷，池田浩己（2004）花粉症はどのように発症するか．からだの科学 235: 39–44
18. 榎本雅夫，池田浩己，嶽　良博，程　　雷（2004）アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）．アレルギー・免疫 11: 22–27
19. 榎本雅夫，池田浩己，嶽　良博，芝埜　彰，船越宏子，與田茂利，夜陣真司，山下哲次，有岡広紀，白柳　譲，島津伸一郎（2004）全自動化学発光免疫測定装置 ADVIA Centaur による血清特異的IgE抗体検査について．医学と薬学　51: 931–937
20. 榎本雅夫，奥野吉昭，上田和義，鈴木正伸，坂口幸作，加藤　寛，垣内　弘，藤木嘉明，川堀眞一，井畑孝敏，吉内光男，雪谷茂子，岩松裕子，十河英世，船越宏子，池田浩己，芝埜　彰，硲田猛真，嶽　良博（2004）和歌山県・大阪府何部における飛散スギ花粉及びヒノキ花粉の長期観測．和歌山医学　55: 78–84
21. 角谷千恵子，荻野　敏，入船盛弘，菊森　寛，瀬尾　律，竹田真理子，玉城晶子，馬場謙治，嶽　良博，池田浩己，榎本雅夫（2004）スギ花粉症におけるアウトカム研究（第 1 報）．アレルギー　53: 589–595
22. 角谷千恵子，荻野　敏，嶽　良博，池田浩己，榎本雅夫（2004）スギ花粉症におけるアウトカム研究（第2報）．アレルギー　53: 669–675
23. 土井　直，白石修悟，中澤浩子，米田元胤，池田浩己，金子敏彦，足立真理，北尻雅則，山下敏夫（2004）稀な単独アブミ骨奇形の一症例．Otol Jpn　14: 244–247
24. 榎本雅夫，大西成雄，嶽　良博，池田浩己，芝埜　彰，夜陣真司，與田茂利，硲田猛真，山名敏之（2004）飛散終了後の室内塵中のスギ花粉．和医医誌　22: 11–17
25. 牧　典彦，能味堂郎，嶋田貴志，夜陣真司，與田茂利，池田浩己，榎本雅夫（2004）Enterococcus faecalis FK-23 株加熱殺菌粉末の摂取による C 型肝炎血清トランスアミナーゼ値の改善．和

医医誌 22: 19–24
26. 榎本雅夫，大西成雄，嶽 良博，池田浩己，芝埜 彰，與田茂利，夜陣真司，硲田猛真，山名敏之（2004）室内換気システムと室内チリダニ量について．耳展 47: 417–423
27. 岩井 大（2004）下咽頭輪状後部癌．口腔・咽頭・喉頭領域．手術範囲と術式．JOHNS 20: 1378–1381
28. 岩井 大，山下敏夫（2004）耳下腺良性腫瘍に対する手術法．口咽科 16: 251–255
29. 岩井 大，大前麻理子，池田耕士，馬場 奨，和歌信彦，清水 健，山下敏夫（2004）耳下腺内神経鞘腫の検討．口咽科 16: 1–7
30. 和歌信彦，土井 直，岩井 大，川崎英子，馬場 奨，中江 香，山下敏夫（2004）上咽頭原発悪性黒色腫例．耳鼻臨床 97: 307–312
31. 島野卓史，岩井 大，南野雅之，宮本 真，馬場 奨，和歌信彦，辻 裕之，山下敏夫（2004）甲状腺扁平上皮癌の検討．頭頸部外科 14: 267–272
32. 蓑田涼生，河本光平，泉川雅彦，湯本英二（2004）Math1 と Skp2 over-expression による内耳有毛細胞の新生．Otology Japan 14: 292
33. 大隅泰則，古川昌幸，吉永和仁，山下敏夫，河本光平，中村晶彦，笠井治文，山内康雄，河本圭司（2004）内視鏡支援下垂体手術の経験．日本耳鼻咽喉科学会会報 108: 101
34. 古川昌幸，大隅泰則，中村晶彦，山下敏夫，河本光平，姫野千恵美，栗山博道，柿本晋吾（2004）当科におけるナビゲーションサージェリーの現状．日本耳鼻咽喉科学会会報 107: 603
35. 吉永和仁，古川昌幸，大隈泰則，竹村博一，栗山博道，百渓明代，河本光平，久保伸夫，山下敏夫（2004）前頭洞病変に対するナビゲーションサージェリー．日本鼻科学会会誌 43: 284
36. 柿本晋吾，古川昌幸，河本光平，宮本 真，吉永和仁，山下敏夫（2004）鼓膜切開後に生じた外リンパ瘻例．耳鼻咽喉科臨床 97: 957–961
37. 河本光平，古川昌幸，柿本晋吾，姫野千恵美，栗山博道，吉永和仁，大隅泰則，山下敏夫（2004）当科におけるナビゲーションシステムの有用性についての検討．耳鼻咽喉科展望 47: 380–382
38. 河本光平，姫野千恵美，栗山博道，古川昌幸，八木正夫，大隅泰則，山下敏夫，柿本晋吾（2004）鼻副鼻腔ナビゲーションシステムInsta TrakTMの有用性についての検討．日本耳鼻咽喉科学会会報 107: 916
39. 河本光平，姫野千恵美，栗山博道，古川昌幸，大隅泰則，山下敏夫，柿本晋吾（2004）当科におけるナビゲーションシステムの有用性についての検討．日本耳鼻咽喉科学会会報 107: 824

学会発表

1. Shimano T, Iwai H, Yagi M, Furukawa M, Yamashita T (2004) Surgical procedure for Warthin's tumor. In: 21th Congress of Pan-Pacific Surgical Association, Australia
2. Iwai H, Lee S, Yukawa H, Horiguchi A, Miyamato S, Adachi M, Waka N, Shimano K, Tomoda K, Yamasita T (2004) Early acquisition of oesophageal phonation by shunt phonation. 12th World congress for Bronchoesophagology (WCBE), Spain
3. Lee S, Iwai H, Adachi M, Mioyamoto S, Yukawa H, Yamamoto K (2004) Front-loading technique and simple secondary shunt procedure of Groningen voice prosthesis for alargngeal patients. 12th World congress for Bronchoesophagology (WCBE), Spain
4. Horiguchi A, Oda M, Iwai H, Tomoda K (2004) Evidence of Provox 2 for TE and TJ shunt in Kanazawa Medical University. 12th World congress for Bronchoesophagology (WCBE), Spain
5. Kazuyasu Baba, Sebahattin Cureoglu, Patricia A. Schachern, Takeshi Kusunoki, Andre L.L. Sampaio, Michael M. Paparella, Toshio Yamashita (2004) Temporal Bone Anomalies Associated with Congenital Heart Disease. TWENTY-SEVENTH ANNUAL MIDWINTER RESEARCH MEETING OF THE Association for Research in Otolaryngology, Daytona Beach, Florida, USA
6. Mariko Omae, Masao Yagi, Hisaya Yukawa, Masayuki Furukawa, Hiroyuki Tuji, Tosio Yama-

sita (2004) SCHWANNOMA OF THE MASTICATOR SPACE. PPSA, Australia
7. 大谷真喜子，金　義慶，山下敏夫（2004）特発生顔面神経麻痺における抗リン脂質抗体について．第105回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会，広島
8. 宗本由美，土井　直，古川昌幸，栗山博道，金子明弘，米田元胤，北尻雅則，山下敏夫，細田泰男（2004）軟骨付き軟骨膜を用いた接着法の聴力成績―皮下結合織と比較．第 14 回日本耳科学会総会，京都
9. 古川昌幸，栗山博道，土井　直，金子明弘，米田元胤，宗本由美，金子敏彦，北尻雅則，山下敏夫，細田泰男（2004）5年以上経過観察できた真珠腫性中耳炎手術症例についての検討．第14回日本耳科学会総会，京都
10. 土井　直（2004）―パネルディスカッション―中耳換気能改善への手術アプローチ3，鼓室の喚気．第14回日本耳科学会総会，京都
11. 宗本由美，土井　直，古川昌幸，北尻雅則，山下敏夫（2004）鼓膜形成術（湯浅法）の術後聴力について．第291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会，大阪
12. 姫野千恵美，中澤浩子，池田浩己，北尻雅則，山下敏夫（2004）めまい外来患者における不安心理の検討―第2報―．第63回めまい平衡医学会，高崎
13. 池田浩己，榎本雅夫，嶽　良博，芝埜　彰，船越宏子，與田茂利，山下哲次（2004）全自動化学発光免疫測定装置 ADVIA Centaur による血清特異的 IgE 抗体検査．289 回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
14. 池田浩己，中澤浩子，圓藤陽子，榎本雅夫，山下敏夫（2004）アレルギー外来からみたシックハウス症候群及び化学物質過敏症．第 13 回日本臨床環境医学会総会，旭川
15. 池田浩己，榎本雅夫，嶽　良博，芝埜　彰，船越宏子，與田茂利，山下哲次，有岡広紀，白柳　譲，島津伸一郎（2004）全自動化学発光免疫測定装置 ADVIA Centaur による血清特異的 IgE 抗体検査について．第 54 回日本アレルギー学会総会，横浜
16. 池田浩己，中澤浩子，圓藤陽子，河本光平，大谷智子，榎本雅夫，山下敏夫（2004）アレルギー外来からみたシックハウス症候群及び化学物質過敏症．第 54 回日本アレルギー学会総会，横浜
17. 池田浩己，與田茂利，夜陣真司，芝埜　彰，嶽良博，榎本雅夫（2004）粘膜下下鼻甲介骨切除術の治療法と経過．第 77 回日耳鼻学会和歌山地方部会，和歌山
18. 嶽　良博，十河英世，芝埜　彰，池田浩己，船越宏子，藤木嘉明，加藤　寛，榎本雅夫（2004）咽喉頭異常感症と胃酸逆流症（第4報）．288回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
19. 芝埜　彰，十河英世，船越宏子，池田浩己，嶽良博，榎本雅夫（2004）睡眠時無呼吸症候群の診断についての考察（第3報）．288回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
20. 榎本雅夫，嶽　良博，芝埜　彰，池田浩己，十河英世，船越宏子，山下哲次，嶋田貴史（2004）腸内細菌とアレルギー（第3報）―抗生剤内服による腸内細菌の変動―．288回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
21. 角谷千恵子，荻野　敏，池田浩己，嶽　良博，榎本雅夫（2004）スギ花粉症初期療法効果への服薬状況の影響．第 53 回臨床アレルギー研究会（関西），大阪
22. 嶽　良博，芝埜　彰，池田浩己，船越宏子，榎本雅夫（2004）スギ花粉抗原による鼻誘発試験に対する塩酸レボカバスチンの効果．第 53 回臨床アレルギー研究会（関西），大阪
23. 芝埜　彰，嶽　良博，榎本雅夫，池田浩己，船越宏子，十河英世（2004）スギ花粉抗原による鼻誘発試験に対する塩酸レボカバスチンの効果．第 16 回日本アレルギー学会春期臨床大会，前橋
24. 榎本雅夫，池田浩己，嶽　良博，芝埜　彰，船越宏子，十河英人，大西成雄，山名俊之（2004）室内換気システムと室内チリダニの量について．第16回日本アレルギー学会春期臨床大会，前橋
25. 角谷千恵子，荻野　敏，池田浩己，嶽　良博，榎本雅夫（2004）スギ花粉症における Outcome 研究（第 2 報）初期療法の実態と QOL の地域間比較．第 16 回日本アレルギー学会春期臨床大会，前橋
26. 角谷千恵子，荻野　敏，池田浩己，嶽　良博，

榎本雅夫（2004）スギ花粉症におけるOutcome研究（第3報）初スギ花粉症症状の日常生活への影響．第16回日本アレルギー学会春期臨床大会，前橋
27. 嶽　良博，榎本雅夫，國本　優，坂口幸作，奥野吉昭，垣内　弘，中西　弘，加藤　寛，藤木嘉明，芝埜　彰，池田浩己，船越宏子，十河英世，斎藤優子（2004）咽喉頭症状に対するプロトンポンプ阻害薬の効果．第105回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会，広島
28. 新井昇治，久保伸夫，山下敏夫，池田浩己，原田成信，中村晶彦（2004）LPS, TNF-α により誘導された鼻粘膜微少血管内皮細胞のアポトーシス―誘導型NOSの関与について―．289回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
29. 榎本雅夫，嶽　良博，芝埜　彰，池田浩己，船越宏子，與田茂利，横須賀通夫，伴　　武（2004）室内各所へのスギ花粉進入量について．290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
30. 芝埜　彰，夜陣真司，與田茂利，池田浩己，嶽良博，榎本雅夫（2004）室内換気システムとチリダニ量．290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
31. 與田茂利，榎本雅夫，嶽　良博，池田浩己，芝埜　彰，夜陣真司，大西成雄，山名俊之（2004）睡眠時無呼吸症候群のQOL．290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
32. 嶽　良博，芝埜　彰，池田浩己，夜陣真司，與田茂利，加藤　寛，榎本雅夫（2004）胃食道逆流症と咳嗽．49回日本聴覚医学会総会，福岡
33. 與田茂利，間三千夫，硲田猛真，嶽　良博，芝埜　彰，池田浩己，夜陣真司，河野　淳，榎本雅夫，原田　保，北野博也（2004）各機種ごとに推奨されたFitting理論に基づいたデジタル補聴器による装用未経験者の聞き取り成績について．49回日本聴覚医学会総会，福岡
34. 間三千夫，硲田猛真，與田茂利，嶽　良博，芝埜　彰，池田浩己，夜陣真司，河野　淳，榎本雅夫，原田　保，北野博也（2004）高度難聴乳児の聴力検査法と補聴器の装用法とその言語発達について．第54回日本アレルギー学会総会，横浜
35. 荻野　敏，角谷千恵子，池田浩己，嶽　良博，榎本雅夫（2004）スギ花粉症初期療法としてのロラタジン＋吸入ステロイド併用療法の有効性．第54回日本アレルギー学会総会，横浜
36. 榎本雅夫，池田浩己，嶽　良博，芝埜　彰，船越宏子，大西成雄，山名俊之（2004）室内換気システムとチリダニの量について．第63回日本めまい平衡神経学会総会，群馬
37. 嶽　良博，榎本雅夫，池田浩己，芝埜　彰，夜陣真司，與田茂利，奥野吉昭，加藤　寛（2004）腸内細菌とアレルギー（第4報）―スギ花粉症とビフィズス菌．291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
38. 芝埜　彰，嶽　良博，池田浩己，夜陣真司，與田茂利，榎本雅夫（2004）睡眠時無呼吸症候群のQOL（第2報）．291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
39. 夜陣真司，嶽　良博，與田茂利，芝埜　彰，池田浩己，榎本雅夫，能味堂郎，嶋田貴志（2004）Enterococcus faecalis FK-23 標品の経口投与による5-FUの副作用の防御効果．291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
40. 嶽　良博，池田浩己，芝埜　彰，榎本雅夫，木村廣行，松井和夫，岩橋大介，岸本和也，與田順一，垣内　弘，藤木嘉明，川堀真一，池田昌生，打越　進，坂口幸作，齋藤　啓，中西　弘，榎本多津子，木村貴昭（2004）和歌山県におけるスギ花粉症に対するアンケート調査．第77回日耳鼻学会和歌山地方部会，和歌山
41. 芝埜　彰，夜陣真司，與田茂利，池田浩己，嶽良博，榎本雅夫（2004）睡眠時無呼吸症候群における肥満の関与―血液データに基づく解析―．第77回日耳鼻学会和歌山地方部会，和歌山
42. 濱田聡子，朝子幹也，久保伸夫，井上俊哉，山下敏夫（2004）咽頭へ発育した巨大正中頸のう胞の1例．290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
43. 宮本　真，井上俊哉，柿本晋吾，堀口　誠，山下敏夫（2004）扁摘術後，反射性交感神経性ジストロフィー（RSD）をきたした1症例．291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
44. 辻　裕之，永田基樹，南野雅之，湯川尚哉，山下敏夫，小椋　学，井上俊哉（2004）Facial

Degloving法による拡大上顎全摘. 291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪

45. 永田基樹，辻　裕之，南野雅之，湯川尚哉，山下敏夫，小椋　学，井上俊哉（2004）上顎癌に対する皮切の工夫―眼窩内容を温存する上顎全摘術に対して―．291回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
46. 岩井　大，川崎英子，和歌信彦，永田基樹，湯川尚哉，南野雅之，大西純夫，辻　裕之，山下敏夫（2004）耳下腺ワルチン腫瘍の手術法の検討．第14回日本頭頸部外科学会，東京
47. 島野卓史，岩井　大，南野雅之，湯川尚哉，李進隆，矢野純也，山下敏夫（2004）当科で経験した甲状腺扁平上皮癌の4例. 第14回日本頭頸部外科学会，東京
48. 馬場　奨，岩井　大，稲葉宗夫，山下敏夫，池原　進（2004）SAMP1 マウス骨髄の同種移植による早期老人性難聴の発現．老化促進モデルマウス（SAM）研究協議会．第19回研究発表会，大阪
49. 島野卓史，岩井　大，和歌信彦，井上　功，湯川尚哉，堤　俊之，足立真理，辻　裕之，山下敏夫（2004）気管食道シャント発声による食道発声早期獲得効果．第 66 回耳鼻咽喉科臨床，青森
50. 八木正夫，永田基樹，湯川尚哉，大岡久司，島野卓史，和歌信彦，辻　裕之，岩井　大，山下敏夫（2004）当科における耳下腺腺房細胞癌症例の検討．第 105 回日本耳鼻咽喉科学会，広島
51. 岩井　大，大西純夫，南野雅之，湯川尚哉，永田基樹，吉永和仁，宗本由美，中江　香，大隅泰則，辻　裕之，山下敏夫（2004）腺癌系悪性腫瘍に対する化学療法，放射線療法の検討．第17回日本口腔・咽頭科学会，神戸
52. 馬場　奨，稲葉宗夫，高田敬蔵，平　　充，福井淳一，郭　可泉，岩井　大，山下敏夫，池原　進（2004）骨髄内骨髄移植後のマウス造血前駆細胞および樹状細胞サブセットの動態解析．日本免疫学会，札幌
53. 馬場　奨，岩井　大，稲葉宗夫，池原　進，山下敏夫（2004）異常骨髄細胞に起因する早期老人性難聴の検討. 第14回日本耳科学会，京都
54. 河本光平，古川昌幸，吉永和仁，大隅泰則，近野哲史，山下敏夫（2004）難治性アレルギー性鼻炎に対する当科の取り組み．第 43 回日本鼻科学会，東京
55. 吉永和仁，古川昌幸，大隅泰則，竹村博一，栗山博道，百渓明代，河本光平，久保伸夫，山下敏夫（2004）前頭洞病変に対するナビゲーションサージェリー．第 43 回日本鼻科学会，東京
56. 河本光平，ラファエル・ヨアッシュ，泉川雅彦，栗山博道，山下敏夫（2004）マウス前庭有毛細胞の自己再生能についての検討．第105回日本耳鼻咽喉科学会，広島
57. 大前麻理子，湯川尚哉，八木正夫，小椋　学，中江　香，玉岡久幸，辻　裕之，山下敏夫（2004）咀嚼筋間隙に発生した神経鞘腫の1例. 290回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会，大阪
58. 大前麻理子，岩井　大，池野耕士，八木正夫，馬場　奨，金子敏彦，島野卓史，山下敏夫（2004）耳下腺多形腺腫におけるMRI画像と病理所見．口腔咽頭科学会，神戸

著　書

1. Inaba M, Iwai H, Ikehara S (2004) Prevention and treatment of age-related disease in SAM by bone marrow transplantation with or without thymus grafts. The Senescence-Accelerated Mouse (SAM). An Animal Model of Science (Yasuyuki N, Takeda T, Okuma Y ed) pp 117–121, Elsevier, Amsterdam, The Netherland
2. 土井　直（2004）特集　鼓膜―膨隆・陥凹・損傷・肉芽　中耳蜂巣からのガス交換．JOHNS（JOHNS 編集委員会編）1631–1635 頁，東京医学社，東京
3. 土井　直，丸笹直子（2004）hyperacusis　と phonophpbia について．耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド Part 4（野村恭也，本庄巌，小松崎篤編）105–107頁，中山書店，東京
4. 土井　直，細田泰男，大隅泰則，馬場　奨，宗本由美，金子明弘，米田元胤，古川昌幸，栗山博道，北尻雅則，山下敏夫（2004）The hearing results of our operative method using a cartilage connecting hydroxyapatite prosthesis with a spear-head. Proceedings Of The 3rd Symposium on Middle Ear Mechanics In Research And Otology

(Kiyofumi Gyo, Hiroshi Wada ed) pp 227–233, World Scientific Publishing Co. Ltd. Matsuyama, Ehime
5. 池田浩己（2004）シックハウス特集　シックハウス／医師の立場から．hiroba（大阪府建築士会編）pp 40–41，学芸出版社
6. 池田浩己（2004）医学的見地からみるシックハウス症候群．シックハウスがわかる本（第3章）（大阪府建築士会・大阪建築士事務所協会・日本建築家協会近畿支部編）46–58頁，学芸出版社
7. 岩井　大（2004）CT, MRIの有用性と限界．耳下腺腫瘍臨床の最前線―Q&A（山下敏夫編）44–48頁，金原出版，東京
8. 岩井　大（2004）CT, MRIの有用性と限界．耳下腺腫瘍臨床の最前線―Q&A（山下敏夫編）52–54頁，金原出版，東京
9. 岩井　大（2004）ワルチン腫瘍．最良の手術法（治療法）．耳下腺腫瘍臨床の最前線―Q&A（山下敏夫編）97–99頁，金原出版，東京
10. 岩井　大（2004）審美面を考慮した皮切．耳下腺腫瘍臨床の最前線―Q&A（山下敏夫編）142–144頁，金原出版，東京
11. 岩井　大（2004）大耳介神経後枝温存とその意義．耳下腺腫瘍臨床の最前線―Q&A（山下敏夫編）145–147頁，金原出版，東京

放射線科学講座

〈研究概要〉

放射線科での主な研究は次の如くである．

基礎医学

（A）腫瘍の放射線・温熱感受性とアポトーシスの関連および関連遺伝子発現との相関
（B）実験腫瘍の抗Fas抗体とフローサイトメトリーを用いた照射後の細胞死動態の解析
（C）実験腫瘍における放射線増感剤，防護剤のラジカル生成への影響と抗腫瘍効果との関連
（D）血管新生阻害剤による温熱効果増強
（E）メタリックステントの物理特性と生体適合性
（F）IVRにおける新しいデバイスの開発
（G）肝癌塞栓術の新しい展開
（H）高周波誘導加温による解離性動脈瘤の治療
（I）移植腫瘍における動注化学療法の効果
（J）膜電位指示蛍光試薬を用いた腫瘍細胞膜電位測定による温熱効果及び薬剤増感の機序究明

臨床放射線治療学

（A）進行癌の予後因子の分子生物的アプローチ：癌遺伝子bax/bCl-2比との関連
（B）温熱放射線療法患者における癌遺伝子産物の発現と抗腫瘍効果及び生存率についての検討
（C）高線量率小線源治療と局所腔内加熱同時併用による食道粘膜の障害と治療効果比の検討
（D）肺癌に対する高線量率と小線源治療の効果判定
（E）X-ナイフによる治療成績の検討

血管造影・IVR

（A）メタリックステントを用いた終末期医療の臨床成績
（B）各種薬剤による動注化学療法の効果
（C）肺癌治療における新しい展開

核医学

（A）肝細胞増殖因子の抗肝実質細胞障害作用発現とアシアロ糖蛋白受容活性との関連
（B）RI標識アシアロ糖蛋白受容体を用いた肝障害の評価方法の確立
（C）IVR，放射線治療後の機能評価

MR部門

（A）新しい撮像法を用いた腫瘍検出法の確立
（B）疾患別MR診断理論の確立

その他

（A）3次元画像診断システムの作成
（B）PACSの構築とその運用理論の確立

〈研究業績〉

原　著

1. Y. Harima, A. Togashi, K. Horikoshi, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada, T. Tsunoda, Y. Nakamura, T. Katagiri (2004) Prediction of outcome of advanced cervical cancers to thermoradiotherapy according to expression profiles of 35 genes selected by cDNA microarray analysis. Int J Radiation Oncology Biol Phys 60: 237–248
2. Y. Harima, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada (2004) Hypoxia Inducible Factor 1A (HIF1A) Related to Thermoradioresistancy of Advanced Cervical Cancers. Jpn J Hyperthermia 20: 69–77
3. N. Tanigawa, S. Sawada, S. Kariya, H. Kojima, A. Komemushi, M. Sougawa, S. Satoi, Y. Takai, Y. Kamiyama (2004) Stenting of the superior mesenteric artery as a preoperative treatment for total pancreatectomy. Cardiovasc Intervent Radiol 27: 533–535
4. N. Tanigawa, S. Kariya, A. Komemushi, H. Kojima, S. Sawada (2004) Usefulness of CT during Renal Arteriography: A Case of Percutaneous Radiofrequency Ablation for Renal Cell Carcinoma. Cardiovasc Intervent Radiol 27: 669–670
5. N. Tanigawa, A. Komemushi, H. Kojima, S. Kariya, S. Sawada (2004) Three-dimensional Angiography Using Rotational Digital Subtraction Angiography: Usefulness in Transarterial Embolization of Hepatic Tumors. Acta Radiologica 45: 602–607
6. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, M. Sougawa, T. Shiraishi, S. Kimura, H. Miyao, T. Kawanaka, S. Sawada (2004) Percutaneous shunt creation for hemodialysis using uncovered metallic stents. Cardiovasc Intervent Radiol 27: 409–411
7. M. Kaibori, N. Tanigawa, Y. Matsui, AH Kwon, S. Sawada, Y. Kamiyama (2004) Preoperative chemolipiodolization of whole liver for hepatocellular carcinoma. Anticancer Res 24: 1929–1933
8. K. Nakai, K. Tajima, N. Tanigawa, N. Matsumoto, K Zen, S. Nomura, M. Fujimoto, Y. Kishimoto, R. Amakawa, S. Fukuhara (2004) Intra-arterial steroid-injection therapy for steroid-refractory acute graft-versus-host disease with the evaluation of angiography. Bone marrow transplantation 33: 1231–1233
9. S. Sawada, N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura (2004) Percutaneous vertebroplasty. Syllabus 6th Asia-Pacific congress of cardiovascular and interventional radiology (APCCVIR) 160–163
10. T. Nagata, K. Ikeda, N. Ohmura, S. Sawada (2004) Peripheral vascular coil for peripheral MR angiography: Phantom-based comparison with body coil by SNR, CNR, and visual evaluation. Radiation Medicine 22: 310–315
11. K. Nobuhara, G. Okugawa, T. Minami, K. Takase, T. Yoshida, T. Yagyu, A. Tajika, T. Sugimoto, C. Tamagaki, K. Ikeda, S. Sawada, T. Kinoshita (2004) Effects of electroconvulsive therapy on

frontal white matter in late-life depression: a diffusion tensor imaging study. Neuropsychobiology 50: 48–53

12. G. Okugawa, K. Nobuhara, T. Minami, C. Tamagaki, K. Takase, T. Sugimoto, S. Sawada, T. Kinoshita (2004) Subtle disruption of the middle cerebellar peduncles in patients with schizophrenia. Neuropsychobiology 50: 119–123
13. K. Takase, C. Tamagaki, G. Okugawa, K. Nobuhara, T. Minami, T. Sugimoto, S. Sawada, T. Kinoshita (2004) Reduced white matter volume of the caudate nucleus in patients with schizophrenia. Neuropsychobiology 50: 296–300
14. K. Kouda, H. Nakamura, H. Kohno, SK. Ha-Kawa, R. Tokunaga, S. Sawada (2004) Dietary restriction: effects of short-term fasting on protein uptake and cell death/proliferation in the rat liver. Mech Ageing Dev 125: 375–380
15. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, Y. Shomura, Y. Ueno, T. Shiraishi, S. Sawada (2005) Radiofrequency ablation combined with CO2 injection for treatment of retroperitoneal tumor: Protecting surrounding organs against thermal injural. AJR 185: 890–893
16. H. Kojima, N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, S. Sawada (2004) CT perfusion of the liver: Assessment of pure portal blood flow studied with CT perfusion during superior mesenteric arterial portography. Acta Radiologica 45: 709–715
17. A. Komemushi, N. Tanigawa, H. Kojima, S. Kariya, Y. Shomura, S. Sawada (2005) Percutaneous Vertebroplasty for Compression Fracture: Analysis of Vertebral Body Volume by CT Volumetry. Acta Radiologica 46: 276–279
18. K. Shimizu, H. Iwai, K. Ikeda, N. Sakaida, S. Sawada (2005) Intraparotid facial nerve schwannoma: A report of five cases and an analysis of magnetic resonance imaging results. American Journal of Neuroradiology 26: 1328–1330
19. K. Ikeda, M. Kuroda, N. Sakaida, M. Maehara, N. Ohmura, S. Sawada (2005) Cellular leiomyoma of the nasal cavity: Findings of CT and MRI. American Journal of Neuroradiology 26: 1336–1338
20. N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, S. Sawada (2005) Intraosseous venography with carbon dioxide contrast agent in percutaneous vertebroplasty. AJR 184: 567–570
21. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, T. Shiraishi, S. Sawada (2005) Resideual stenoses after conventional balloon angioplasty for hemodialysis shunt failure: treatment with metallic stent placement and post-dilation. Radiation Medicine 23: 51–55
22. M. Maehara, K. Ikeda, N. Ohmura, T. Sugimoto, K. Harima, C. Ino, S. Sawada (2005) Multislice computed tomography of pneumoparotid: A case report. Radiation Medicine 23: 147–150
23. 今村正浩，澤田　敏，寒川光治，播磨洋子，狩谷秀治，山口和之（2004）乳癌術後照射後に発症し自然寛解したBOOP様肺炎の1例．呼吸 23: 659–663
24. 谷川　昇，小島博之，米虫　敦，狩谷秀治，庄村裕三，寒川光治，澤田　敏（2004）椎体腫瘍に対するIVR．IVR会誌　19: 371–376
25. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）炭酸ガスを用いたシャントPTAの成績．腎と透析 57: 79–84
26. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）透析シャントPTAの残存狭窄への対策　カッティングバルーンPTA及びステント併用バルーンPTA．臨床放射線　49: 527–534
27. 狩谷秀治，谷川　昇，白石友邦，木村伸悟，宮尾洋志，江崎和芳，川中俊明，小島博之，米虫　敦，澤田　敏（2004）透析シャント非血栓性閉塞に対するPTAの術前MRI画像診断の有用性．ブラッドアクセスインターベンション治療研究会誌　5: 1–5
28. 狩谷秀治，谷川　昇，白石友邦，木村伸悟，宮尾洋志，江崎和芳，川中俊明，小島博之，米虫　敦，澤田　敏（2004）Peripheral Cutting Balloon PTAの初期使用経験：Conventional Balloon PTAでくびれが残存した症例に対する．ブラッドアクセスインターベンション治療研究会誌 5: 27–32

29. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，江崎和芳，渡邊美博，川中俊明，澤田　敏（2004）透析内シャント狭窄に対するメタリックステント留置：バルーン PTA 単独症例との開存率の比較．IVR 会誌（Jpn Intervent Radiol Supple.）　19: 36–37
30. 岩井　大，大前麻理子，池田耕士，馬場　奨，和歌信彦，清水　健，山下敏夫（2004）耳下腺内顔面神経鞘腫の検討．日本口腔・咽頭科学会誌　16: 337–343
31. 清水　洋，宇田光伸，吉本佳子，上西幹夫，尾野光市，岡澤　崇，澤田　敏（2004）上腸間膜動脈瘤の一例―MDCT による三次元画像での描出―．臨床放射線　49: 430–433
32. 藤田　剛，藤原仁史，竹中　完，松井佐織，叶多篤史，嵯峨一行，芝垣広太郎，尾阪将人，北村静信，高木浩一，吉村　寛，益澤　明，渡辺明彦，板垣　康，渡辺直也，向井秀一（2004）腹部超音波検診における脂肪肝と生活習慣病．消化器科　38: 385–390
33. 播磨敬三，志賀淑子，権　昭則，久保田祐一，平田靖裕，山本寛之，水野正善，前原　稔，澤田　敏（2004）悪性腫瘍 Follow Up CT における高ヨード容量造影剤投与法の検討．映像情報　36: 802–806
34. 新貝欣久，夏住茂夫，松本掲典，金塚安弘，播磨敬三（2004）RIS照射録データベースにおける JJ1017 コード採用に関する考察．日本放射線技術学会誌　60: 842–851
35. 宮内元史，狩谷秀治，大原晋吾，川口康夫，財前裕子，石井秀一，川中俊明，唐内員正，白石友邦（2004）炭酸ガス造影による透析内シャントの診断．腎と透析　別冊「アクセス2004」57: 63–66
36. 河　相吉，吉田常孝，柳生隆視，谷万喜子，鈴木俊明，澤田　敏（2004）ジストニアの鍼治療と局所脳血流―eZIS・3DSRT を用いた評価―．映像情報Medical　36: 1380–1384
37. 河　相吉（2004）心房内腫瘍塞栓の診断 67Ga SPECT が有用であった肝細胞癌の一例．腫瘍核医学フォーラム症例File　22
38. 河　相吉（2004）骨シンチグラフィのプラナー像では指摘しえず SPECT が有用であった腰椎骨転移の一例．腫瘍核医学フォーラム症例File　36
39. 池本裕実子，河　相吉，寺口正之，萩野廣太郎，小林陽之助（2004）先天性心疾患を伴うDown症候群の肺病変―肺CT所見を検討した5症例の報告―．心臓　36: 285–289
40. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）［ブラッドアクセストラブルの対応］（2）PTAの適応と限界．大阪透析研究会会誌　22: 15–21
41. 播磨洋子（2004）「温熱ストレスの健康への応用―共通認識を踏まえた提言―」印象記．Jpn J Hyperthermia　20: 189–190
42. 谷川　昇，澤田　敏（2004）気道ステント．CLINICIAN　51: 1039–1044
43. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，澤田　敏（2004）［3D画像医学の進歩　画像診断に基づく治療戦略］3D画像医学の現状と課題．日本臨床　62: 627–638

総　説

1. 池田耕士，前原　稔，澤田　敏（2004）頭頚部画像診断に不可欠な臨床・画像解剖（2）「耳下腺」．画像診断　24: 1428–1435

学会発表

1. S. Sawada, N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura (2004) Percutaneous Vertebroplasty. 6th Asia-Pacific congress of cardiovascular and interventional radiology, India
2. 播磨洋子（2004）遺伝子情報と放射線治療効果．大分最小侵襲治療法研究会，別府
3. Y. Harima, S. Sawada, M. Imamura, M. Sougawa (2004) Overview of Clinical Thermal radiotherapy—Predection of sensitivity or resisitence of Advanced Cervical Cancers to Thermoradiotherapy using cDNA Microarray Analysis—. 9th International Congress of Hyperthermic Oncology, St. Louis, Missouri
4. 谷川　昇（2004）骨粗鬆症による椎体圧迫骨折に対する経皮的形成術. 第5回関西Radiology Update講演会，大阪
5. Y. Harima, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada (2004) A randomized clinial trial of radiotherapy

and hyperthermia, radiotherapy and chemotherapy, and radiotherapy combined with hyperthermia and chemotherapy for locally advanced cervical carcinomas. The Kadota Fund International Forum 2004 —Application of thermal stress for the improvement of health: consensus and proposals —, Awajishima

6. Y. Harima, M. Imamura, M. Sougawa, S. Sawada (2004) Prediction of Outcome of advanced cervical cancers to thermoradiotherapy according to expression profiles of 35 genes selected by cDNA microarray analysis. 23th European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO), Amsterdam
7. N. Tanigawa, A. Komemushi, S. Kariya, H. Kojima, S. Sawada (2004) Mid-term results of percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fractures. Cardiovascular and interventional radiological society of Europe (CIRSE), Spain
8. N. Tanigawa, S. Kariya, A. Komemushi, H. Kojima, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Cerebral microembolization during radiofrequency ablation of lung tumors: Detection by carotid duplex ultrasound and brain diffusion-weighted MR imaging. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
9. N. Tanigawa, A. Komemushi, H. Kojima, S. Kariya, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Percutaneous Vertebroplasty: Relationship between Bone Marrow Edema of Vertebral Body on MRI and the clinical Response. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
10. S. Kariya, N. Tanigawa, H. Kojima, A. Komemushi, T. Shiraishi, S. Sawada (2004) Selection of a cutting balloon PTA or high pressure balloon PTA based on the primary patency rates with respect to the stenotic site for hemodialysis fistula. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
11. A. Komemushi, N. Tanigawa, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Percutaneous vertebroplasty for compression fracture under IVR-CT system guidance: Indications, Technique, Results, and Complications presenting an interactive CD-ROM in HTML format. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
12. A. Komemushi, N. Tanigawa, S. Kariya, H. Kojima, Y. Shomura, S. Sawada (2004) Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture: multivariate study of predictors of new vertebral fracture. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
13. K. Ikeda, N. Ohmura, M. Maehara, T. Sugimoto, A. Komemushi, S. Sawada (2004) Contrast of signal intensity on T2-weighted images and pathological findings in parotid pleomorphic adenoma. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
14. N. Ohmura, N. Tanigawa, K. Ikeda, T. Sugimoto, M. Maehara, S. Sawada, S. Kariya, H. Kojima, A. Komemushi (2004) Changes of signal intensity of vertebral bone marrow on MRI before and after percutaneous vetebroplasty. RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
15. M. Maehara, N. Inami, K. Ikeda, K. Harima, S. Nomura, S. Sawada (2004) Relation between contrast media and expression of the selectin family (P-selectin & E-selectin). RSNA (Radiological Society of North America), Chicago, USA
16. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2004）温熱放射線治療を施行した進行期子宮頸癌の予後予測因子としてcDNAマイクロアレイ解析により抽出された35遺伝子．第47回日本放射線影響学会，長崎
17. 播磨洋子，今田　肇，桜井英幸，平木嘉幸，辻孝，田中正博，寺嶋廣美（2004）子宮頸癌に対する抗がん剤併用放射線治療，温熱放射線治療，抗がん剤併用温熱放射線治療の無作為比較試験．第21回日本ハイパーサーミア学会，京都
18. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2004）子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性における遺伝子発現プロファイル．第6回癌治療増感研究シンポジウム，奈良
19. 今村正浩，澤田　敏，寒川光治，播磨洋子，谷口正美（2004）乳癌術後照射後に発症し自然寛解を呈したBOOP様肺炎．第23回日本画像医学会，東京

20. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2004）子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性における遺伝子発現プロファイル．第 63 回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
21. 播磨洋子，澤田　敏（2004）進行期子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性に関与する遺伝子発現．第8回がん分子標的治療研究会，鹿児島
22. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2004）温熱放射線抵抗性子宮頸癌のゲノム解析．第43回医学放射線学会生物部会，京都
23. 播磨洋子，澤田　敏，片桐豊雅，中村祐輔（2004）放射線治療後進行期子宮頸癌の遠隔転移に関与するマイクロアレイ解析．第 63 回日本癌学会，福岡
24. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2004）ゲノム解析で放射線抵抗性子宮頸癌に高発現した遺伝子についての考察．第 17 回日本放射線腫瘍学会，千葉
25. 谷川　昇，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術の臨床成績．第63回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
26. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，澤田　敏（2004）透析シャント狭窄に対する通常バルーン PTA とカッティングバルーン PTA の初期成功率及び開存率．第 63 回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
27. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術：CT Volumetry による椎体体積の評価．第 63 回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
28. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，澤田　敏（2004）有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術の初期成績．第 63 回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
29. 大村直人，谷川　昇，池田耕士，赤井幹夫，小島博之，米虫　敦，杉本達哉，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術に伴う椎体の MR 信号変化．第63回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
30. 谷川　昇，米虫　敦，狩谷秀治，小島博之，澤田　敏（2004）骨粗鬆症に対する経皮的椎体形成術の臨床成績．第33回日本血管造影・IVR 学会総会，東京
31. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）狭窄部位別一次開存率に基づいた透析シャント PTA のカッティングバルーンと通常バルーンの選択法．第33回日本血管造影・IVR学会総会，東京
32. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術：CT Volumetry による椎体体積の評価．第33回日本血管造影・IVR学会総会，東京
33. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）シャント PTA におけるカッティングバルーンと通常バルーンの狭窄部位別一次開存率に基づいた選択方法．第 49 回日本透析医学会学術集会・総会，東京
34. 谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術における炭酸ガスによる椎体静脈造影．第 23 回日本画像医学会，東京
35. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，澤田　敏（2004）有痛性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）の初期成績．第 23 回日本画像医学会，東京
36. 谷川　昇，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，庄村裕三，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術における治療椎体内 Bone Marrow Edema（BME）と治療効果との関係．日本血管造影・Interventional Radiology 学会　第 16 回関西地方会，奈良
37. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，庄村裕三，澤田　敏（2004）有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術．日本血管造影・Interventional Radiology 学会　第 16 回関西地方会，奈良
38. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，庄村裕三，上埜泰寛，白石友邦，澤田　敏（2004）炭酸ガス注入併用ラジオ波凝固療法．日本血管造影・Interventional Radiology 学会　第 16 回関西地方会，奈良
39. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術における術者被爆．日本血管造影・Interventional Radiology 学会　第 16 回関西地方会，奈良
40. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄

村裕三，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術後の再骨折発生の危険因子．日本血管造影・Interventional Radiology学会　第16回関西地方会，奈良
41. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，澤田　敏，新井永達，横田芳郎（2004）多発性肺転移を伴ったHCCの自然退縮をみた一例．第276回日本医学放射線学会関西地方会
42. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，庄村裕三，寒川光治，今村正浩，澤田　敏（2004）有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術．第5回肺RFA談話会，大阪
43. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，上埜泰寛，澤田　敏（2004）腎・副腎腫瘍に対する炭酸ガス注入併用RFA．第5回肺RFA談話会，大阪
44. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，山越恭雄，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）炭酸ガスを使用した血管造影法によるシャントPTA．第63回大阪透析研究会，大阪
45. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）炭酸ガス造影によるシャントPTAの成績．第2回大阪アクセスケア研究会，大阪
46. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，山越恭雄，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）グラフトシャントの血栓性閉塞に対する術前ウロキナーゼ併用バルーンPTA．第3回大阪アクセス研究会，大阪
47. 池田耕士，谷川　昇，杉本達哉，大村直人，前原　稔，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，澤田　敏（2004）Line scan DWIを用いた経皮的椎体形成術前後における脊椎圧迫骨折の検討．第32回日本磁気共鳴医学会大会，滋賀
48. 前原　稔，谷川　昇，池田耕士，大村直人，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，杉本達哉，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術後の造影MRIの有用性―隣接椎体圧迫骨折の早期診断―．第32回日本磁気共鳴医学会大会，滋賀
49. 大村直人，谷川　昇，池田耕士，前原　稔，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，杉本達哉，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術に伴う椎体のMR信号変化．第32回日本磁気共鳴医学会大会，滋賀
50. 谷川　昇（2004）ワークショップIII：「非血管系のIVR：骨粗鬆症」骨粗鬆症に対する経皮的椎体形成術の成績．第23回日本画像医学会，東京
51. 谷川　昇（2004）モーニングレクチャー：「骨粗鬆症による椎体圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術」．第33回日本血管造影・IVR学会総会，東京
52. 谷川　昇（2004）シンポジウム：ステント治療のエビデンス「気道ステント」．第33回日本血管造影・IVR学会総会，東京
53. 小島博之（2004）シンポジウム：RFA の適応拡大（骨）有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術の初期成績．第33回日本血管造影・IVR学会総会，東京
54. 狩谷秀治（2004）カッティングバルーンと通常バルーンによる透析シャントPTAの狭窄部位別一次開存率の比較．第9回ブラッドアクセスインターベンション治療（BAIVT）研究会，東京
55. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，成田敬介，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2004）透析シャント狭窄に対するステント留置とバルーンPTA単独症例との開存率の比較．第9回ブラッドアクセスインターベンション治療（BAIVT）研究会，東京
56. 前原　稔，播磨敬三，志賀淑子，池田耕士，大村直人，杉本達哉，澤田　敏，稲見則仁，野村昌作（2004）造影剤（イオメプロール）による凝固系，内皮障害についての検討．第276回日本医学放射線学会関西地方会，大阪
57. 池田耕士，大村直人，河　相吉，澤田　敏（2004）耳下腺多形腺腫におけるT2強調像の信号強度と病理像の対比．第63回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
58. 前原　稔，稲見則仁，播磨敬三，志賀淑子，高橋延行，津田信幸，野村昌作，岩坂壽二，澤田　敏（2004）造影剤（イオメプロール）による凝固系，内皮障害についての検討．第63回日本医学放射線学会学術発表会，横浜

59. 前原　稔，池田耕士，大村直人，杉本達哉，澤田　敏，播磨敬三，志賀淑子，井野千代徳（2004）耳下腺気腫症の一例．第 277 回日本医学放射線学会関西地方会，大阪
60. 前原　稔，谷川　昇，池田耕士，大村直人，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，杉本達哉，澤田　敏（2004）経皮的椎体形成術後の造影MRIの有用性．第278回日本医学放射線学会関西地方会，大阪
61. 河　相吉，青木良純，澤田　敏（2004）99mTc-MAA下肢ベノグラフィが有用であった腸骨静脈閉塞の一例．第101回核医学症例検討会
62. 河　相吉，吉田常孝，澤田　敏（2004）ジストニアへの鍼治療が局所脳血流に及ぼす影響．第23回日本画像医学会，東京
63. 河　相吉，吉田常孝，柳生隆視，谷万喜子，鈴木俊明，澤田　敏（2004）ジストニアの鍼治療と局所脳血流―eZIS・3DSRT を用いた評価―．第42回核医学定量診断研究会
64. 河　相吉（2004）画像診断の最先端：FDG-PETによるがん診断．寝屋川市医師会と関西医科大学付属病院・医師会との懇談会
65. 河　相吉，谷川　昇，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，澤田　敏（2004）脊椎圧迫骨折の骨SPECTによる検討．第33回断層映像研究会
66. 河　相吉，小島博之，米虫　敦，狩谷秀治，谷川　昇，澤田　敏（2004）椎体形成術施行前の脊椎骨SPECT所見．第37回日本核医学会近畿地方会
67. 杉本達哉，池田耕士，谷川　昇，大村直人，赤井幹夫，小島博之，米虫　敦，澤田　敏，木下利彦（2004）拡散強調画像による経皮的椎体形成術後の検討．第 63 回日本医学放射線学会学術発表会，横浜
68. 杉本達哉，谷川　昇，池田耕士，大村直人，前原　稔，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，澤田　敏（2004）拡散強調画像による経皮的椎体形成術後の再発骨折についての検討．第 32 回日本磁気共鳴医学会大会，滋賀
69. 荒井保明，松井　修，中島康雄，吉岡哲也，齋藤博哉，佐竹光夫，小林　健，松岡利幸，谷川　昇，曽根美雪，稲葉吉隆，穴井　洋，新槇　剛（2004）クロージングセッション　がん治療における IVR　の多施設共同研究：JIVROSG（Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group）．第33回日本血管造影・IVR学会総会，東京
70. 金　乾熙，黒川弘晶，宮代美樹，池田耕士，澤田　敏，今泉正仁，緒方奈保子，松村美代（2004）MRIを用いた多視神経圧迫の評価：正常眼圧緑内障における血管による視神経圧迫の可能性．第277回日本医学放射線学会関西地方会，大阪
71. 宮崎由貴，白石友邦，前原　稔，杉本達哉，大村直人，池田耕士，澤田　敏，坂井田紀子，植村芳子（2004）癌化を伴った鼻腔内反性乳頭腫の一例．第277回日本医学放射線学会関西地方会，大阪
72. 藤田　剛，藤原仁史，板垣　康，清水みどり，藤木由美子，茶村陽子，杉原麻子，向井秀一，渡辺直也（2004）腹部超音波検診における脂肪肝と生活習慣病．第 32 回日本総合健診医学会，東京
73. 板垣　康，渡辺直也，大園達郎，茶村陽子，中西美知江，関口福生，椋棒正昌（2004）「生活習慣病教室」による運動能力の改善．第 32 回日本総合健診医学会，東京
74. 黒川弘晶，金　熙乾，今泉正仁，宮代美樹（2004）視神経圧迫のMRI：正常眼圧緑内障との関わりについて．第 23 回日本画像医学会，東京
75. 夏住茂夫，松本掲典，新貝欣久，久保田祐一，水野正善，播磨敬三，金塚安弘，仲野俊成，渡辺　淳，木原　裕（2004）オープンソースを目指した PACS ／医療情報統合システム“KPECK”の開発．日本医療情報学会第8回春季学術大会
76. 宮内元史，大原晋吾，川口康夫，唐内員正，川中俊明，白石友邦，狩谷秀治（2004）透析シャントにおける炭酸ガス造影とヨード造影の狭窄率の比較．日本放射線技術学会第 60 回総会学術大会
77. 石井秀一，宮内元史，川中俊明，狩谷秀治，白石友邦，唐内員正（2004）ステッピング・デジタル・サブトラクション・アンギオグラフィによるシャント造影の有用性．第 63 回大阪透析研究会
78. 宮内元史，狩谷秀治，石井秀一，財前裕子，大

原晋吾，川口康夫，唐内員正，川中俊明，白石友邦（2004）シャント造影におけるステッピング・デジタル・サブトラクション・アンギオグラフィと通常デジタル・サブトラクション・アンギオグラフィの比較．第8回アクセス研究会

79. 金　乾熙，黒川弘晶，尾辻　剛，畑埜浩子，宮代美樹，池田耕士，大村直人，澤田　敏，緒方奈保子（2004）視神経の MRI：視神経陥凹の程度と信号強度の比較検討．第278回日本医学放射線学会関西地方会，大阪

著　書

1. 池田耕士（2004）唾液腺．画像診断リファレンス　眼窩・耳鼻咽喉・口腔領域の MRI（小玉隆男編）184–203 頁，メジカルビュー社，東京

産科学・婦人科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Okada H, Nakajima T, Yasuda K, Kanzaki H (2004) Interleukin-1 inhibits interleukin-15 production by progesterone during in vitro decidualization in human. Journal of Reproductive Immunology. J Reprod Immunol 61: 3–12
2. 石野陽代，山口昌美，生田明子，江川真人，依岡寛和，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2004）産褥期に急激な腹水貯留と血清 CA125 の上昇を認め悪性腫瘍と偽診された結核性腹膜炎の1症例．産婦の進歩　56: 5–9
3. 松山幸子，山崎由紀子，松尾　泉，松岡　進，安田勝彦，神崎秀陽（2004）当科における更年期障害患者の診断と治療．産婦の進歩　56: 12–14
4. 溝上友美，斉藤淳子，石野陽代，永田文江，生田明子，松尾　泉，堀越順彦，安田勝彦，神崎秀陽（2004）子宮頸部悪性腺腫4症例における HIK1083 抗体についての検討．産婦の進歩 56: 155–157
5. 神崎秀陽，安田勝彦，安原正浩（2004）子宮筋収縮に対する喫煙の影響．喫煙科学研究財団研究年報　627–631
6. 北田光美（2004）子宮頸癌に対するchemoradiation療法．産婦の進歩　56: 194–200
7. 原田　省，神崎秀陽（2004）子宮内膜症合併不妊の取り扱い．日産婦誌　56: N624–N628
8. 神崎秀陽（2004）ホルモン Q&A　子宮内膜症に対して広く行われているエストロゲンを抑制する長期薬物療法には発癌のリスクはないのか？　HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY　11: 188–189
9. 神崎秀陽（2004）ホルモンQ&A　GnRHa投与中の更年期様症状が重い場合の対処法は？ HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 11: 187–188
10. 福田博恵，福田愛作，金谷裕之，樽井幸与，冨仲正丈，永田文江，奥　裕嗣，中岡義晴，森本義晴，神崎秀陽（2004）塩酸メトホルミン製剤（グリコラン）を使用した未熟卵体受精胚移植法（IVM-IVF）．日本受精着床学会誌 21: 108–111
11. 西原卓志，中岡義晴，下井貴司，村田泰隆，永田文江，奥　裕嗣，福田愛作，森本義晴，神崎秀陽（2004）同一症例で比較した 3 種類の Sequential Medium の有効性に関する検討．日本受精着床学会誌　21: 95–100
12. 大垣　彩，奥　裕嗣，原納究，赤松芳恵，小野浩子，朴木和美，冨仲正丈，永田文江，中岡義晴，福田愛作，森本義晴，神崎秀陽（2004）凍結融解胚移植周期における前核期胚形態評価法の有用性の検討．日本受精着床学会誌 21: 91–94

学会発表

1. 安田勝彦（2004）子宮内膜症の病態と治療．持田製薬　社員教育講演，大阪
2. 安田勝彦（2004）子宮内膜症　薬物療法と手術療法どちらが患者にとってメリットがあるか？　京阪産婦人科勉強会，守口市
3. 神崎秀陽（2004）生殖医療と倫理．関西医大・門真市医師会学術講演会，守口市
4. 神崎秀陽（2004）生殖補助医療と倫理―最近

の問題点―．平成 16 年度日本産科婦人科学会富山地方部会，富山市
5. Nakamoto T, Okada H, Nakajima T, Yasuda K, Kanzaki H (2004) The Expression and Effect of Fibulin-1 dureing Decidualization in Human Endometrial Stromal Cell Induced by Progesterone. 第 9 回国際生殖免疫学会京都シンポジウム，京都
6. Nakamoto T, Okada H, Nakajima T, Yasuda K, Kanzaki H (2004) The expression and effect of fibulin-1 during decidualization in human endometrial stromal cell induced by progesterone. 第19回日本生殖免疫学会学術集会（第9回国際生殖免疫学会（2004年10月12–15日，神奈川県，箱根）と併会），箱根
7. 奥野茜子，吉田桃子，堤　明裕，依岡寛和，安田勝彦，神崎秀陽，山原崇弘，稲垣隆介（2004）妊娠 33 週で診断された胎児脳室内出血の 1 症例．第110回近畿産科婦人科学会，京都市
8. 浅野雅美，吉田桃子，堤　明裕，依岡寛和，安田勝彦，神崎秀陽（2004）子宮頸管縫縮術術後に前期破水となり妊娠 24 週にて帝王切開術施行し生児を得た1症例．第110回近畿産科婦人科学会，京都市
9. 吉田桃子，奥野茜子，山崎由紀子，堤　明裕，中嶋達也，斉藤淳子，安田勝彦，神崎秀陽（2004）卵巣癌初回手術後 2 年を経て転移性直腸腫瘍として再発した1症例．第111回近畿産科婦人科学会，京都市
10. 小野淑子，中元章恵，浅野雅美，中嶋達也，斉藤淳子，北田光美，安田勝彦，神崎秀陽（2004）子宮頸部adenosarcomaの一例．第111回近畿産科婦人科学会，京都市
11. 金谷裕之，福田博恵，岡崎光男，村田泰隆，奥裕嗣，森本義晴，福田愛作，樽井幸与，永田文江，中岡義晴，神崎秀陽（2004）PCOS患者に対し塩酸メトフォルミン製剤（グリコラン）を使用した未熟卵体外受精胚移植法（IVM-IVF）．第49回日本不妊学会
12. 浅野雅美，松山幸子，依岡寛和，大崎　尚，安田勝彦，神崎秀陽（2004）Romano-Ward 症候群合併妊娠の1例．第110回近畿産科婦人科学会，京都市
13. 山崎由紀子，吉田桃子，山口昌美，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽，谷口久哲，佐藤仁彦（2004）卵巣癌初回治療後10年を経て膀胱粘膜への再発を認めた1例．第110回近畿産科婦人科学会
14. 角玄一郎，山崎由紀子，内田陽子，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2004）術後病理組織診にて明細胞腺癌を認めた子宮内膜症の一例．第110回近畿産科婦人科学会，京都市
15. 浅野雅美，中嶋達也，斉藤淳子，堤　明裕，北田光美，松尾　泉，松岡　進，安田勝彦，神崎秀陽（2004）子宮及び付属器に浸潤を認めた急性リンパ性白血病の1例. 第56回日本産科婦人科学会，東京都
16. 安田勝彦，安原正浩，中元　剛，吉村智雄，生田明子，谷奥範江，松山幸子，浅野雅美，山崎由紀子，圦　貴司，依岡寛和，神崎秀陽（2004）子宮筋収縮に対する喫煙の影響．第56回日本産科婦人科学会，東京都
17. 中嶋達也，吉村智雄，圦　貴司，安原正浩，中元　剛，岡田英孝，中嶋真由美，安田勝彦，神崎秀陽（2004）子宮内膜における20α―ヒドロキシステロイド脱水素酵素（HSD）の発現．第56回日本産科婦人科学会，東京都
18. 吉村智雄，安田勝彦，安原正浩，中元　剛，中嶋達也，松岡　進，松尾　泉，生田明子，依岡寛和，松山幸子，谷奥範江，神崎秀陽（2004）卵巣癌におけるリゾホスホリパーゼ A1α の発現について．第 56 回日本産科婦人科学会，東京都
19. 生田明子，斉藤淳子，中嶋真由美，辻　哲朗，松尾　泉，梅嵜圭吾，杉本久秀，椹木　晋，堀越順彦，安田勝彦，神崎秀陽（2004）婦人科癌における TAE による血管新生因子の影響について．第56回日本産科婦人科学会，東京都
20. 植田政嗣，寺井義人，安田勝行，斉藤淳子，布引　治，野田　定，植木　實（2004）子宮頸癌発生と glutathione-S-transferase 及び p53 遺伝子多型．第36回日本婦人科腫瘍学会
21. 植田政嗣，寺井義人，斉藤淳子，布引　治，野田　定，植木　實（2004）子宮頸部擦過細胞診検体における glutathione-S-transferase 及び p53遺伝子多型の解析. 第45回日本臨床細胞学会
22. 中元章恵，小野淑子，奥野茜子，吉田桃子，中

元 剛，山崎由紀子，浅野雅美，堤 明裕，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2004）GnRHアナログが子宮筋腫核出術に与える効果の検討．第15回近畿エンドメトリオーシス・GnRH研究会，大阪市

23. 奥野茜子，浅野雅美，松山幸子，依岡寛和，安田勝彦（2004）ロマノ・ワード症候群合併妊娠の1例．大阪産婦人科医会集談会，大阪市
24. 吉田桃子，山崎由紀子，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2004）卵巣癌初回治療後12年を経て膀胱粘膜への再発を認めた一例．大阪産婦人科医会集談会，大阪市
25. 圦 貴司，生田明子，中元 剛，安原正浩，吉村智雄，清塚康彦，螺良愛郎，神崎秀陽（2004）思春期前雌 Sprague-Dawley ラットに対するZeranolの内分泌かく乱作用．第56回日本産科婦人科学会，東京
26. 溝上友美，斉藤淳子，中元 剛，安原正浩，生田明子，安田勝彦，神崎秀陽（2004）子宮悪性腺腫における免疫組織学的染色の診断的意義について．第56回日本産科婦人科学会，東京
27. 安原正浩，安田勝彦，中元 剛，吉村智雄，生田明子，堤 明裕，中嶋達也，松尾 泉，松岡 進，大崎 尚，北田光美，神崎秀陽（2004）妊娠時のヒト子宮筋βアドレナリンレセプター—mRNAサブタイプの変化．第56回日本産科婦人科学会，東京
28. 中元 剛，安原正浩，吉村智雄，浅野雅美，山崎由紀子，圦 貴司，堤 明裕，大崎 尚，北田光美，斉藤淳子，安田勝彦，神崎秀陽（2004）卵巣癌におけるリゾフォスファチジン酸受容体EDG7の発現について．第56回日本産科婦人科学会，東京
29. 中元 剛，岡田英孝，安原正浩，吉村智雄，安田勝彦，神崎秀陽（2004）ヒト子宮内膜間質細胞におけるプロゲステロンに制御される遺伝子のDNAチップによる解析～ fibulin-1 遺伝子について～．第126回日本不妊学会関西支部集談会／第28回関西アンドロロジーカンファレンス，大阪

著 書

1. 安田勝彦（2004）高プロラクチン血症，乳漏症．婦人科内分泌外来ベストプラクテイス誰もが迷う99例の診療指針（神崎秀陽編）115–121頁，医学書院，東京

麻酔科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Asai T, Shingu K, Taniguchi S, Fujise K (2004) Can patients tell where epidural catheters go? Anaesthesia 59: 407
2. Asai T, Shingu K (2004) Use of the laryngeal tube during emergence from anaesthesia in a patient with an unstable neck. Anaesthesia 59: 300–301
3. Asai T, Marfin AG, Thompson J, Popat M, Shingu K (2004) Ease of insertion of the laryngeal tube during manual-in-line neck stabilization. Anaesthesia 59: 1163–1166
4. Asai T, Shingu K (2004) Airway management of a patient with tracheal stenosis for surgery in the prone position. Can J Aneasth 51: 733–736
5. Asai T, Latto P (2004) Training in airway management. Anaesthesia 59: 90–91
6. Asai T (2004) Disposable laryngoscopes are not always inferior to non-disposable laryngoscopes. Anaesthesia 59: 93
7. Asai T, Kawachi S (2004) Insertion of the laryngeal tube by paramedical staff Anaesthesia 59: 408–409
8. Asai T, Shingu K (2004) Use of the videolaryngoscope Anaesthesia 59: 513–514
9. Asai T, Shingu K (2004) Time-related cuff pressures of the laryngeal tube: with and without the use of nitrous oxide Anesth Analg 98: 1803–1806
10. Asai T, Murao K, Umegaki T, Shingu K (2004) Use of the laryngeal mask airway in nasally intubated patients Anaesthesia 59: 726–727
11. Asai T, Shingu K (2004) Increased carbon dioxide during anaesthesia in patients with phaeochromocytoma Anaesthesia 59: 830–831

12. Asai T, Latto IP, Muthuswamy D, Kiyama S (2004) Equipment list for difficult airway management Anaesthesia 59: 922
13. Inada T, Asai T, Yamada M, Shingu K (2004) Propofol and midazolam inhibit gastric emptying and gastrointestinal transit in mice Anesth Analg 99: 1102–1106
14. Inada T, Asai T, Yamada M, Shingu K (2004) A new method using flow cytometry to measure the effects of drugs on gastric emptying and gastrointestinal transit in mice Arzneim-Forsch/Drug Res 54: 557–562
15. Inada T, Yamanouchi Y, Johmura S, Sakamoto S, Takahashi M, Kambara T, Shingu K (2004) Effect of propofol and isoflurane anaesthesia on the immune response to surgery Anaesthesia 59: 954–959
16. Miyamoto E, Nakao S, Tomimoto H, Wakita H, Yamada M, Masuzawa M, Takahira K, Sakamoto S, Shingu K (2004) Ketamine attenuates hypocapnia-induced neuronal damage in the caudoputamen in a rat model of choronic cerebral hypoperfusion Neurosci Lett 354: 26–29
17. Takabuchi S, Hirota K, Nishi K, Oda S, Oda T, Shingu K, Takabayashi A, Adachi T, Semenza GL, Fukuda K (2004) The intravenous anesthetic propofol inhibits hypoxia-inducible factor 1 activity in an oxygen tension-dependent manner FEBS Lett 577: 434–438
18. Takabuchi S, Hirota K, Nishi K, Oda S, Oda T, Shingu K, Takabayashi A, Adachi T, Semenza GL, Fukuda K (2004) The inhibitory effect of sodium nitroprusside on HIF-1 activation is not dependent on nitric oxide-soluble guanylyl cyclase pathway Biochem Biophys Res Commun 324: 417–423
19. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Uchiyama Y, Imamura H, Shingu K (2004) Adenosine and a nitric oxide donor enhances cardioprotection by preconditinoning with isoflurane through mitochondrial adenosine triphosphate-sensitive K+ channel -dependent and-independent mechanisms Anesthesiology 100: 515–524
20. 梅垣岳志，村尾浩平，中尾慎一，新宮　興（2004）全静脈麻酔で管理した筋萎縮性側索硬化症患者の1症例．臨床麻酔　28: 947–948
21. 久保古寿江，村尾浩平，竹安晶子，大橋　敦，中尾慎一，新宮　興（2004）胎児の鎮静を目的にプロポフォールとフェンタニルを用いた帝王切開の麻酔．麻酔　53: 302–305
22. 久保古寿江，村尾浩平，増澤宗洋，小島研太郎，中尾慎一，新宮　興（2004）気管切開孔から気管支ブロッカーを用いた一側肺換気中に換気困難となった 1 症例．麻酔　53: 1170–1172
23. 佐登宣仁，新宮　興（2004）質疑応答：自家骨髄細胞移植時の麻酔．日本醫事新報　4158: 142
24. 益子進也，西前博司，高橋麻由（2004）漏斗胸手術（Nuss法）の麻酔術中、不整脈/気胸を生じた症例：TIVA ＋硬膜外フェンタニルと局所麻酔薬を併用して呼吸管理．Lisa　11: 952–954
25. 浅井　隆（2004）ビジュアル基本手技1　必ずうまくいく！気管挿管―カラー写真とイラストでわかる手技とコツ．麻酔　53: 1222
26. 大石敬子，田口仁士，木本倫代，叶多知子，稲田武文，松本英夫，中尾みどり，新宮　興（2004）関西医科大学付属病院麻酔科ペインクリニック外来．ペインクリニック　25: 379–382

総　説

1. Asai T (2004) Who is at increased risk of pulmonary aspiration? Br J Anaesth 93: 497–500
2. Asai T, Shingu K (2004) Difficulty in advancing a tracheal tube over a fibreoptic bronchoscope: incidence, causes and solutions. Br J Anaesth 92: 870–881
3. 中尾慎一，新宮　興（2004）脳血流の自動調節と麻酔薬．臨床麻酔　28: 1464–1470
4. 新宮　興（2004）これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ：プランナー．整形外科看護　9: 908–951
5. 浅井　隆（2004）これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ：気道確保．整形外科看護　9: 929–935
6. 中尾慎一，新宮　興（2004）これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ：最近

の全身麻酔法―麻酔法と麻酔関連薬―．整形外科看護 9: 908–916
7. 廣瀬卓治（2004）これだけは知っておきたい整形外科の麻酔基礎のキソ：硬膜外麻酔と脊髄くも膜下麻酔．整形外科看護 9: 917–928

学会発表

1. 浅井 隆（2004）Controlled ventilation during anaesthesia: which mode and which interface? 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
2. 浅井 隆（2004）統計―厄介な代物？それとも？―信頼区間の有用性―．第 37 回埼玉麻酔科専門医会，埼玉
3. 浅井 隆（2004）教育講演：不安定頚椎症例における気道確保法―旧法の再検討と新法への展望．第 44 回東京・関東甲信越支部会学術集会，茨城
4. Inada T, Asai T, Yamada M, Shingu K (2004) Propofol and midazolam inhibit gastric emptying and gastrointestinal transit in mice. 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
5. Nakao S, Masuzawa M, Sakamoto S, Yamada M, Takahashi-Wakeno M (2004) Nitrous oxide increases, but xenon does not increase dopamine release in the rat nucleus accumbens. Annual Meeting of American Society of Aneshtesiologist, Las Vegas, USA
6. Oishi K, Taguchi H, Kimoto M, Kanouda T, Matsumoto H, Nakao S, Yamazaki E, Takahashi M, Yamada M, Shingu K (2004) Change in cerebrospinal fluid (CSF) glutamate concentrations after intrathecal injection of betamethasone for intractable cancer pain. 11th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo, Japan
7. Taguchi H, Oishi K, Kimoto M, Kanouda T, Mastsumoto H, Inada T, Shingu K (2004) Improvement of quality of life in the patients with cancer pain by intrathecal injection of batamethasone. 11th International Pain Clinic World Society of Pain Clinicians, Tokyo, Japan
8. Nishi K, Takabuchi S, Oda S, Hirota K, Adachi T, Fukuda K, Shingu K (2004) Hypoxia-inducible factor 1-mediated hypoxic signaling pathway cross-talks with glucose metabolism in Hep3B cells. The 4th Joint Congress of Japanese-Korean Intensivists, Fukuoka, Japan
9. Nishi K, Hirota K, Takabutchi S, Adachi T, Shingu K (2004) The effects of local anesthetecs on the cellular hypoxia-induced gene responses mediated by hypoxia-inducible factor1. Annual Meeting of American Society of Aneshtesiologist, Las Vegas, USA
10. Sakamoto S, Murao K, Yamada M, Nakao S, Shingu K (2004) Minimum convulsive serum of bupivacaine, levobupivacaine, dextrobupivacaine and ropivacaine. 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
11. Takahashi M, Inada T, Matsumoto H, Yamada M, Johmura S, Taguchi H, Shingu K (2004) Efficacy of caudal block for relief of pain caused by peripheral blood stem cell transplantation in ischemic legs. 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
12. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H, Shingu K (2004) The optimal dose, the time window, and the mechanism of delayed cardioprotection by isofulurane. Annual Meeting of American Society of Aneshtesiologist, Las Vegas, USA
13. Yamada M, Nakao S, Kanbara S, Sakamoto S, Masuzawa M, Murao K, Inada T, Shingu K (2004) Effects of propofol and droperidol on sigma 1 receptors in rat brain. 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
14. Johmura S, Inada T, Sakamoto S, Takahashi M, Shingu K (2004) Effects of total intravenous anaesthesia vs. volatile anaesthesia on the Th1/Th2 ratio after craniotomy. 13th World Congress of Anaesthesiologists, Paris, France
15. 浅井 隆（2004）気道確保困難な症例におけるラリンジアルマスクの役割と限界．第 51 回日本麻酔科学会総会，愛知
16. 梅垣岳志，橋本明子，岩井鉄平，小島研太郎，呉本善聡，村尾浩平，田口仁士，新宮 興（2004）脊椎くも膜下麻酔におけるペンシルポイント針刺入用短ガイド針の有用性．第 24 回

日本臨床麻酔学会総会，大阪
17. 梅垣岳志，村尾浩平，浅井　隆，新宮　興（2004）Treacher-Collins 症候群患者における経鼻-経口挿管交換．第24回日本臨床麻酔学会総会，大阪
18. 稲田武文，浅井　隆，山田麻起子，新宮　興（2004）マウスにおける非放射性元素を用いた，モルヒネおよびデクスメデトミディンの腸管運動に及ぼす影響に関する研究．第 51 回日本麻酔科学会総会，愛知
19. 木本倫代，田口仁士，大石敬子，叶多知子，稲田武文（2004）初診時の診察とX線写真により診断した脊椎転移による癌性疼痛の3症例．第51回日本麻酔科学会総会，愛知
20. 木本倫代，田口仁士，大石敬子，叶多知子，佐登宣仁，松本英夫，新宮　興（2004）クモ膜下ベタメタゾンにより脊椎転移に伴う下肢の知覚・運動麻痺が改善した3症例．第38回日本ペインクリニック学会総会，東京
21. 木本倫代，田口仁士，大石敬子，中尾みどり，叶多知子，松本英夫（2004）X線写真により診断した脊椎転移の4症例．第9回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
22. 木本倫代，田口仁士，大石敬子，山崎悦子，中尾みどり，松本英夫（2004）ペインクリニックにおける慢性肛門痛の治療．第3回難治性疼痛研究会，大阪
23. 小島研太郎，浅井　隆，梅垣岳志，橋本明子，新宮　興（2004）頭頚部水平固定下のラリンジアルマスクチューブ挿入の容易度の検討．第51回日本麻酔科学会総会，愛知
24. 坂井貴子，木本倫代，中村久美子，池田栄浩，新宮　興（2004）セボフルラン麻酔下乳房切除術における亜酸化窒素術後悪心・嘔吐発生率への影響．第 24 回日本臨床麻酔学会総会，大阪
25. 住吉直秀，中澤　直（2004）ボトックス注100の使用経験．第8回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
26. 住吉直秀，中澤　直，田口仁士，新宮　興（2004）小児セボフルラン麻酔中，悪性高熱症が疑われた1例．第50回日本麻酔科学会関西地方会，大阪
27. 住吉直秀，中澤　直，田口仁士，新宮　興（2004）小児セボフルラン麻酔中，悪性高熱症が疑われた1例．第26回悪性高熱研究会，大阪
28. 田口仁士（2004）下腹部術後痛に対する硬膜外鎮痛―術後痛7次研究発表―．第14回術後痛研究会，大阪
29. 中尾慎一，池田栄浩，村尾浩平，久保古寿江，新宮　興（2004）経食道エコープローベにより気道閉塞を起こした胸部上行・弓部解離性大動脈瘤の一症例．第 24 回日本臨床麻酔学会総会，大阪
30. 橋本明子，梅垣岳志，浅井　隆，新宮　興（2004）喘息による抜管困難な症例での覚醒時ラリンジアルマスクの使用．第 24 回日本臨床麻酔学会総会，大阪
31. 濵野宣行，山田　功，廣瀬卓治（2004）頸動脈遮断に対して低体温による脳保護を行った1症例．第51回日本麻酔科学会総会，愛知
32. 濵野宣行，山田　功，廣瀬卓治（2004）術中に発生した 2 例の致死的肺血栓塞栓症―院内血栓予防ガイドラインの作成―．第 24 回日本臨床麻酔学会総会，大阪
33. 福中いづみ（2004）最近の症例から① SGB 後ノイロトロピン特号 3 cc 静注し血圧低下をきたした症例②SGB後眼瞼下垂が蔓延した1例③その他．第9回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
34. 増澤宗洋，中尾慎一，阪本幸世，山田麻起子，梅垣岳志，新宮　興（2004）ラット脳側坐核におけるドパミン放出に対するキセノンと笑気の影響．第51回日本麻酔科学会総会，愛知
35. 松本早苗，浅井　隆，加藤　晶，森山　享，新宮　興（2004）小児横隔膜疾患に対する胸腔鏡手術の麻酔管理経験．第 51 回日本麻酔科学会総会，愛知
36. 松本早苗，加藤　晶，浅井　隆，新宮　興（2004）Edward症候群の全身麻酔管理経験．第24回日本臨床麻酔学会総会，大阪
37. 村尾浩平，増澤宗洋，新宮　興（2004）プロポフォールによる麻酔は悪性高熱を発症しないのか？．第26回悪性高熱研究会，大阪
38. 山崎悦子，田口仁士，大石敬子，木本倫代，叶多知子，松本英夫，中尾みどり，新宮　興（2004）再発を繰り返す乳癌患者に対して多数の診療科で治療を行った一例．第 34 回日本ペ

インクリニック学会関西地方会，大阪
39. 叶多知子，大石敬子，木本倫代，松本英夫，中尾みどり，田口仁士，新宮 興（2004）上胸部領域の難治性帯状疱疹後神経痛にクモ膜下ベタメタゾン投与が有効であった2症例. 第38回日本ペインクリニック学会総会，東京
40. 叶多知子，大石敬子，中尾みどり，佐登宣仁，松本英夫，田口仁士（2004）硬膜外カテーテル挿入に伴うトラブル3症例の検討. 第8回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
41. 阪本幸世，村尾浩平，山田麻起子，中尾慎一，坂井貴子，新宮 興（2004）ロピバカインの痙攣誘発量. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
42. 高橋麻由，中尾慎一，内山祐佳，新宮 興（2004）心筋プレコンディショニングにおけるミトコンドリアATP感受性K+チャンネルの役割. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
43. 西憲一郎，広田喜一，高淵聡史，尾田聖子，足立健彦，新宮 興（2004）種々の細胞における局所麻酔薬の低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼす影響. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
44. 西憲一郎，広田喜一，高淵聡史，尾田聖子，足立健彦，福田和彦，新宮 興（2004）神経細胞における局所麻酔薬の低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼす影響. 第17回日本局所麻酔学会，大阪
45. 西憲一郎，広田喜一，高淵聡史，尾田聖子，福田和彦，新宮 興，足立健彦（2004）低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼすグルコース代謝の影響. 第31回日本集中治療医学会学術集会，福岡
46. 山田麻起子，中尾慎一，高森康晴，小田紀子，片岡洋祐，山田久夫，新宮 興（2004）各種静脈麻酔薬のシグマ1受容体に対する作用. 第27回日本神経科学会大会・第47回日本神経化学会大会合同大会，大阪
47. 山田麻起子，中尾慎一，阪本幸世，増澤宗洋，高橋麻由，新宮 興（2004）各種静脈麻酔薬のシグマ1受容体に対する作用. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
48. 奥田平治（2004）在宅で診ている肺癌末期患者の1例. 第8回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
49. 尾田聖子，広田喜一，高淵聡史，西憲一郎，福田和彦，足立健彦（2004）低酸素性遺伝子応答にMIFが及ぼす影響の検討. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
50. 金子 愛，葛西麻由，白根温子，茂山泰樹，小川 肇，橋本圭司（2004）アルブミナーTM5%によると思われる重篤なアナフィラキシー様反応をきたした一症例. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
51. 久保古寿江，村尾浩平，叶多知子，中尾慎一，岩井鉄平，新宮 興（2004）ランジオロールでの管理が有効であったRomano-Ward症候群合併妊婦の帝王切開術の麻酔経験. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
52. 高淵聡史，広田喜一，西憲一郎，尾田聖子，福田和彦，足立健彦（2004）ニトロプルシドは一酸化窒素（NO）を介さずに低酸素誘導性遺伝子発現を阻害する. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
53. 高淵聡史，広田喜一，西憲一郎，尾田聖子，足立健彦，福田和彦（2004）プロポフォールは酸素濃度依存的に低酸素誘導性遺伝子発現を阻害する. 第11回日本静脈麻酔・Infusion Technology研究会，大阪
54. 谷口昌子，浅井 隆，藤瀬久美子，新宮 興（2004）褐色細胞腫摘出術時の代謝変化の検討. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知
55. 中澤 直，住吉直秀，浅井 隆，新宮 興（2004）ラリンジアルチューブを使用した経鼻挿管の検討. 第24回日本臨床麻酔学会総会，大阪
56. 三木智章，檜高育宏，酒井明彦，叶多知子，河内正治（2004）鎖骨下静脈カニュレーションにおけるカテーテル先位置の検討. 第51回日本麻酔科学会総会，愛知

著 書

1. Mori K, Shingu K, Nakao S (2004) Brain Death. Miller's Anesthesia sixth edition (Miller RD) pp 2955–2970, Churchill Livingstone, Philadelphia
2. 新宮 興（2004）編集：麻酔科学スタンダードIII基礎. 麻酔科学スタンダードⅢ基礎（小川節郎，新宮 興，武田純三，西野 卓編），克誠堂出版，東京
3. 新宮 興（2004）編集：麻酔科学スタンダー

ドIV関連領域．麻酔科学スタンダードIV関連領域（小川節郎，新宮　興，武田純三，西野卓編），克誠堂出版，東京
4. 稲田武文（2004）免疫．麻酔科学スタンダードIII基礎（小川節郎，武田純三，新宮　興，西野　卓編）189–197頁，克誠堂出版，東京
5. 上村幸子，黒崎知博（2004）B細胞のシグナル伝達―アダプター分子、Grb2・BLNKによるVavのラフトへの移行制御．免疫研究のフロンティア　実験医学　増刊，72–78頁，羊土社，東京
6. 新宮　興（2004）麻酔覚醒の質．麻酔科学レビュー2004（天羽敬祐監修）200–203頁，総合医学社，東京
7. 新宮　興，山田麻起子（2004）催眠鎮静薬および鎮痛薬―トリアゾラム―．医薬品等適正使用推進施行事業―麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン―改訂第2版（社団法人日本麻酔科学会）3–5頁，東京
8. 佐登宣仁（2004）手術・麻酔による免疫系への影響．麻酔科学スタンダードIII基礎（小川節郎，武田純三，新宮　興，西野　卓編）198–203頁，克誠堂出版，東京
9. 中尾慎一（2004）シナプス、伝達物質放出、神経-筋情報伝達．麻酔科学スタンダードIII基礎（小川節郎，武田純三，新宮　興，西野　卓編）123–133頁，克誠堂出版，東京
10. 新宮　興（2004）麻酔科研修医ポケット手帳．総監修　関西医科大学麻酔科学　新宮　興，提供　アストラゼネカ㈱．（製作　メディックネット㈱：東京）
11. 新宮　興（2004）麻酔科研修医基本手技 CD-ROM．監修　関西医科大学麻酔科学　新宮　興，提供　アストラゼネカ㈱

臨床検査医学講座

〈研究概要〉

平成16年は，特筆すべきイベントとして9月17日～18日に高血圧自然発症ラット（SHR）学会を主催した程度で大きな催しはなかった．

研究は，従来とほぼ同じ方向のもので，生活習慣病の診断法，免疫関連の指標が中心である．高血圧や循環器疾患との関連が示唆されている内因性ジギタリスについては，telocinobufaginの血中濃度が極めて高く，活性値と高いので，病態生理的役割があるものと考えて，特異的な抗体を作成して測定系を開発している．現在のところでは，測定系は確立したが，特異性に高い抗体ではないので，引き続き検討中である．セロトニンの病態診断における役割の研究では，動脈硬化症の診断指標として東ソー（株）と共同で米国での特許を取得した．さらに，喫煙時の指標，あるいは糖尿病での診断指標として特許を申請しつつある．

〈研究業績〉

原　著

1. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kimura T, Sonomura K, Umemura S, Kishimoto N, Nose A, Tokoro T, Kijima Y, Yamahara H, Nagata T, Masaki H, Umeda Y, Okazaki K, Iwasaka T (2004) Acute tubulointerstitial nephritis associated with autoimmune-relatedpancreatitis. Am J Kidney Dis. 43: 18–25
2. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kishimoto N, Nose A, Kijima Y, Nagata T, Umeda Y, Masaki H, Matsubara H, Iwasaka T (2004) Membranous glomerulonephritis associated with hepatitis C virus infection: case report and literature review. Clin Nephrol. 61: 144–150
3. Kosaki A, Hasegawa T, Kimura T, Iida K, Hitomi J, Matsubara H, Mori Y, Okigaki M, Toyoda N, Masaki H, Inoue-Shibata M, Nishikawa M, Iwasaka T (2004) Increased plasma S100A12 (EN-RAGE) levels in patients with type 2 diabetes. J Clin Endocrinol Metab. 89: 5423–5428
4. Masaki H, Nishikawa M (2004) Sexual dysfunction in ESRD patients. Nippon Rinsho 62Suppl 6: 549–552

5. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuada T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T, Takahahsi H (2004) Association between cardiovascular autonomic neuropathy and left ventricular hypertrophy in diabetic haemodialysis patients. Nephrol. Dial. Transplant. 19: 2532–2538
6. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Fujita H, Inoue N, Nihsimura T, Ono T (2004) Myocardial scintigraphy using a fatty acid analogue detects coronary artery disease in hemodialysis patients. Kidney Int. 66: 811–819
7. Tsuji H, Nishino N, Kimura Y, Yamada K, Nukui M, Yamamoto S, Iwasaka T, Takahashi H (2004) Haemoglobin level influences plasma brain natriuretic peptide concentration. Acta Cardiol. 59: 527–531
8. Takiuchi S, Kamide K, Miwa Y, Tomiyama M, Yoshii M, Matayoshi T, Horio T, Kawano Y (2004) Diagnostic value of carotid intima-media thickness and plaque score for predicting target organ damage in patients with essential hypertension. J Hum Hypertens 18: 17–23
9. Kamide K, Rakugi H, Nagai M, Hori MT, Takiuchi S, Matsukawa N, Higaki J, Barrett JD, Eggena P, Kawano Y, Ogihara T, Tuck ML (2004) Insulin-mediated regulation of the endothelial rennin-angiotensin system and vascular cell growth. J. Hypertens. 22: 121–127
10. Miwa Y, Tsushima M, Arima H, Kawano Y, Sasaguri T (2004) Pulse pressure is an independent predictor of the progression of athrosclerotic calcification in patients with controlled hyperlipidemia. Hypertension 43: 536–540
11. Suzuki Y, Horio T, Hayashi T, Nonogi H, Kitamura K, Eto T, Kangawa K, Kawano Y (2004) Plasma adrenomedullin concentration is increased in patients with peripheral arterial occlusive disease associated with vascular inflammation. Regul. Pept. 118: 99–104
12. Kawano Y, Abe H, Kojima S, Takishita S, Matsuoka H (2004) Effects of repeated alcohol intake on blood pressure and sodium balance in Japanese males with hypertension. Hypertens. Res. 27: 167–172
13. Shioji K, Nishioka J, Naraba H, Kokubo Y, Mannami T, Inamoto N, Kamide K, Takiuchi S, Yoshii M, Miwa Y, Kawano Y, Miyata T, Miyazaki S, Goto Y, Nonogi H, Tago N, Iwai N (2004) A promoter variant of the ATP-binding cassette transporter A1 gene alters the HDL cholesterol level in the general Japanese population. J. Hum. Genet. 49: 141–147
14. Shi Y, Yoshihara F, Nakahama H, Goto R, Sada M, Kawano Y, Moriyama T, Yazawa T, Ichimaru N, Takihara S, Kangawa K (2004) Mycophenolate mofetil prevents autoimmune glomerulonephritis and alterations of intrarenal adrenomedullin In rats. Eur. J. Pharmacol. 489: 127–133
15. Takiuchi S, Mannami T, Miyata T, Kamide K, Tanaka C, Kokubo Y, Koyama Y, Inamoto N, Katsuya T, Iwai N, Kawano Y, Ogihara T, Tomoike H (2004) Identification of 21 single nucleotide polymorphisms in human hepatocyte growth factor gene and association with blood pressure and carotid atherosclerosis in the Japanese population. Atherosclerosis 173: 301–305
16. Kamide K, Takiuchi S, Tanaka C, Miwa Y, Yoshii M, Horio T, Mannami T, Kokubo Y, Tomoike H, Kawano Y, Miyata T (2004) Three novel missense mutations of WNK4, a kinase mutated in inherited hypertension, in Japanese hypertensives: implication of clinical phenotypes. Am. J. Hypertens. 17: 446–449
17. Kamide K, Tanaka C, Takiuchi S, Miwa Y, Yoshii M, Horio T, Kawano Y, Miyata T (2004) Six missense mutations of the epithelial sodium channel β- and γ- subunits in Japanese hypertensives. Hypertens. Res. 27: 333–338
18. Tanaka C, Kamide K, Takiuchi S, Kawano Y, Miyata T (2004) Evolution of two genetic polymorphisms in the endothlin-1 gene, Lys 198A Asn and -134 del A polymorphisms. Hypertens. Res. 27: 367–371
19. Tokudome T, Horio T, Soeki T, Mori K, Kishimoto I, Suga S, Yoshihara F, Kawano Y, Kohno M, Kangawa K (2004) Inhibitory effect of C-type

natriuretic peptide (CNP) on cultured cardiac myocyte hypertrophy: interference between CNP and endothelin-1 signaling pathways. Endocrinology 145: 2131–2140

20. Tokudome T, Horio T, Fukunaga M, Okumura H, Hino J, Mori K, Yoshihara F, Suga S, Kawano Y, Kohno M, Kangawa K (2004) Ventricular nonmyocytes inhibit doxorubicin-induced myocyte apoptosis: involvement of endogenous endothelin-1 as a paracrine factor. Endocrinology 145: 2458–2466
21. Tokudome T, Horio T, Yoshihara F, Suga S, Kawano Y, Kohno M, Kangawa K (2004) Different effects of high glucose and insulin on cultured cardiac myocyte hypertrophy and fibroblast proliferation. Metab. 53: 710–715
22. Takami Y, Horio T, Iwashima Y, Takiuchi S, Kamide K, Yoshihara F, Nakamura S, Nakahama H, Inenaga T, Kangawa K, Kawano Y (2004) Diagnostic and prognostic value of plasma brain natriuretic peptide in non-dialysis-dependent CRF. Am. J. Kidney Disease 44: 420–428
23. Kokubo Y, Kamide K, Inamoto N, Tanaka C, Banno M, Takiuchi S, Kawano Y, Tomoike H, Miyata T (2004) Identification of 108 SNPs in TSC, WNK1 and WNK4 and their associations with hypertension in a Japanese general population. J. Hum. Genet. 49: 507–515
24. Takiuchi S, Fujii H, Kamide K, Horio T, Nakatani S, Hiuge A, Rakugi H, Ogihara T, Kawano Y (2004) Plasma asymmetric dimethylarginine and coronary and peripheral endothelial dysfunction in hypertensive patients. Am. J. Hypertens. 17: 802–808
25. Miwa Y, Takiuchi S, Kamide K, Yoshii M, Horio T, Tanaka C, Banno M, Miyata T, Sasaguri T, Kawano Y (2004) Identification of gene polymorphism in lipocalin-type prostaglandin D syntheses and its association with carotid atherosclerosis in Japanese hypertensive patients. Biochem. Biophys. Res. Commun. 322: 422–428
26. Suzuki Y, Horio T, Nonogi H, Hayashi T, Kitamura K, Eto T, Kangawa K, Kawano Y (2004) Adrenomedullin as a sensitive marker for coronary and peripheral arterial Complications in patients with atherosclerotic risks. Peptides 25: 1321–1326
27. Kokubo Y, Inamoto N, Tomoike H, Kamide K, Takiuchi S, Kawano Y, Tanaka C, Katanosaka Y, Wakabayashi S, Shigekawa M, Hishikawa O, Miyata T (2004) Association of genetic polymorphisms of sodium-calcium exchanger-1, NCX-1, with hypertension in a Japanese general population. Hypertens. Res. 27: 697–702
28. Matayoshi T, Kamide K, Takiuchi S, Yoshii Y, Miwa Y, Takami Y, Tanaka C, Banno M, Horio T, Nakamura S, Nakahama H, Yoshihara F, Inenaga T, Miyata T, Kawano Y (2004) Thiazide-sensitive Na^+-Cl^- cotransporter gene, C1784T, and adrenergic receptor β3 gene, T727C, may be gene polymorphisms susceptible to the antihypertensive effect of thiazide diuretics. Hypertens. Res. 27: 821–833
29. Dong XH, komiyama Y, Nishimura N, Masuda M, Takahashi T (2004) Nanomolar level of ouabain increases intracellular calcium to produce nitric oxide in rat aortic endothelial cells. Clin. Exp. Pharmacol. Physiol. 31: 276–283
30. Hirowatari Y, Hara K, Kamihata H, Iwasaka T, Takahashi H (2004) High-performance liquid chromatographic method with column-switching and post-column reaction for determination of serotonin levels in platelet-poor plasma. Clin Biochem 37: 191–197
31. Hara K, Hirowatari Y, Yoshika M, Komiyama Y, Tsuka Y, Takahashi H (2004) The ratio of plasma to Whole-blood serotonin may be a novel marker of atherosclerotic cardiovascular disease. J. Lab. Clin. Med. 144: 31–37
32. Yuri T, Danbara N, Shikata N, Fujimoto S, Nakano T, Sakaida N, Uemura Y, Tubura A (2004) Malignant rhabdoid tumor of the liver: Case report and literature review. Pathology International 54: 623–629
33. A-Hon Kwon, Matsui Y, Uemura Y (2004) Surgical procedures and histopathologic findings for patients with xanthogranulomatous cholecystits. J Am Coll Surg 199: 204–210
34. 横井　崇，森眞一郎，杉本博是，小宮山豊，植

村芳子，谷尻 力，中井邦久，松本憲明，全勝弘，尼川龍一，岸本裕司，家子正裕，高橋伯夫，福原資郎（2004）抗リン脂質抗体を伴った脾辺縁帯 B 細胞リンパ腫．臨血 45(10): 1095–1099

35. 出浦照國，宮崎三宏，内田健三，阪口勝彦，河野雄平（2004）腎実質性高血圧症入院患者における Nitrendipine の血圧日内変動に及ぼす影響：携帯式自動血圧計による検討．日腎会誌 46: 434–441
36. 西村眞人，武中利幸，鳴坂淳一，和田良二，橋本哲也，小林裕之，福田豊史，沖野功次，山本則之，宮崎浩志，藤田 博，井上直人，西村恒彦，小野利彦（2004）慢性血液透析患者の冠動脈疾患における123I-BMIPP SPECTの有用性．日透析医学会誌 37: 1299–1310
37. 山本則之，西村眞人，橋本哲也，小林裕之，福田豊史，沖野攻次，小野利彦（2004）二肢切断にて救命し得たブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群（Staphylococcal scalded skin syndrome）の1例．腎不全外科 57: 66–67
38. 中村竜也，内田幸子，田中敬一郎，佐野みゆき，中田千代，平城 均，高橋伯夫（2004）基質試薬HMRZ-86を用いたβ-ラクタマーゼ検出試薬によるExtended-spectrum β-Lactamase および Metallo-β-lactamase の検出に関する検討．JARMAM 15: 15–20
39. 中村竜也，高橋伯夫（2004）血液培養から分離されたコアグラーゼ陰性ブドウ球菌の薬剤感受性と teicoplanin 耐性について．感染症誌 78: 46–53
40. 山本大悟，為政大幾，岡本真由美，山田正法，坂井田紀子，植村芳子，奥川帆麻，田中完児（2004）乳頭部にできた皮膚原発Adenoid cystic carcinomaの1例．乳癌の臨 19: 358–362
41. 大重英行，稲垣隆介，吉村晋一，我妻敬一，笠井治文，今堀 巧，山内康雄，河本 圭司，中野崇秀，藤本幸子，植村芳子（2004）新生児未熟型奇形腫の1例．小児の脳神 29: 355–359
42. 中村竜也，高橋伯夫（2004）血液培養から分離されたコアグラーゼ陰性ブドウ球菌の薬剤感受性と teicoplanin 耐性について．感染症誌 78: 46–53
43. 畑 嘉高，岩本慈能，米倉康博，森田美佳，吉岡和彦，坂井田紀子（2004）直腸原発巨大GISTの1例．日本大腸肛門病会誌 57: 198–203
44. 原 克子，小宮山豊，高橋伯夫，吉賀正亨，岩坂壽二，木村 穣，廣渡祐史（2004）喫煙者における血中コチニン濃度と全血および血漿セロトニン（5-hydroxytryptamine:5-HT）濃度の関係．セロトニン（5-HT2）研究会報告 33–34

総 説

1. Kamide K, Takiuchi S, Miyata T, Hanai S, Kawano Y, Tomoike H (2004) Single nucleotide polymorphisms analysis of hypertension relating to the effect of antihypertensive drugs. Jpn Heart J 45(Suppl.): S69–S93
2. 高橋伯夫（2004）Mechanism早朝高血圧の発症には、交感神経が重要な役割を果たす．医事新報 No. 4158
3. 高橋伯夫（2004）ACE 阻害薬とアンジオテンシン II（AII）受容体ブロッカー（ARB）の心筋梗塞後予後に及ぼす作用（VALIANT試験）．臨高血圧 10(1): 54–55
4. 高橋伯夫（2004）本態性高血圧患者では交感神経活動の亢進が重要な役割を果たす．臨高血圧 10(1): 56–57
5. 高橋伯夫（2004）睡眠時無呼吸症候群と高血圧．臨高血圧 10(1): 58–59
6. 高橋伯夫（2004）CRP と白血球数の乖離．医事新報 4171: 90–91
7. 高橋伯夫（2004）特集Common Diseaseの診断・治療の新しい常識［ガイドラインをふまえた日常診療］．高血圧症JIM 14(8): 670–673
8. 高橋伯夫（2004）高血圧研究で何が問われているか―中枢神経系を忘れてはならない―．血圧 11(8): 126
9. 高橋伯夫（2004）アルドステロンの作用機構と病態における新たな役割の解明と最新の治療．臨化 33(1): 45–54
10. 高橋伯夫（2004）特集 血圧異常と内分泌因子 内分泌性高血圧症における最近のトピックス 偶発腫瘍として発見される褐色細胞腫．ホルモンと臨 52(5): 61–69
11. 高橋伯夫（2004）特集 迅速簡易検査の現状と将来 心筋マーカーのPOCT. 医器学 74(5): 254–259

12. 高橋伯夫（2004）代替医療と臨床検査―西洋医学と東洋医学の融合（1）司会のことば．臨病理　52(5): 438–439
13. 高橋伯夫（2004）特集　透析患者と高血圧 高血圧の病態と特徴―慢性腎不全患者の血圧日内変動と降圧療法―．血圧　11(10): 47–53
14. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧と脳・心血管系疾患の予防と管理　早朝高血圧における交感神経系の関与と選択薬剤の根拠をみる．血圧 11(12): 1355–1358
15. 小宮山豊，吉賀正亨，高橋伯夫（2004）特集 イオンチャンネルと循環器疾患 Na^+, K^+-ATPase と循環器疾患．臨化　33: 119–125
16. 小宮山豊，堀　　寧，奈女良昭，黒木由美子（2004）分析が有用な中毒起因物質の実用的分析法　バルビタール系薬物．中毒研究　17: 79–84
17. 小宮山豊，吉賀正亨，佐々木美幸，浅野　博（2004）初級技術：採血技術と事故防止　初心者のための採血技術と事故防止講座．採血手技の基本と注意点?．医療と検機器・試薬　27: 245–252
18. 小宮山豊，吉賀正亨，吉岡貞子（2004）トピックス　初心者に必要な採血方の知識．検と技 32: 1051–1054
19. 正木浩哉，松原弘明，高橋伯夫，岩坂壽二（2004）輸血医療の進歩と課題 細胞療法　血管再生・新生療法．日内会誌　93: 1398–1403
20. 辰巳哲也，松原弘明，高橋知三郎，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）末梢血管疾患 最近の展開　血管再生医療の現状と将来　末梢性血管から心臓病へ．循環器　56: 77–83
21. 松原弘明，王　英正，辰巳哲也，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）血管研究の最先端と治療への展開　血管新生・血管病態の分子メカニズムから現実となった新時代の臨床応用まで　治療への展開 細胞移植による血管再生医療　末梢性血管病から心臓病まで．実験医　22: 1182–1187
22. 松原弘明，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）体性幹細胞移植と再生医療　末梢血管病から心臓病へ．関西医大誌　55: 155–161
23. 辰巳哲也，松原弘明，王　英正，正木浩哉，神畠　宏，岩坂壽二（2004）再生医療による心臓病治療の最前線　基礎と臨床　血管新生心臓　細胞移植再生医療による心臓病治療．Cardiovasc Med-Surg 6: 295–301
24. 河野雄平（2004）大多数の高血圧患者に食塩 7 g 以下を指導すべきか？―肯定的立場から．Medicina 41: 106–107
25. 中村敏子，河野雄平（2004）家庭血圧と 24 時間血圧の日常診療での生かしかた．Med Pract 21: 190–194
26. 鈴木ちぐれ，滝内　伸，河野雄平（2004）アルコール制限．血圧　11: 151–155
27. 河野雄平（2004）降圧薬の多剤併用療法．治療学　38: 167–170
28. 稲永　隆，河野雄平（2004）腎動脈狭窄に対する Intervention（State of the Art）．臨高血圧 10: 16–28
29. 吉原史樹，河野雄平（2004）高血圧治療における利尿薬の再評価．循環器　55: 251–257
30. 河野雄平（2004）高血圧の個別管理と集団管理．日循環器予防誌　39: 132–138
31. 河野雄平（2004）第2JATE：高齢者高血圧に対する降圧薬治療の効果に関する調査研究II．循環器　55: 460–462
32. 堀尾武史，河野雄平（2004）仮面高血圧　逆白衣現象の機序と特徴．血圧　11: 798–801
33. 神出　計，河野雄平，宮田敏行（2004）高血圧の薬剤ゲノム学研究．Bio Clin 19: 810–815
34. 佐々木修，服部憲明，井上典子，中浜　肇，澤田　徹，河野雄平（2004）腎性貧血改善と脳循環　代謝に対する功罪：オピニオン2．臨透析　20: 940–943
35. 中浜　肇，河野雄平（2004）腎性高血圧の診療．医事新報　4195: 37–41
36. 神出　計，河野雄平，宮田敏行（2004）高血圧に対する SNP 解析：高血圧感受性遺伝子の同定とテーラーメイド医療への応用．循環器医　12: 251–256
37. 神出　計，滝内　伸，河野雄平（2004）腎動脈検査の意義．Innervision 19(12): 70–74
38. 河野雄平（2004）若・中年者高血圧：診断 治療のポイント．With the Compass 2(2): 2–5
39. 董　顕輝，小宮山豊，高橋伯夫（2004）臨床検査技師は世界にいる　中国臨床検査技師制度の現状．Med Technol 32(2): 165–167

40. 角坂芳彦，高橋伯夫（2004）初心者のための尿沈渣検査のコツ　第3回赤血球の見かた. 検と技　32(5): 409–414
41. 高橋伯夫（2004）降圧目標を達成するための降圧薬の上手な使い方　一次選択薬使用のノウハウ―α1 遮断薬による降圧療法の特徴. medicina 41(1): 64–66
42. 小林幸司，稲垣孝司，阿部佳子，栗山　澄，西村典子，小宮山豊，高橋伯夫（2004）LPS刺激による TNF-α 産生能の新しい簡便測定法．臨床検査　48(5): 593–597
43. 松原弘明，辰巳哲也，高橋知三郎，神畠　宏，正木浩哉，岩坂壽二（2004）骨髄細胞移植による虚血性心臓病の再生治療．治療学　38: 932–935
44. 廣渡裕史，原　克子，高橋伯夫（2004）けんさアラカルト　血漿中セロトニン測定．検と技　33(2): 152–153
45. 廣渡裕史，原　克子，高橋伯夫（2004）新しい循環器のマーカー（5）セロトニン．臨病理 52(8): 693–703
46. 河本圭司，稲垣隆介，塚崎裕司，龍　尭志，植村芳子，南健一郎，坂井田紀子，中嶋安彬（2004）骨腫，良性骨芽細胞腫・骨肉腫．脳神外科　32(5): 549–556

学会発表

1. Masuda M, Amano K, Nishimura N, Masaki H, Komiyama Y, Takahasi H (2004) Measurement of soluble FcγRIIIaMφ in plasma as a novel marker for atherosclerosis. The 12th International Congress of Immunology and 4th Annual Conference of FOCIS, Montreal, Canada
2. Imada T, Masaki H et. al. (2004) Peritoneal Membrane Regeneration By Autologus Bone Marrow Mononuclear Cell Implataion. XLI 欧州腎臓病学会，Portugal
3. Imada T, Masaki H et. al. (2004) Peritoneal Mesothelial Cell Regeneration by autologus Mononuclear cells Implantation in a peritoneal dialysis Model of Rats. アメリカ腎臓病学会 (Renal week 2004), ST. Louis, USA
4. Yamahara H, Mori Y, Kishimoto N, Uchiyama-Tanaka Y, Tokoro T, Masaki H et. al. (2004) TGF-β Up Regulates Connective Tissue Growth Factor in Peritoneal Mesotheial cells. アメリカ腎臓病学会 (Renal week 2004), ST. Louis, USA
5. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Fujita H, Inoue N, Ono T (2004) Iodine-123-BMIPP imaging in maintenance hemodialysis patients: A guide for interventional strategy. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
6. Nishimura M, Ono T, Takahashi H (2004) Association of FMRFamide-activated brain sodium channel with salt-sensitive hypertension through the renin-angiotensin system in the brain and kidney. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
7. Nishimura M, Ushiyama M, Nishida M (2004) Usefulness of serum hepatocyte growth factor concentration for evaluation of the clinical state of Henoch-schonlein purpura. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
8. Nishimura M, Hirai O, Kishishita T, Fujimoto C, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Ono T (2004) Low-energy shock wave may rescue the inschemic lower limbs of chronic hemodialysis patients. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
9. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Nakamura N, Yoshikawa T, Takahashi H, Ono T (2004) Association of impaired parasympathetic activity with left ventricular hypertrophy in diabetic hemodialysis patients: possible involvement of the renin-angiotensin system. The 41st European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Lisbon, Portugal
10. Masusa M, Takahashi H（2004）動脈硬化症における可溶性 FcγRIIIaMφ の測定．中日臨床検査医学フォーラム，大連
11. Inoue-Shibata M, Kosaki A, Baba T, Kawata K, Sato S, Hasegawa T, Nishikawa M, Iwasaka T

(2004) Personality Predictors of Glycemic Control in Patients with Type 2 Diabetes. The 64th American Diabetes Association, オーランド
12. 植村芳子（2004）T-cell -rich B-cell lymphoma. 第 44 回日本リンパ網内系学会学術総会，京都市
13. 横井　崇，松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全勝浩，植村芳子，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）リツキシマブ投与後にCD20が陽性となった濾胞性リンパ腫．第 44 回日本リンパ網内系学会学術総会，京都市
14. 森眞一郎，植村芳子，谷尻　力，松本憲明，尼川龍一，福原資郎（2004）早期再発甲状腺MALTリンパ腫における樹状細胞分布の検討．第 44 回日本リンパ網内系学会学術総会，京都市
15. 小宮山豊，吉賀正亨，寺内里惠，寺岡安津子，原　克子，宗像眞智子，大津弥生，神畠　宏，岩坂壽二，高橋伯夫（2004）急性心筋梗塞治療時に発症したヘパリン起因性血小板減少症の1例. 第5回日本検査血液学会学術集会, 札幌
16. 桝田　緑，西村典子，小宮山豊，高橋伯夫，西部隆宏，田中　巧，小畠伸三（2004）FcγRIIIa特異的モノクロナル抗体を用いた可溶性FcγRIIIaの測定. 第51回日本臨床検査医学会総会，東京
17. 桝田　緑，高橋伯夫（2004）若年性RA患者抗TNFα抗体療法時の可溶性FcγRIIIaの経時的変化．第34回日本免疫学会総会学術集会，札幌
18. 正木浩哉，西川光重（2004）透析患者の続発性副甲状腺機能亢進症に対するマキサカルシトールの長期維持投与成績．第 49 回日本透析医学会学術集会
19. 高橋伯夫（2004）市民公開シンポジウム　高血圧症. 第51回日本臨床検査医学会総会, 東京
20. 高橋伯夫（2004）市民公開講座　高血圧と付き合う方法．第 40 回高血圧自然発症ラット（SHR）学会学術集会，大阪市
21. 小宮山豊（2004）シンポジウム　採血のテクニック（危機管理を交えて）―採血手技の基本と注意点―．東京都臨床検査技師会西部地区研修会，東京
22. 小宮山豊（2004）シンポジウム「生物•化学テロと臨床検査」―緊急時に対応する薬毒物検査と微生物検査の現状と未来―．第 44 回（通算199回）日本臨床化学会近畿支部例会，大阪
23. 小宮山豊（2004）シンポジウム　血小板および血液凝固・線溶の基礎．シェーリング・プラウ株式会社　社内研修会，大阪
24. 西村眞人，小野利彦（2004）シンポジウム透析患者の循環器合併症　透析患者における心臓内血栓の危険性．第 49 回日本透析医学会学術集会，神戸
25. 西村眞人（2004）ランチョンセミナー「透析患者の心疾患治療に心臓核医学を活かす」血液透析患者における脂肪酸代謝シンチグラフィの有用性．第 49 回日本透析医学会学術集会，神戸
26. 高橋伯夫（2004）特別講演　慢性腎不全患者の病態の理解と良好な血圧コントロール．紀泉カンファランス，大阪市
27. 高橋伯夫（2004）特別講演　早朝高血圧の診断と治療．健康フォーラム，神戸市
28. 高橋伯夫（2004）特別講演　スポーツと健康．日本機械学会，淡路島，洲本市
29. 西村眞人（2004）特別講演　血液透析患者の冠動脈疾患診断ならびに心事故予測における123I-BMIPP SPECTの有用性．第22回動態核医学研究会，仙台
30. 西村眞人（2004）特別講演　慢性腎臓病患者の冠動脈疾患　診断・治療とその管理．第5回HCN釜座研究会，京都
31. Imada T, Masaki H, Nozawa Y, Yamahara H, Sakamoto N, Kishimoto N, Fukui M, Hayakawa T, Tokoro T, Mori Y, Nishikawa M, Takahashi H, Iwasaka T (2004) Current Problems of Peritoneal Membrane in CAPD: Peritoneal Membrane Regeneration by Autologus Bone Marrow Mononuclear Cells Implantation in a Peritoneal Dialysis Model of Rats. 第49回日本透析医学会学術集会，神戸
32. Imada T，Masaki H，Fukui M，Yamahara H，Mori Y，Nishikawa M，Iwasaka T（2004）Therapeutic peritoneal membrane for implantation of autologus BMMNCs in Rats Peritoneal Dialysis model. 第47回日本腎臓学会学術総会
33. 山原英樹，森　泰清，岸本典子，内山葉子，来島泰秋，阪本憲彦，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，早川　敬，所　敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二，向山政志，横井秀基（2004）

腹膜中皮細胞におけるCTGF発現　TGF-βによる刺激効果．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
34. 内山葉子，森　泰清，小崎篤志，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，福井政慶，所敏子，正木浩哉，岩坂壽二，西川光重，長原正幸（2004）維持血液透析（HD）患者での血中S100A12蛋白濃度の検討．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
35. 岸本典子，森　泰清，中田　緑，丸山弘樹，山原英樹，来島泰秋，阪本憲彦，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，内山葉子，早川　敬，所敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2004）CAPDに伴う腹膜劣化に対する新規遺伝子治療法の基礎的検討．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
36. 来島泰秋，森　泰清，所　敏子，山原英樹，岸本典子，能勢敦子，内山葉子，正木浩哉，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二（2004）感染性心内膜炎に伴った抗好中球細胞質抗体（C-ANCA）陽性の急速進行性腎炎の1例．第34回日本腎臓学会西部学術集会，岡山
37. 山下浩司，所　敏子，山原英樹，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，阪本憲彦，早川敬，福井政慶，正木浩哉，森　泰清，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二（2004）難治性ネフローゼ症候群に対してLDLapheresis，シクロスポリン（CyA）併用にて急性腎不全から回復しえた1例．第34回日本腎臓学会西部学術集会，岡山
38. 岸本典子，森　泰清，山原英樹，来島泰秋，能勢敦子，内山葉子，所　敏子，正木浩哉，永田登志子，梅田幸久，岩坂壽二（2004）Predominant tubulointerstitial nephritisを認めたSLE患者の一例．第34回日本腎臓学会西部学術集会，岡山
39. 青田典子，所　敏子，横江洋之，来島泰秋，山原英樹，岸本典子，阪本憲彦，早川敬，正木浩哉，森　泰清，西川光重，岩坂壽二（2004）DFPPを併用した抗GBM抗体腎炎の一例．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
40. 森　泰清，内山葉子，小崎篤志，福井政慶，長谷川隆正，岸本典子，山原英樹，柴崎泰延，今田崇裕，阪本憲彦，早川　敬，所　敏子，正木浩哉，西川光重，長原正幸，岩坂壽二（2004）血液透析患者における血漿S100A12蛋白濃度の臨床的意義について．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
41. 福井政慶，森　泰清，岸本典子，内山葉子，今田崇裕，山原英樹，柴崎泰延，所　敏子，正木浩哉，長原正幸，西川光重，岩坂壽二（2004）慢性維持透析患者のQOL改善における十全大補湯の有用性について．第49回日本透析医学会学術集会，神戸
42. 森　泰清，岸本典子，中田　緑，内山葉子，山原英樹，来島泰秋，正木浩哉，岩坂壽二，丸山弘樹（2004）ヒト末血単核球由来細胞による腎尿細管再生の基礎的検討．第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
43. 山原英樹，森　泰清，岸本典子，内山葉子，来島泰秋，所　敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二，向山正志，横井秀基（2004）腹膜中皮細胞におけるCTGF発現　TGF-βによる刺激効果．第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
44. 岸本典子，森　泰清，中田　緑，内山葉子，山原英樹，来島泰秋，能勢敦子，所　敏子，正木浩哉，永田登志子，梅田幸久，西川光重，岩坂壽二（2004）慢性腎障害での腹膜線維症モデル作成と新規遺伝子治療法の基礎的検討．第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
45. 長谷川隆正，小崎篤志，松原弘明，四馬田-井上　恵，森　泰清，木村　穣，沖垣光彦，豊田長興，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2004）糖尿病モデルラットにおける末梢神経障害への骨髄・末梢血単核球細胞移植の有効性．第47回日本腎臓学会学術総会，宇都宮
46. 神畠　宏，木村　穣，酢谷保夫，竹花一哉，西上尚志，正木浩哉，栗原裕彦，栗本晃二，岩坂寿二，松原弘明（2004）重症狭心症に対する骨髄単核球細胞移植（BMI）を用いた血管新生療法．第31回日本集中治療医学会学術集会，宇都宮
47. 四馬田-井上　恵，小崎篤志，馬場天信，田嶋佐和子，長谷川隆正，正木浩哉，木村　譲，高橋伯夫，佐藤　豪，西川光重，岩坂壽二（2004）糖尿病患者における血糖コントロールと心理特性との関連について．第47回日本糖尿病学会年次学術集会，東京
48. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧と降圧療法．和

歌山県医師会学術講演会，和歌山市
49. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧の病態と降圧療法の実際．横浜市医師会生涯教育講演会，横浜
50. 高橋伯夫（2004）降圧療法―最近の進歩―．岸和田市医師会生涯教育講演会，岸和田市
51. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧のマネージメント．大阪府城東区医師会生涯教育講演会，大阪市
52. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧の病態と治療．神戸市医師会生涯教育講演会，神戸市
53. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧の病態と治療．京都市西京区医師会生涯教育講演会，京都市
54. 高橋伯夫（2004）臓器保護を目指した降圧療法の実際．住吉区医師会生涯教育講演会，大阪市
55. 高橋伯夫（2004）臓器保護を目指した降圧療法の実際．三重県鈴鹿市医師会生涯教育講演会，鈴鹿市
56. 高橋伯夫（2004）臓器保護と早朝高血圧．加古川内科医会生涯教育講演会，兵庫県加古川市
57. 高橋伯夫（2004）プレス・セミナー「危険な高血圧を見逃すな」．東京
58. 高橋伯夫（2004）高脂血症の治療戦略．大阪府医師会生涯教育講演会，大阪市北区
59. 高橋伯夫（2004）生活習慣病と臨床検査．枚方市医師会生涯教育講演会，大阪府枚方市
60. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧と降圧療法．寝屋川市医師会講演会，寝屋川市
61. 高橋伯夫（2004）高血圧治療―最新の考え方―．北摂薬剤師会講演会，大阪府高槻市
62. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧の診断と治療戦略．越谷市医師会生涯教育講演会，越谷市
63. 高橋伯夫（2004）高血圧治療の最新のエビデンス―臓器保護を目的とした降圧療法―．大阪府医師会生涯教育講演会，大阪市旭区
64. 吉賀正亨，高橋伯夫（2004）大腿部に限局する疼痛を認め診断に苦慮した症例．第 47 回日本臨床検査医学会近畿支部総会，奈良
65. 吉賀正亨，小宮山豊，桝田　緑，原　克子，河村晃弘，神畠　宏，岩坂壽二，正木浩哉，高橋伯夫（2004）抗 PF4 ／ヘパリン複合体抗体 ELISA 陰性のヘパリン起因性血小板減少症 2 例．第51回日本臨床検査医学会総会，東京
66. 吉賀正亨，小宮山豊，西村典子，桝田　緑，高橋伯夫（2004）高血圧自然発症ラット（SHR）における食塩摂取に伴う尿中 marinobufagenin 様免疫活性物質の推移．第 40 回高血圧自然発症ラット（SHR）学会学術集会，大阪
67. 原　克子，永濱　要，小宮山豊，神畠　宏，岩坂壽二，高橋伯夫（2004）冠攣縮性狭心症における血中total PAI-1（tPAI）の動態．第47回日本臨床検査医学会近畿支部総会，奈良
68. 原　克子，小宮山豊，宗像眞智子，仲谷壽男，高橋伯夫（2004）毒草（ハシリドコロ）によるアルカロイド中毒症例のGC/MS分析．第26回日本中毒学会総会，広島
69. 原　克子，五十野剛，神畠　宏，岩坂壽二，高橋伯夫（2004）経皮的冠動脈介入術（PCI）における血清アミロイド蛋白（SAA）．第44回日本臨床化学会年会，東京
70. 原　克子，五十野剛，神畠　宏，岩坂壽二，高橋伯夫（2004）経皮的冠動脈介入術（PCI）における心筋保護剤の有用性．第 51 回日本臨床検査医学会総会，東京
71. 原　克子，小宮山豊，高橋伯夫（2004）「生物・化学テロと臨床検査」大学病院薬毒物検査室の立場から．第 43 回日本臨床化学会近畿支部例会，大阪
72. 原　克子，木村　穣，小宮山豊，吉賀正亨，廣渡裕史，岩坂壽二，高橋伯夫（2004）喫煙者における血中コチニン濃度と全血および血漿セロトニン（5-hydroxytryptamine: 5-HT）濃度の関係．第 8 回近畿・北陸セロトニン研究会，大阪
73. 原　克子，小宮山豊，永濱　要，神畠　宏，岩坂壽二，高橋伯夫（2004）安静時狭心症における血中total PAI-1の動態．第4回TTMフォーラム，東京
74. 原　克子，廣渡裕史，小宮山豊，高橋伯夫（2004）血漿セロトニン（5-hydroxytryptamine: 5-HT）測定に最適な抗凝固剤の使用法について．第18回サンプリング研究会，大阪
75. 角坂芳彦，正木浩哉，岸本典子，高橋伯夫（2004）腎機能評価における血清シスタチン C の臨床的有用性の検討．第 51 回日本臨床検査医学会総会，東京
76. 中村竜也，高橋伯夫（2004）ESBL産生腸内細

菌に対するニューキノロン系薬およびカルバペネム系薬の薬剤感受性について．第 52 回日本化学療法学会総会，沖縄
77. 田中敬一朗，中村竜也，内田幸子，佐野みゆき，中田千代，平城　均，宗像眞智子，高橋伯夫（2004）G群溶血連鎖球菌による壊死性菌膜炎の1症例．第44回近畿医学検査学会，奈良

著　書

1. Masuda M, Amano K, Nishimura N, Masaki H, Komiyama Y, Takahahsi H (2004) Measurement of soluble FcγRIIIaMφ in plasma as a novel marker for atherosclerosis. Immunology Medimond pp 249–252, S.r.l., Italy
2. 高橋伯夫（2004）高血圧性臓器障害に関する基礎研究　交感神経系の関与．高血圧と高血圧性臓器障害―臓器障害の予防と管理―IV 62(3)，133–138頁，日本臨牀
3. 高橋伯夫（2004）早朝高血圧の検査と診断―適正な血圧管理のために．高血圧診療のコツと落とし穴　検査・診断36（島田和幸編）36–37頁，Pitfalls & Knack中山書店，東京
4. 高橋伯夫（2004）朝血圧を測るといつも高いんです．高血圧を探る　疾患 5（島田和幸編）129–134頁，永井書店，大阪
5. 高橋伯夫（2004）第4章　高血圧症の管理・治療　降圧薬の種類と使用上の基本．最新医学新しい診断と治療の ABC　高血圧症　循環器 3（猿田享男編）150–165頁，最新医学社
6. 高橋伯夫（2004）高血圧に関連する最新情報ドーパミン．「腎と透析」知っておくべき高血圧の知識（監修　二瓶　宏　編集　北岡建樹，塩乃入洋，飯野靖彦，木村健二郎）554–557頁，医学社，東京
7. 高橋伯夫（2004）血栓症検査ガイドブック Part 2　新しい検査項目　高感度CRP（high sensitive C-reactive protein: hs-RP）．血栓と循環　12(4)（編集主幹　池田康男　編集委員　重田　宏，島田和幸，藤田敏郎）541–544頁，メディカルレビュー社
8. 河野雄平，山口武典（2004）AII受容体拮抗薬における脳保護作用とその臨床的根拠をみる．AII受容体拮抗薬のすべて　第3版（荻原俊男，菊池健次郎，猿田享男，島本和明，日和田邦男，宮崎瑞夫編）88–93頁，先端医学社，東京
9. 河野雄平（2004）血圧の自己管理．知っておきたい循環器病あれこれ 43．循環器病研究振興財団，吹田
10. 藤井秀樹，河野雄平（2004）非薬物療法シミュレーション内科．高血圧を探る（島田和幸編）49–52頁，永井書店，東京
11. 河野雄平（2004）白衣高血圧と仮面高血圧 : 家庭血圧による診断と管理．高血圧診療のコツと落とし穴（島田和幸編）10–11頁，中山書店，東京
12. 滝内　伸，河野雄平（2004）アルコールとタバコについての注意点．高血圧診療のコツと落とし穴（島田和幸編）125–126頁，中山書店，東京
13. 吉原史樹，河野雄平（2004）アスピリンとの併用はできますか．ファーマナビゲーターシリーズ「ARB」編（熊谷裕生，小室一成，堀内正嗣，森下竜一編）224–227頁，メディカルレビュー社，東京
14. 河野雄平（2004）運動で脳梗塞を防ぐ．別冊 NHK きょうの健康（山口武典総監修）56–64頁，日本放送出版協会，東京
15. 中浜　肇，河野雄平（2004）利尿薬　腎臓ナビゲーター．（浦　信行，柏原直樹，熊谷裕生，竹内和久編）214–215頁，メディカルレビュー社，東京
16. 稲永　隆，河野雄平（2004）DRASTIC (Dutch Renal Artery Stenosis Intervention Cooperative): DATA UPDATE. 循環系（第 3 版）（山口　徹，日和田邦男，斎藤　康編）248–249頁，先端医学社，東京
17. 中村敏子，河野雄平（2004）悪性高血圧 知っておくべき高血圧の知識．腎と透析 57 巻増刊号（二瓶　宏監修　北村建樹，塩之入　洋，飯野靖彦，木村健二郎編）222–224頁，東京医学社，東京
18. 稲永　隆，河野雄平（2004）血管拡張薬　知っておくべき高血圧の知識．腎と透析 57 巻増刊号（二瓶　宏監修　北村建樹，塩之入洋，飯野靖彦，木村健二郎編）307–310頁，東京医学社，東京
19. 高橋伯夫（2004）病態　血圧計の精度は？「肥

満と糖尿病」. 3(1), 23–25頁, 丹水社

その他
1. 高橋伯夫（2004）DPC の導入で検査の迅速化が進展. Medical Academy News 889
2. 高橋伯夫（2004）高感度 CRP が拓く新たな病態診断高感度 CRP の基礎と臨床的意義. The Medecal & Test Journal 880
3. 高橋伯夫（2004）高脂血症の薬物療法と抗動脈硬化作用. Medical Academy News 892
4. 高橋伯夫（2004）臓器保護を目的とした高血圧治療. 東住吉区医師会広報7月号　2–6
5. 高橋伯夫, 北村　聖, 中村健二, 渡邊清明（2004）現在の保健医療と臨床検査. ヒューマンサイエンス　4–13

救急医学科

〈研究概要〉

出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果とアポトーシス発現に関する実験的研究

1）出血性ショックにおけるアポトーシス発現と高張食塩液の免疫賦活作用に関する研究―高張食塩液投与により免疫抑制状態をどのように回避できるか―

出血性ショック後の蘇生に成功しても，その後にARDS（急性呼吸窮迫症候群）やMOF（多臓器不全）が発生し，死亡する症例がしばしば見られる．これには，出血性ショック後の免疫抑制状態が深く関与していると考えられ，高張食塩液の抗アポトーシス作用が免疫抑制状態を回復または回避するメカニズムの解明を行い，治療に役立てることを目標とする．

出血性ショックモデルとして，Balb/c マウスの左大腿動脈より脱血して血圧を 40 mmHg に 90 分保つ．蘇生方法として，高張食塩液と脱血血液，2倍量の脱血血液量のラクテートリンゲル液と脱血血液，Sham 群，コントロール群での，胸腺，脾臓でのアポトーシス発現と免疫抑制状態の関係を蘇生後経時的に検討する．胸腺，脾臓でのアポトーシス発現をフローサイトメトリーを用いて測定する．①胸腺，脾臓でのアポトーシス発現を凍結切片を用いて測定する．②アポトーシスが発現している細胞が，CD4 か CD8 のどちらの細胞が発現しているかをアポタグ染色とCD4，CD8の2重染色で検討する．③出血性ショック後に制御性T細胞（$CD25^+$，$CD4^+$）がどのように発現しているかを，凍結切片の2重染色などにより観察する．④ヘルパーT細胞Th1/Th2比の不均衡状態，すなわちTh2の優位状態への偏位などが起きていないかを時間経過によりどのように変化するかを検討する．

2）iNOS ノックアウトマウスを用いた重度侵襲ストレス応答とアポトーシス発現のメカニズムの解析（出血性ショックモデルと熱傷モデルにおける検討）

出血性ショックや熱傷などの重度侵襲においては，しばしば全身の重要臓器に障害をもたらす．その臓器障害にアポトーシスが関与するといわれている．出血性ショックの蘇生液として高張食塩液を投与するとラクテートリンゲル液で蘇生したときと比較して肺傷害，小腸障害，肝障害などの臓器障害を軽減することが知られている．また，ラクテートリンゲル液に比較して各臓器でのアポトーシス発現を抑制することもわかってきた．当科では，従来，iNOS ノックアウトマウスを用いてLPS投与の敗血症モデルでの免疫機能への影響に関する研究を行ってきたが，今回，iNOS ノックアウトマウスを用いて，重度侵襲（ストレス）モデルでの，アポトーシス発現に関するメカニズムの解析を行うことにより，将来，これら，重度侵襲ストレス後の臓器障害，臓器不全に移行するのを防ぎ，救命率をあげることを目的として研究を行う．出血性ショック後に蘇生液として高張食塩液を用いた場合には，アポトーシス発現を抑制することが解ってきたが，一方，熱傷モデルにおいては，輸液として，高張食塩液を用いた場合には，ラクテートリンゲル液に比較してむしろ，肺障害を増悪させるといわれている．最近の研究では，

高張食塩液を投与する前にiNOSのinhibitorを投与することにより，増悪させる効果を減少させることが報告された．すなわち，重度侵襲下においては，臓器障害とアポトーシス発現はNOを介して深く関連していると考えられる．これら侵襲の違うモデルでのアポトーシス発現のメカニズムの解明は，重度侵襲後の臓器障害を予防，改善させ，将来これらの患者の救命率をあげることに寄与するものと考えられる．

臨床研究

1）統合失調症における過大侵襲時の生体反応

重度外傷の受傷者の場合には，過大侵襲のために，例えばストレス潰瘍などのように，種々の過剰な生体反応の結果と見られる合併症を来し，治療に難渋することが少なくない．一方，統合失調症の患者は，自損行為により例えば高所から墜落して骨折や臓器損傷などの重度の外傷を受傷していても，あるいは自損行為による腹部刺創で腸管脱出を来していても，搬入時には疼痛を訴えず，入院後の経過が順調で，合併症を併発することも少ない．統合失調症患者では侵襲に対する過度の生体反応が起きないために，合併症が少なく，予後がよいのではないかと考えている．統合失調症患者で侵襲に伴って分泌されるストレスホルモン，サイトカインを追跡し，また，患者の重症度を評価し比較，検討するため損傷形態，重症度，経過中の合併症を評価する臨床研究を継続中である．

2）急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の検討．第I–II相臨床試験（準備中）

急性期脊髄損傷患者を対象にした培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の臨床効果および安全性を評価する．

脊髄損傷重症例では，生涯を対麻痺のために車椅子で，あるいは四肢麻痺のためにベッド上での生活が強いられる．さらに呼吸筋麻痺のために人工呼吸器すら外せない場合もある．平成13年6月1日に厚生労働省がおこなった調査において，18歳以上の脊髄損傷患者は約10万人で毎年5,000人の患者が発生している．脊髄損傷患者の多くは介護を必要とするため，その治療法の発展は，当事者のQOLや社会参加を大きく向上させるだけでなく，介護の社会的コストを大きく削減することに繋がるものと考えられる．

従来，何らかの外傷により損傷を受けた中枢神経組織は再生せず，その機能回復は不可能とされてきた．急性期にはその損傷の程度をできるだけ小範囲にとどめるためメチルプレドニゾロンが投与されている．また，慢性期にはその残存した神経機能をできるだけ引き出すリハビリテーションが行われている．

新しい治療法の可能性として，最近，骨髄間質細胞を移植することによって中枢神経の損傷部を修復させようとする試みが報告された．共同で研究を行う京都大学の研究グループもラットから採取した骨髄から間質細胞を分離培養し，胸髄Th8–9レベルに挫滅損傷を加えた別のラットへ移植する実験を行ってきた．損傷後急性期に損傷部へ直接移植を行った群で歩行運動の著明な改善を認めた．しかし，ヒトへの応用を考えた場合には，脊髄の実質内に細胞を注入するのは危険性が高く，注入操作そのものにより新たな損傷が発生する可能性がある．一つの解決案として，細胞を脳脊髄液中に投与することが考えられる．ラット骨髄間質細胞を第四脳室内に投与する実験で，移植した群では神経学的な回復が認められており，組織学的にも脊髄損傷の程度が軽く損傷部位の空洞の形成が少ない結果が認められた．この回復は移植細胞からの活性物質によるものと考えられるが，その詳細は未だ不明である．移植された細胞は，初期には損傷部位内部に認められるが，1か月以上生存する細胞はごく少数しか存在せず，移植された細胞が長期間生着することが神経機能の回復にとって必須でないことが示唆される．また，移植された細胞は初期には脊髄の表面に広く分布していたが，それは時間とともに減少傾向にあったので，ES細胞移植時に問題となっているような腫瘍化などの危険性もほとんど考えられない．

骨髄間質細胞移植以外の脊髄損傷治療として諸外国においても細胞治療の開発が行われている．脳由来神経幹細胞を用いた治療法については，動物実験で，移植細胞が神経系の細胞に分化したという報告

がある．臨床的な利用を考えると，本人からの中枢神経由来の幹細胞の採取は現実的には難しい．また中絶ヒト胎児由来の幹細胞や胚性幹細胞（ES cell）を利用する場合には，倫理的な問題や拒絶反応の問題は避けられず，免疫抑制薬が必要となれば二次的な副作用も生じうる．またウィルス，プリオン等の感染の危険性もある．また，患者自身のマクロファージを培養し活性化してから骨髄損傷部へ直接移植する方法や，鼻粘膜より採取し培養した嗅球の神経細胞を取り巻くグリア細胞（OEG）を骨髄損傷部へ直接移植する方法が，実際にヒトへの臨床応用として行われている．これらの治療法はまだ実験段階であり，有効性および安全性が検証されたものではない．加えて，これらの細胞の移植には，損傷部位の脊椎の椎弓切除を行って損傷部の脊髄実質内に直接，細胞を注入する方法が不可欠である．

一方，今回われわれが提案する骨髄間質細胞の移植は，“脳脊髄液中への培養細胞の投与が有効である”というこれまで京都大学の研究グループで行ってきた研究結果をふまえて，通常の腰椎穿刺の手技を使って脳脊髄液中に細胞を投与するため，諸外国で行われている臨床実験と比較しても，患者への侵襲が少なく，より危険性の少ない優れた方法であると考えている．

臨床応用に向けて，脊損ラットでの効果確認と健常サルでの安全試験は行ったものの，ヒトでの安全試験や当然ながら効果は未確認であることなどの倫理的な問題などを注意深く検討し，患者団体とも接触して膨大な計画書を作成してきた．倫理委員会の承認が得られれば，詳細な患者説明書を公開し，実施の運びである．

＜研究業績＞

原　著

1. 武山直志，田中孝也，松尾信昭，山本　透，中谷壽男（2004）高度侵襲患者におけるimmunoparalysis―ヘルパーT cell phenotype不均衡とマクロファージ単球機能失調―．救急医学　15: 1–7
2. 中谷壽男（2004）中毒性疾患の治療の動向．今日の治療指針　46: 105
3. 中谷壽男（2004）緊急時の輸液と輸血．救急ケアマニュアル　116–120
4. 藤井弘史，中谷壽男（2004）［胸部の画像診断］急性大動脈解離．月刊レジデントノート　6: 451–454
5. 矢吹　輝，浅井　悌，松尾信昭，北澤康秀，中谷壽男（2004）救命救急センターにおけるNSTの役割．救急・集中治療　16: 1113–1118
6. 三木重樹，田中孝也，北澤康秀，弘津喜史，武山直志，中谷壽男（2004）P-ANCA抗体価の漸減中に肺病変の再燃を認めた顕微鏡的多発血管炎の1例．日本臨床救急医学会雑誌　7: 334–338
7. 中谷壽男（2004）急性腹症の診断と鑑別診断のポイント．臨床研修プラクティス 11 月号 1: 12–21
8. 中谷壽男（2004）防ぎうるうる外傷死を減らすために．―日本外傷学会，日本救急医学会の取組み―　37: 3–6
9. 三木重樹，田中孝也，松尾信昭，山本　透，北澤康秀，中谷壽男（2004）当救急センターにおけるミカファンギンの使用経験．新薬と臨床　53: 48–55
10. 新谷　裕，中谷壽男（2004）．その他 129．各種の毒物中毒．増刊号　臨床外科　59: 382–384

総　説

1. 中谷壽男，山本保博（2004）急性中毒．今日の治療指針　46: 1129–1154
2. 中谷壽男（2004）概論：薬毒物の簡易定性，半定量検査法とその臨床的意義．日本臨床増刊号　広範囲血液・尿化学検査・免疫学的検査2 第6版　62: 518–521

学会発表

1. Nakatani T, Suzuki Y, Ide C (2004) Present Status for the Clinical Application of Spinal Cord Regeneration Therapy with Bone Marrow Stromal Cell Administration into Cerebrospinal Fluid. The 63rd American Association for the Surgery of Trauma, Maui, Hawaii
2. 中谷壽男（2004）Let’s learn ACLS and JATEC. 浜松外科医会講演会，浜松
3. 岩瀬正顕，神嵜清一郎，吉岡正太郎，田中孝

也，中谷壽男，河本圭司（2004）重症脊椎損傷患者の急性期管理．第9回日本脳神経外科救急学会，広島
4. 岸本真房，弘津喜史，三木重樹，田中孝也，山本　透，武山直志，中谷壽男（2004）自然中毒（走野老）により不隠状態を呈し搬送された1例．第89回日本救急医学会近畿地方会，大和郡山
5. 吉岡正太郎，岩瀬正顕，浅井　悌，中谷健治，山本　透，田中孝也，中谷壽男（2004）後頭蓋窩の非外傷性くも膜下出血で発症した右小脳橋角部脳動静脈奇形の1例．第89回日本救急医学会近畿地方会，大和郡山
6. 中谷壽男（2004）認定医制度から専門医制度へ．日本救急医学会第9回専門医・認定医セミナー，大阪
7. 弘津喜史，矢吹　輝，山本　透，田中孝也，中谷壽男（2004）Rt-THA手術中に肺塞栓症となり，IVCfilter留置後急性偽性腸閉塞症を繰り返した1症例．第9回日本腹部救急医学会総会，東京
8. 藤井弘史，弘津喜史，三宅建作，井上　豪，吉岡正太郎，岸本真房，松尾信昭，山本透，田中孝也，中谷壽男（2004）当センターにおける急性大動脈解離症例の現状．第9回河内救急医療懇話会，大阪
9. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2004）重症脳損傷病態管理におけるBISモニターの有用性と問題点．第7回日本臨床救急医学会総会，東京
10. 富野敦稔，矢吹　輝，松尾信昭，田中孝也，中谷壽男（2004）SIRSに伴うALIに対するsodium sivelestat hydrateの治療症例の検討．第7回日本臨床救急医学会総会，東京
11. 中谷健治，岩瀬正顕，梶本心太郎，山本　透，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2004）診断に難渋した特発性脊椎硬膜外血腫の1例．第7回日本臨床救急医学会総会，東京
12. 田中孝也，山本　透，武山直志（2004）救命救急センターにおける保健医療の適正化について―医療費の包括評価制度は適正か？―．第7回日本臨床救急医学会総会，東京
13. 石倉宏恭，平川昭彦，梶本心太郎，矢吹　輝，中谷壽男（2004）膵管非融合（Pancrease divisum）例に合併した膵損傷の治療方針と損傷分類に関して．第18回日本外傷学会，札幌
14. 中谷健治，中村誠也，浅井　悌，山本　透，田中孝也，中谷壽男（2004）当センターにおける多発骨折症例の初期治療について．第18回日本外傷学会，札幌
15. 梶本心太郎，石倉宏恭，平川昭彦，山本　透，中谷壽男（2004）膵―胃吻合再建術を選択したIIIa型膵損傷症例．第18回日本外傷学会，札幌
16. 藤井弘史，大谷　肇，弘津喜史，三宅建作，山本　透，北澤康秀，田中孝也，中谷壽男，今村洋二（2004）当救命センターにおける急性大動脈解離に対する上行・弓部置換術例．第47回近畿心臓外科研究会，大阪
17. 日原正勝，小川　豊，久徳茂雄，北澤康秀（2004）手部深達熱傷の治療方針と問題点．第30回日本熱傷学会，東京
18. 中村誠也，飯田寛和，中谷健治，中谷壽男（2004）Limited Contact-LCP plateを用いた上肢骨疾患に対する治療経験．第30回日本骨折治療学会，東京
19. 松田公志，中谷壽男，西川光重，米田　博，鏡山博行（2004）選択性臨床実習における大学間相互乗り入れ：関西医科大学と大阪医科大学での試み．36回日本医学教育学会，高知
20. 中谷壽男（2004）急性脊髄損傷の概要と関西医大高度救命救急センターの状況．第4回脊髄再生研究促進市民セミナー―脊髄由来細胞の移植による脊髄損傷の治療，東京
21. 中谷壽男（2004）侵襲下の肝代謝と酢酸輸液．第5回千葉CCM輸液・栄養研究会，千葉
22. 中谷壽男（2004）北河内地区のメディカルコントロール体制．平成16年度北河内ブロック救急医療研修会，守口
23. 北澤康秀（2004）メディカルコントロール体制下の二次救急病院の役割．平成16年度北河内ブロック救急医療研修会，守口
24. 武山直志，田中孝也，矢吹　輝，三木重樹，中谷壽男（2004）侵襲状態下における免疫能異常とimmunomodulation―基礎並びに臨床的検討．第32回日本救急医学会総会，千葉
25. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，中谷健治，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2004）頸椎クリアランスの現状と問題点．第32回日本救急医学会総

会，千葉
26. 中谷壽男（2004）ACLS　とメディカルコントロール．平成 16 年度中河内ブロック救急医療研修会，大阪
27. 矢吹　輝，田中孝也，富野敦稔，中谷健治，松尾信昭，山本　透，武山直志，中谷壽男（2004）熱傷初期における輸液量，血液製剤制限の工夫．第7回日本臨床救急医学会総会，東京
28. 阪口博保，安部高子，柴田春美，齋藤ひろみ，下前　学，松尾信昭，齊藤一文字，中谷壽男，新宮　興（2004）薬剤師として災害医療ワーキングチームのメンバーになって．第9回日本集団災害医学会，札幌
29. 黒木由美子，吉岡敏治，大橋教良，白川洋一，屋敷幹雄，村田厚夫，中谷壽男，嶋津岳士，上条吉人，広瀬保夫，清田数也，波多野弥生，飯田　薫，飯塚富士子，遠藤容子（2004）血中濃度分析値を含むヒト急性中毒症例収集・報告統一システムの構築．第 26 回日本中毒学会総会，広島
30. 原　克子，小宮山豊，宗像眞智子，中谷壽男，高橋伯夫（2004）毒草（ハシリドコロ）によるアルカロイド中毒症例のGC/MS分析．第26回日本中毒学会総会，広島
31. 新谷　裕，箱田　滋，森口哲也，木内俊一郎，中谷壽男（2004）肺炎を併発した急性薬物中毒症例のクリニカルパス導入のための入院期間の検討．第26回日本中毒学会総会，広島
32. 藤田昌哲，宮崎秀行，浅井　悌，藤井弘史，岩瀬正顕，山本　透，田中孝也，中谷壽男（2004）脳炎加療中，中心静脈カテーテルが原因と思われる上大静脈症候群をきたした1例. 第10回河内救急医療懇談会，東大阪

著　書
1. 中谷壽男（2004）ショックにおける生体反応と臓器障害．救急医療の最先端（島崎修次，山本保博，相川直樹編）36–40頁，最先端医療技術研究所，東京
2. 中谷壽男（2004）第 14 章　妊婦外傷．改訂外傷初期診療ガイドライン（日本外傷学会外傷研修コース開発委員会編）197–204頁，へるす出版，東京

輸血部

〈研究概要〉

1. 同種血，自己血輸血に関する研究

輸血検査の自動化システムを導入し，従来法と比較検討をすることにより，合理的な運用体制を検討している．また，不規則抗体検査などの輸血検査の標準化や合理化についても検討している．緊急輸血症例や輸血副作用症例を解析し，輸血療法の安全性の向上を目指している．

2. 細胞療法やHLA検査に関する研究

同種および自己造血幹細胞移植の採取・評価・保存を実施しており，これらの所見と臨床経過との関連について検討している．また，移植症例の同種抗体（HLA抗体，血小板抗体）について，移植後の免疫能や臨床所見との関連から検討している．

＜研究業績＞

原　著
1. Ohnishi K, Ino A, Kishimoto Y, Usui N, Shimazaki C, Ohtake S, Taguchi H, Yagasaki F, Tomonaga M, Hotta T, Ohno R (2004) Multicenter prospective study of interferon alpha versus allogeneic stem cell transplantation for patients with new diagnoses of chronic myelogenous leukemia. Int J Hematol 79: 345–353
2. Nakai K, Tajima K, Tanigawa N, Matsumoto N, Zen K, Nomura S, Fujimoto M, Kishimoto Y, Amakawa R, Sawada S, Fukuhara S (2004) Intra-arterial steroid-injection therapy for steroid-refractory acute graft-versus-host disease with the evaluation of angiography. Bone Marrow Transplant 33: 1231–1233

3. Takebayashi M, Amakawa R, Tajima K, Miyaji M, Nakamura K, Ito T, Matsumoto N, Miyazaki Y, Zen K, Kishimoto Y, Fukuhara S (2004) Blood dendritic cells are decreased in acute graft-versus-host disease. Bone Marrow Transplant 33: 989–996
4. 横井　崇，森眞一郎，杉本博是，小宮山豊，植村芳子，谷尻　力，中井邦久，松本憲明，全勝弘，尼川龍一，岸本裕司，家子正裕，高橋伯夫，福原資郎（2004）抗リン脂質抗体を伴った脾辺縁帯 B 細胞リンパ腫．臨血　45: 1095–1099

総　説

1. 岸本裕司（2004）輸血医療の進歩と課題　輸血副作用　輸血後肝炎．日内会誌　93: 1339–1344

学会発表

1. 松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）再発，治療抵抗性 B 細胞性非ホジキンリンパ腫に対するR-ESHAP療法．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
2. 森眞一郎，松本憲明，中井邦久，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）未治療濾胞性リンパ腫に対するRituximab単独および維持療法．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
3. 河野誠司，嶋元佳子，松本憲明，森慎一郎，全勝弘，岸本裕司，尼川龍一，植村芳子，福原資郎（2004）Light chain deposition disease に続発したAngioimmunoblastic T cell lymphomaの一例．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
4. 谷岡理恵，尾形　誠，中井邦久，田嶋健一郎，松本憲明，森眞一郎，全　勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）Auto PBSCT併用大量化学療法後に骨髄非破壊的同種骨髄移植を施行した形質細胞腫．第 27 回日本造血細胞移植学会総会，岡山
5. 横井　崇，松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全勝浩，植村芳子，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）リツキシマブ投与後にCD20が陰性となった濾胞性リンパ腫．第 44 回日本リンパ網内系学会総会，京都
6. 谷尻　力，松本憲明，中井邦久，森眞一郎，全勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）自己末梢血造血幹細胞移植を施行後，肺高血圧症を認め，Pulmonary venoocclusive diseaseが疑われた悪性リンパ腫．第 44 回日本リンパ網内系学会総会，京都
7. 中村謙吾，森眞一郎，松本憲明，中井邦久，全勝浩，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2004）Trisomy 18 単独異常を認めた濾胞性リンパ腫．第44回日本リンパ網内系学会総会，京都
8. 阿部　操，有元美代子，細川美香，岡前文子，山岡　学，大谷哲司，松崎龍典，寺西節子，岸本裕司，福原資郎（2004）カラム凝集法における直接抗グロブリン試験の検討．第 52 回日本輸血学会総会，札幌
9. 有元美代子，阿部　操，細川美香，岡前文子，山岡　学，大谷哲司，松崎龍典，寺西節子，寺岡敦子，岸本裕司，福原資郎（2004）カラム凝集法を用いた時間外輸血検査の運用．第 52 回日本輸血学会総会，札幌
10. 山岡　学，松崎龍典，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，岡前文子，大谷哲司，寺西節子，岸本裕司，海堀昌樹，福原資郎（2004）移植後に HLA 抗体が検出された生体肝移植．第48回日本輸血学会近畿支部総会，京都

香里病院内科

学会発表

1. 藤井壽仁，高岡　亮，田川善啓，北野貴弘，大宮美香，津田信幸，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂，久保田佳嗣，水野孝子，岡崎和一（2004）巨大十二指腸ブルンネル腫瘍の一例．第80回日本消化器病学会近畿支部例会，奈良
2. 藤井壽仁，高岡　亮，田川善啓，北野貴弘，大宮美香，津田信幸，立岩二朗，渡辺敏彦，久

保田佳嗣，水野孝子，岡崎和一（2004）高濃度酸素吸入療法が奏効した腸管嚢腫状気腫症の1例，第72回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
3. 藤井壽仁，高岡　亮，岡崎和一（2004）潰瘍性大腸炎中等症および重症例における内視鏡所見からみた治療法選択の検討．第 81 回日本消化器病学会近畿支部例会，京都
4. 藤井壽仁，高岡　亮，岡崎和一（2004）潰瘍性大腸炎中等症および重症例における治療法選択のための内視鏡所見の検討．第 73 回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
5. 高岡　亮，藤井壽仁，田川善啓，北野貴弘，崎谷和重，大宮美香，久保田佳嗣，水野孝子，岡崎和一（2004）肝門部胆管閉塞症例に対するジョーステントを用いた内視鏡的肝両葉ドレナージの経験．第 68 回日本消化器内視鏡学会総会，福岡
6. 片嶋　隆，松井由美恵，吉長正博，佐藤大祐，唐川正洋，津田信幸（2004）左冠尖からの高周波通電により根治しえた心室頻拍の一例．第97回日本循環器学会近畿地方会，大阪

香里病院外科

〈研究概要〉

当科における研究は，施設ならびにスタッフの関係上，臨床研究あるいは他施設との共同研究である．

現在行っている研究は，1．多価不飽和脂肪酸が癌の発生・増殖と転移に及ぼす影響，2．EPA が前立腺癌の再発に及ぼす影響，3．EPA が正常人の血中 PSA などに及ぼす影響，4．癌化学療法時における薬物動態，5．胃癌術後の腸管運動の経時的変化，6．共役トリエン型EPAの合成などである．

原　著

1. Tsujita-kyutoku M, Yuri T, Danbara N, Senzaki H, Kiyozuka Y, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa T, Ogura Y, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid suppresses KPL-1 human breast cancer cell growth in vitro in vivo: potencial mechanisms of action. Breast Cancer Res. 6: R291–R299
2. Moriguchi K, Yoshizaki K, Shikata N, Yuri T, Takada H, Hada T, Tsubura A (2004) Suppression of N-Methyl-N-Nitrosourea-induced photoreceptor apoptosis in rats by docosahexaenoic acid. Ophthalmic Res. 36: 98–105
3. Shirao K, Ohtsu A, Takada H, Mitachi Y, Hirakawa K, Horikoshi N, Okamura T, Hirata K, Saito S, Isomoto H, Satoh A (2004) Phase-II study of oral S-1 for treatment of metastatic colorectal carcinoma. Cancer 100: 2355–2361
4. Danbara N, Uehara N, Shikata N, Takada H, Hada T, Tsubura A (2004) Dietary effects of conjugated docosahexaenoic acid on N-methyl-N-Nitrosourea-inducedmammary carcinogenesis in female Sprague-Dawley rats. Oncol. Rep. 12: 1079–1085
5. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Sato M, Senzaki H, Uehara N, Takada H, Hada T, Miyazawa K, Tsubura A (2004) Conjugated docosahexaenoic acid is a potent inducer of cell cycle arrest and apoptosis and inhibit growth of colo 201 human colon cancer cells. Nutr. Cancer 50: 71–79
6. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，高田秀穂，井上良計，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）ドコサヘキサエン酸のMNU誘発ラット乳癌における発癌抑制効果．乳癌基礎研究　13: 47–50

総　説

1. 北出浩章，高田秀穂，森　　毅，奥野雅史，小倉徳裕，上田創平，渡辺京子，伊藤美由紀，井上さだ子（2004）フローチャートでわかる術後の急変対策「腹痛」．消化器外科 NURSING 9: 21–25
2. 高田秀穂，北出浩章，森　　毅，小倉徳裕，奥野雅史，上田創平，吉岡和彦，吉田　良，岩本慈能，中野雅貴，米倉康博，上山泰男（2004）脂質と癌の予防．食品と開発　39: 5–8

3. 伊藤美由紀，松木博子，宮城　愛，大林つばさ，渡辺京子，小倉徳裕，高田秀穂（2004）どう応える？患者さんの不安＆疑問：術後，MRSA腸炎を発症した患者さんの場合. 消化器外科NURSING　9: 749–753

学会発表

1. 藤井壽人，高岡　亮，田川善啓，北野貴弘，大宮美香，津田信幸，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂，久保田佳嗣，水野孝子，岡崎和一（2004）巨大十二指腸ブルンネル腺腫の一例. 第80回日本消化器病学会近畿支部例会，大阪
2. 高田秀穂，北出浩章，吉岡和彦（2004）本邦で増加してきた大腸癌は予防できるか？―摂取脂質の量と種類からの検討―パネルディスカッション：生活習慣病としての消化器疾患. 第90回日本消化器病学会総会，仙台
3. 森　　毅，山田正法，山本大悟，田中完児（2004）血清CEAおよびCA15-3の高値を示した巨大乳腺悪性葉状肉腫の一例. 第12回乳癌学会総会，小倉
4. 山田正法，山本大悟，奥川帆麻，森　　毅，田中完児（2004）当科における良性・悪性葉状肉腫腫瘍の検討. 第12回乳癌学会総会，小倉
5. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）ヒト乳癌細胞株（KPL-1）における共役ドコサヘキサエン酸による増殖抑制機序の解明. 第93回日本病理学会総会，札幌
6. 段原直行，辻田（久徳）美樹，圦　貴司，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2004）共役ドコサヘキサエン酸によるMNU誘発ラット乳癌に対する抗腫瘍効果. 第93回日本病理学会総会，札幌
7. 米田篤司，弥山秀芳，三箇山宏樹，上村祐子，北中直子，辻　陽子，太田由子，上田創平，北出浩章，森　　毅，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂（2004）NSAIDsにより消化管出血を来した3例. 第25回病院薬剤師会近畿学術大会，大津
8. 弥山秀芳，太田由子，高田秀穂（2004）薬剤師のチ - ム医療への参画によるセーフティマネージメント，パネルディスカッション：消化器病と医療事故・訴訟. 第90回日本消化器病学会総会，仙台
9. 中田　博，横井川規巨，稲葉隆明，海堀昌樹，小倉徳裕，高田秀穂，井上瑞江，權　雅憲，上山泰男（2004）担癌状態におけるムチンの生物学的意義. 第63回日本癌学会総会，福岡

香里病院皮膚科

〈研究概要〉

従来どおり皮膚付属器疾患である「尋常性痤瘡」と皮膚の「細菌と感染症」を二大テーマとしている.

I. 尋常性痤瘡（ニキビ）

1. 痤瘡の発症病理解明を目的として，毛包系腫瘍を含めて病態別に内分泌学的および免疫組織染色による角化異常発現の検討を継続して行っている.

2. 痤瘡の新しい治療法であるケミカルピーリングを始めているが，ピーリングの安全性と有効性を臨床的に検討している.

II. 皮膚の細菌と感染症

1. 黄色ブドウ球菌の薬剤感受性を継続して測定し，特に耐性菌（MRSA）の動向に注意し，適正な抗菌薬の使用に役立てている.

2. MRSAと消毒薬耐性遺伝子について検討している．黄色ブドウ球菌が産生する毒素の中で表皮剥脱毒素（ET）は膿痂疹（とびひ）を惹起するが，ET遺伝子をもつMRSAのほとんどが消毒薬耐性を持たないことを証明した.

〈研究業績〉

総　説

1. 西嶋攝子，黒川一郎（2004）新生児・小児皮膚疾患マニュアル　A．日常的な皮膚疾患 9．痤瘡．Monthly Book Dermatology　93: 61–66
2. 西嶋攝子，三輪　恒，大島　茂，阪上佐和子（2004）慢性円盤状エリテマトーデス．皮膚の科学　3: 259–260
3. 西嶋攝子，山中滋木，大島　茂，中矢秀雄（2004）レンサ球菌性膿痂疹―塗抹染色で原因菌を推定できた―．皮膚の科学　3: 339–340
4. 西嶋攝子（2004）ニキビの最近の治療．皮膚の科学　3: 622–627
5. 黒川一郎，西嶋攝子（2004）にきび（尋常性痤瘡），粉瘤（表皮嚢腫）．臨床外科　59: 41–43
6. 西嶋攝子（2004）皮膚感染症の病態と治療～細菌感染症を中心に～．感染防止　14: 16–24

著　者

1. 西嶋攝子（2004）ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群．こどもの皮疹のみかた―急性発疹症へのアプローチ（日野治子編）123–127頁，中外医学社，東京
2. 西嶋攝子（2004）にきび．皮膚心療内科（久保千春，宮地良樹編）174–177頁，診断と治療社，東京
3. 西嶋攝子（2004）ニキビでずっとお薬を飲んでも大丈夫でしょうか？　患者さんから浴びせられる皮膚疾患 100 の質問～達人はどう答え，どう対応するか～（宮地良樹編）198–199頁，メデイカルビュー社，東京
4. 西嶋攝子（2004）思春期を過ぎたのにニキビが出ます．なぜでしょうか？　患者さんから浴びせられる皮膚疾患 100 の質問～達人はどう答え，どう対応するか～（宮地良樹編）200–201頁，メデイカルビュー社，東京

洛西ニュータウン循環器科

＜研究業績＞

原　著

1. 下條ひろみ，西上尚志，山本哲史，城　聡一，西澤信也，高山康夫，岩坂 壽二（2004）心タンポナーデを合併した尿毒症性心外膜炎の 1 例．Journal of cardiology 44-1: 27–31
2. 下條ひろみ（2004）Letters to editor Does Pericarditis Mean “Shingaimakuen” in Japanese? Journal of cardiology 44-6: 267

学会発表

1. 吉田衣江，高山康夫，下條ひろみ，高島啓文，松原恵子，岩坂壽二（2004）Is Tissue Doppler-Based Strain Rate Imaging Superior to Tissue Doppler Imaging for Detecting Regional Dysfunction in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy? 第68回日本循環器学会総会，東京
2. 吉田衣江，高山康夫，下條ひろみ，高島啓文，駒井千恵子，松原恵子，岩坂壽二（2004）高血圧症における左室肥大と心機能の関係について―Strain rate imaging を用いた検討―．第15回日本心エコー図学会総会，東京
3. 吉田衣江，高山康夫，下條ひろみ，高島啓文，駒井千恵子，松原恵子，岩坂壽二（2004）Strain Rate Imaging を用いた高血圧症の心機能評価．日本超音波医学会第28回関西地方会，大阪
4. 吉田衣江，高山康夫，下條ひろみ，湯山令輔，高島啓文，松原恵子，岩坂壽二（2004）心不全で発症した Duchenne 型筋ジストロフィー女性キャリアーの一例．第8回心不全学会，岐阜
5. 下條ひろみ，高山康夫，吉田衣江，湯山令輔，高島啓文，松原恵子，岩坂壽二（2004）高血圧症例での糖尿病合併による心機能低下．日本超音波医学会　第77回学術集会，栃木
6. 湯山令輔，湯浅文雄，山本哲史，岩坂壽二（2004）Home-based Exercise Training Improves Endothelium-dependent, Flow-mediated Dilation of Large Conduit Vessels After Acute Myocardial Infarction. 第68回日本循環器学会総会，東京
7. 湯山令輔，湯浅文雄，山本哲史，楊　培慧，岩坂壽二（2004）急性心筋梗塞症におけるホモシステインと血管内皮機能の検．第 41 回日本臨床生理学会総会，栃木
8. 高山康夫（2004）strain による心内膜下心筋の

評価（動物）．日本超音波医学会　第77回学術集会，栃木
9. 高山康夫，正木元子，吉田衣江，下條ひろみ，松原恵子，高島啓文，岩坂壽二（2004）Strain rate imaging を用いた Duchenne 型筋ジストロフィーの心機能評価．第 41 回日本臨床生理学会総会，栃木
10. 高山康夫，正木元子，樋口嘉久，吉田衣江，高島啓文，下條ひろみ，松原恵子，岩坂壽二（2004）Reduced Systolic Strain at Left Ventricular Posterior Wall in Patients With Duchenne Muscular Dystrophy. 第68回日本循環器学会総会, 東京
11. 松原恵子，高山康夫，吉田衣江，下條ひろみ，高島啓文，湯山令輔（2004）高血圧症例での心機能に与える加齢の影響．日本老年医学会近畿地方会，守口